

画面で見るマニュアル

LAN DISK

HDL-XRW シリーズ、HDL-XR2UW シリーズ



SMB2 に対応しました

以下で設定してください。

【Microsoft ネットワーク】 (26-181 ページ)

もくじ




安全のために.....	1-4	ハードディスクをチェックする.....	9-67
使用上のご注意.....	1-6	ハードディスクのチェック方法.....	9-67
ハードディスク故障時の交換方法.....	2-9	アクティブリペアーでチェックする.....	9-68
カートリッジ（ハードディスク）について.....	2-9	チェックディスクでチェックする.....	9-69
カートリッジの交換方法.....	2-9	Active Directory・NT ドメインログオン.....	10-70
導入手順.....	3-12	Active Directory ログオンとは.....	10-70
ネットワーク導入手順.....	3-12	Active Directory ヘログオンする.....	10-71
NarSuS に登録する.....	3-16	NT ドメインにログオンする.....	10-73
かんたん設定.....	3-21	ハードディスクやプリンターの増設.....	11-75
詳細設定.....	3-23	USB ポート1（前面）の設定.....	11-75
ユーザーパスワードを変更する.....	3-24	ハードディスクを増設する.....	11-76
電源を切る方法（重要）.....	3-25	増設ハードディスクを取り外す.....	11-78
添付ソフトをインストールする.....	3-26	増設ハードディスクをフォーマットする.....	11-79
ネットワークからアクセスする.....	4-29	プリンターを増設する.....	11-80
RAID モード.....	5-32	印刷用設定をする.....	11-81
本製品で設定できる RAID モード.....	5-32	バックアップ.....	12-84
現在の RAID モードを確認する.....	5-34	バックアップについて.....	12-84
RAID モードを変更する.....	5-35	USB ポート1（前面）を設定する.....	12-85
暗号化ボリューム.....	6-37	クイックコピー.....	12-86
暗号化ボリュームとは？.....	6-37	バックアップ.....	12-88
暗号化ボリュームを設定する.....	6-38	バックアップログを確認する.....	12-91
暗号化ボリュームにアクセスする.....	6-39	弊社製 EasySaver 4 LE を使う.....	12-91
スペアキーを作成する.....	6-40	レプリケーション.....	13-92
暗号化ボリュームを解除する.....	6-41	レプリケーションについて.....	13-92
ロックキーの削除をする.....	6-41	レプリケーションを設定する.....	13-93
共有フォルダー.....	7-42	メイン機が故障した場合.....	13-97
共有フォルダーのアクセス権.....	7-42	ミラーリング.....	14-99
共有フォルダー使用上の注意.....	7-44	ミラーリングに使用できる増設ハードディスク.....	14-99
ネットワーク上での本製品の表示.....	7-44	eSATA ハードディスクでミラーリングする.....	14-100
ごみ箱機能.....	7-45	リモートリンク機能.....	15-104
共有フォルダーを作成する.....	7-46	iobb.net.....	15-104
Amazon S3 と同期する.....	7-50	リモートアクセス.....	15-107
Dropbox と同期する.....	7-52	Time Machine.....	16-113
Cloud [®] と同期する.....	7-54	UPS 装置を接続する.....	17-114
共有フォルダーを変更・削除する.....	7-56	UPS 装置を接続する.....	17-114
ユーザーを変更・削除する.....	7-57	UPS 警告機能を有効にする.....	17-115
グループを変更・削除する.....	7-58	ネットワークシャットダウン機能を有効にする.....	17-116
管理者が共有フォルダーへアクセスする.....	7-59	FTP 共有.....	18-117
一括登録をする.....	7-60	本製品での FTP 共有機能.....	18-117
使用量制限.....	8-63	FTP 共有を有効にする.....	18-118
使用量制限について（クォータ機能）.....	8-63	FTP クライアントから接続する.....	18-119
使用量制限を有効にする.....	8-64	Microsoft ネットワーク共有サービスアクセスロ グ.....	19-121
ユーザーごとに使用量制限を設定する.....	8-64	アクセスログを有効にする.....	19-121
グループごとに使用量制限を設定する.....	8-65	アクセスログを確認する.....	19-122
共有フォルダー使用量制限を有効にする.....	8-65		
共有フォルダーごとに使用量制限を設定する.....	8-66		

アクセスログのリファレンス.....	19-122	本製品起動時のトラブル.....	27-198
通知機能.....	20-123	セットアップ時のトラブル.....	27-200
メール基本設定.....	20-123	本製品へのアクセス時のトラブル.....	27-208
メールアドレス設定.....	20-124	設定画面に関するトラブル.....	27-212
イベント通知設定.....	20-125	本製品の IP アドレスについて.....	27-216
定期レポート設定.....	20-125	ファイルの保存について.....	27-217
NarSuS 設定.....	20-126	ランプやブザーについて.....	27-218
SNMP 設定.....	20-128	カートリッジ取り付け・取り外し時のトラブル.....	27-219
システム管理.....	21-129	eSATA ハードディスクとミラーリング使用時のトラブル..	27-220
LAN DISK の名前を変更する.....	21-129	プリントサーバー機能使用時のトラブル.....	27-221
日付と時刻を設定する.....	21-129	クイックコピー機能について.....	27-223
ネットワークを設定する.....	21-130	バックアップ機能について.....	27-224
プロキシ設定をする.....	21-131	レプリケーションについて.....	27-225
管理者パスワードを変更する.....	21-132	内蔵および増設ハードディスクについて.....	27-226
シャットダウン / 再起動する.....	21-132	タイムサーバー機能使用時のトラブル.....	27-228
起動スケジュールを設定する.....	21-133	NT ドメイン・Active Directory 使用時のトラブル.....	27-229
各スイッチを設定する.....	21-133	FTP 共有使用時のトラブル.....	27-230
ランプの明るさを設定する.....	21-134	メール送信でのトラブル.....	27-231
省電力機能を使う.....	21-134	パソコンのネットワーク設定について.....	27-232
ファームウェアを更新する.....	21-135	オプション品.....	28-238
システムログを確認する.....	21-136	アフターサービス.....	28-239
パッケージを管理する.....	21-137		
出荷時設定に戻す.....	22-138		
IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す.....	22-138		
本製品のすべての設定を出荷時設定に戻す.....	22-139		
RAID が崩壊したときには.....	23-140		
ランプ表示別の対応.....	24-143		
製品仕様.....	25-146		
仕様.....	25-146		
動作環境.....	25-147		
各部の名称・機能.....	25-148		
増設できる USB 機器.....	25-152		
増設できる UPS.....	25-152		
増設できる eSATA 機器.....	25-152		
増設ディスクに関するご注意.....	25-153		
出荷時設定一覧.....	25-154		
文字制限一覧.....	25-157		
お知らせ一覧.....	25-159		
ログ一覧.....	25-162		
メール通知一覧.....	25-166		
設定画面のリファレンス.....	26-168		
本製品のステータス.....	26-168		
ショートカット.....	26-168		
ログオフ.....	26-168		
情報表示.....	26-169		
基本設定.....	26-174		
共有管理.....	26-176		
サービス設定.....	26-181		
ディスク設定.....	26-186		
通知設定.....	26-189		
システム設定.....	26-192		
困ったときには.....	27-195		



安全のために

お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。

● 警告および注意表示

 危険	この表示の注意事項を守らないと、死亡または重傷を負う危険が生じます。
 警告	この表示の注意事項を守らないと、死亡または重傷を負うことがあります。
 注意	この表示の注意事項を守らないと、けがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。









● 絵記号の意味

	禁止
	指示を守る

危険

-  **本製品を修理・改造・分解しない**
火災や感電、破裂、やけど、動作不良の原因になります。

警告

-  **雷が鳴り出したら、本製品や電源コードには触れない**
感電の原因となります。
-  **ぬらしたり、水気の多い場所で使わない**
水や洗剤などが本製品にかかると、隙間から浸み込み、発火・感電の原因になります。
・お風呂場、雨天、降雪中、海岸、水辺でのご使用は、特にご注意ください。
・水の入ったもの（コップ、花びんなど）を上には置かないでください。
・掃除は必ず乾いた布でおこなってください。
・万一、本製品がぬれてしまった場合は、絶対に使用しないでください。
-  **本製品の周辺に放熱を妨げるような物を置かない**
火災の原因となります。
-  **決められた電源で使用する**
所定以外の電源で、本製品を使用すると火災・感電の原因となります。
-  **故障や異常のまま、つながない**
本製品に故障や異常がある場合は、必ず接続している機器から取り外してください。
そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。
-  **本製品の小さな部品を乳幼児の手の届くところに置かない**
誤って飲み込み、窒息や胃などのへ障害の原因になります。万一、飲み込んだと思われる場合は、ただちに医師にご相談ください。
-  **本製品の取り付け、取り外し、移動は、必ずパソコン本体・周辺機器および本製品の電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いてからおこなう**
電源プラグを抜かずに行うと、感電の原因になります。
-  **煙がでたり、変なおいや音がしたら、すぐに使うのを止める**
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

●電源（コード・プラグ）について



電源コードは、添付品または指定品のもの以外を使用しない

電源コードから発煙したり火災の原因になります。



添付の電源コードは、他の機器につながない

発火や感電の原因になります。

添付の電源コードは、本製品専用です。



AC100V（50/60Hz）以外のコンセントに接続しない

発熱、火災の恐れがあります。



コンセントまわりは定期的に掃除する

長期間電源プラグを差し込んだままのコンセントでは、つもったホコリが湿気などの影響を受けて、発火の原因になります。（トラッキング現象）

トラッキング現象防止のため、定期的に電源プラグを抜いて乾いた布で電源プラグをふき掃除してください。



熱器具のそばに配線しない

電源コード被覆が破れ、火災や感電、やけどの原因になります。



煙が出たり、変な臭いや音がしたら、すぐにコンセントから電源プラグを抜く

そのまま使用すると火災・感電の原因になります。



電源コードにものをのせたり、引っ張ったり、折り曲げ・押しつけ・加工などはしない

電源コードがよじれた状態や折り曲げた状態で使用しないでください。

電源コードの芯線（電気の流れるところ）が断線したり、ショートし、発火・感電の原因になります。



じゅうたん、スポンジ、ダンボール、発泡スチロールなど、保温・保湿性の高いものの近くで使わない

火災の原因になります。



ゆるいコンセントにつながない

電源プラグは、根元までしっかりと差し込んでください。根元まで差し込んででもゆるみがあるコンセントにはつながないでください。発熱して火災の原因になります。



テーブルタップを使用する時は定格容量以内で使用する、たこ足配線はしない

テーブルタップの定格容量（1500Wなどの記載）を超えて使用するとテーブルタップが過熱し、発火の原因になります。



電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

電源プラグを持って抜いてください。電源コードを引っ張ると傷が付き、火災や感電の原因になります。



注意



本製品を踏まない

破損し、ケガの原因となります。特に、小さなお子様にはご注意ください。



取り付け、取り外しの際は手袋をつける

ハンダ付けの跡やエッジ部分などがとがっている場合があります。誤って触れると、ケガをするおそれがあります。



人が通行するような場所に配線しない

足を引っ掛けると、ケガの原因になります。

使用上のご注意

《重要》データバックアップのお願い

本製品は精密機器です。突然の故障等の理由によってデータが消失する場合があります。

万一に備え、本製品内に保存された重要なデータについては、必ず定期的に「バックアップ」をおこなってください。

本製品または接続製品の保存データの破損・消失などについて、弊社は一切の責任を負いません。また、弊社が記録内容の修復・復元・複製などをすることもできません。なお、何らかの原因で本製品にデータ保存ができなかった場合、いかなる理由であっても弊社は一切その責任を負いかねます。

バックアップとは

ハードディスクなどに保存されたデータを守るために、別の記憶媒体（ハードディスクやBD・DVDメディアなど）にデータの複製を作成することです。外付ハードディスクなどにデータを移動させることは「バックアップ」ではありません。

同じデータが2か所にあることではじめて「バックアップ」をした事になります。

万一、故障や人為的なミスなどで、一方のデータが失われても、残った方のデータは使えるので安心です。不測の事態に備えるためにも、必ずバックアップを行ってください。

最新のファームウェアをご利用ください

本製品のハードウェア保証適用のために、ファームウェアまたはソフトウェアは常に弊社が提供する最新版にアップデートしてご利用ください。最新版でない場合、保証適用を受けられない場合もあります。

お手入れについて

本製品についた汚れなどを落とす場合は、本製品の電源を切り、電源コードを抜いてから、柔らかい布で乾拭きしてください。

- ・汚れがひどい場合は、水で薄めた中性洗剤に布をひたして、よく絞ってから汚れを拭き取り、最後に乾いた布で拭く。
- ・ベンジン、アルコール、シンナー系の溶剤を含んでいるものは使わない。変質したり、塗装をいためたりすることがあります。
- ・市販のクリーニングキットは使わない。

本製品を廃棄や譲渡などされる際のご注意

・ハードディスクに記録されたデータは、OS上で削除したり、ハードディスクをフォーマットするなどの作業をおこなっただけでは、特殊なソフトウェアなどを利用することで、データを復元・再利用できてしまう場合があります。その結果として、情報が漏洩してしまう可能性もありますので、情報漏洩などのトラブルを回避するために、データ消去のソフトウェアやサービスをご利用いただくことをおすすめします。

※ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくハードディスクを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があります。

・本製品を廃棄する際は、地方自治体の条例にしたがってください。

家庭環境で使用する場合のご注意

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本製品全般のご注意

- 動作中に本製品や増設用ハードディスクの電源は切らないでください。故障の原因になったり、データを消失するおそれがあります。
- 本製品を使用中にデータを消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。
故障や万が一に備えて定期的にバックアップ（別の場所にデータのコピーを保存すること）をお取りください。
- カートリッジを取り外す場合は、必ず [ACCESS] ランプが消灯してから取り外してください。
消灯していない状態で引き抜くと、故障の原因となったり、データを消失する恐れがあります。また、しばらく待っても、[ACCESS] ランプが消灯しない（青点灯した）場合、そのカートリッジは取り外せません。再び [スライドスイッチ] を [LOCK] 状態に戻してください。
- 本製品は、DHCP サーバーがある環境では、自動的に DHCP サーバーより IP アドレスが割り当てられるため、本製品の IP アドレスを設定する必要はありません。
ただし、DHCP サーバーのない環境（パソコンにそれぞれ固定の IP アドレスを設定している環境）では、ネットワークに応じた IP アドレスを設定する必要があります。
- 本製品はローカルネットワーク上でご利用ください。
本製品にグローバル IP アドレスを割り当て、直接インターネットに公開すると非常に危険です。ルーターを設置するなどして、インターネットから攻撃を受けないようにするなど、お客様にてセキュリティ確保をお願いいたします。
- 本製品を複数台ネットワークに導入する場合は、本製品の IP アドレスと LAN DISK の名前をそれぞれ別々にする必要があります。
- 本製品内蔵ハードディスクは、本製品専用フォーマットでフォーマットされています。
他のフォーマット形式（FAT、NTFS など）にフォーマットすることはできません。
- 暗号化ボリュームをご利用の場合、必ず USB ロックキーのスペアを作成し、安全な場所に保管してください。
USB ロックキーを紛失、破損すると、暗号化ボリュームにアクセスできなくなります。

本製品および増設ハードディスクのデータ管理について

- 設定画面で表示されるハードディスク使用領域と Windows からネットワークドライブに割り当てしてプロパティから見た使用領域の値は大きく異なります。
本製品で使用するファームウェアの表示における仕様で、ハードディスク側には問題はありません。
正しい使用領域は、本製品の設定画面からご確認ください。
- 設定画面上から行うハードディスクのチェックディスクに要する時間は、ハードディスクの状態や容量により大きく異なり、数分から数時間程度の時間を要することがあります。
- [ACCESS] ランプ点滅中に本製品や増設用ハードディスクの電源を切らないでください。
故障の原因になったり、データを消失するおそれがあります。
- 本製品の管理者は、すべての共有フォルダーにアクセスする権限をもっています。
(Windows パソコンからアクセス時 (ドメインモードを除く))
セキュリティのため、管理者パスワードを定期的に変更することをおすすめします。
- ファイルコピー中に本製品や増設用ハードディスクの電源を切るとコピーの処理が正常に行われません。本製品や増設用ハードディスクの [ACCESS] ランプを確認の上、電源を切ってください。
- 本製品の電源を切る際は、必ず本製品の電源ボタンを押して電源を切ってください。
本製品の電源コードを抜いたり、スイッチ付き AC タップのスイッチを OFF にするなどして電源切断をおこなうと、故障の原因になったり、データを消失する恐れがあります。

ネットワークで共有する場合のご注意

- ファイアウォールソフトをお使いの場合、本製品へアクセスできない場合があります。その場合、ファイアウォールソフト側で、次のポートをアクセスすることを許可する設定をおこなってください。

IPv4 TCP: 137～139 番、445 番、51055 番、51065 番

IPv4 UDP: 65 番、51054 番

IPv6 TCP: 445 番、51055 番

IPv6 UDP: 51054 番

- ネットワーク（ルーター）を超えるバックアップをおこなう場合のご注意

本製品はバックアップ通信に「IPv4 TCP：873 番」を使用します。バックアップ元の本製品を接続しているルーターが NAT 設定されている場合は、「IPv4 TCP：873 番」宛の通信がバックアップ元の本製品に届くように、ポートフォワード設定が必要です。

- 接続可能端末数について

本製品にネットワーク経由で接続可能な端末数について、Windows では制限は設けておりませんが、同時接続台数が増加するとパフォーマンスが低下します。

Windows	推奨する同時接続台数は 32 台まで
Mac OS	推奨する同時接続台数は 8 台まで（最大 16 台まで）

- フォルダー名、ファイル名に使用できる文字の制限については、以下をご覧ください。

[【文字制限一覧】\(25-157 ページ\)](#)

共有、ユーザー、グループ設定時のご注意

本製品出荷時には、本製品に接続できるすべてのユーザーが読み書きできる [disk1] という共有フォルダーがあります。

新規に共有フォルダーを作成することもできます。

- 本製品に作成する共有には、「指定ユーザー」および「指定グループ」に、読み書きのアクセス制限を個別に設定できます。

- 本製品に登録可能なユーザー数は最大 300 個、グループ数は最大 100 個までとなります。

1 グループに登録可能なユーザーは 300 ユーザーまでとなります。

※登録するユーザー情報（ユーザー名、パスワード）は、Windows または Mac OS へログオン時のユーザー情報と一致したものを登録する必要があります。

- 設定時に使用できる文字や文字数には制限があります。以下をご覧ください。

[【文字制限一覧】\(25-157 ページ\)](#)

- 本製品に登録可能な共有フォルダー数は最大 300 個（出荷時設定の共有フォルダを含む）までとなります。

USB 機器、eSATA 機器を接続する際の注意

- 最新の対応機器については、弊社製品ホームページをご覧ください。

- 本製品増設ポートに増設できる機器については、[【増設できる USB 機器】\(25-152 ページ\)](#)、[【増設できる eSATA 機器】\(25-152 ページ\)](#) をご覧ください。

- 本製品に増設する USB ハードディスクや eSATA ハードディスクについては、[【増設ディスクに関するご注意】\(25-153 ページ\)](#) をご覧ください。

- 本製品の USB ポート、eSATA ポートには、対応機器以外の機器は接続しないでください。（USB ハブも接続しないでください。）

- 省電力設定の動作確認機種以外には、省電力設定を有効にしないでください。

- 本製品本体と eSATA ハードディスクでミラーリングを構築する場合は、内蔵ボリュームの容量と同じ、あるいは大きい容量の eSATA ハードディスクを接続してください。

- バスパワーで動作するハードディスクは接続できません。

- eSATA ポートにポートマルチプライヤー（Port Multiplier）は接続できません。

- 何らかの原因により、デジカメや USB メモリーより正常にデータをコピーできなかった場合の写真などのデータの補償に関して、弊社は一切の責任を負いません。必ず、転送が完了した後、転送内容をパソコンなどによりご確認ください。

- ファイルコピー中に、ポートに接続した機器の接続や取り外しをしたり、本製品やハードディスクの電源を切らないでください。コピーの処理が正常に行われません。本製品やハードディスクの [ACCESS] ランプを確認の上、電源を切ってください。

- NTFS フォーマットのハードディスクには書き込みはできません。読み込み専用となります。

- プリンターの双方向機能（インク残量の確認など）には対応しておりません。

また、複合機（プリンター機能以外にスキャナー機能やプリンター機能等を有するもの）をお使いの場合、プリンター機能にのみ対応します。

ハードディスク故障時の交換方法

カートリッジ（ハードディスク）について

特定カートリッジ（ハードディスク）の [ACCESS] ランプが赤点滅または消灯した場合、該当カートリッジ（ハードディスク）が故障しています。以下の手順にしたがって、カートリッジ（ハードディスク）を交換してください。

本製品では、電源 ON でもカートリッジの取り外し、取り付けができます。ただし、カートリッジの取り外し、取り付けは、必ず以下の手順にしたがってください。正しい手順をおこなわずに取り外し、取り付けすると、カートリッジ内のハードディスクだけでなく、他のカートリッジ、本製品の故障などの原因となります。

ご注意

- いかなる場合におきましても弊社では RAID 構成が崩壊した本製品のデータを復旧することはできません。
- 本製品の RAID 構成されているカートリッジ（ハードディスク）は、障害発生時以外には取り外さないでください。不用意に取り外すと冗長性が失われたり、RAID 構成が崩壊してすべてのデータを失う危険性があります。
- 本製品の電源が入っている状態で、カートリッジの取り付けができます。ただし、[STATUS] ランプが緑点滅していないことを確認した上で取り付けを行ってください。
- 本製品の電源が入っている状態で、カートリッジの取り外しができます。必ず、以下の説明通りに行ってください。
- 誤って障害発生したディスク以外のカートリッジを取り外した場合、RAID 構成が崩壊し、修復不能の状態となりますのでご注意ください。
- カートリッジの取り付け・取り外しは、必ず 1 台ずつ、以下の説明通りに行ってください。
- [STATUS] ランプが緑点滅中は [スライドスイッチ] を操作しないでください。
- すべての内蔵カートリッジを同時に新品に交換することはできません。
- ハードディスク故障が発生した場合、カートリッジの交換を行う前に、必ずデータのバックアップを行ってください。

カートリッジの交換方法

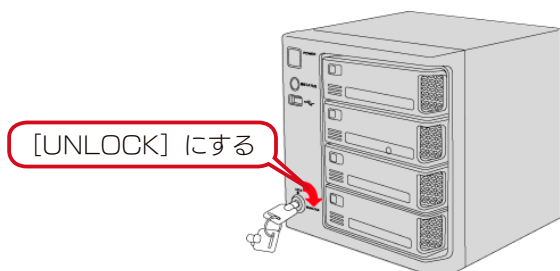
交換可能なカートリッジ

交換可能なカートリッジについては、【オプション品】(28-238 ページ) をご確認ください。

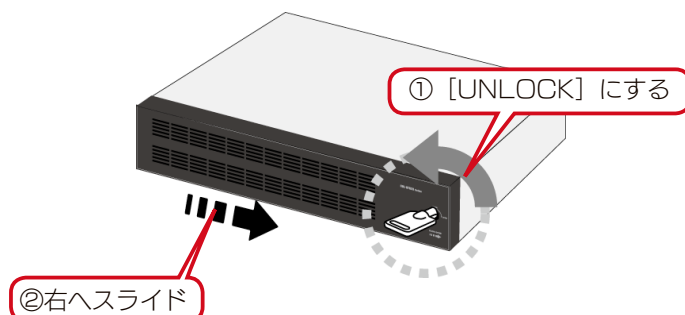
ステップ1：カートリッジを外す

●故障したカートリッジを取り外す場合

- 1 ●HDL-XR シリーズの場合
前面の [カートリッジ固定 LOCK] を開錠 ([UNLOCK]) します。添付のロックキーを [カートリッジ固定 LOCK] に挿し、時計回りにまわして、[UNLOCK] にします。



- HDL-XR2U シリーズの場合
添付の LOCK キーを使用してフロントカバーのロックを OPEN に回し、フロントカバーを右へスライドさせ、パネルを持ち上げるように外します。



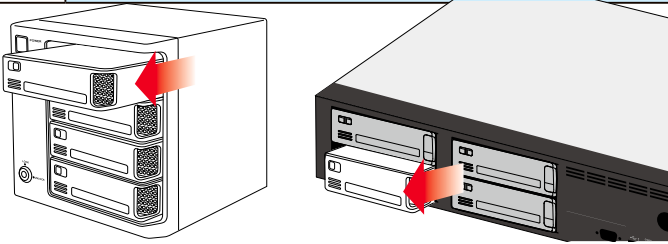
- 2 取り外すカートリッジの [スライドスイッチ] を右に移動します。
→カートリッジの [ACCESS] ランプが消灯します。



ご注意

- [ACCESS] ランプが消灯しない場合は、取り外せません。[スライドスイッチ] を再度 [LOCK] に戻してください。

3 カートリッジの取っ手を手前に引いて、取り出します。

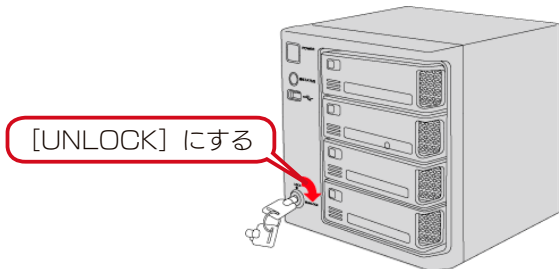


●正常動作しているカートリッジを取り外す場合

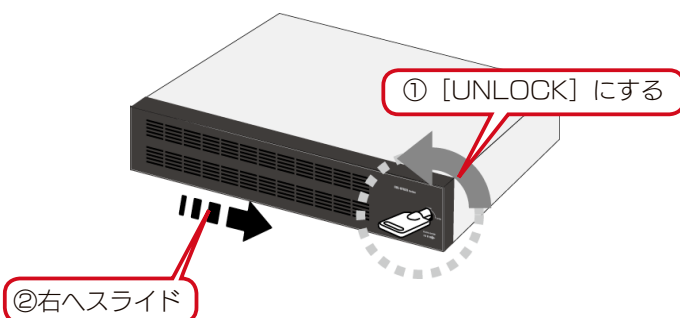
ご注意

- 本操作は一般的な操作ではありません。正常動作しているカートリッジを取り外すことにより、最悪の場合は RAID 構成が破壊され、すべてのデータを失う危険があります。
- [ACCESS] ランプが青点灯・青点滅している場合のみ操作できます。赤点灯している場合は一切の取り外しを行わないでください。赤点滅・消灯している場合は、前ページの【故障したカートリッジを外す】の手順で取り外しできます。

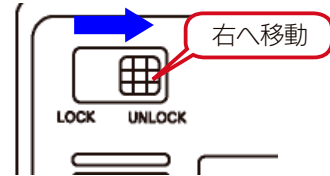
1 ● HDL-XR シリーズの場合
前面の [カートリッジ固定 LOCK] を開錠 ([UNLOCK]) します。添付のロックキーを [カートリッジ固定 LOCK] に挿し、時計回りにまわして、[UNLOCK] にします。



● HDL-XR2U シリーズの場合
添付の LOCK キーを使用してフロントカバーのロックを OPEN に回し、フロントカバーを右へスライドさせ、パネルを持ち上げるように外します。



2 取り外すカートリッジの [スライドスイッチ] を右に移動します。
→カートリッジの [ACCESS] ランプが青点滅します。



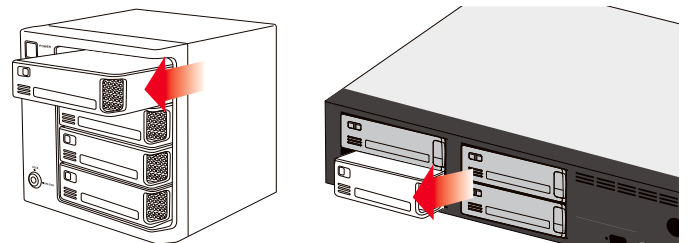
3 [ACCESS] ランプが青点滅中に [FUNC] ボタンを長押しします。
→「ピッ」というブザー音が鳴ったら [FUNC] ボタンを放します。

4 カートリッジの [ACCESS] ランプが消灯します。
しばらくお待ちください。

ご注意

- [STATUS] ランプが赤点滅、[ACCESS] ランプが青点灯した場合は、取り外せません。[スライドスイッチ] を再度 [LOCK] に戻してください。
- RAID の再構築中などには取り外せません。再構築が終了するまで待つなど、取り外せる状態になってから取り外してください。
- RAID 0 でご利用中は取り外せません。
- [ACCESS] ランプの青点滅は 10 秒ほどで青点灯状態に戻ります。この場合は、いったん [スライドスイッチ] を [LOCK] に戻し、最初からやり直してください。

5 カートリッジの取っ手を手前に引いて、取り出します。

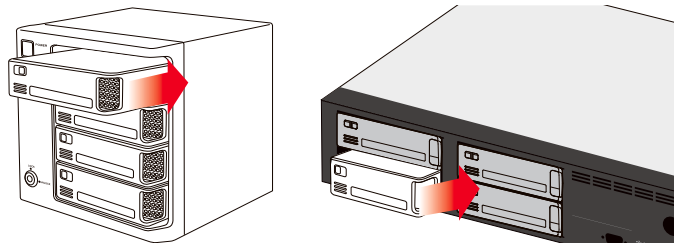


ご注意

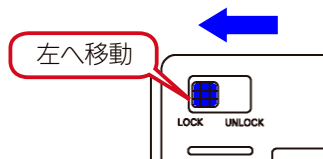
- 正常稼動しているハードディスクを取り外すことにより、RAID 構成状態が「デグレード状態」になります。これは冗長性が弱くなったり、無くなったりしたことを示し、LAN DISK では「構成異常」として通知します。新しいカートリッジを挿入するなど、早急に正常な状態に戻してください。そのまま使い続けた場合、ハードディスクの故障が発生するとデータを消失する危険があります。

ステップ 2 : カートリッジを取り付ける

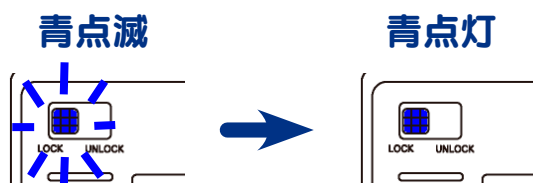
1 カートリッジをスロットの奥まで挿入します。



2 挿入したカートリッジの [スライドスイッチ] を左側 ([LOCK]) に移動します。



3 カートリッジの [ACCESS] ランプが青点滅から青点灯するまでお待ちください。

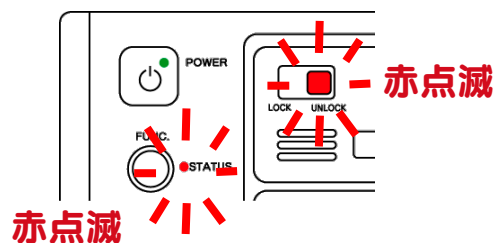


4 ● HDL-XR シリーズの場合
すべてのカートリッジを取り付けた後、添付のロックキーを [カートリッジ固定 LOCK] に挿し、反時計回りにまわして、[LOCK] にします。
● HDL-XR2U シリーズの場合
すべてのカートリッジを取り付けた後、フロントカバーを取り付けて、添付のロックキーで LOCK を時計回りにまわして、[LOCK] にします。

ご注意

[STATUS] ランプが赤点滅および [ACCESS] ランプが赤点滅した場合は、取り付けに失敗しています。

この状態は、システムに取り付け処理を行いましたが生体で使用できない状態です。(状態は、【ボリューム情報】(26-172 ページ)でご確認ください。)



● [ACCESS] ランプが赤点滅している場合

※赤点滅しているカートリッジは使用できません。

原因1 ディスクエラー発生過多

対処 本製品はディスクにエラーが発生した回数を記録しており、エラーが多数発生したディスクはRAIDを構成するディスクとして使用しないようにしています。新しいカートリッジを準備し、交換してください。

原因2 S.M.A.R.T. チェックエラー発生

対処 本製品はディスクを接続されたとき、ディスク自身の故障診断機能 (S.M.A.R.T) を利用してディスクが壊れていないか確認します。

S.M.A.R.T 情報により故障と判定されるディスクは、使用しないようにしています。新しいカートリッジを準備し、交換してください。

原因3 RAID に組み込むために必要なディスク容量が足りないカートリッジを接続した。

対処 この場合、システムは RAID を構成するディスクとして使用できないため、適切なディスク容量を持つカートリッジに交換する必要があります。

導入手順

ネットワーク導入手順

通常、ネットワーク内にブロードバンドルーターなどの「DHCP サーバー」となる機器がある場合は、ネットワークに接続すればそのまま本製品をご利用になります。

ただし、ネットワーク内に DHCP サーバーとなる機器がない場合には、パソコンを使って本製品の IP アドレスなどを変更する必要があります。

ステップ1：ネットワーク機器を確認する

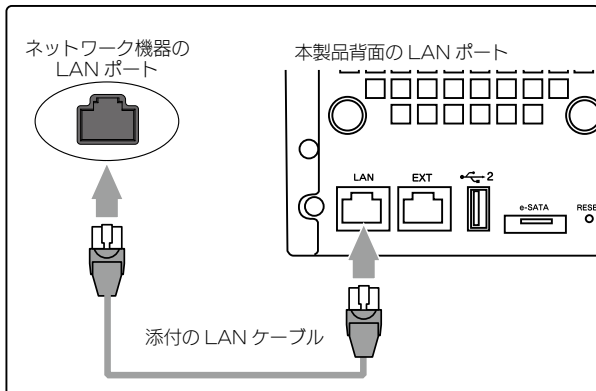
ネットワーク内のパソコン、ルーター、アクセスポイントなどが正常に動作していることを確認します。

ステップ2：ネットワークにつなぐ

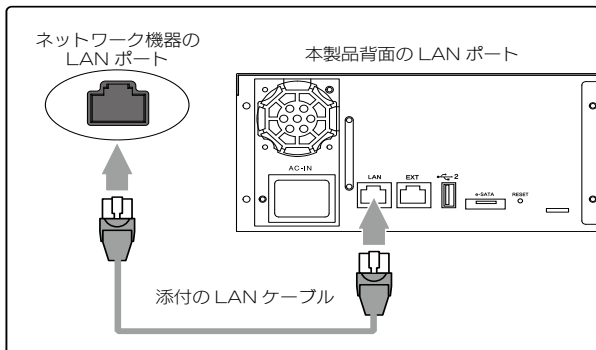
本製品の [LAN] ポートに添付の LAN ケーブルを接続し、もう一方をルーターやハブなどのネットワーク機器に接続します。

※ [EXT] ポートには接続しないでください。

▼ HDL-XR シリーズの場合



▼ HDL-XR2U シリーズの場合



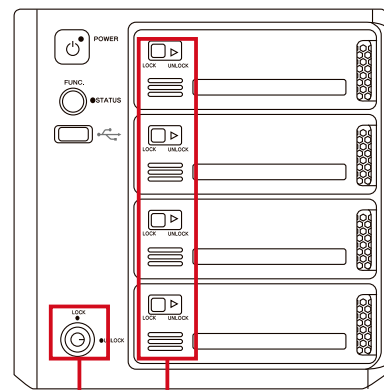
ご注意

- 必ず LAN ケーブルを先に接続してください。
LAN ケーブルを接続する前に本製品の電源を入れると、正しくネットワークに参加できなくなります。
- LAN ケーブルはカテゴリ 6 以上のものを使用してください。

ステップ3：電源を入れる

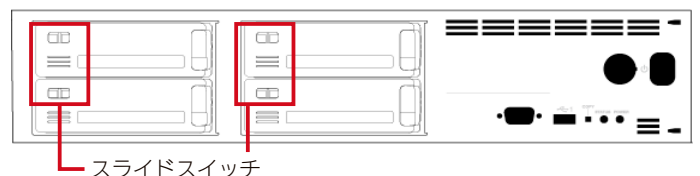
1 添付の電源コードを本製品背面の電源コネクタに接続後、電源コードを電源コンセントに接続します。電源コンセントに接続すると、前面の [POWER] ランプが赤色で点灯します。

2 [カートリッジ固定ロック] が [LOCK] 状態となっていることと、4台の [カートリッジ] のすべてのスライドスイッチが左側の [LOCK] 状態となっていることを確認します。
※ HDL-XR2U シリーズの場合は、添付の LOCK キーを使用して LOCK を解除し、フロントカバーを右へスライドさせて取り外して確認します。



カートリッジ固定ロック スライドスイッチ

▼ HDL-XR2U シリーズの場合



3 本製品前面の電源ボタンを押します。
「ピポッ」と音が鳴ります。

ご注意

動作中に本製品のシャットダウンを完了せずに、電源コードを抜いたり、スイッチ付き AC タップのスイッチを OFF にするなどして電源を切らないでください。故障の原因になったり、データを消失する恐れがあります。

ステップ 4：設定画面を開く

1 本製品と同じネットワークに接続されたパソコンを起動します。

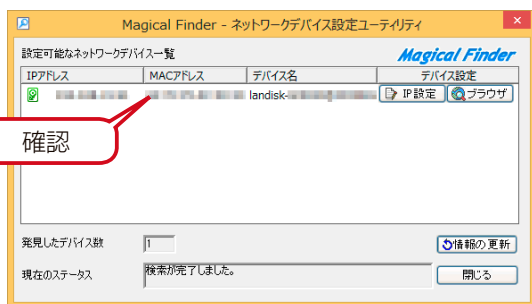
2 かんたん IP アドレス設定ツール「Magical Finder」をダウンロードします。
※最新バージョンの Magical Finder をご利用ください。

Magical Finder のダウンロード方法

※インターネット接続環境が必要です。
インターネットに接続できない場合は、サポート CD-ROM をセットし、メニューから「Magical Finder」を起動します。

- ①「サポートライブラリ」にアクセスする
<http://www.iodata.jp/r/3022>
- ②お使いの OS のボタンをクリックする
- ③[ダウンロード] ボタンをクリックする
- ④ダウンロードしたファイルを解凍する

3 Magical Finder を起動し、本製品が検索されたことを確認します。
※出荷時設定で製品ごとに [LANDISK-xxxxxx] の名前が設定されています。(xxxxxx は、MAC アドレスの下 6 桁。MAC アドレスは、本製品背面に記載されています。)

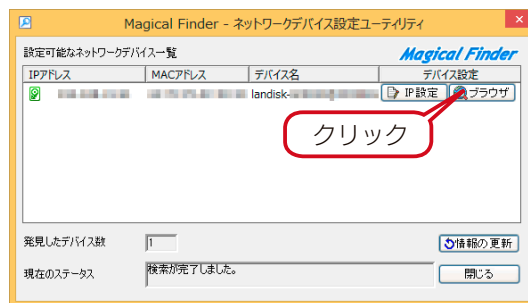


ご注意

本製品が検索されない場合

- 対処 1 30 秒ほど待ってから [情報の更新] ボタンをクリックしてください。
- 対処 2 以下をご覧ください。
【[Magical Finder] で本製品が検索されない】(27-203 ページ)

4 [ブラウザ] をクリックします。
※ IP アドレスを固定設定する場合は、以下の管理者パスワードを設定してから、【固定の IP アドレスを設定する場合】(3-14 ページ) をご覧ください。



5 設定画面が表示されたら、開きたい項目をクリックします。



6 設定した管理者パスワードを入力し、[ログオン] をクリックします。



かんたん設定画面を開く場合

何も入力せずに、[ログイン] をクリックします。その後、管理者パスワードを入力し、[設定する] をクリックします。
※ 4 ~ 20 文字 (半角英数記号)



※管理者パスワードについて詳しくは、【管理者パスワードを変更する】(21-132 ページ) をご覧ください。
このあと、【NarSuS に登録する】(3-16 ページ) へお進みください。

これで設定画面が開きました。

固定の IP アドレスを設定する場合

ネットワーク内に DHCP サーバーとなるネットワーク機器が無い場合、本製品をお使いのネットワークで使用している IP アドレスにあった固定の IP アドレスに設定します。

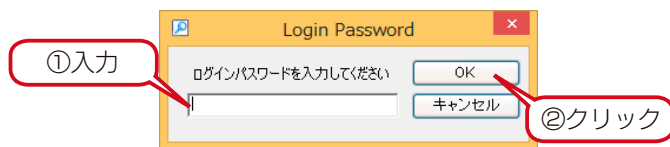
ご注意

MagicalFinder で設定する IP アドレスは本製品の LAN ポートの設定です。EXT ポートは無効に設定されます。

EXT ポートの設定をおこなう場合は、[詳細設定] → [基本設定] → [ネットワーク設定] で設定してください。

1 Magical Finder を起動します。

2 設定した管理者パスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックします。



ご注意

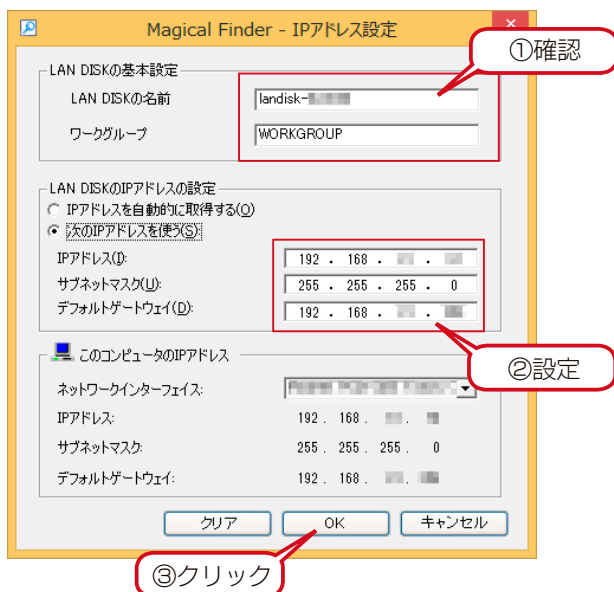
「パスワードが間違っています。」と表示された場合

対処 [OK] ボタンをクリック後、以下をご覧ください。

【設定画面にログオンするためのパスワードがわからない】
(27-215 ページ)

3 [LAN DISK の名前] [ワークグループ] を確認し、お使いのネットワークに合わせた IP アドレスを設定後、[OK] ボタンをクリックします。

※画面の詳細は【IP アドレス設定画面】(3-15 ページ)を参照してください。



4 [OK] ボタンをクリックします。

5 [閉じる] ボタンをクリックします。

以上で IP アドレスの設定は完了です。

[IP アドレス設定画面]

LAN DISK の基本設定		
LAN DISK の名前	ネットワーク上（[マイネットワーク] あるいは [ネットワークコンピュータ] など）に表示される本製品の名称です。 ※使用できる文字には制限があります。【文字制限一覧】（25-157 ページ）をご覧ください。 ※変更する場合は、必ずメモしてください。	
ワークグループ	パソコンの「ワークグループ名」と一致しなければなりません。（パソコンのワークグループ名を確認してください。） ただし、ワークグループの名前が一致していない場合でも本製品にアクセスすることは可能です。 ※使用できる文字には制限があります。【文字制限一覧】（25-157 ページ）をご覧ください。	
LAN DISK の IP アドレス設定		
IP アドレスを自動的に取得する	ネットワーク内に DHCP サーバーがある場合にチェックします。	
	IP アドレス	本製品に設定する IP アドレスを入力します。 ※使用しているネットワークのセグメント（IP アドレスのグループ）をご確認の上、他のネットワーク機器やパソコンの IP アドレスと重複しないように設定してください。
	サブネットマスク	パソコンと同じサブネットマスクを入力します。 画面の [このコンピューターの IP アドレス] 欄の [サブネットマスク] と同じ値を入力します。
	デフォルトゲートウェイ	パソコンと同じデフォルトゲートウェイを入力します。 画面の [このコンピューターの IP アドレス] 欄の [デフォルトゲートウェイ] と同じ値を入力します。表示されていない場合、入力する必要はありません。
このコンピューターの IP アドレス		
ネットワークインターフェイス	パソコンのネットワークインターフェイス（LAN アダプター名など）を表示します。	
IP アドレス	パソコンの IP アドレスを表示します。	
サブネットマスク	パソコンのサブネットマスクを表示します。	
デフォルトゲートウェイ	パソコンのデフォルトゲートウェイを表示します。通常、ルーターの IP アドレスが設定されています。設定されていない場合、表示されません。	
LAN DISK の時間の設定（Windows のみ）		
LAN DISK の時間	LAN DISK の現在時刻を表示します。	
パソコンの時間を LAN DISK に設定する	パソコンの時刻を LAN DISK に設定します。	

[LAN DISK の名前] について

本製品は、出荷時設定として製品ごとに [landisk-xxxxxx] の名前が設定されています。（xxxxxx は、LAN ポートの MAC アドレスの下 6 桁）
MAC アドレスは、本製品背面のシールに記載されています。

※ MAC アドレスは、0～9 の数字と A～F までのアルファベットで構成されています。

NarSuS に登録する

NarSuS (ナーサス) とは？

NarSuS(ナーサス)は、対応NAS(以降 LAN DISK)の稼働状態を把握し、安定運用を支援する、インターネットを介したクラウドサービスです。

NarSuSの仕組み

LAN DISKからクラウド上のNarSuSデータセンターに、稼働状態が自動送信されます。NarSuSはそれを受けて各種サービスを提供いたします。

NarSuSの各種サービス

■ イベントログの照会

RAID 構築状態やバックアップ設定などのシステム情報、ハードウェアの異常やスケジュール動作の完了などのイベント情報を表示します。

■ 動作状況をグラフ表示

LAN DISKの温度、FANの回転数、利用容量、CPU負荷をグラフで表示します。

■ トラブル時の対処方法を表示

万が一の障害時には、管理画面に対処法が表示されます。表示に従って操作を進めれば、RAID再構築やHDD交換など、どなたでも迷わず対応を進めることが可能です。

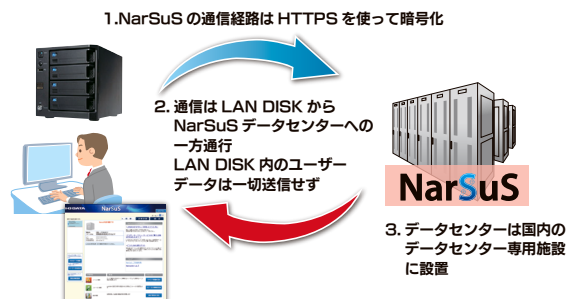
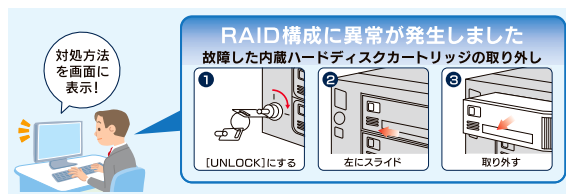
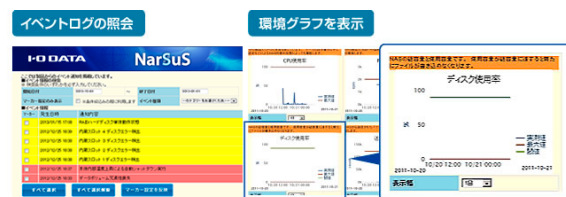
セキュリティへの配慮

■ 通信はLAN DISK からNarSuSデータセンターへの一方通行であり、

NarSuSデータセンターからLAN DISKに接続いたしません。
LAN DISKから送信するデータはLAN DISKの稼働情報であり、LAN DISK内のユーザーデータは一切送信いたしません。

■ NarSuSの通信経路はHTTPSを使って暗号化されています。

■ データセンターは国内のデータセンター専用施設に設置されており、情報セキュリティに十分な配慮をおこなっています。



登録手順

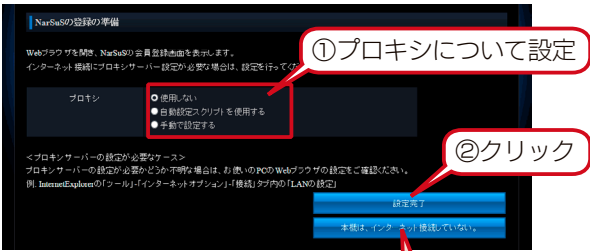
ご注意

- 本機能を利用するためには、常時ネットワークに接続しておく必要があります。
- 本機能は IPv4 ネットワークでのみ使用できます。

1 以下の画面が表示されたら、[次へ] ボタンをクリックします。



2 インターネットの接続について設定します。



インターネット接続できない場合は、こちらをクリックし、【●インターネットに接続できない環境に本製品を設置する場合】(3-19 ページ) をご覧ください。

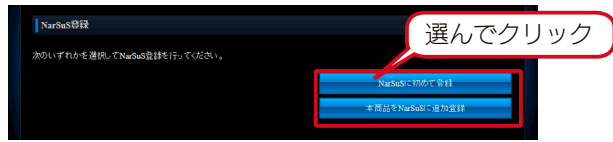
プロキシの設定が必要な場合

[自動設定スクリプトを使用する]または[手動で設定する]にチェックをつけ、プロキシの設定を入力してください。

使用しない	プロキシ設定を利用しません。
自動設定スクリプトを使用する	自動設定スクリプトファイルの URL を入力します。 ※指定する URL については、ご利用のネットワーク管理者に確認してください。
手動で設定する	プロキシサーバーの [アドレス] と [ポート] を入力します。 ※指定するアドレス、ポートについては、ご利用のネットワーク管理者に確認してください。

3 状況に応じて、ボタンをクリックします。

- NarSuSにLAN DISKを登録したことがない [NarSuSに初めて登録] ボタンをクリック
- すでにNarSuSに他のLAN DISKを登録している [本商品をNarSuSに追加登録] ボタンをクリック



NarSuS に追加で登録をする場合

① NarSuS ログイン画面が表示されますので、すでに登録済みの [ID]、[パスワード] を入力し、[ログイン] ボタンをクリックします。



③画面左下の [製品追加登録] ボタンをクリックします。



次ページの手順4へお進みください。

4 画面の指示にしたがって必要事項を入力し、[登録/更新] ボタンをクリックします。
※画面例は、新規登録の場合です。

5 内容を確認し、[この内容で登録する] ボタンをクリックします。
※追加登録の場合は、[OK] ボタンをクリックします。
※画面例は、新規登録の場合です。

6 登録完了画面が表示されますので、[NarSuSへ] ボタンをクリックします。
別途、登録通知がメールアドレスに送付されますので、保管しておいてください。

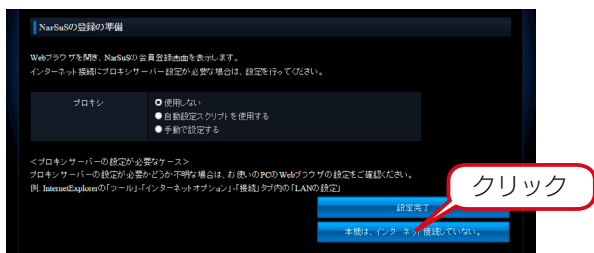
以上で NarSuS 登録は完了です。

ご注意

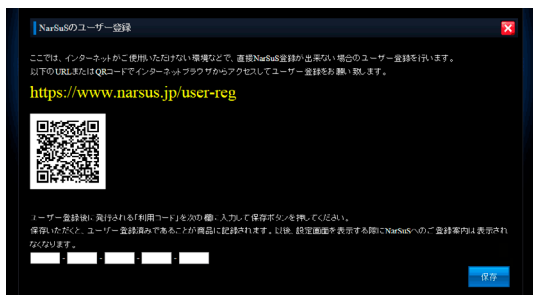
- 設定変更に失敗した場合、本製品がインターネットに接続可能な環境に設置されているか、LAN ケーブルが抜けていないか確認してください。
また、プロキシを介してインターネットへ接続が必要な場合にはプロキシが正しく設定されているか確認してください。
- NarSuS 登録に失敗した場合、お使いの Web ブラウザーのキャッシュ (Cookie) をクリアして再度お試しください。
- 事前に【●インターネットに接続できない環境に本製品を設置する場合】(3-19 ページ) の手順で MAC アドレスが登録されている場合は、システムにより登録情報が引き継がれ、再度の入力は要求されません。

●インターネットに接続できない環境に本製品を設置する場合

1 【登録手順】(3-17 ページ) の手順2で「本機は、インターネット接続していない。」をクリックします。

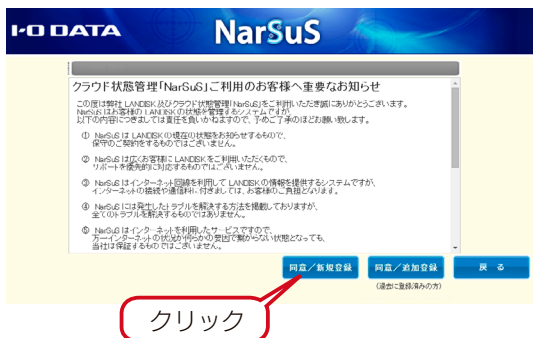


2 インターネットに接続できる環境から、Web ブラウザーで、以下の URL にアクセスします。
<https://www.narsus.jp/user-reg>
 ※ QR コードを利用してアクセスすることもできます。



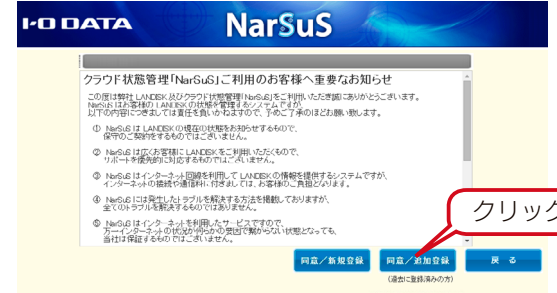
QR コードによるアクセス
 QR コードに製品型番、MAC アドレスが含まれており、後の手順で、これらの入力を省略することができます。

3 はじめて NarSuS に登録する場合は、[同意 / 新規登録] ボタンをクリックします。



NarSuS に追加で登録をする場合

① [同意 / 追加登録] ボタンをクリックします。

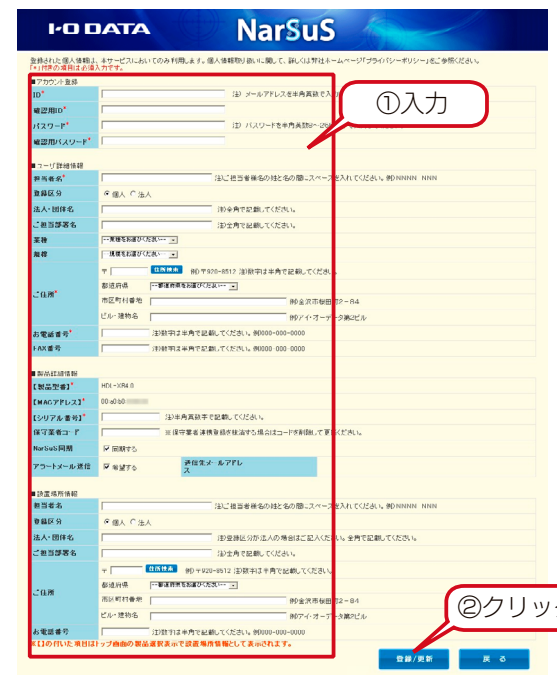


② NarSuS ログイン画面が表示されます。すでに登録済みの [ID]、[パスワード] を入力し、[ログイン] ボタンをクリックします。



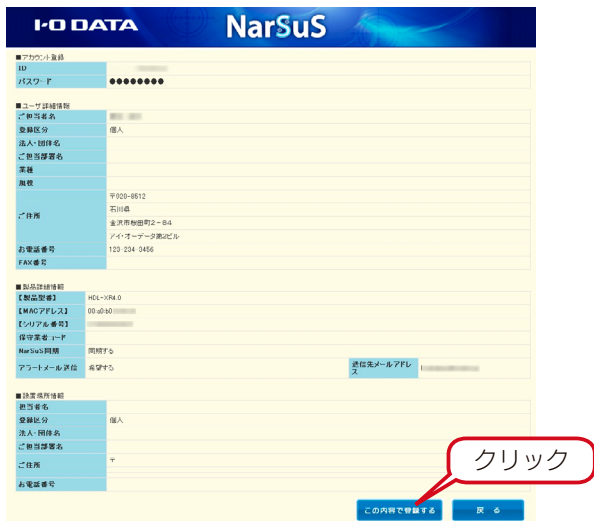
下の手順 4 へお進みください。

4 画面の指示にしたがって必要事項を入力し、[登録 / 更新] ボタンをクリックします。
 ※画面例は、新規登録の場合です。

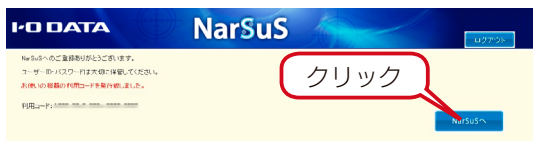


MAC アドレスの調べ方
 【ステップ 4：設定画面を開く】(3-13 ページ) の Magical Finder に、本製品の MAC アドレスが表示されます。

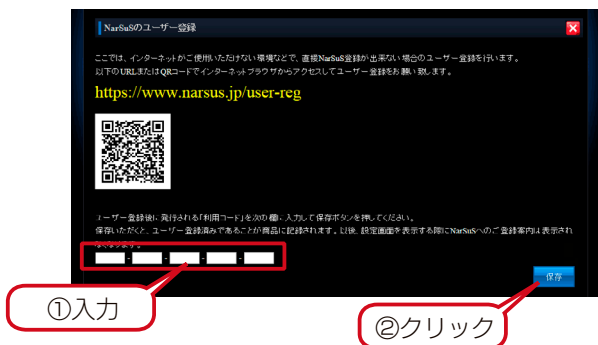
5 内容を確認し、[この内容で登録する] ボタンをクリックします。
 ※追加登録の場合は、[OK] ボタンをクリックします。
 ※画面例は、新規登録の場合です。



6 登録完了画面が表示されますので、利用コードをメモします。
 別途、登録通知がメールアドレスに送付されますので、保管しておいてください。



7 本製品の以下の画面にメモした利用コードを入力し、[保存] ボタンをクリックします。



以上でユーザー登録は完了です。

ご注意

- NarSuS 登録に失敗した場合、お使いの Web ブラウザーのキャッシュ (Cookie) をクリアして再度お試しください。

かんたん設定

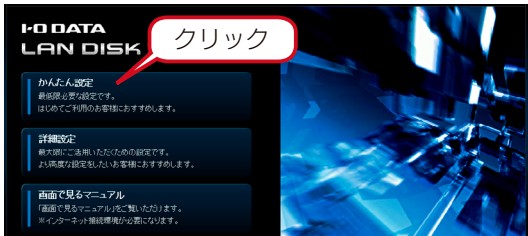
かんたん設定では次の項目が設定できます。

- LAN DISK の名前
- IP アドレス設定*
- 日付と時刻設定
- 共有フォルダー設定

EXT ポートは無効になります。

かんたん設定では、本製品の LAN ポートの IP アドレスを設定し、EXT ポートは無効に設定します。EXT ポートは、[詳細設定]→[基本設定]→[ネットワーク設定]から設定してください。

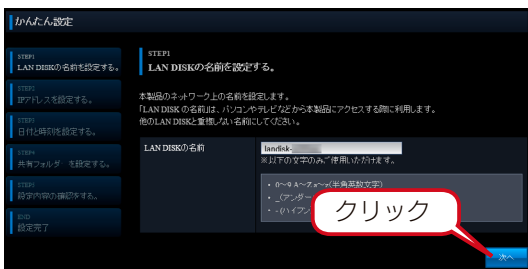
1 設定画面を開き、[かんたん設定]をクリックします。



2 ログオン画面が表示されますので、管理者パスワードを入力して、[ログオン]ボタンをクリックします。
※すでにログオン済みの場合は、表示されません。



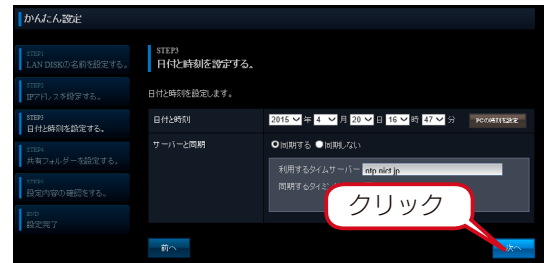
3 本製品の名前を変更することができます。
「LANDISK」など好きな名前に変更します。
※「LAN DISK の名前」に使用可能な文字については、**【文字制限一覧】(25-157 ページ)**をご覧ください。



4 本製品の IP アドレスを設定できます。
IP アドレスが取得できない場合は、手動にて設定することもできます。



5 時刻設定ができます。



6 共有フォルダーのアクセス設定と各サービスの使用設定ができます。



共有アクセス設定について

本製品や本製品につないだ増設ハードディスクへのファイルの読み書き(アクセス)は、ネットワーク越しにおこないます。ネットワークから本製品に作成されている共有フォルダーを通して、ネットワーク上の複数台のパソコンでファイルを共有することができます。

初期設定では、管理者のみアクセス権があります。(管理者共有)

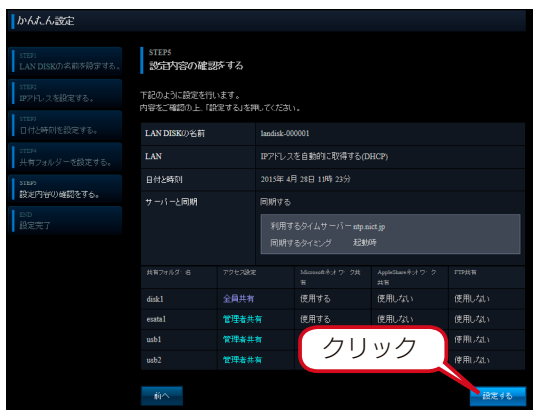
[全員共有]を選ぶと、すべてのユーザーからアクセスできます。

また、[Microsoft ネットワーク共有]、[AppleShare ネットワーク共有]、[FTP 共有]については、それぞれの共有機能を使用する場合にチェックをつけます。

各フォルダーの詳細については、**【ネットワーク上での本製品の表示】(7-44 ページ)**

あとで、共有フォルダーを作成することもできます。方法は、**【共有フォルダーを作成する】(7-46 ページ)**をご覧ください。

7 設定した内容の確認をして、[設定する] ボタンをクリックします。



次の画面が表示された場合

IP アドレスを変更する場合に表示されます。
内容を確認してください。



以上で設定は完了です。

詳細設定

[詳細設定] では、本製品の各種設定ができます。

1 設定画面を開き、[詳細設定]をクリックします。



2 管理者パスワードを入力し、[ログオン] ボタンをクリックします。



3 詳細設定画面が表示されます。
【設定画面のリファレンス】(26-168 ページ) をご覧ください。



ユーザーパスワードを変更する

LAN DISK に登録済のユーザーパスワードを変更することができます。

- 1 設定画面を開き、[ユーザーパスワード変更] をクリックします。



- 2 変更したいユーザー名とパスワードを入力し、「設定する」をクリックします。



- 3 設定が完了したら、[トップに戻る] をクリックし、トップメニューに戻ります。

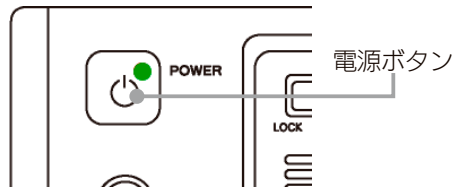


電源を切る方法（重要）

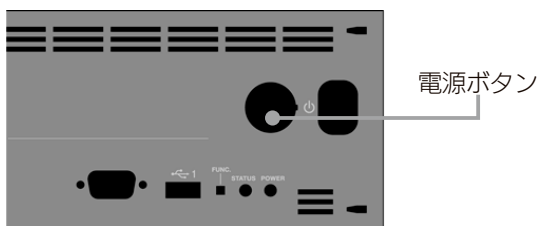
本製品の電源を切る場合は、必ず以下の方法にしたがってください。

1 [電源ボタンを「ピッ」と音が鳴るまで押し続けます。
(誤操作防止のため、軽く押してすぐに離しただけでは動作しないようになっています。)]

▼ HDL-XRシリーズの場合

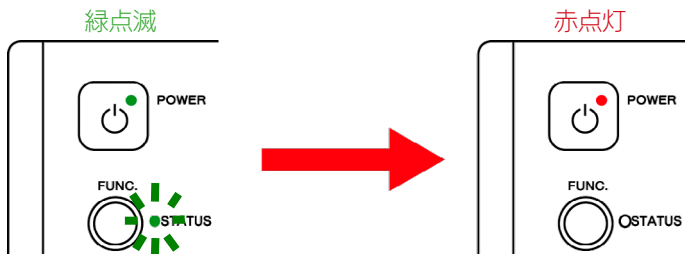


▼ HDL-XR2Uシリーズの場合

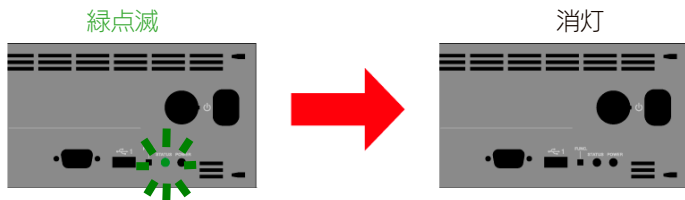


2 シャットダウン処理が開始されます。
本製品前面の [STATUS] ランプ（緑色）と [POWER] ランプ（緑色）をご確認ください。
シャットダウンが開始すると、[STATUS] ランプが点滅します。

▼ HDL-XRシリーズの場合



▼ HDL-XR 2Uシリーズの場合



ご注意

- 増設ハードディスクやプリンターがある場合は、以下の順でおこなってください。
 - ① 本手順で本製品の電源 OFF にします。
 - ② 増設ハードディスクやプリンターの電源を OFF にします。
- 長期間使用しない場合は、電源コードをコンセントから外しておくことをおすすめします。
- 設定画面の [シャットダウン] をした場合や、本製品の [再起動] をした場合は、ランプは点灯しませんのでご注意ください。

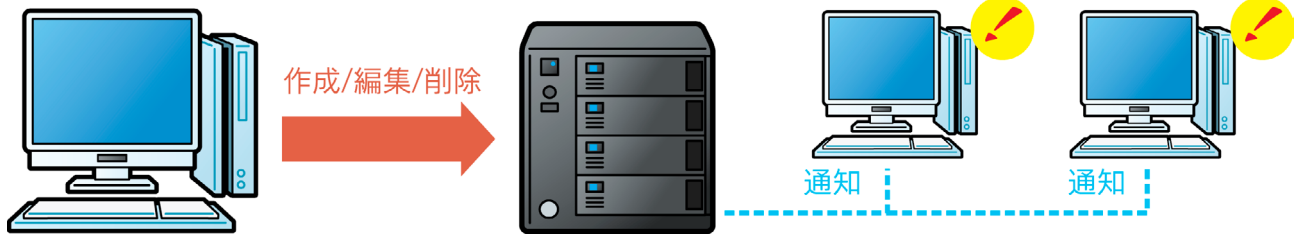
添付ソフトをインストールする

本製品の添付ソフトのインストール方法を説明します。必要に応じてご使用ください。
各使用方法や対応 OS などについては、各ソフトの取扱説明書をご覧ください。

Sight On

メールソフト感覚の簡単操作でユーザーによるファイル更新を知ることができます。
ファイル更新時にポップアップで通知します。

例えば、複数のパソコンで共通の Excel を作業中に、1 人が更新した場合、他のパソコンでポップアップでお知らせなどの使い方ができます。



●インストール方法

1 ネットワークに接続可能なパソコンに添付 CD-ROM をセットし、起動したサポートソフトメニューの [サポートソフトインストール] をクリックします。

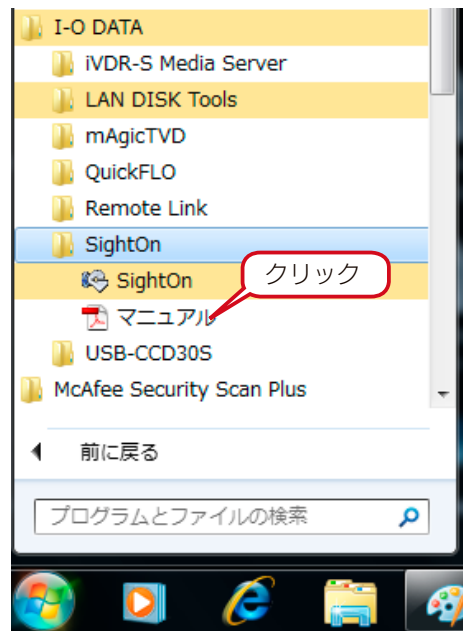


2 [Sight On] をクリックします。
→画面の指示にしたがってインストールしてください。



使用法は、取扱説明書をご覧ください

[スタート] → [すべてのプログラム] (または [プログラム]) → [I-O DATA] → [Sight On] → [マニュアル] を順にクリックすると取扱説明書がご覧になれます。



LAN DISK TOOLS

「LAN DISK TOOLS」はLAN DISK をより快適にお使いいただくための管理ツールです。以下の5つのソフトがあります。

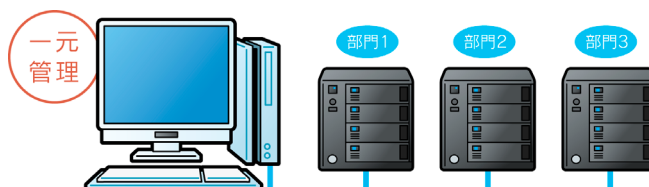
LAN DISK Control Panel

「LAN DISK Control Panel」は、他の添付ソフト（「LAN DISK Admin」「LAN DISK Backup Reader」「LAN DISK Restore」）を統合するためのランチャーソフトです。「LAN DISK Control Panel」から簡単に起動することができます。

LAN DISK Admin

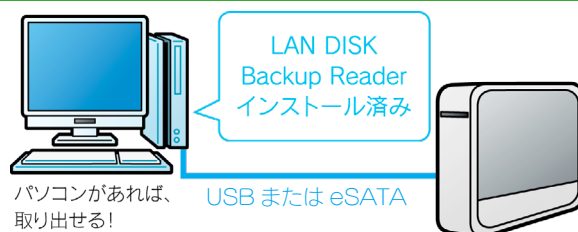
LAN DISK を複数台導入した場合の設定を一括で管理することができます。

- ・ファームウェアの一括アップデートに対応
- ・RAID や使用容量などの情報を取得可能
- ・システム異常などを一元管理



LAN DISK Backup Reader

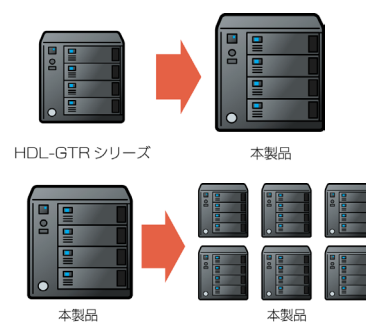
本製品が故障し、専用フォーマットの増設ハードディスクからバックアップファイルが読み出せない場合は、「LAN DISK Backup Reader」を使ってパソコンからデータを読み出すことができます。



LAN DISK Restore

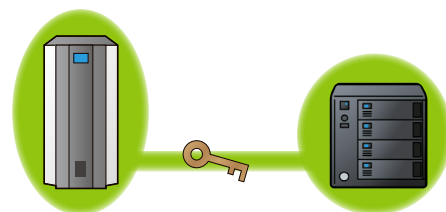
設定データをコピーして流用することで、複数台導入時の初期設定を省力化することができます。

- ・本製品はもちろん弊社従来製品の設定データも利用可能
- ・大量導入時には複数台に同じ設定をコピーして負荷を大幅軽減



LAN DISK Key Server

本製品に搭載されている機能である内蔵ボリュームの暗号化機能により、USB メモリーに保存された暗号化キーをサーバー上に保存して、このサーバーを USB メモリーの代わりとして利用するソフトウェアです。LAN DISK の起動の度に USB メモリーを接続する作業が不要になり、USB メモリーを安全な場所に保存しておくことができます。



※インストールすると、インストールされたプログラムに関してファイアウォールの設定が更新されます。ファイアウォール用のサービスが起動されていない場合など、ファイアウォールの設定が更新されない場合があります。この場合は、手動でファイアウォールの設定をおこなってください。

●インストール方法

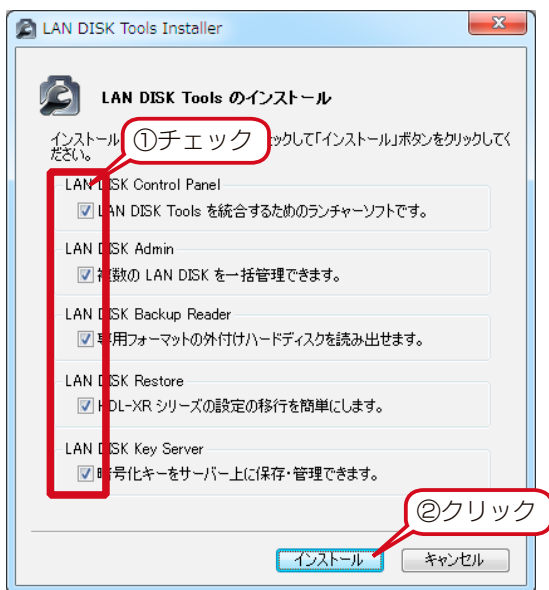
- 1 ネットワークに接続可能なパソコンに添付 CD-ROM をセットし、起動したサポートソフトメニューの [サポートソフトインストール] をクリックします。



- 2 [LAN DISK TOOLS] をクリックします。

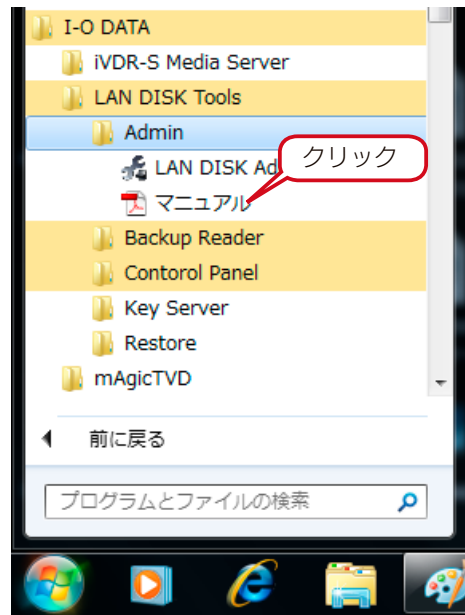


- 3 インストールするアプリケーションをチェックし、[インストール] ボタンをクリックします。
→画面の指示にしたがってインストールしてください。



使用方法は、各マニュアルをご覧ください

[スタート]→[すべてのプログラム] (または [プログラム]) → [I-O DATA]→[LAN DISK TOOLS] を順にクリックし、各ソフト内の [マニュアル] をクリックするとマニュアルがご覧になります。



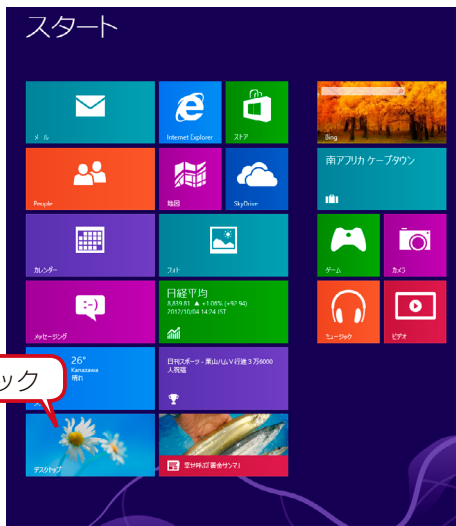
ネットワークからアクセスする

Windows 8、7 からアクセスする

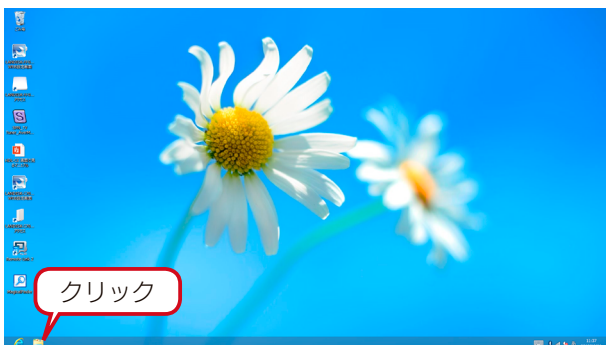
※ Windows 8 の場合は、デスクトップモードにします。

Windows 8でデスクトップモードにする

スタート画面上の[デスクトップ]アイコンをクリックします。



1 クイックバーの[エクスプローラー]をクリックします。



2 エクスプローラーのアドレスへ「\\¥landisk-xxxxxx」と入力し、[→] (または [Enter] キー) を押します。検索された「landisk-xxxxxx」を選択します。
※ xxxxxx は、MAC アドレスの下 6 桁です。
※本製品の「LAN DISK の名前」を変更した場合は、¥の後に変更した名前を入力してください。



共有フォルダーが表示されます。

出荷時には「disk1」フォルダーがあり、管理者のみがファイルを読み書きすることができます。

次に【[参考](#)】ネットワークドライブの割り当て方法】(4-30 ページ) をご覧ください。

ご注意

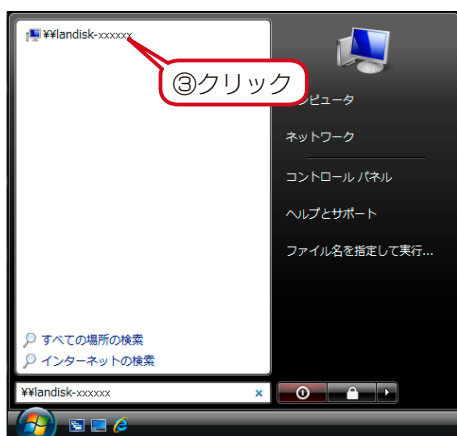
LAN DISK が検索されない場合

対処 以下をご覧ください。

【[コンピューターの検索](#)】で [landisk-xxxxxx] が見つからない】(27-210 ページ)

Windows Vista

- 1** [スタート] をクリックし、[検索の開始] をクリック後、¥¥landisk-xxxxxx と入力し [Enter] キーを押します。(xxxxxx は、LAN ポートの MAC アドレスの下 6 桁)
※【[LAN DISK の名前] について】(3-15 ページ) をご覧ください。
※本製品の「LAN DISK の名前」を変更した場合は、¥¥の後に変更した名前を入力してください。



ご注意

LAN DISK が検索されない場合
対処 以下をご覧ください。

【[コンピュータの検索] で [landisk-xxxxxx] が見つからない】(27-210 ページ)

共有フォルダーが表示されます。

出荷時には「disk1」フォルダーがあり、管理者のみがファイルを読み書きすることができます。

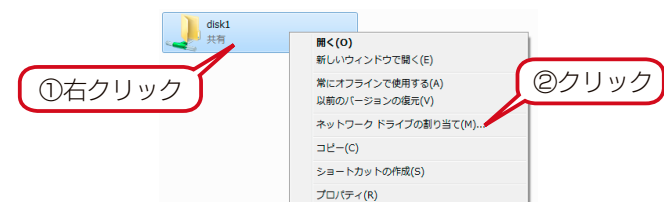
次に【[参考] ネットワークドライブの割り当て方法】(4-30 ページ) をご覧ください。

【参考】ネットワークドライブの割り当て方法

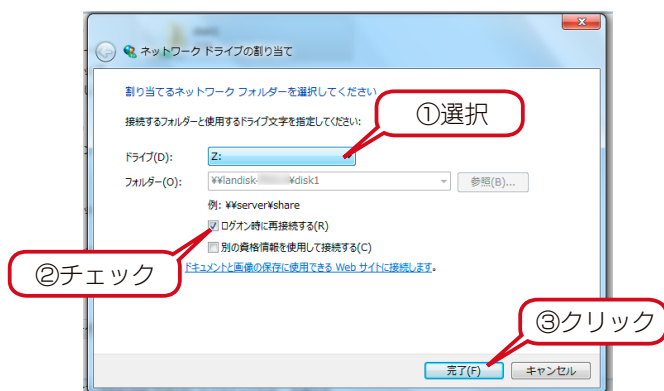
製品をネットワークドライブに割り当てれば、[コンピュータ] (マイコンピュータなど) 上から簡単にアクセスできるようになります。(画面は Windows 7 の例です。)

- 1** 【本製品にアクセスする】の方法で [disk1] フォルダを表示させます。

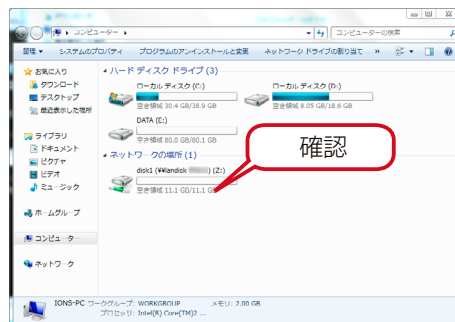
- 2** [disk1] フォルダを右クリックし、表示されたメニューの [ネットワークドライブの割り当て] をクリックします。



- 3** ネットワークドライブを割り当てます。
① [ドライブ] にて本製品に割り当てる文字を選びます。
② [ログオン時に再接続する] にチェックを付けます。
③ [完了] (または [OK]) ボタンをクリックします。
ドライブの割り当てが完了すると、割り当てられたドライブのウィンドウが表示されます。



- 4** [マイコンピュータ] を開いて、割り当てられたドライブが認識されていることをご確認ください。
ネットワークドライブは、パソコンのハードディスクと同様にアクセスできます。



Mac OS X(10.5 以降)

1 画面下の Finder を開きます。
[共有] に本製品 (landisk-xxxxxx) ※が表示されていることを確認し、クリックします。
(xxxxxx は、LAN ポートの MAC アドレスの下 6 桁)
※【[LAN DISK の名前] について】(3-15 ページ) をご覧ください。
※本製品の[LAN DISK の名前]を変更している場合は、設定した名前が表示されます。



ご注意

LAN DISK が検索されない場合

対処 以下をご覧ください。

【[landisk-xxxxxx]が見つからない、もしくは、接続できない】(27-211 ページ)

共有フォルダーが表示されます。

出荷時には「disk1」フォルダーがあり、管理者のみがファイルを読み書きすることができます。

Mac OS X(10.4)

1 Finder を開き、[ネットワーク] をクリックします。
しばらくすると [landisk-xxxxxx] アイコンが表示されます。(xxxxxx は、LAN ポートの MAC アドレスの下 6 桁)



2

表示された [landisk-xxxxxx] アイコンをダブルクリックします。

※【[LAN DISK の名前] について】(3-15 ページ) をご覧ください。

※本製品の[LAN DISK の名前]を変更している場合は、設定した名前が表示されます。



ご注意

LAN DISK が検索されない場合

対処 以下をご覧ください。

【[landisk-xxxxxx]が見つからない、もしくは、接続できない】(27-211 ページ)

共有フォルダーが表示されます。

出荷時には「disk1」フォルダーがあり、管理者のみがファイルを読み書きすることができます。

RAID モード

本製品で設定できる RAID モード

本製品は、出荷時 RAID 6 で構成されています。本製品の設定画面で他の RAID モードに変更できます。

本製品では、以下の 5 つの RAID モードに設定することができます。

また、RAID 5 および RAID 6 には暗号化の有無がありますので、合計 7 つの RAID モードを選択できます。

※ 4 つのハードディスクを別のハードディスクとして使用することはできません。

※ ディスク故障が発生した場合は速やかに新しいカートリッジと交換してください。

※ HDL-XR/2D シリーズでは、RAID 0、RAID 1（出荷時）のみ設定できます。（HDL-XR/2D シリーズの RAID モードについては【HDL-XR/2D シリーズ取扱説明書】をご覧ください。）

RAID 6	<ul style="list-style-type: none"> 内蔵ドライブ (1~4) の 50% (2 台分) を利用できます。 ※ 残り 2 台分の容量はパリティとして利用します。 パリティにより、同時に 2 台のハードディスクに障害が発生しても復旧できます。 		<p>パリティ 1</p> <p>パリティ 2</p>
RAID 1+ スペアー	<ul style="list-style-type: none"> 内蔵ドライブ (1~4) の 25% (1 台分) を利用できます。 ※ 3 台で RAID 1 を構成 (トリプルミラーリング) し、残り 1 台はホットスペアーとして利用します。 1 台のハードディスクに障害が発生しても、スペアーを利用し、ディスク切替を自動で行います。 		<p>ミラーディスク</p> <p>ホットスペアー</p>
RAID 5	<ul style="list-style-type: none"> 内蔵ドライブ (1~4) の 75% (3 台分) を利用できます。 ※ 残り 1 台分の容量はパリティとして利用します。 パリティにより、1 台のハードディスクに障害が発生しても復旧できます。 		<p>パリティ</p>
RAID 5+ スペアー	<ul style="list-style-type: none"> 内蔵ドライブ (1~4) の 50% (2 台分) を利用できます。 ※ 3 台で RAID 5 を構成し、内 1 台分の容量はパリティとして利用します。残り 1 台はホットスペアーとして利用します。 1 台のハードディスクに障害が発生しても、スペアーを利用し、ディスク切替を自動で行います。 		<p>パリティ</p> <p>ホットスペアー</p>
RAID 0	<ul style="list-style-type: none"> 内蔵ドライブ (1~4) の全容量を利用できます。 アクセス速度が最も早くなります。 データの保護機能はありません。 		

各 RAID モードの比較		RAID 6	RAID 1+スペア	RAID 5	RAID 5+スペア	RAID 0
利用可能な ディスク容 量 (例)	HDL- XR2.0W	約 1TB	約 0.5TB	約 1.5TB	約 1TB	約 2TB
	HDL- XR4.0W	約 2TB	約 1TB	約 3TB	約 2TB	約 4TB
	HDL- XR8.0W	約 4TB	約 2TB	約 6TB	約 4TB	約 8TB
	HDL- XR12TW	約 6TB	約 3TB	約 9TB	約 6TB	約 12TB
	HDL- XR16TW	約 8TB	約 4TB	約 12TB	約 8TB	約 16TB
		高	高	中	中	なし
	データの保護機能	<ul style="list-style-type: none"> ●最大 2 台故障に対応 ●3 台故障で RAID 崩壊 	<ul style="list-style-type: none"> ●最大 2 台故障に対応 ●3 台故障で RAID 崩壊 ●スペアーを利用し、 自動ディスク切替 	<ul style="list-style-type: none"> ●1 台故障に対応 ●2 台故障で RAID 崩壊 	<ul style="list-style-type: none"> ●最大 1 台故障に対応 ●2 台故障で RAID 崩壊 ●スペアーを利用し、 自動ディスク切替 	<ul style="list-style-type: none"> ●1 台故障で RAID 崩壊

現在の RAID モードを確認する

1 [詳細設定]から、[情報表示]→[ボリューム情報]をクリックします。



2 [内蔵ボリューム]の[動作モード]をご確認ください。



RAID モードを変更する

ご注意

- 本製品で RAID モードを変更すると、内蔵ボリューム上に作成した共有フォルダーとその共有フォルダーに保存されていたデータはすべて失われます。あらかじめ、データをバックアップしてから RAID モードを変更するか、初期状態からすぐに構成変更してください。
- 本製品の RAID 構成されているハードディスクカートリッジは、障害発生時以外には取り外さないでください。
不用意に取り外すと冗長性が失われたり、RAID 構成が崩壊して全てのデータを失う危険性があります。
- HDL-XR/2D から HDL-XR シリーズの RAID モードに切り替え後は、HDL-XR/2D の RAID モードに切り替えはできなくなりますので、ご注意ください。

■変更する前に

- ・ RAID モードを変更するには、必ずカートリッジが4台とも接続されている必要があります。
- ・ 内蔵ハードディスク（4台）はすべてフォーマットされます。
本製品内にデータが保存されている場合は、RAID モード変更前に必ず必要なデータはバックアップしてください。
- ・ eSATA ハードディスクが接続されており、ミラーリングモードに設定されている場合は、RAID モードを変更できません。
eSATA ハードディスクを取り外し、共有モードに変更してから、RAID モードを変更してください。

■変更時

- ・ RAID モードを変更すると、RAID の再構築処理を行います。
- ・ RAID モードの変更処理は数分で終わりますが、再構築完了までにかなり時間がかかる場合があります。
- ・ 再構築処理はバックグラウンドで実行されているため、再構築中であっても本製品を通常通り使用できますが、再構築中に以下の操作はできません。また、再構築中は、データ保護されません。
 - ファームウェアアップデート
 - スケジュールシャットダウン
 - アクティブリペアー

RAID 構築までの所要時間

- 以下に表示されている時間は、2TB モデルの場合です。この時間は製品のモデル容量に応じて、およそ比例した時間を必要とします。ご使用のモデルにあわせ目安としてください。

（RAID モードが暗号化機能を有するモードである場合や、構築中に設定変更やファイル操作をおこなった場合には、下記以上の時間を必要とします。）

変更する RAID モード	RAID 6	RAID 1+ スペアー	RAID 5	RAID 5+ スペアー	RAID 0
RAID 構築までの時間	約 10 時間 20 分	約 1 時間 30 分	約 5 時間 40 分	約 4 時間 20 分	約 2 分*

※ RAID モードの所要時間は、他の RAID モードから変更し、設定画面にてモード変更処理が完了した後、再構築が完了するまでの時間です。
ただし、RAID 0 の場合は、再構築は起こりません。

1 [詳細設定] から、[ディスク設定] → [ボリューム設定] をクリックします。

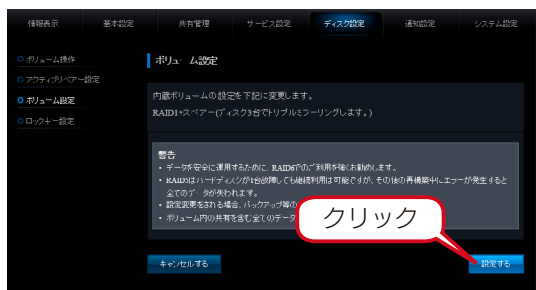


2 [内蔵ボリューム] で変更する RAID モードに選択後、[変更] ボタンをクリックします。



暗号化 RAID を選ぶ
●暗号化ボリュームを設定する場合は、【暗号化ボリューム】(6-37 ページ) をご覧ください。

3 [設定する] ボタンをクリックします。



以上で RAID モードの変更は完了です。
変更した RAID モードの構築が完了するまでに、時間がかかる場合がありますが、RAID 構築自体はバックグラウンドで実行されているため、本製品へのアクセスは可能です。
現在の構築状態は、[ボリューム情報] 画面で確認することができます。内蔵ボリュームの [RAID の状態] に「使用中：正常動作」と表示されたら構築完了です。

ご注意
●再構築が完了しないと RAID によるデータ保護はされません。
●RAID 0 (ストライピング) の場合、再構築処理はありません。
●再度状態を確認するには、[情報表示] → [ボリューム情報] をクリックしてください。一度開いた [ボリューム情報] 画面の情報は、再度 [ボリューム情報] 画面を開かないと更新されません。

暗号化ボリューム

暗号化ボリュームとは？

暗号化ボリューム機能は、本製品の RAID ボリュームを丸ごと暗号化する機能です。

専用の鍵（USB ロックキー）を接続しない限り、暗号化されたディスク領域にアクセスすることはできませんので、万一本製品を丸ごと、あるいはカートリッジの盗難にあった場合でも、記録された情報の漏洩を防ぐことができます。

暗号化には AES 方式（256bit）を使用し、ハードウェア暗号エンジンを用いるため、高速かつ安全に処理されます。

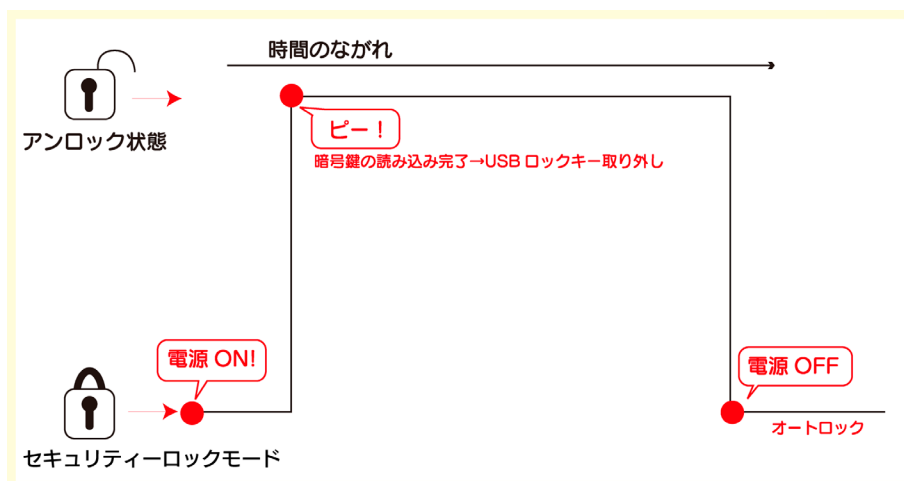
設定時に必要なもの

- ・ 64MB 以上の容量を持つ USB メモリー（製品添付の USB メモリー）

ご注意

- USB ロックキーとして使用する USB メモリーにあらかじめ記録されているデータはすべて消去されます。
- スペアーキーを作成する場合は、スペアーキー個数分の USB メモリーが必要です。
- 弊社製 USB メモリー ED シリーズなど、暗号化されている USB メモリーはご利用いただけません。

暗号化ボリュームのイメージ



ご注意

- 暗号化ボリューム設定を行った場合、本製品に USB ロックキーを接続せずに起動すると、本製品は「セキュリティロックモード」で起動します。「セキュリティロックモード」では、すべての共有サービスは停止し、共有フォルダー上に保存されたデータにアクセスすることはできません。「セキュリティロックモード」は、USB ロックキーを本製品に接続することで解除することができます。
※次回本製品の起動 / 再起動時には再び USB ロックキーが必要です。電源 ON/OFF 設定でスケジュール起動、終了を行う場合はご注意ください。
- 暗号化に利用するキーは USB ロックキー内にも存在します。万一 USB ロックキーが壊れたり、紛失した場合、暗号化ボリュームにアクセスできなくなります。
必ず「マスターキー」と「スペアーキー」の複数の USB ロックキーを用意し、万一に備えて「マスターキー」を安全な場所に保管しておいてください。また、スペアーキーの作り方は、[【スペアーキーを作成する】\(6-40 ページ\)](#) をご覧ください。
- 暗号化されるのは内蔵 RAID ボリューム上のデータのみとなります。
増設ハードディスク上のデータは暗号化されません。そのため、バックアップ機能で増設ハードディスク上、または、ネットワーク上の本製品からバックアップされたファイルは、暗号化されていない状態のファイルとなりますのでご注意ください。
eSATA ミラーリング機能をご利用の場合は、暗号化されたまま増設 eSATA ハードディスクにミラーリングが行われます。
また、LAN 上を流れる通信は暗号化されていません。
- 本製品の暗号化ボリューム機能は RAID ボリュームを丸ごと暗号化する機能です。
ファイル単位、フォルダー単位の暗号化については、市販のアプリケーションをご利用ください。

暗号化ボリュームを設定する

ご注意

- RAID モードを変更すると、内蔵ボリューム上の共有フォルダー、および共有フォルダーに保存したすべてのデータが消去されます。
- 暗号化ボリューム設定を行う際に、本製品に接続した USB メモリーは USB ロックキーとしてフォーマットされます。必要なデータが入っている場合は、あらかじめバックアップした上で実行してください。
- USB ロックキーに保存される鍵データは、暗号化 RAID 5 または暗号化 RAID 6 にボリューム設定するたびに新規に生成されますので、本製品を複数使用する場合は、それぞれに専用の USB ロックキーを用意する必要があります。

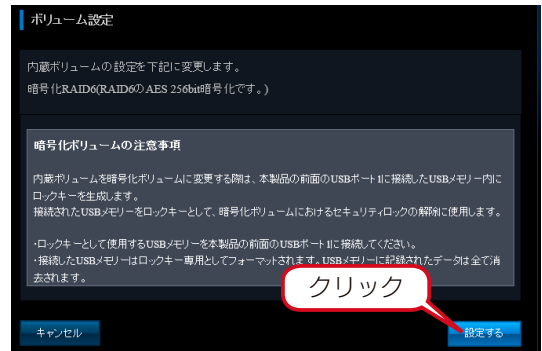
1 [詳細設定] から、[ディスク設定] → [ボリューム設定] をクリックします。



2 [内蔵ボリューム] の動作モードの選択で「暗号化 RAID 5」または、「暗号化 RAID 6」のいずれかにチェックした後、[変更] ボタンをクリックします。



3 画面のメッセージを確認の上、USB ロックキーにする USB メモリーを、本製品前面の USB ポート 1 に接続し、[設定する] ボタンをクリックします。
→数分後、完了画面が表示されます。



ご注意

- 暗号化に利用するキーは、USB ロックキー内にのみ存在します。万一 USB ロックキーが壊れたり、紛失した場合、暗号化ボリュームにアクセスできなくなります。必ず「マスターキー」と「スペアキー」の複数の USB ロックキーを用意し、万一に備えて「マスターキー」を安全な場所に保管しておいてください。スペアキーの作り方は【スペアキーを作成する】(6-40 ページ) をご覧ください。
- USB ロックキーをパソコンに接続し、フォーマット、ファイルやフォルダーのコピー、削除、リネームなどを行わないようにしてください。鍵ファイルを削除すると、暗号化されたボリュームにアクセスできなくなりますので、他の USB メモリーと混同しないようにご注意ください。

暗号化ボリュームにアクセスする

- 1 本製品の電源が OFF になっていることを確認します。
- 2 本製品前面の USB ポート 1 に USB ロックキーを挿入します。
- 3 本製品の電源を ON にします。
- 4 しばらくすると暗号鍵を読み込んだことを示すブザー音(ピー)がなりますので、USB ポート 1 から USB ロックキーを取り外します。
- 5 取り外した USB ロックキーは紛失しないよう、必ず安全な場所に保管しておいてください。

以上で暗号化ボリュームにアクセス可能となります。

ご注意

●暗号化に利用するキーは、USB ロックキー内にも存在します。万が一 USB ロックキーが壊れたり、紛失した場合、暗号化ボリュームにアクセスできなくなります。必ず「マスターキー」と「スペアキー」の複数の USB ロックキーを用意し、万が一に備えて「マスターキー」を安全な場所に保管しておいてください。スペアキーの作り方は【[スペアキーを作成する](#)】(6-40 ページ)をご覧ください。

●USB ロックキーをパソコンに接続し、フォーマット、ファイルやフォルダーのコピー、削除、リネームなどを行わないようにしてください。鍵ファイルを削除すると、暗号化されたボリュームにアクセスできなくなりますので、他の USB メモリーと混同しないようにご注意ください。

●「セキュリティロックモード」を解除するには、以下のいずれかの操作を行う必要があります。

方法1 USB ロックキーを USB ポート 1 に接続する

正しい USB ロックキーを接続した場合、本製品は正常動作に戻り、共有フォルダー上に保存されたデータにアクセスできるようになります。「ロックモード」の解除後、USB ロックキーは取り外してください。

※次回本製品の起動時、または再起動時には再び USB ロックキーが必要です。

方法2 「ボリューム設定」で動作モードの再設定を行う

正しい USB ロックキーがない場合、「ボリューム設定」より内蔵ボリュームの設定を変更すると、セキュリティロックされた暗号化ボリュームをフォーマットし、再び本製品を使用できるようになります。ただし、初期化の際、暗号化ボリューム上に作成された共有フォルダー、および共有フォルダー上に保存されたデータはすべて消去されます。

スペアキーを作成する

ご注意

- 暗号化に利用するキーは、USB ロックキー内にのみ存在します。万ー USB ロックキーが壊れたり、紛失した場合、暗号化されたボリュームにアクセスできなくなります。必ず「マスターキー」と「スペアキー」の複数の USB ロックキーを用意し、万ーに備えて「マスターキー」を安全な場所に保管しておいてください。スペアキーの作り方は以下の手順をご覧ください。
- 弊社製 USB メモリー ED シリーズなど、暗号化されている USB メモリーはご利用いただけません。

- 1 [詳細設定] から、[ディスク設定] → [ロックキー設定] をクリックします。

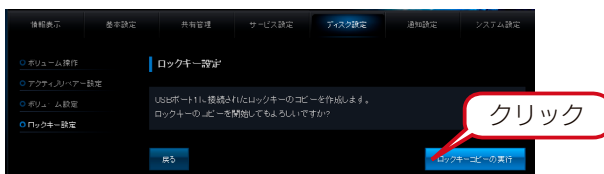


- 2 USB ポート 1 にロックキー（マスターキー）を接続します。[STATUS] ランプが緑点滅します。

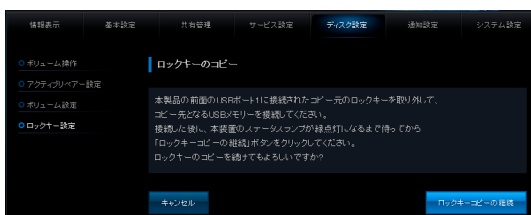
- 3 [STATUS] ランプが緑点滅から緑点灯に変わったら、「ロックキーのコピー」の [実行] ボタンをクリックします。



- 4 「ロックキーコピーの実行」をクリックします。



- 5 「きらきら星」の音楽が鳴り始め、以下の画面が表示されたら、ロックキー（マスターキー）を抜きます。



- 6 「きらきら星」の音楽が止まったら、スペアキー用の USB メモリーを USB ポート 1 に接続します。

- 7 [STATUS] ランプが緑点滅から緑点灯に変わったら、[ロックキーコピーの継続] をクリックします。

これで、USB ポート 1 に接続した USB メモリーはスペアキーとして使用できます。

ご注意

- USB ロックキーをパソコンに接続し、フォーマット、ファイルやフォルダーのコピー、削除、リネームなどを行わないようにしてください。鍵ファイルを削除すると、暗号化されたボリュームにアクセスできなくなりますので、他の USB メモリーと混同しないようにご注意ください。

USB ロックキーを保存する (Key Server 機能)

- 「LAN DISK Key Server」は、本製品に搭載されている機能である内蔵ボリュームの暗号化機能により、USB メモリーに保存された暗号化キーをサーバー上に保存して、このサーバーを USB メモリーの代わりとして利用するソフトウェアです。本製品の起動の度に USB メモリーを接続する作業が不要になり、USB メモリーを安全な場所に常に保存しておくことができます。「LAN DISK Key Server」をご利用いただくには、本製品の RAID ボリュームが暗号化されている必要があります。「LAN DISK Key Server」は、サポートソフトよりインストールしてください。設定方法については、「LAN DISK Key Server」のマニュアルを参照してください。

暗号化ボリュームを解除する

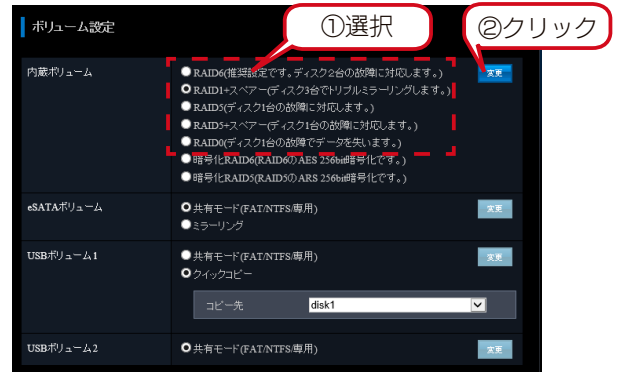
ご注意

- 暗号化ボリュームを一般のRAIDボリュームに戻すと、暗号化ボリュームに保存されていたすべてのデータを消失します。重要なファイルが保存されていないことを確認の上、操作してください。

1 [詳細設定] から、[ディスク設定] → [ボリューム設定] をクリックします。



2 [内蔵ボリューム] の動作モードの選択で「暗号化 RAID 5」または「暗号化 RAID 6」以外を選択した後、[変更] ボタンをクリックします。



3 [設定する] ボタンをクリックします。数分後、完了画面が表示されます。

以上で設定は完了です。

ロックキーの削除をする

1 本製品前面の USB ポート 1 に削除したい USB ロックキーを接続します。

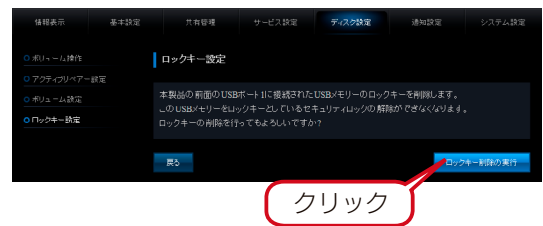
2 [詳細設定] から、[ディスク設定] → [ロックキー設定] をクリックします。



3 [詳細設定] から、[ディスク設定] → [ロックキー設定] をクリックします。



4 [ロックキーの削除を実行] ボタンをクリックします。



USB ロックキーのキー情報を削除しました。キー情報を削除された USB メモリーはフォーマットされ、取り外し処理が実行されますので、[STATUS] ランプが緑点灯になったら、そのまま取り外しできます。

共有フォルダー

共有フォルダーのアクセス権

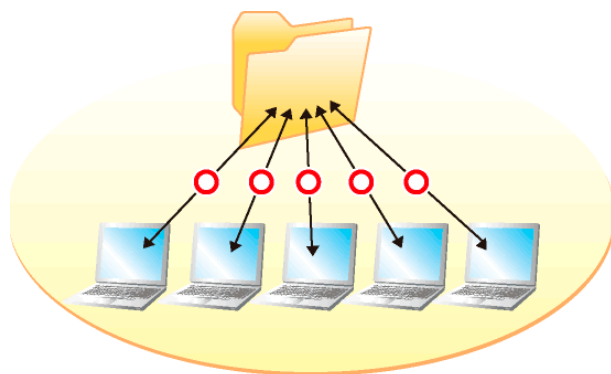
本製品の設定画面上で作成できる「共有」（アクセス権限）には以下の種類があります。

全員共有

ネットワークに接続されているすべてのパソコンから自由にファイルの読み書きができる共有です。

ネットワークにログオン時のユーザー名やパスワードに関係なく、そのままアクセスできますので、ユーザー管理やグループ管理をおこなう必要がありません。

※本製品に初期設定で登録されている「disk1」フォルダーは、管理者のみがアクセスできます。



詳細アクセス権設定

各共有フォルダーに対し、ユーザー・グループごとに権限を設定することができます。



ご注意

●アクセス権設定変更時は、変更が完了するまで共有へのアクセスができなくなります。

<アクセス権限の優先順位について>

アクセス権の設定の優先順位は以下の①②③の順に優先される設定になります。

● Microsoft ネットワーク共有・FTP 共有

- ①共有フォルダーの読み取り専用設定
- ②詳細アクセス権設定の読み書き設定（グループ・ユーザー）
- ③詳細アクセス権設定の読み取り設定（グループ・ユーザー）

● AppleShare ネットワーク共有

- ①共有フォルダーの読み取り専用設定
- ②詳細アクセス権設定の読み取り設定（グループ・ユーザー）
- ③詳細アクセス権設定の読み書き設定（グループ・ユーザー）

AppleShare ネットワーク共有と他の共有サービスを組み合わせて使用する場合に、詳細アクセス権設定でグループ、ユーザーごとに個別にアクセス権を設定するには、以下のいずれかの方法ですべての共有サービスからのアクセス権限を統一できます。

- ・ユーザーとユーザーが属するグループに対して異なるアクセス権を設定しない
- ・詳細アクセス権設定をすべてユーザーで指定する

設定例

以下のグループにアクセス権を設定する場合（user2 が重複していることに注意）

グループ名	所属するユーザー
ROgroup	user1,user2
RWgroup	user2,user3

例 1 グループ全体を読み取り権限に設定するが、グループ内の特定ユーザーのみを読み書き権限とする場合

共有フォルダー share1 （フォルダーの読み取り専用チェックなし、詳細設定有効）

許可したユーザー [読み書き] user1

許可したグループ [読み取り] ROgroup (user1、user2 がグループメンバー)

上記の設定を行った場合、Microsoft ネットワーク共有・FTP 共有では各ユーザーによる共有フォルダー share1 へのアクセスは以下のようになります。

user1 読み書き

user2 読み取り

※ user1 は、ユーザー指定によって読み書き指定、グループ指定によって読み取り指定と、両方の権限が指定されていますが、読み取り指定よりも読み書き指定の方が優先のため、読み書きのアクセスとなります。

※ user2 は、グループ指定によって読み取り指定されていますので、読み取りのアクセスとなります。

AppleShare ネットワーク共有では以下のようになります。

user1 読み取り

user2 読み取り

※ user1 は、ユーザー指定によって読み書き指定、グループ指定によって読み取り指定と、両方の権限が指定されていますが、読み書き指定よりも読み取り指定の方が優先のため、読み取りのアクセスとなります。

※ user2 は、グループ指定によって読み取り指定されていますので、読み取りのアクセスとなります。

例 2 ユーザーおよびユーザーが属するグループに異なるアクセス権を付与した場合

共有フォルダー share1 （フォルダーの読み取り専用チェックなし、詳細設定有効）

許可したユーザー [読み書き] user1

[読み書き] user3

許可したグループ [読み取り] ROgroup (user1、user2 がグループメンバー)

[読み書き] RWgroup (user2、user3 がグループメンバー)

上記の設定を行った場合、Microsoft ネットワーク共有・FTP 共有では各ユーザーによる共有 share1 へのアクセスは以下のようになります。

user1 読み書き

user2 読み書き

user3 読み書き

※ user1 は、グループ指定によって読み取り、ユーザー指定によって読み書きと両方の指定がされていることとなりますが、読み取り指定よりも読み書き指定の方が優先のため読み書き可能となります。

※ user2 は、グループ指定によって、読み取りと読み書きの両方の指定がされていますが、読み取り指定よりも読み書き指定の方が優先のため読み書き可能となります。

※ user3 は、グループ指定によって読み書き、ユーザー指定においても読み書きの両方の指定がされているので読み書き可能となります。

AppleShare ネットワーク共有の場合は以下のようになります。

user1 読み取り

user2 読み取り

user3 読み書き

※ user1 は、グループ指定によって読み取り、ユーザー指定によって読み書きと両方の指定がされていることとなりますが、読み書き指定よりも読み取り指定の方が優先のため読み取りのみとなります。

※ user2 は、グループ指定によって、読み取りと読み書きの両方の指定がされていますが、読み書き指定よりも読み取り指定の方が優先のため読み取りのみとなります。

※ user3 は、グループ指定によって読み書き、ユーザー指定においても読み書きの両方の指定がされているので読み書き可能となります。

例 3 複数グループにまたがるユーザーが存在し、かつ、それぞれのグループに異なるアクセス権を付与した場合

共有フォルダー share1 （フォルダーの読み取り専用チェックなし、詳細設定有効）

許可したグループ [読み取り] ROgroup (user1、user2 がグループメンバー)

[読み書き] RWgroup (user2、user3 がグループメンバー)

Microsoft ネットワーク共有・FTP 共有での各ユーザーによる共有 share1 へのアクセスは以下のようになります。

user1 読み取り

user2 読み書き

user3 読み書き

※ user2 は、グループ指定によって、読み取りと読み書きの両方の指定がされていることとなりますが、読み取り指定よりも読み書き指定の方が優先のため読み書き可能となります

AppleShare ネットワーク共有の場合は以下のようになります。

user1 読み取り

user2 読み取り

user3 読み書き

※ user2 は、グループ指定によって、読み取りと読み書きの両方の指定がされていることとなりますが、読み書き指定よりも読み取り指定の方が優先のため読み取りのみとなります。

例 4 共有フォルダーの読み取り専用チェックをつけた場合

詳細アクセス権の設定なし、および、詳細アクセス権設定でユーザー、グループに対してどのような設定を実施しても、共有フォルダーの読み取り専用チェックをつけると、許可されたユーザーによるアクセスは読み取りとなります。

共有フォルダー使用上の注意

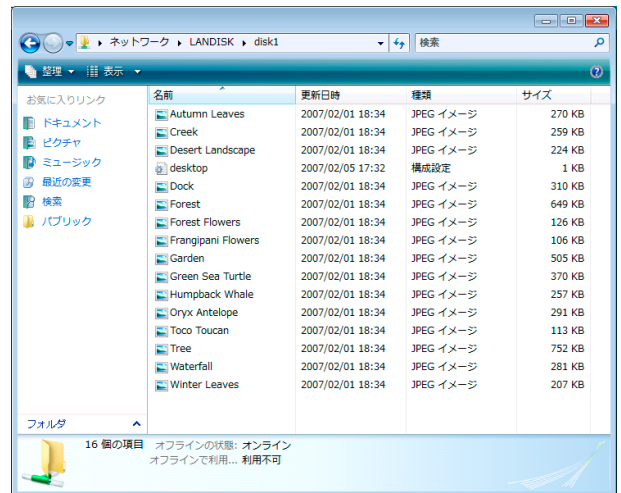
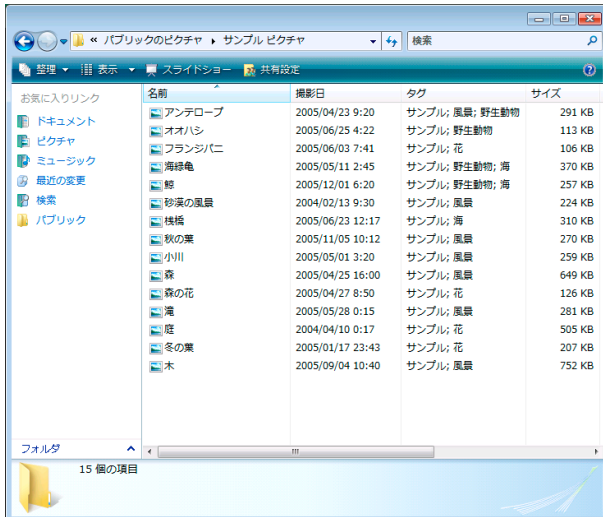
ご注意

- Windows 7、Vista の「ファイルのバックアップ」機能について

付属の「ファイルのバックアップ」機能で、バックアップの保存先として本製品の共有フォルダーを指定することはできません。

- Windows 7、Vista 上の表示と共有フォルダー上の表示の違いに関する注意

標準インストールされるサンプルピクチャーフォルダーのファイルは、Windows 7、Vista 上では画面例 (左) のように表示されています。画面例左のサンプルピクチャーを共有フォルダー上にコピーすると、画面例 (右) のように全く名前が異なって表示されます。



実際のファイル名は、LAN DISK 共有フォルダーで表示されるアルファベット文字のファイル名で正しいようですが、Windows 7、Vista 上のサンプルピクチャーのフォルダーはファイルの表示設定が、実ファイル名表示しない設定になっています。

このように名前=ファイル名ではないフォルダー表示設定が可能ですので、注意してください。

- 本製品に保存できるファイルやフォルダー名は、OS により制限があります。以下をご確認ください。

[【出荷時設定一覧】 \(25-154 ページ\)](#)

ネットワーク上での本製品の表示

本製品や本製品に接続した増設ハードディスクへのファイルの読み書き (アクセス) は、ネットワーク上から行います。

ネットワーク上から本製品に作成した、または作成されている共有フォルダーを通して、ネットワーク上の複数台のパソコンでファイルを共有することができます。

共有フォルダー名	説明
disk1	本製品出荷時にすでに作成されている内蔵ハードディスクの共有フォルダーです。 初期設定では管理者のみアクセスできます。
esata1	本製品の [eSATA ポート] に接続した eSATA ハードディスクです。FAT、NTFS、専用形式の場合は、接続するだけでこの共有フォルダーが表示されます。初期設定では管理者のみアクセスできます。
usb1、usb2	本製品の [USB ポート 1][USB ポート 2] に接続した USB ハードディスクです。FAT、NTFS、専用形式の場合は、接続すれば、この共有フォルダーが表示されます。初期設定では管理者のみアクセスできます。 ※ usb1 ボリュームを共有モード (FAT/NTFS/専用) に設定時に、USB ハードディスクを [USB ポート 1] に接続した場合は、[usb1] と表示されます。
プリンタと FAX (プリンタ)	削除できません。

ご注意

増設ハードディスクの使い方については、以下をご覧ください。

[【ハードディスクやプリンターの増設】 \(11-75 ページ\)](#)

ごみ箱機能

ごみ箱機能が有効となっている共有フォルダーからファイルを削除しても、すぐにファイルがなくなるわけではなく、いったん [TrashBox] フォルダーに保管されます。ごみ箱機能は、初期設定で無効となっています。

設定は [共有管理] → [共有フォルダ設定] 画面でおこないます。新しく [ごみ箱機能] を有効 / 無効にする共有フォルダーを作成したり、すでに作成済みの共有フォルダーに [ごみ箱機能] を有効 / 無効に設定することもできます。

ご注意

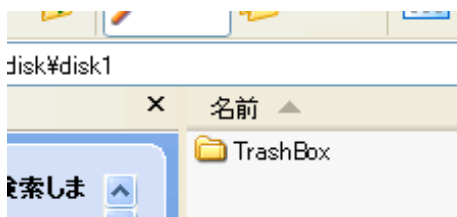
- 新規で [ごみ箱機能] を有効にする共有フォルダーを作成する場合は、【共有フォルダーを作成する】(7-46 ページ) をご覧ください。
- すでに作成済みの共有フォルダーに [ごみ箱機能] を有効・無効にする場合は、【共有フォルダーを変更・削除する】(7-56 ページ) をご覧ください。
- Windows (Microsoft ネットワーク共有ユーザー) でのみ利用できます。
- [TrashBox] フォルダー内のファイルは自動的に消去されませんので、そのままにしておくと、ファイルを削除するたびに [TrashBox] フォルダー内にファイルがたまり、ディスクの空き領域が減っていくことがあります。定期的に [TrashBox] フォルダー内のファイルを削除されることをおすすめします。
- [TrashBox] フォルダー内のファイルを削除すると、該当ファイルはハードディスクから完全に消去されますのでご注意ください。
- [TrashBox] フォルダーは、ファイルを消去してはじめて表示されます。
- ご利用のアプリケーションによっては、その動作中にファイル作成→削除を繰り返すものがあります。[TrashBox] フォルダーに大量にファイルが存在する場合、通信速度の低下やバックアップ失敗につながる場合があります。知らない内に [TrashBox] フォルダーにファイルが大量に存在している場合がありますので、定期的に [TrashBox] フォルダー内を確認することをおすすめします。
- [TrashBox] フォルダーからファイルに戻すことはできますが、削除したフォルダーは [TrashBox] に保管されないためフォルダーに戻すことはできません。
- ごみ箱機能を有効にして使用している状態で、共有フォルダーの [ごみ箱機能] を無効にした場合には、[TrashBox] フォルダーは削除され、[TrashBox] 内のファイルはハードディスクから完全に消去されます。

[TrashBox] フォルダーからファイルに戻す

[ごみ箱機能] を有効にした共有フォルダーからファイルが削除されると、[TrashBox] フォルダーが作成されます。表示されていない場合は [F5] キーを押して更新してください。

1 ネットワーク上から本製品の共有フォルダーにアクセスします。

2 [TrashBox] フォルダーをダブルクリックして、ファイルを移動 (またはコピー) します。



3 削除したファイルがありますので、必要なファイルを元の共有フォルダーに移動 (またはコピー) します。

以上で完了です。

共有フォルダーを作成する

ユーザーを登録する

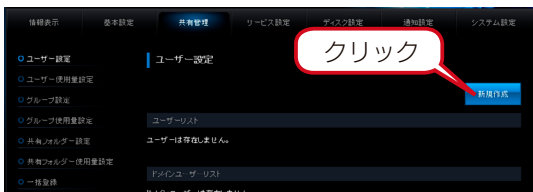
特定のユーザーだけがアクセスできる共有フォルダーを作成する場合は、そのユーザーのネットワークにログオン時の [ユーザー名] と [パスワード] を確認しておく必要があります。(確認した [ユーザー名] と [パスワード] を、後で設定画面に登録します。)

作成する共有フォルダーにアクセスするユーザーのネットワークにログオン時の [ユーザー名] と [パスワード] を確認しメモします。

1 [詳細設定] から、[共有管理] → [ユーザー設定] をクリックします。



2 [新規作成] ボタンをクリックします。



3 はじめにメモした [ユーザー名]、[パスワード]、[パスワード (確認)] を入力し、[確認する] ボタンをクリックします。

①入力

②クリック

ご注意

- ユーザーは本製品に 300 人まで登録することができます。
- [ユーザー名][パスワード] を設定できる文字には、以下の制限があります。

【文字制限一覧】(25-157 ページ)

ユーザー名	メモしたユーザー名を入力します。
パスワード	メモしたパスワードを入力します。
パスワード (確認)	確認のため再度パスワードを入力します。
フルネーム	追加するユーザーのフルネームなどの情報を入力できます。
コメント	追加するユーザーに関するコメントなどの情報を入力できます。
プライマリーグループ	追加するユーザーによる共有フォルダー使用量をプライマリーグループに指定したグループの使用量としてもカウントするようになります。 プライマリーグループを指定して、追加するユーザーは、プライマリーグループに指定したグループのメンバーに追加されます。
使用量制限値	使用量制限値には、追加するユーザーが共有フォルダーの上で使用できる容量を、0.1GB (ギガバイト) 単位で、指定することができます。 使用量制限機能の詳細は、【使用量制限】(8-63 ページ) をご覧ください。

4 ユーザー追加結果の画面が表示されます。ユーザーが追加されていることをご確認ください。

これで、ユーザーが本製品に登録されました。

グループを登録する

複数のユーザーに対して同一のアクセス権設定を行う場合は、あらかじめグループを作成し、グループに対するアクセス権を設定することで、グループに属するすべてのユーザーに同一の権限を設定することができます。

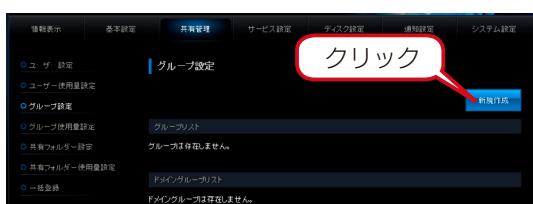
4 グループ追加結果の画面が表示されます。
グループが追加されていることをご確認ください。

これで、グループが本製品に登録されました。

1 [詳細設定]から、[共有管理]→[グループ設定]をクリックします。



2 [新規作成] ボタンをクリックします。



3 [グループ名]を入力後、[ユーザー登録設定]でグループに追加するユーザーを追加し、[確認する] ボタンをクリックします。



ご注意

- グループは本製品に100組まで登録することができます。
- 1グループに登録可能なユーザー数は300までとなります。
- グループ名で使用できる文字には、制限があります。

以下をご覧ください。

[【文字制限一覧】\(25-157 ページ\)](#)

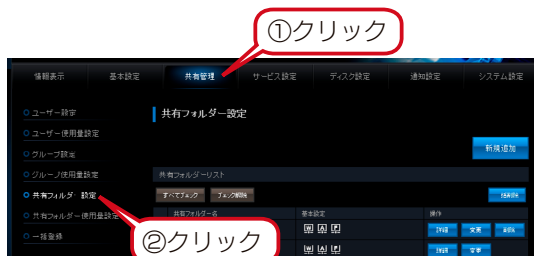
グループ名	作成するグループ名を入力します。
使用量制限値	使用量制限値には、追加するグループが共有フォルダーの上で使用できる容量を、0.1GB単位で、指定することができます。使用量制限機能の詳細は、 【使用量制限】(8-63 ページ) をご覧ください。
ユーザー登録設定	作成するグループに所属するユーザーの登録を行います。

共有フォルダーを作成する

ご注意

- 共有フォルダーを作成すると、すべての共有フォルダーにしばらくアクセスできなくなります。
共有フォルダーを作成される際は、本製品を利用しているユーザーがいなくご確認の上で、設定することをおすすめします。

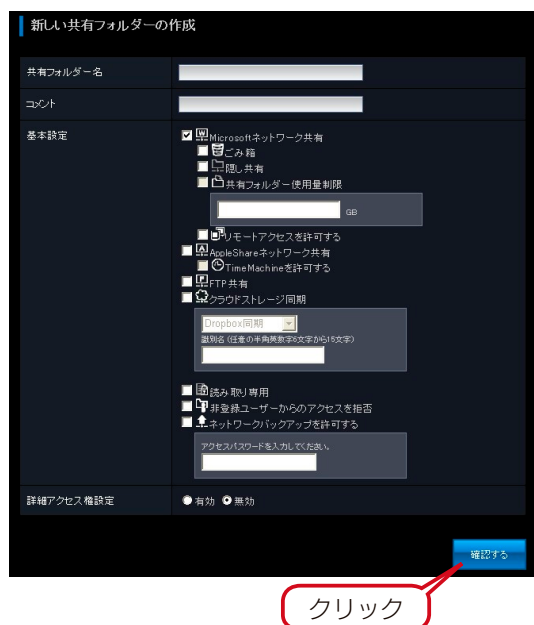
1 [詳細設定] から、[共有管理] → [共有フォルダー設定] をクリックします。



2 [新規追加] ボタンをクリックします。



3 作成する共有フォルダーを設定し、[確認する] ボタンをクリックします。詳しくは次ページをご覧ください。



4 設定内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。



これで、共有フォルダーが作成されました。

[新しい共有フォルダーの作成] 画面

共有フォルダー名	共有フォルダーの名前を入力します。 この名前が、ネットワーク上（[マイネットワーク] や [ネットワークコンピュータ] など）に表示される本製品の名前の下に表示されます。 ※使用できる文字には制限があります。【文字制限一覧】（25-157 ページ）を参照してください。		
コメント	Windows 用です。 ここに入力したコメントが、ネットワーク上の共有フォルダーのコメントとして表示されます。 ※使用できる文字には制限があります。【文字制限一覧】（25-157 ページ）を参照してください。		
基本設定	Microsoft ネットワーク共有	Windows からこのフォルダーにアクセスする場合にチェックします。 NT ドメイン・Active Directory ログオン機能を利用する場合は、[Microsoft ネットワーク共有] のみにチェックしてください。	
	ごみ箱	Windows (Microsoft ネットワーク共有ユーザー) でのみ利用できます。 作成する共有フォルダーについて、ごみ箱機能を使用するかどうかを指定します。 ごみ箱機能を使用すると、その共有フォルダーからファイルを削除しても、すぐにファイルがなくなるわけではなく、いったん [TrashBox] フォルダーに保管されます。 [TrashBox] フォルダー内のファイルは自動的に消去されませんので、そのままにしておくと、ファイルを削除するたびに [TrashBox] フォルダー内にファイルがたまり、ディスクの使用領域が減っていくことがあります。 定期的に [TrashBox] フォルダー内のファイルを削除されることをおすすめします。	
	隠し共有	隠し共有を設定した共有フォルダーは ¥¥LANDISK 名 で検索してもエクスプローラーに表示されません。 ¥¥LANDISK 名 ¥共有フォルダー名 で検索すると表示され、アクセス可能になります。	
	共有フォルダー使用量制限	共有フォルダーに対し、容量制限を設定することができます。	
	リモートアクセスを許可する	リモートアクセスでこのフォルダにアクセスする場合にチェックします。 アクセス権はフォルダー設定に依存します。	
	AppleShare ネットワーク共有	Mac OS からこのフォルダーにアクセスする場合にチェックします。	
		TimeMachine を許可する	TimeMachine を利用する場合にチェックをつけます。
	FTP 共有	FTP サービスを利用してこのフォルダーにアクセスする場合にチェックします。 アクセス権はフォルダーの設定に依存します。 FTP 機能では FTP サービスを使ってファイルの読み書きが可能です。ファイル名が日本語の場合は、Shift-JIS もしくは UTF-8 の文字コードに対応する FTP クライアントソフトをご利用ください。	
	クラウドストレージ同期	各種クラウドストレージの同期をおこなう場合にチェックします。	
		Amazon S3 同期	共有フォルダーとオンラインストレージサービス「Amazon S3」間でデータを同期する場合に選択します。詳しくは、【Amazon S3 と同期する】（7-50 ページ）をご覧ください。
		Dropbox 同期	共有フォルダーとオンラインストレージサービス「Dropbox」間でデータを同期する場合に選択します。詳しくは、【Dropbox と同期する】（7-52 ページ）をご覧ください。
		Cloudn 同期	共有フォルダーとオンラインストレージサービス「Cloud ⁿ 」間でデータを同期する場合に選択します。詳しくは、【Cloud ⁿ と同期する】（7-54 ページ）をご覧ください。
	読み取り専用	共有フォルダーを読み取り専用を設定します。詳細アクセス権で「読み書き」で設定した場合でも、読み取り専用となります。	
非登録ユーザーからのアクセスを拒否	本製品に登録されていないユーザーからの共有フォルダーに対するアクセスを拒否します。		
ネットワークバックアップを許可する	ネットワークバックアップを許可する場合に設定します。共有フォルダーをレプリケーション先として指定する場合にも設定する必要があります。		
	アクセスパスワード	バックアップ機能やレプリケーション機能で使用する共有フォルダーにパスワードを設定します。	
詳細アクセス権設定	「読み取り」「読み書き」のアクセス権を設定することができます。		

Amazon S3 と同期する

本製品の共有フォルダーと、Amazonが運営するインターネット用の有償ストレージサービス Amazon S3のバケットを同期させることができます。同期動作は本製品から Amazon S3 へのアップロードと、Amazon S3 から本製品へのダウンロードに分けられ、アップロードは1分ごとに、ダウンロードは設定した時間ごとにおこなわれます。

※本機能をご利用いただくには、本製品がインターネット環境に接続されている必要があります。

※実際にアップロードが開始されるのは、フォルダー内のファイルが更新されなくなってから約2分後になります。

Amazon S3 とは

Amazon S3 は、Amazon が提供するインターネット用のクラウドストレージサービスです。

バケットと呼ばれるプライベートな領域に、簡単にファイルの格納や、取得をすることができます。

Amazon S3 に関する詳細は、AmazonS3 のホームページをご覧ください。→ <http://aws.amazon.com/jp/s3/>

ご注意

- 1つの共有フォルダーには、Amazon S3 連携 / Dropbox 連携 / Cloud[®] 連携のうち1つを有効に設定できます。同時に複数は設定できません。
- 本機能を有効にした共有フォルダー内のファイルを直接編集しないでください。
※編集中に一時ファイルを作るソフトで編集している場合、その一時ファイルまでアップロードされます。
- 同期する前に本製品の時刻設定を NTP 同期有効 (毎日同期有効) に設定してください。時刻がずれると正常に同期できなくなります。
- 増設ハードディスクは専用フォーマットで共有モードの場合のみ同期が実行されます。
- Amazon S3 の Glacier ストレージクラスには対応していません。
- Amazon S3 は保存容量・通信量に応じて課金されます。頻繁に更新されるデータがある場合、請求額が大きくなる場合があります。
Amazon S3 ご契約サイトなどで料金を確認しながら運用されることを推奨します。
- 同期の通信において、プロキシ設定が必要な場合は、あらかじめプロキシ設定をしてください。詳しくは、【プロキシ設定をする】(21-131 ページ)をご覧ください。
- 増設ハードディスクの共有フォルダーを同期する場合、その共有フォルダーのトップに "_tmp_file_for_Copy_..." という名前のファイルが一時的に作成される場合があります。そのファイルを削除や変更しないでください。同期処理に必要です。

Amazon S3 との同期を有効にする

事前に、Amazon S3 (<http://aws.amazon.com/jp/s3/>) にアクセスし、AWS アカウントを作成してください。

アカウント作成後、そのアカウントにてバケットおよびアクセスキーを作成し、バケット名とそのアカウントのアクセスキー ID とシークレットアクセスキーをメモしてください。

※アクセスキーは、「セキュリティ証明書」または「Security Credentials」から作成します。

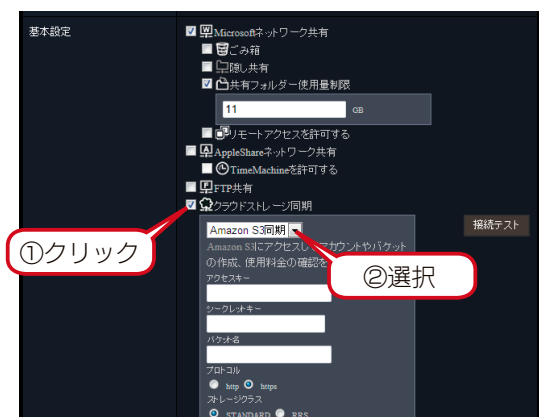
※アクセスキー ID とシークレットアクセスキーについては、そのアカウントでの AWS サインアップ後、Amazon S3 ホームページ画面右上の [アカウント / コンソール] の [セキュリティ証明書] を開いた先の [アクセス証明書] の [アクセスキー] タブをご参照ください。

※ Amazon S3 についての不明点、通信料金、規約については Amazon S3 のホームページにてご確認ください。

1 [詳細設定] から、[共有管理] → [共有フォルダー設定] をクリックし、設定を変更する共有フォルダーの [変更] ボタンをクリックします。



2 [クラウドストレージ同期] にチェックをつけ、[Amazon S3 同期] を選択します。



3 契約情報を入力します。



Amazon S3 リンク	クリックすると、Amazon S3 に関する現在の利用料金などの契約情報を確認することができます。
アクセスキー	作成した [アクセスキー] を入力します。
シークレットキー	作成した [シークレットアクセスキー] を入力します。
バケット名	作成した [バケット名] を入力します。
プロトコル	Amazon S3 との通信プロトコルを選択します。 [https] を選択した場合、LAN DISK と Amazon S3 間の通信は暗号化されます。 ※本製品の Amazon S3 同期のプロトコル設定に [http] を選択し、かつ本製品のプロキシ設定を利用する場合、使用するプロキシサーバーの機能によっては同期に失敗することがあります。その場合は、[https] をお試しください。
ストレージクラス	Amazon S3 のバケットに保存するファイルのストレージクラスを選択します。 ※ストレージクラスについては Amazon S3 のホームページをご確認ください。
クラウドストレージ 更新監視間隔	Amazon S3 のバケットの更新監視間隔を選択します。 ※ [更新監視しない] を設定した場合は、自動での定期ダウンロードはおこなわれません。
エンドポイント	エンドポイント名 (ホスト名) を直接入力する場合に設定します。(空白の場合は、Amazon S3 のエンドポイントが利用されます。)
ポート番号	Amazon S3 にアクセスする際のポート番号 (TCP) を入力します。 ※空白の場合は、プロトコルで [http] を選ぶと 80、[https] を選ぶと 443 を使います。
アップロード最大 ファイルサイズ	ファイルをアップロードする際の最大ファイルサイズを入力します。 これを超えるファイルはアップロードされません。 ※ M バイト単位で設定します。 [最大 5242880M バイト (5T バイト)]
Multipart Upload	Multipart Upload を使うかどうかを選択します。 ※ 100M バイト未満のファイルをアップロードする際は、SinglePart Upload を使います。 ※ [無効] に設定された場合、5G バイト以上のファイルはアップロードできません。

4 [接続テスト] ボタンをクリックし、しばらく後に「接続テスト成功」と表示されることを確認します。



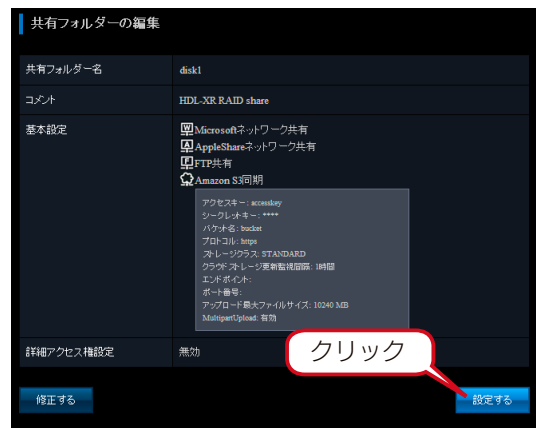
ご注意

- 接続テストが失敗する場合
 - ・入力した契約情報がすべて正しいか確認してください。(エンドポイントやポート番号を初期値から変更している場合は、ご注意ください。)
 - ・本製品がインターネットに接続可能な環境に設置されているか、確認してください。(本製品のプロキシ設定を有効にしている場合、プロキシ設定が正しいこともご確認ください。)

5 [確認する] ボタンをクリックします。



6 設定内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。



以上で設定は完了です。設定完了後に初期同期がはじまります。

任意のタイミングでダウンロードする場合は、[共有フォルダー設定] 画面で、該当フォルダーの [詳細] ボタンをクリックし、[ダウンロード開始] ボタンをクリックしてください。



Dropbox と同期する

共有フォルダーとオンラインストレージサービス「Dropbox」間でデータを同期させることができます。

※本機能をご利用いただくには、本製品がインターネット環境に接続されている必要があります。

※実際に同期が開始されるのは、同期対象共有フォルダー内のファイルが更新されなくなってから最短で約2分後となります。また、同期開始までの所要時間は、同期対象の共有フォルダー内のサブフォルダー数が多くなればなるほど長くなります。

Dropbox とは

Dropbox は、写真、ドキュメント、ビデオをどこにいてもアクセスできるようにするためのオンラインストレージサービスです。

本製品の共有フォルダーを設定すると、指定した Dropbox フォルダー内に共有フォルダー内のデータが自動的に保存されます。

※共有フォルダー名の情報は同期されません。

※あらかじめ Dropbox アカウントを取得する必要があります。

※ Dropbox の2段階認証は未対応です。

Dropbox に関する詳細は、Dropbox のホームページをご覧ください。 → <https://www.dropbox.com/>

ご注意

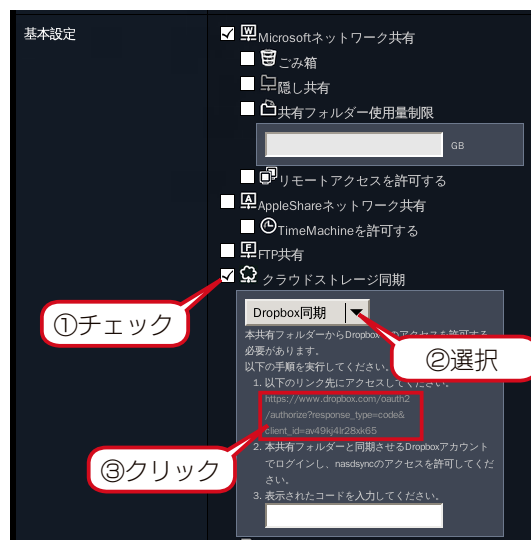
- 1つの共有フォルダーには、Amazon S3 連携 / Dropbox 連携 / Cloud[®] 連携のうち1つを有効に設定できます。同時に複数では設定できません。
- 同期設定をする前に、本製品の時刻設定が正しいか確認してください。時刻がずれている場合には正しい時刻に設定してください。
- 同期設定をしたフォルダー内のファイルを直接編集しないでください。同期する場合には、他のフォルダーで作成したファイルをコピーしてください。
- 増設ハードディスクは専用フォーマットで共有モードの場合のみ同期が実行されます。
- 本機能で使用する共有フォルダー、Dropbox アカウントのフォルダーにはどちらも、以下の制限があります。必ず制限範囲内でお使いください。
1 フォルダーの直下に置けるファイル・フォルダー数の合計は10000まで
※ Dropbox 上の1フォルダーの直下に10000ファイルを配置すると、Dropbox のブラウザ版では開けない場合があります。
- インターネット上の Web ページを見るためにプロキシ設定が必要な場合は、あらかじめプロキシ設定をしてください。詳しくは、【[プロキシ設定をする](#)】(21-131 ページ) をご覧ください。
- 増設ハードディスクの共有フォルダーを同期する場合、その共有フォルダーのトップに "_tmp_file_for_Copy_..." という名前のファイルが一時的に作成される場合があります。そのファイルを削除や変更しないでください。同期処理に必要です。
- 複数の共有フォルダーを一つの Dropbox フォルダー (アカウント) と同期させた場合、各共有フォルダー内のデータが互いに同期されます。共有フォルダーの使い分けをしている場合、各共有フォルダーごとに異なる Dropbox フォルダー (アカウント) をご用意ください。
- ファイル・フォルダー名に特殊な文字を使用した場合、ファイル・フォルダー名が一部変更される場合があります。

Dropbox との同期を有効にする

1 [詳細設定] から、[共有管理] → [共有フォルダー設定] をクリックし、設定を変更する共有フォルダーの [変更] ボタンをクリックします。



2 ① [クラウドストレージ同期] にチェックをつけます。
② [Dropbox 同期] を選択します。
③ 画面上のリンクをクリックします。
→ Dropbox のログイン画面が表示されます。



3 Dropbox ログイン画面では、本製品と同期させたいアカウントでログインします。

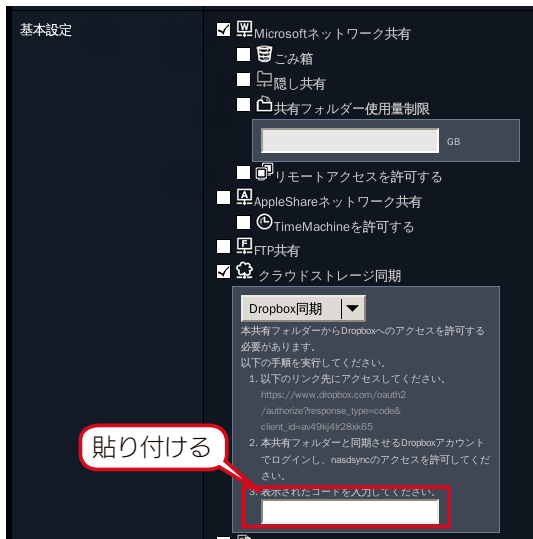
4 [許可] ボタンをクリックします。



5 コードが表示されたら、コード全体を選択してコピーします。



6 本製品の設定画面に戻り、コピーしたコードを貼り付けます。



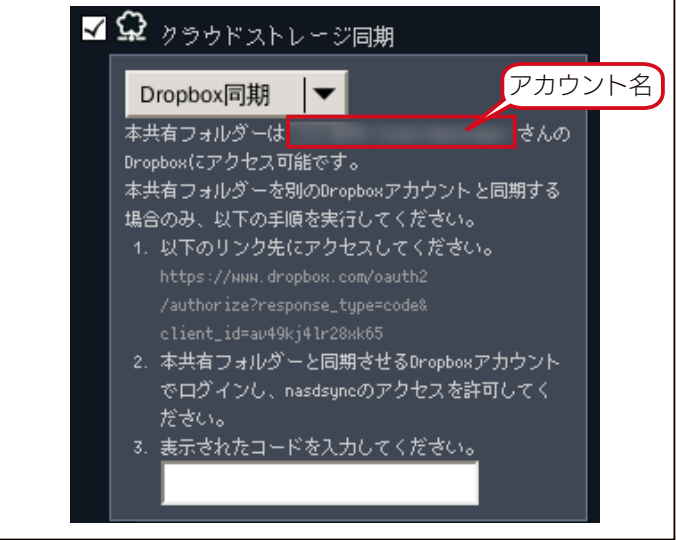
7 [確認する] ボタンをクリックします。

8 設定内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。

以上で設定完了です。

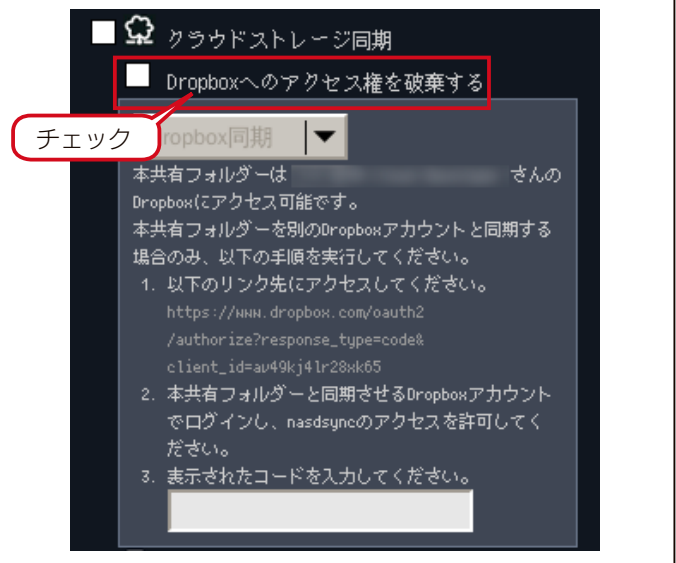
同期先の変更について

Dropbox 同期が設定されている場合、以下のように同期先のアカウントの名前が表示されます。
同期先を変更する場合についても、【Dropbox との同期を有効にする】(7-52 ページ) の手順にしたがってください。



Dropbox アクセス権の削除

Dropbox 同期の設定を無効にしても、本製品に保存されたアクセスのための情報は保存されたままとなり、次に Dropbox 同期を有効にした場合に、この保存された情報が利用されます。
この情報を破棄する場合は、[Dropbox へのアクセス権を破棄する] にチェックを付けて共有フォルダーの設定を変更してください。



Cloud[®] と同期する

本製品の共有フォルダーと、NTT コミュニケーションズが運営するパブリッククラウドサービス Cloud[®] の Object Storage のバケットを同期させることができます。

同期動作は本製品から Cloud[®] へのアップロードと、Cloud[®] から本製品へのダウンロードに分けられ、アップロードは 1 分ごとに、ダウンロードは設定した時間ごとにおこなわれます。

※本機能をご利用いただくには、本製品がインターネット環境に接続されている必要があります。

※実際にアップロードが開始されるのは、フォルダー内のファイルが更新されなくなってから約 2 分後になります。

Cloud[®] (クラウド・エヌ) とは

Cloud[®] は、NTT コミュニケーションズが提供するパブリッククラウドサービスです。

その内の 1 つのクラウドストレージサービスである Object Storage ではバケットと呼ばれるプライベートな領域に、簡単にファイルの格納や、取得をすることができます。

Cloud[®] に関する詳細は、Cloud[®] のホームページをご覧ください。→ <https://www.ntt.com/cloudn/>

ご注意

- 1 つの共有フォルダーには、Amazon S3 連携 / Dropbox 連携 / Cloud[®] 連携のうち 1 つを有効に設定できます。同時に複数は設定できません。
- 本機能を有効にした共有フォルダー内のファイルを直接編集しないでください。
※編集中に一時ファイルを作るソフトで編集している場合、その一時ファイルまでアップロードされます。
- 同期する前に本製品の時刻設定を NTP 同期有効 (毎日同期有効) に設定してください。時刻がずれると正常に同期できなくなります。
- 増設ハードディスクは専用フォーマットで共有モードの場合のみ同期が実行されます。
- Cloud[®] の Object Storage は保存容量に応じて課金されます。
Cloud[®] ご契約サイトなどで料金を確認しながら運用されることを推奨します。
- 同期の通信において、プロキシ設定が必要な場合は、あらかじめプロキシ設定をしてください。
詳しくは、【プロキシ設定をする】(21-131 ページ) をご覧ください。
- 増設ハードディスクの共有フォルダーを同期する場合、その共有フォルダーのトップに "_tmp_file_for_Copy_..." という名前のファイルが一時的に作成される場合があります。そのファイルを削除や変更しないでください。同期処理に必要です。

Cloud[®] との同期を有効にする

事前に、Cloud[®] (<https://www.ntt.com/cloudn/>)

にアクセスし、アカウントを作成してください。

アカウント作成後、そのアカウントにてバケットおよびアクセスキーを作成し、バケット名とそのアカウントのアクセスキー ID とシークレットアクセスキーをメモしてください。

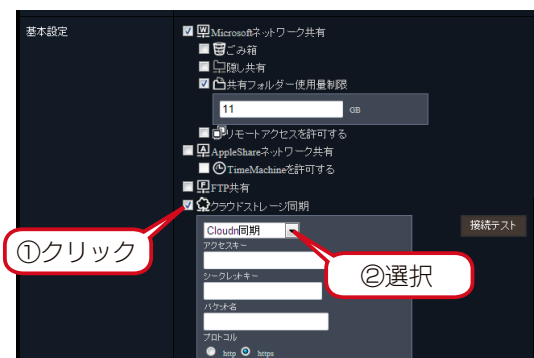
※アクセスキー ID とシークレットキー (秘密鍵) については、そのアカウントでのログイン後、Cloud[®] ホームページ画面右上の [ようこそ (アカウント名) さん] 右側の▼から [API アクセスキー・秘密鍵管理] を開いた先の [Query API] をご参照ください。

※ Cloud[®] についての不明点、通信料金、規約については Cloud[®] のホームページにてご確認ください。

1 [詳細設定] から、[共有管理] → [共有フォルダー設定] をクリックし、設定を変更する共有フォルダーの [変更] ボタンをクリックします。



2 [クラウドストレージ同期] にチェックをつけ、[Cloudn 同期] を選択します。



3 契約情報を入力し、[確認する] ボタンをクリックします。



アクセスキー	作成した [アクセスキー] を入力します。
シークレットキー	作成した [シークレットアクセスキー] を入力します。
バケット名	作成した [バケット名] を入力します。
プロトコル	Cloud ⁿ との通信プロトコルを選択します。 [https] を選んだ場合、LAN DISK と Cloud ⁿ 間の通信は暗号化されます。 ※本製品の Cloud ⁿ 同期のプロトコル設定に [http] を選択し、かつ本製品のプロキシ設定を利用する場合、使用するプロキシサーバーの機能によっては同期に失敗することがあります。その場合は、[https] をお試しください。
ストレージクラス	設定しません。 この項目は、Cloud ⁿ との同期では使いません。
クラウドストレージ更新監視間隔	Cloud ⁿ のバケットの更新監視間隔を選択します。 ※ [更新監視しない] を設定した場合は、自動での定期ダウンロードはおこなわれません。
エンドポイント	エンドポイント名 (ホスト名) を直接入力する場合に設定します。 ※最初から [str.cloudn-service.com] が入力されています。
ポート番号	Cloud ⁿ にアクセスする際のポート番号 (TCP) を入力します。 ※空白の場合は、プロトコルで [http] を選ぶと 80、[https] を選ぶと 443 を使います。
アップロード最大ファイルサイズ	ファイルをアップロードする際の最大ファイルサイズを入力します。 これを超えるファイルはアップロードされません。 ※ M バイト単位で設定します。 [最大 5242880M バイト (5T バイト)]
Multipart Upload	Multipart Upload を使うかどうかを選択します。 ※ 100M バイト未満のファイルをアップロードする際は、SinglePart Upload を使います。 ※ [無効] に設定された場合、500M バイト以上のファイルはアップロードできません。

4 [接続テスト] ボタンをクリックし、しばらく後に「接続テスト成功」と出ることを確認します。



ご注意

- 接続テストが失敗する場合
 - ・ 入力した契約情報がすべて正しいか確認してください。
(エンドポイントやポート番号を初期値から変更している場合は、ご注意ください。)
 - ・ 本製品がインターネットに接続可能な環境に設置されているか、確認してください。(本製品のプロキシ設定を有効にしている場合、プロキシ設定が正しいかも確認してください。)

5 [確認する] ボタンをクリックします。



6 設定内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。



以上で設定は完了です。設定完了後に初期同期がはじまります。

任意のタイミングでダウンロードする場合は、[共有フォルダー設定] 画面で、該当フォルダーの [詳細] ボタンをクリックし、[ダウンロード開始] ボタンをクリックしてください。



共有フォルダーを変更・削除する

ご注意

- 共有フォルダーを変更・削除すると、すべての共有フォルダーにしばらくアクセスできなくなります。
共有フォルダーを変更・削除は、本製品を利用しているユーザーがいないことをご確認の上、設定してください。

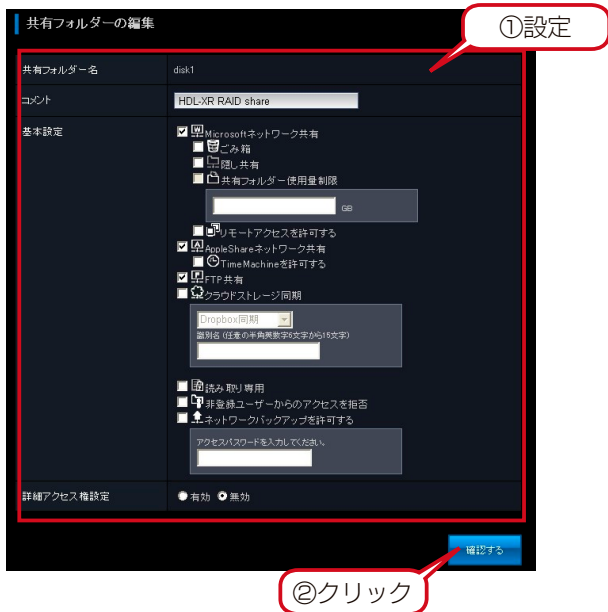
共有フォルダーを変更する

- 1 [詳細設定] から、[共有管理] → [共有フォルダー設定] をクリックし、設定を変更する共有フォルダーの [変更] ボタンをクリックします。



- 2 設定を変更し、[確認する] ボタンをクリックします。詳しくは、以下をご覧ください。

【[新しい共有フォルダーの作成] 画面】(7-49 ページ)



- 3 設定内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。

これで、共有フォルダーの設定が変更されました。

共有フォルダーを削除する

ご注意

- 共有フォルダーを削除すると、共有フォルダー内のデータも同時に削除されます。必要なデータはあらかじめバックアップしてください。
- 削除しようとしている共有フォルダー内のファイルを編集などに使用している場合、削除後、保存先が見つからないなどのエラーとなります。削除前に、削除する共有フォルダーにアクセスしているユーザーがいないことをご確認ください。
- バックアップ元またはバックアップ先に設定した共有フォルダーは削除できません。あらかじめ、バックアップジョブを削除後に再度共有フォルダーの削除をおこなってください。

- 1 [詳細設定] から、[共有管理] → [共有フォルダー設定] をクリックします。



- 2 削除する共有フォルダーの [削除] ボタンをクリックします。



- 3 削除する共有フォルダーを確認後、[削除する] ボタンをクリックします。

結果画面が表示されたら、共有フォルダーの削除は完了です。

ユーザーを変更・削除する

ユーザーを変更する

1 [詳細設定]から、[共有管理]→[ユーザー設定]をクリックします。



2 編集したいユーザーの[編集]ボタンをクリックします。



3 設定を変更し、[確認する]ボタンをクリックします。



4 設定内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。

これで、ユーザーの設定が変更されました。

ユーザーを削除する

1 [詳細設定]から、[共有管理]→[ユーザー設定]をクリックします。



2 削除したいユーザーの[削除]ボタンをクリックします。



3 削除するユーザーを確認後、[OK]ボタンをクリックします。

結果画面が表示されたら、ユーザーの削除は完了です。

グループを変更・削除する

グループを変更する

1 [詳細設定]から、[共有管理]→[グループ設定]をクリックします。



2 編集したいグループの[編集]ボタンをクリックします。



3 設定を変更し、[確認する]ボタンをクリックします。



4 設定内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。

これで、グループの設定が変更されました。

グループを削除する

1 [詳細設定]から、[共有管理]→[グループ設定]をクリックします。



2 削除したいグループの[削除]ボタンをクリックします。



3 削除するグループを確認後、[OK]ボタンをクリックします。

結果画面が表示されたら、グループの削除は完了です。

管理者が共有フォルダーへアクセスする

ネットワークにログオンする際に、ユーザー名「admin」、本製品の管理者パスワードのユーザーでログオンすると、すべての共有フォルダーにアクセスできます。(Windowsのみ)

※管理者は、管理者以外の他のユーザー専用・グループ専用として作成した共有フォルダーにもアクセスできます。

ご注意

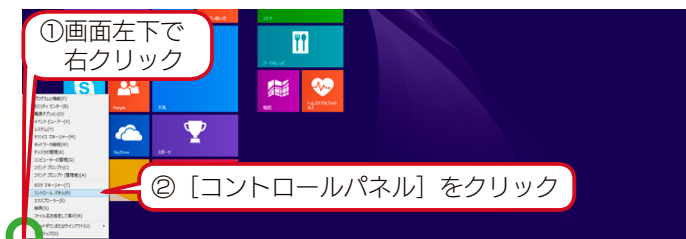
- 管理者以外の場合も、本製品の管理者パスワードが分かれば、すべての共有フォルダーにアクセスできるようになりますので、必ず、管理者パスワードを変更してください。【管理者パスワードを変更する】(21-132 ページ)
- このアクセスを行う場合は本製品をワークグループモードでご利用ください。ドメインモードではすべてのユーザーにアクセスを許可した共有フォルダー以外は、アクセスできません。

1 管理者パスワードを設定します。
※管理者パスワードが空白のままだと、管理者権限で共有フォルダーにアクセスできません。
以下をご覧ください。
【管理者パスワードを変更する】(21-132 ページ)
※すでに設定済みの場合は設定の必要はありません。

2 Windows上で、以下の [ユーザー名] [パスワード] のログオンユーザーを作成します。
ユーザー名 : admin
パスワード : 手順 1 で設定したパスワード

Windows 8

- ①画面の左下にマウスポインターを移動し、右クリックします。
- ②メニューが表示されたら、[コントロールパネル] をクリックします。



- ③ [ユーザーアカウントとファミリー セーフティ] → [ユーザーアカウント] で、上記ユーザーアカウントを作成します。



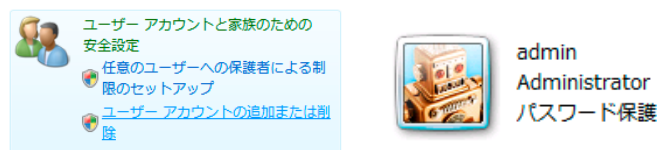
Windows 7

[スタート] → [コントロールパネル] → [ユーザーアカウントと家族のための安全設定] → [ユーザーアカウントの追加または削除] で上記ユーザーアカウントを作成します。



Windows Vista

[スタート] → [コントロールパネル] → [ユーザーアカウントと家族のための安全設定] → [ユーザーアカウントの追加または削除] で上記ユーザーアカウントを作成します。



3 以下の admin ユーザーでネットワークにログオンします。
ユーザー名 : admin
パスワード : 手順 1 で設定したパスワード

4 共有フォルダーにアクセスします。
アクセス方法は、次をご覧ください。
【ネットワークからアクセスする】(4-29 ページ)

以上で、管理者からの共有フォルダーへのアクセスは終了です。

一括登録をする

ユーザー・グループ・共有フォルダーのリスト（CSV ファイル）を作成し、本製品に読み込ませると、一括登録をすることができます。

CSV ファイルを準備する

CSV ファイルは、各要素をカンマ (,) で区切る書式となります。

ご注意

- CSV ファイルは Shift-JIS 文字コードで保存してください。その他の文字コードでは正常に処理できません。

●ユーザーの一括追加の書式

adduser, ユーザー名, パスワード, 使用量制限値, プライマリーグループ, フルネーム, コメント

記述例: "adduser","user001","user001","10","group1","ユーザー 001","コメント"

▼各項目の詳細

adduser	ユーザーの追加を意味します。
ユーザー名	追加するユーザー名
パスワード	追加するユーザーのパスワード
使用量制限値	追加するユーザーの使用量制限値。使用量制限を行わない場合は、"0" を記述。
プライマリーグループ	追加するユーザーのプライマリーグループ
フルネーム	追加するユーザーのフルネーム情報
コメント	追加するユーザーのコメント情報

●グループの一括追加の書式

addgroup, グループ名, 使用量制限値, グループメンバー

記述例: "addgroup","group1","10","user001,user002"

▼各項目の詳細

addgroup	グループの追加を意味します。
グループ名	追加するグループ名
使用量制限値	追加するグループの使用量制限値。使用量制限を行わない場合は、"0" を記述。
グループメンバー	追加するグループに属するユーザー名。複数指定時は、,(カンマ)区切りで記述し、グループメンバー全体を" (ダブルコーテーション) で囲む必要があります。

●共有フォルダーの一括追加の書式

addshare, 共有名, コメント, RO ユーザー, RO グループ, RW ユーザー, RW グループ, 読取専用, バックアップ有効, パスワード, WIN, ごみ箱, 隠し, 使用量制限値, MAC,FTP, リモートアクセス, NOGUEST, DLNA, TimeMachine

記述例 "addshare","UrwGro","混在",";","Group1","User1,User3",";","0","0",";","1","0","0",";","1","1","0","0",";","1"

▼各項目の詳細

addshare	共有フォルダーの追加を意味します。
共有名	追加する共有フォルダー名
コメント	追加する共有フォルダーへのコメント
RO ユーザー	追加する共有フォルダー詳細アクセス権を読み取り権限で追加するユーザー名。複数指定時は、,(カンマ)区切りで記述し、読み取り権限のユーザー全体を" (ダブルコーテーション) で囲む必要があります。
RO グループ	追加する共有フォルダー詳細アクセス権を読み取り権限で追加するグループ名。複数指定時は、,(カンマ)区切りで記述し、読み取り権限のグループ全体を" (ダブルコーテーション) で囲む必要があります。
RW ユーザー	追加する共有フォルダー詳細アクセス権を読み書き権限で追加するユーザー名。複数指定時は、,(カンマ)区切りで記述し、読み書き権限のユーザー全体を" (ダブルコーテーション) で囲む必要があります。
RW グループ	追加する共有フォルダー詳細アクセス権を読み書き権限で追加するグループ名。複数指定時は、,(カンマ)区切りで記述し、読み書き権限のグループ全体を" (ダブルコーテーション) で囲む必要があります。
読取専用	追加する共有フォルダーの読み取り専用オプションを有効にする場合は"1"を記述。
バックアップ有効	追加する共有フォルダーのネットワークバックアップオプションを有効にする場合は"1"を記述。
パスワード	追加する共有フォルダーのネットワークバックアップ用アクセスパスワード
WIN	追加する共有フォルダーのMicrosoft ネットワーク共有を有効にする場合は、"1"を記述。Microsoft ネットワーク共有が無効の場合は、[ごみ箱]、[隠し]、[使用量制限値]、[リモートアクセス]を有効にすることはできません。

ごみ箱	追加する共有フォルダーのごみ箱機能を有効にする場合は、"1"を記述。
隠し	追加する共有フォルダーの隠し共有機能を有効にする場合は、"1"を記述。
使用量制限値	追加する共有フォルダーの使用量制限値を設定します。 フォルダー使用量制限機能を無効の場合は、" "を記述。 フォルダー使用量制限を有効で、制限を行わない場合は、"0"を記述 フォルダー使用量制限を有効に設定する場合は、MAC,FTPを"1"に設定することはできません。
MAC	追加する共有フォルダーのAppleShare ネットワーク共有を有効にする場合は、"1"を記述。
FTP	追加する共有フォルダーのFTP 共有を有効にする場合は"1"を記述。
リモートアクセス	追加する共有フォルダーに対するリモートアクセスを有効にする場合は"1"を記述
NOGUEST	非登録ユーザーからのアクセスを拒否する場合には"1"を記述
DLNA	本製品では使用しません。" "を記述
TimeMachine	追加する共有フォルダーのTimeMachine 機能を有効にする場合は、"1"を記述。

※詳細アクセス権を設定しない共有フォルダーを作成するには、RO ユーザー、RO グループ、RW ユーザー、RW グループすべてを" "で指定します。

● CSV ファイルの記述例

次の設定を行う場合は、以下のような CSV ファイルになります。

▼一括設定内容

ユーザー追加	User1 を追加	Group1 をプライマリーグループに設定
	User2 を追加	Group1 をプライマリーグループに設定
	User3 を追加	特記事項なし
グループ追加	Group1 を追加	グループのメンバーとして User1,User2 を設定
	Group2 を追加	グループのメンバーとして User3 を設定
共有フォルダー追加	AllShare を追加	登録済のユーザーのみがアクセス可能な共有を作成
	UrwGro を追加	User1,User3 に読み書き権限、Group1 に読み取り権限を設定した共有を作成

▼上記一括設定内容の CSV ファイル

```
"adduser","User1","password1","","Group1",""," コメント "
```

```
"adduser","User2","password2","","Group1",""," コメント "
```

```
"adduser","User3","password3","","",""
```



```
"addgroup","Group1","","User1,User2"
```

```
"addgroup","Group2","","User3"
```



```
"addshare","AllShare"," 全員","","","","0","0","","1","0","0","","1","1","1","1",""
```

```
"addshare","UrwGro"," 混在","","Group1","User1,User3","","0","0","","1","0","0","","1","1","0","0","","1"
```

▼ユーザー追加

adduser	ユーザー名	パスワード	未使用	プライマリーグループ	フルネーム	コメント
adduser	User1	password1		Group1		コメント
adduser	User2	password2		Group1		コメント
adduser	User3	password3				

▼グループ追加

addgroup	グループ名	未使用	グループメンバー
addgroup	group1		user1,user2
addgroup	group2		user3

既存のユーザー、グループ、共有を一括編集する場合

既存のユーザー、グループ、共有を一括編集する場合は、書式の先頭要素を adduser、addgroup、addshare ではなく、moduser、modgroup、modshare とします。名称要素に既存の編集したいユーザー、グループ、共有の名称を指定し、一括追加と同一の書式で編集内容を記述します。

また、存在しないユーザー、グループ、共有の名称を指定した場合は、記述した内容で新規のユーザー、グループ、共有が作成されます。

一括登録をする

1 [詳細設定] から、[共有管理] → [一括登録] をクリックします。



2 [参照] ボタンをクリックして、CSV ファイルを選択し、[確認する] ボタンをクリックします。



3 設定内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。

結果画面が表示されたら、一括追加は完了です。

詳細な結果は「詳細設定」から、[情報表示] → [ログ情報] を確認してください。

使用量制限

使用量制限について（クォータ機能）

本製品に作成した共有フォルダーを使用するユーザー、グループ、共有フォルダーごとに使用量の制限を設定することができます。使用量制限を設定することで、特定のユーザー、グループ、共有フォルダーが容量を使いすぎることを制限することができます。また、[通知設定] → [イベント通知設定] → [使用量制限警告] を設定すると、特定のユーザー、グループ、共有フォルダーの使用率が設定した値を超えるとメールにて通知することができます。

<使用量制限により計算される使用量について>

本製品に作成した共有フォルダーの設定により、コピーされたファイルの使用量は以下のように加算されます。

①共有フォルダー使用量制限が有効な共有フォルダーの場合

どのユーザーがファイルを保存しても、共有フォルダー使用量として加算します。

ユーザー使用量、およびグループ使用量には加算されません。

②共有フォルダー使用量制限が無効、詳細アクセス権設定が無効な共有フォルダーの場合

どのユーザーがファイルを保存してもユーザー”ゲスト”の使用量として加算します。

③共有フォルダー使用量制限が無効、詳細アクセス権設定が有効な共有フォルダーの場合

ファイルを保存したユーザーの使用量、およびファイルを保存したユーザーに設定したプライマリーグループの使用量として加算します。

ユーザーが複数のグループに所属している場合は、そのユーザーの使用量とそのユーザーのプライマリーグループに指定したグループの使用量が加算されます。

プライマリーグループが未設定のユーザーによる書き込みは、どのグループの使用量にも加算されません。

ユーザー "admin" による共有フォルダーへの書き込みは使用量制限は設定できません。

ご注意

- 「サービス設定」の使用量制限の有効 / 無効に設定により、ユーザー使用量設定、グループ使用量設定、および、共有フォルダー使用量設定が同時に有効 / 無効となります。
- 各 OS やアプリケーションでデータ容量の計算方法の違うため、「制限設定値」に設定した値に近い容量を使用した際、設定したデータ容量に満たない場合にもファイルの書き込みができなくなる場合があります。
- 「使用量制限」を「有効」に設定する際や「制限設定値」を設定する際、登録されているユーザー数・グループ数・ファイル数により、設定に時間がかかる場合があります。
- ユーザー使用量設定、グループ使用量設定、共有フォルダー使用量設定は、共有フォルダー「usb1」「usb2」「esata1」共有に対しては無効です。
- フォルダー使用量制限を設定した共有フォルダーは、詳細アクセス権の設定をおこなっても、共有フォルダーにアクセスしたユーザーの使用量、およびプライマリーグループの使用量は加算されません。
- フォルダー使用量制限を設定した共有フォルダーは、Microsoft ネットワーク共有サービスからのみアクセス可能です。AppleShare ファイル共有サービス、および FTP ファイル共有サービスからはアクセスできません。

使用量制限を有効にする

使用量制限を設定するには、「使用量制限」を有効にします。

1 [詳細設定] から、[サービス設定] → [サービス設定] をクリックします。



2 使用量制限の[有効]を選択し、[設定する]ボタンをクリックします。



3 設定内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。

数秒後、完了画面が表示されます。

ユーザーごとに使用量制限を設定する

1 [詳細設定] から、[共有管理] → [ユーザー使用量設定] をクリックします。



2 各ユーザーの使用量制限値の欄に数値を入力し、[確認する]ボタンをクリックします。

※[一括入力]ボタンをクリックすると、すべてのユーザーに同じ設定値を一括で入力することができます。

使用量制限値について

- 制限設定値は半角数値のみ小数点1位まで設定できます。
- 制限設定値に「0」を設定した場合、そのユーザーは使用量制限が、無制限設定になります。

3 設定内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。

数秒後、完了画面が表示されます。

グループごとに使用量制限を設定する

1 [詳細設定] から、[共有管理] → [グループ使用量設定] をクリックします。



2 各グループの使用量制限値の欄に数値を入力し、[確認する] ボタンをクリックします。
※ [一括入力] ボタンをクリックすると、すべてのグループに同じ設定値を一括で入力することができます。

使用量制限値について

- 制限設定値は半角数値のみ小数点 1 位まで設定できます。
 - 制限設定値に「0」を設定した場合、そのグループは使用量制限が、無制限設定になります。
 - グループ使用量は、使用量制限を指定したグループを、プライマリーグループに設定しているユーザーの書き込みのみ、使用量として加算します。
- グループ使用量機能を利用するには、あらかじめ使用量制限を設定するグループに所属するユーザーのプライマリーグループを、そのグループに設定しておく必要があります。

3 設定内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。
→数秒後、完了画面が表示されます。

共有フォルダー使用量制限を有効にする

1 [詳細設定] から、[共有管理] → [共有フォルダー設定] をクリックし、設定する共有フォルダーの [変更] ボタンをクリックします。



2 共有フォルダー使用量制限にチェックをつけ、制限設定値を設定し、[確認する] ボタンをクリックします。
※ 制限設定値は半角数値のみ、小数点 1 位まで設定できます。

3 設定内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。
→数秒後、完了画面が表示されます。



以上で設定は完了です。



使用量制限値について

- 共有フォルダー使用量制限を有効に設定した場合、これまで共有フォルダー上に保存されていたファイルの使用量は、ユーザー使用量、グループ使用量から差し引かれ、共有フォルダー使用量として加算されます。

ご注意

- フォルダ使用量制限を設定した共有フォルダーは、Microsoft ネットワーク共有サービスからのみアクセス可能です。AppleShare ファイル共有サービス、および FTP ファイル共有サービスからはアクセスできません。

共有フォルダーごとに使用量制限を設定する

1 [詳細設定] から、[共有管理] → [ユーザー使用量設定] をクリックします。



2 各共有フォルダーの使用量制限値の欄に数値を入力し、[確認する] ボタンをクリックします。
※ [一括入力] ボタンをクリックすると、すべての共有フォルダーに同じ設定値を一括で入力することができます。



使用量制限値について

- 制限設定値は半角数値のみ小数点 1 位まで設定できます。
- 制限設定値に「0」を設定した場合、その共有フォルダーは使用量制限が、無制限設定になります。

3 設定内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。



数秒後、完了画面が表示されます。以上で設定は完了です。

ハードディスクをチェックする

ハードディスクのチェック方法

ハードディスクのチェックを定期的に行うことで、ディスクのエラー発生を早期に発見し、対処することができます。チェックには、以下の2つの方法があります。

- ・アクティブリペアー
- ・チェックディスク

アクティブリペアーをおこなう場合

アクティブリペアーは、内蔵ハードディスクまたはミラーリングしているディスク（内蔵ハードディスク+ eSATA ハードディスク）の一部に不良セクターが発見された場合、他の正常なディスクからデータを読み込んで、異常のあるディスクに書き込むことにより、ディスク不良によるデータ損失を未然に防止する機能です。

アクティブリペアーには、以下の特徴があります。

- ・内蔵またはミラーリングしているディスクに何らかのリードエラーが発生している場合、検出や修復ができます。
- ・アクティブリペアー中、設定画面その他の動作が遅くなる場合があります。
- ・アクティブリペアー実行中は、外部からの操作をしていない状態でも、対象ドライブの [ACCESS] ランプがアクセス中の青点滅になります。
- ・アクティブリペアー結果をメール送信できます。
- ・アクティブリペアーは、バックグラウンドで処理をおこなうため、アクティブリペアー中に本製品の他の操作ができます。ただし、アクティブリペアー中に [電源] ボタンで本製品の電源を切った場合、処理が中断されます。
- ・アクティブリペアー実行中にスケジュールシャットダウン時刻になっても、アクティブリペアーが完了するまでスケジュールシャットダウンは開始されません。
- ・アクティブリペアー実行中に、スケジュールバックアップ開始時間になった場合、スケジュールバックアップは開始されますが、アクティブリペアーとバックアップの所要時間が長くなります。アクティブリペアー時間とスケジュールバックアップが同時実行されないように設定することをおすすめします。
- ・アクティブリペアーには、RAID 6 構成の HDL-XR2.0W の場合、ネットワークからのアクセスおよびバックアップの処理がない状態で約 10 時間 20 分かかります。※目安の時間です。
- ・スケジュールを設定して指定した時間にアクティブリペアーを実行できます。
- ・本製品は、アクティブリペアーのスケジュール実行を有効に設定しており、毎月最初の土曜日の午前 0 時 00 分よりアクティブリペアーが自動的に開始されます。
- ・アクティブリペアーのスケジュール実行時刻に本製品の電源が OFF の場合、アクティブリペアーのスケジュール実行はおこなわれませんので、スケジュール実行時刻には本製品を起動しておいてください。
- ・アクティブリペアーのスケジュール実行は、月に 1 回のみ動作するよう設定できます。

アクティブリペアーの実行について

- アクティブリペアーは、RAID 5、RAID 6、RAID 5+ スペアー、RAID 1+ スペアー、暗号化 RAID 5、暗号化 RAID 6 のいずれかのモードで RAID の状態が正常な以下のハードディスクのみチェック可能です。(RAID 0 モードハードディスクの不良セクタの修復は不可)
 - ・内蔵ハードディスク
 - ・ミラーリングしているディスク（内蔵ハードディスク+ eSATA ハードディスク）
- RAID 崩壊モードの場合、アクティブリペアーは実行できません。

チェックディスクをおこなう場合

チェックディスクには、以下の特徴があります。

- ・チェックディスクは、ボリュームを構成しているファイルシステムに論理的な障害が発生していないことを検査し修復します。
- ・チェックディスク中に電源を切らないでください。完了するまでお待ちください。
- ・チェックディスク中は、本製品の他の操作ができません。
- ・購入初期の正常な HDL-XR2.0W の場合は約 1 分で完了します。非常に時間がかかる場合があります。
- ・専用フォーマットの増設ハードディスクのチェックディスクは、フォーマット直後でも 5 分以上かかります。容量や転送速度、ご使用の状態により、非常に時間がかかる場合があります。

チェックディスクできるボリューム

[チェックディスク] は以下のボリュームに対して実行できます。

- ・内蔵ボリューム
- ・eSATA ボリューム（専用フォーマットの eSATA ハードディスク接続時）
- ・USB ボリューム 1（専用フォーマットの USB ハードディスク接続時）
- ・USB ボリューム 2（専用フォーマットの USB ハードディスク接続時）

FAT 形式や NTFS 形式の増設ハードディスクをチェックするときは、パソコンに増設ハードディスクを接続してチェックディスクを実行してください。方法は、各 OS のヘルプ等をご確認ください。

アクティブリペアーでチェックする

- 1 [詳細設定] から、[ディスク設定] → [アクティブリペアー設定] をクリックします。



- 2 [今すぐアクティブリペアーを実行する] ボタンをクリックします。



アクティブリペアーについて

- アクティブリペアー中にも本製品の他の操作を行うことができます。アクティブリペアーは、バックグラウンドで処理を行うため、アクティブリペアー中に本製品の他の操作を行うことができますが、設定画面その他の動作が遅くなる場合があります。また、アクティブリペアー中に [電源] ボタンで本製品の電源を切った場合、処理が中断されます。
- アクティブリペアーには、RAID 6 構成の HDL-XR2.0W の場合、ネットワークからのアクセスおよびバックアップの処理がない状態で約 10 時間 20 分かかります。(目安の時間です。)
- アクティブリペアーのスケジュール実行は、月に 1 回のみ動作するよう設定できます。

- 3 内容を確認し、[実行する] ボタンをクリックします。

これで、アクティブリペアーが実行されました。

結果はログ情報やメール通知されます。

メール通知するには、[通知設定] → [メール基本設定] と、[通知設定] → [イベント通知設定] のディスクエラー警告のメール通知を有効にします。

設定方法については、【通知機能】(20-123 ページ) をご覧ください。

チェックディスクでチェックする

1 [詳細設定] から、[ディスク設定] → [ボリューム操作] をクリックします。



2 [チェックディスク] を選択し、[実行] ボタンをクリックします。
→ファイルシステムの論理的なチェックと自動修復をおこないます。



ご注意

- チェックディスクは中断できません。
チェックディスク中に電源を切るなどして中断しないでください。システムが破損するおそれがあります。
- FAT/NTFS でフォーマットされているハードディスクは選択できません。(直接パソコンに接続し、Windows 上などでエラーチェックしてください。)

3 内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。

チェックディスクの所要時間

- 購入初期の正常な HDL-XR2.0W の場合は約 1 分で完了します。
ご使用の状況によりチェックディスクの所要時間は大きく変化します。

以上でチェックディスクは終了です。

Active Directory・NT ドメインログオン

Active Directory ログオンとは

Active Directory が構築された Windows ネットワークに LAN DISK が参加できる機能です。

Active Directory 管理のユーザー情報、グループ情報を利用して LAN DISK 上の共有フォルダーにアクセス権限の設定がおこなえます。

ユーザー情報が一元管理できるほか、Active Directory 管理下のユーザーが一度認証すれば同じ Active Directory 内の機器へ認証無しにアクセスできる一元認証機能が利用可能になります。

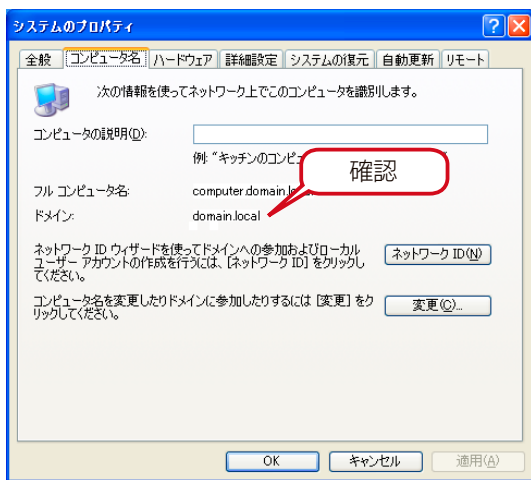
ご注意

- NT ドメイン・Active Directory ログオン機能は、ドメインユーザー数 1000 人、およびグループ数 1000 グループの環境で動作確認をおこなっております。それ以上の規模のドメインでは、本製品の応答が著しく遅くなったり、正常に動作できないことがあります。
- Mac OS では利用できません。
- Windows Server 2012/R2、2008/R2 では、NT ドメインは利用できません。
- アクセス権を設定した共有フォルダーにおいて、登録したユーザー、グループ、ドメインユーザー、ドメイングループは、ワークグループ、NT ドメイン、Active Directory への参加方法を切り替えることで、利用できなくなることがあります。
ワークグループモードからドメインモード (NT ドメイン、Active Directory) へ切り替えると、アクセス権を設定した共有フォルダーにおいて、本製品に登録したユーザー、グループでは利用できなくなります。また、ドメインモードからワークグループモードへ切り替えると、ドメインユーザー、ドメイングループでは利用できなくなります。
そのため、各参加方法の切り替えを行う際は、あらかじめ共有フォルダーのアクセス権を無効 (全てのユーザーでアクセスできるよう) にしておくか、切り替え前にデータのバックアップしてください。

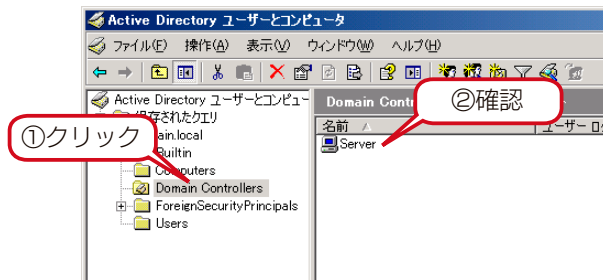
Active Directory へログオンする

1 ドメインコントローラーとなっているパソコンの時刻を確認してください。
ドメインコントローラーの時刻と本製品の日付と時刻の設定が、5分以上離れていると、ログオンに失敗します。
※本製品の時刻を設定する場合は、[基本設定]→[日付と時刻の設定]で設定してください。

2 参加するドメインコントローラーの「ドメイン名 (フルDNS名)」、「ドメイン名 (NetBIOS名)」を確認します。「ドメイン名 (フルDNS名)」、「ドメイン名 (NetBIOS名)」はすでに Active Directory に参加しているパソコンから確認できます。
① [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[システム]を開きます。
② [コンピュータ名] タブをクリックします。
③ [ドメイン] に表示されている文字列を確認します。この文字列が「ドメイン名 (フルDNS名)」になります。ここで「ドメイン名 (フルDNS名)」が [domain.local] の場合は「ドメイン名 (NetBIOS名)」は「DOMAIN」となります。



3 参加するドメインコントローラーの「ドメインコントローラーの名前」を確認します。「ドメインコントローラー」の名前は、ドメインコントローラーから確認します。
(以下は Windows 2003 Server の例)
① [スタート]→[管理ツール]→[Active Directoryユーザーとコンピュータ]を開きます。
② 左のツリー表示より、[Domain Controller] をクリックし、右側に表示されるものが「ドメインコントローラーの名前」になります。



4 Administrator パスワードを変更します。
※ Active Directory の仕様により、Administrator パスワードが1度も変更されていない場合、ログオンは失敗します。

5 本製品の LAN ポートに Active Directory の構成されたネットワークへの LAN ケーブルを接続してください。

6 Web ブラウザーから設定画面を開き、[詳細設定]から、[基本設定]→[ネットワーク設定]をクリックします。[詳細設定]から、[基本設定]→[ネットワーク設定]をクリックします。



7 [LAN] の設定項目で、画面にしたがい IP アドレスおよびサブネットマスクを設定します。IP アドレスおよびサブネットマスクには、ドメインコントローラーにアクセス可能な適切な値を設定してください。



- 8
- ① [共通] の設定項目で、[手動で設定する] を選択します。
 - ② デフォルトゲートウェイには、ドメインコントローラーにアクセス可能な適切な値を設定してください。「DNS サーバー」には、ドメインコントローラーの IP アドレスを入力します。Active Directory の名前解決が行える DNS サーバーがドメインコントローラーと別のサーバーにて構築されている場合は、その DNS サーバーの IP アドレスを入力します。
 - ③ [確認する] ボタンをクリックします。



- 9
- 設定内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。

- 10
- [詳細設定] から、[サービス設定] → [Microsoft ネットワーク] をクリックします。

- 11
- 参加方法の設定で、[ActiveDirectory] を選択し、各項目を入力します。
- ① [ドメイン名 (NetBIOS 名)] を入力します。
手順2でメモした [ドメイン名 (NetBIOS 名)] を入力します。
 - ② [ドメイン名 (フル DNS 名)] を入力します。
手順2でメモした [ドメイン名 (フル DNS 名)] を入力します。
 - ③ [ドメインコントローラーの名前] を入力します。
手順3でメモした [ドメインコントローラーの名前] を入力します。
 - ④ [管理者ユーザー名] に Active Directory の Administrator 権限を持ったユーザー名を入力します。
 - ⑤ [管理者パスワード] に [管理者ユーザー名] で指定したユーザーのパスワードを入力します。
 - ⑥ WINS サーバーがネットワーク内にある場合は、その WINS サーバーの IP アドレスを [WINS サーバーアドレス] に入力します。
 - ⑦ [確認する] ボタンをクリックします。



- 12
- 内容を確認し、[設定する] ボタンを押します。
しばらくすると、結果画面が表示されます。

以上で設定は完了です。

ご注意

- ドメインコントローラーへの名前解決が行える DNS サーバーがドメインコントローラーと別のサーバーにて構築されている場合は、その DNS サーバーアドレスを入力します。
- ワークグループ、NT ドメイン、Active Directory の参加方法を切り替えるとそれまで使用していたアクセス権が設定されている共有（ユーザー共有、グループ共有）が利用できなくなります。あらかじめデータをバックアップした後に各参加方法へ切り替えるか、共有のアクセス権を「全てのユーザー」に変更してください。全てのユーザーがアクセスできるように設定されていた共有フォルダーは Active Directory ログオン後もそのままご利用いただけます。
- Active Directory の仕様により、Administrator パスワードが 1 度も変更されていない場合、ログオンは失敗します。Administrator パスワードを変更してから設定を行ってください。
- ドメインコントローラーの時刻設定と LAN DISK の時刻設定が 5 分以上離れているとログオンは失敗します。両者の時刻設定を合わせてから設定を行ってください。
- サーバーに本製品の名前と同じコンピューターがすでに登録されていた場合は、登録されているコンピューターをいったん削除し、再度手順1から設定を行ってください。
- ドメインコントローラーに IPv6 で接続する場合、本製品が参照する DNS サーバーにドメインコントローラーの IPv6 PTR レコード（逆引きレコード）を登録しておく必要があります。

NT ドメインにログオンする

ここでは、本製品で NT ドメインログオン機能を使用する手順について説明します。

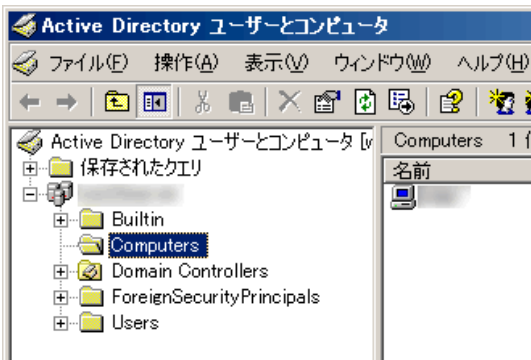
NT ドメインログオン機能を利用する場合は、前もってサーバー（ドメインコントローラー）へ本製品の登録が必要です。

ここでは、Windows Server 2003 の例を示します。

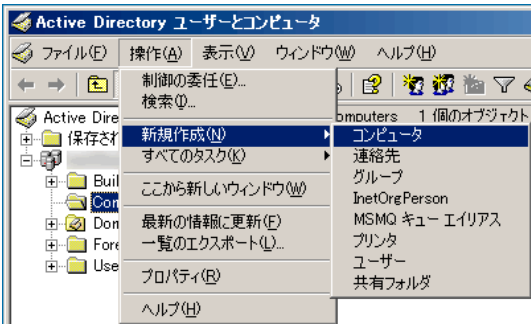
Windows Server 2003 に本製品を登録後、本製品のドメインを設定します。

1 サーバー（ドメインコントローラー）の画面より、[スタート]→[プログラム]→[管理ツール]→[Active Directory ユーザーとコンピュータ]をクリックします。

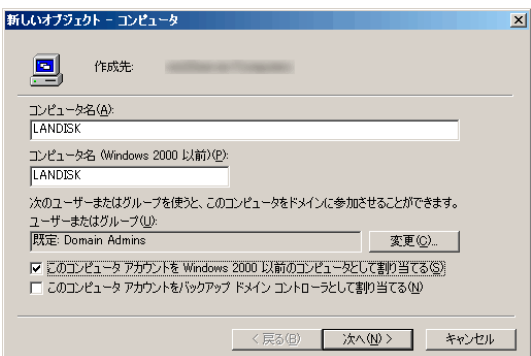
2 表示された画面で [Computers] をクリックします。



3 [操作]→[新規作成]→[コンピュータ]をクリックします。



4 サーバーに本製品を登録します。
① [コンピュータ名] に本製品の名前を入力します。
② [このコンピュータアカウントを Windows 2000 以前のコンピュータとして割り当てる] にチェックを付けます。
③ [次へ] ボタンをクリックします。



5 [詳細設定] から、[基本設定]→[ネットワーク設定] をクリックします。



6 [LAN] の設定項目で、画面にしたがい IP アドレスおよびサブネットマスクを設定します。IP アドレスおよびサブネットマスクには、ドメインコントローラーにアクセス可能な適切な値を設定してください。



7 ① [共通] の設定項目で、[手動で設定する] を選択します。
② [デフォルトゲートウェイ] には、ドメインコントローラーにアクセス可能な適切な値を設定してください。[DNS サーバー] には、ドメインコントローラーへの名前解決が行える DNS サーバーがドメインコントローラーと別のサーバーにて構築されている場合は、その DNS サーバーの IP アドレスを入力します。
③ [確認する] ボタンをクリックします。



8 設定内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。

9 [詳細設定] から、[サービス設定]→[Microsoft ネットワーク] をクリックします。

- 10 参加方法の設定で、「NT ドメイン」を選択し、各項目を入力します。
- ① [NT ドメイン] を選択します。
 - ② [ドメイン名] を入力します。
 - ③ [ドメインコントローラーの名前] を入力します。
 - ④ WINS サーバーがネットワーク内にある場合は、その WINS サーバーの IP アドレスを [WINS サーバーアドレス] に入力します。
 - ⑤ [確認する] ボタンをクリックします。



ご注意

- ドメインユーザー名、ドメイングループ名に本製品で使用できない文字が含まれている場合は、そのドメインユーザー/ドメイングループは、共有の作成時表示されません。
詳しくは、[【文字制限一覧】\(25-157 ページ\)](#) をご確認ください。
- NT ドメイン機能をご使用になる場合は、Active Directory は「混在モード」の必要があります。ネイティブモードの場合は本製品の「Active Directory 機能」をご使用ください。
- サーバーに本製品の名称と同じコンピューターがすでに登録されていた場合は、登録されているコンピューターをいったん削除し、再度手順 1 から設定してください。

ハードディスクやプリンターの増設

ご注意

●増設できる機器については、以下をご覧ください。

【増設できる USB 機器】 (25-152 ページ)

【増設できる eSATA 機器】 (25-152 ページ)

USB ポート1(前面) の設定

出荷時の USB ポート 1 の動作モードは、クイックコピーに設定されています。

その場合、増設するハードディスクを [USB ポート 1] に接続してもそのままでは共有ディスクとして使用できません。

USB ポート 1 で増設ハードディスクを使用できるようにするためには、動作モードを [共有ディスク (FAT/NTFS/専用)] に変更する必要があります。以下は、[USB ポート 1] の動作モードを [共有ディスク (FAT/NTFS/専用)] に変更する手順です。

クイックコピーとは？

本製品前面の [FUNC.] ボタンの機能です。

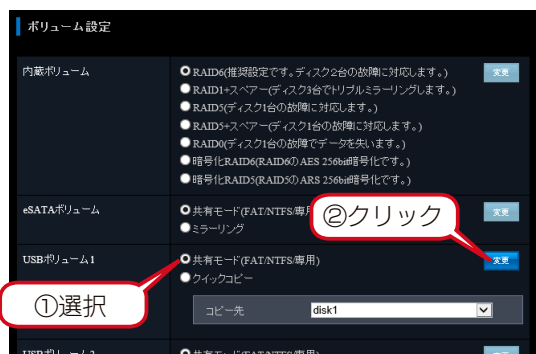
クイックコピーでは、USB メモリーやデジカメを [USB ポート 1] に接続した後、前面の [FUNC.] ボタンを押せば、自動的に USB メモリーやデジカメのデータをあらかじめ指定されている本製品の共有フォルダー内にコピーすることができます。

クイックコピー機能は、本製品前面の [USB ポート 1] でのみ機能します。また、USB ポート 1 の動作モードが [クイックコピー] となっている場合のみ機能します。

1 [詳細設定] から、[ディスク設定] → [ボリューム設定] をクリックします。



2 [USB ボリューム 1] の [共有モード (FAT/NTFS/専用)] を選択し、[変更] ボタンをクリックします。



3 [設定する] ボタンをクリックします。
→結果画面が表示されます。

これで、USB ポート 1 で増設ハードディスクを使用できるようになりました。

ハードディスクを増設する

ご注意

- 接続するハードディスクの容量やフォーマット形式の違いについては、以下をご覧ください。
【増設ディスクに関するご注意】(25-153 ページ)
- 本製品の USB ポート (1、2) や eSATA ポートには、対応の機器以外の機器は接続しないでください。
(USB ハブや SATA ポートマルチプライヤーも接続できません。)
本製品に増設できる機器については、以下をご覧ください。
【増設できる USB 機器】(25-152 ページ) 【増設できる eSATA 機器】(25-152 ページ)
- バスパワーで動作するハードディスクは使用できません。必ずセルフパワーで接続してご利用ください。
- FAT/NTFS 形式の増設ハードディスクは、そのまま接続すると使用できます。本製品に接続後、本製品で FAT32/ 専用形式にフォーマットすることもできます。NTFS でフォーマットする場合は、Windows パソコンに直接つないでフォーマットしてください。
- NTFS でフォーマットされたハードディスクは、読み込みのみ可能です。
- [USB ポート 1] の出荷時の動作モードは、[クイックコピー] 用となっています。
- 増設ハードディスクと本製品でミラーリングを行う場合は、[eSATA ポート] を使用する必要があります。
- FAT/NTFS/ 専用以外の増設ハードディスク (未フォーマット、あるいは、Mac OS でフォーマットしたハードディスクなど) を本製品に接続すると、[STATUS] ランプが赤く点滅し、ブザーが鳴ります。Windows パソコンでフォーマットするか、本製品に接続後、フォーマットしてください。ただし、増設ハードディスク内のデータはすべて消去されます。
- 増設ハードディスクのフォーマット中は、共有サービスが停止するため、保存データへのアクセスはできません。
- 増設ハードディスクを専用フォーマットでお使いの場合、1 フォルダーに作成可能なフォルダー数は 31998 個までです。

ハードディスクを接続する

1 本製品の電源が入っていることを確認します。

ご注意

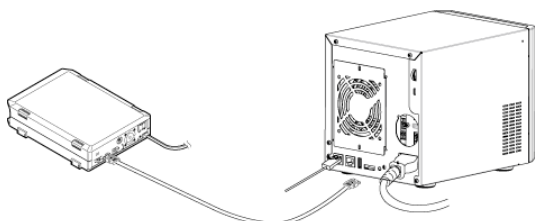
- 本製品の電源が入っている状態でハードディスクを接続できます。
- 増設ハードディスクの電源を入れてから、本製品に接続してください。

2 増設ハードディスクの電源を ON にします。
増設ハードディスクの電源の入れ方については、増設ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。

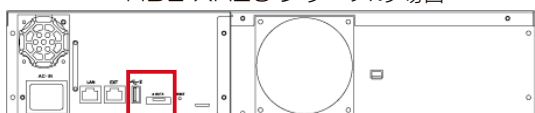
電源連動機能ハードディスクの場合は、電源ボタン (スイッチ) を [AUTO] または [ON] にします。本製品に接続するまで増設ハードディスクの電源は入りませんが、問題ありません。

※電源連動機能については、ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。

3 本製品の USB ポートまたは eSATA ポートに増設用ハードディスクを接続します。



▼ HDL-XR2U シリーズの場合



ご注意

- 本製品の [STATUS] ランプが点滅中は、増設ハードディスクを接続しないでください。
本製品の電源が入っている状態で接続できますが、[STATUS] ランプが点滅中 (設定画面操作中) や、本製品にアクセス中 ([ACCESS] ランプが点滅中) に増設ハードディスクを接続しないでください。
本製品にすでに別の増設ハードディスクを接続している場合にも、そのハードディスクのランプをご確認ください。
- ブザーが「ピーピーピー」と鳴り、[STATUS] ランプが赤く点滅した場合は、ハードディスクが FAT/NTFS/ 専用形式ではありません。

ハードディスクの接続を確認する

1 [詳細設定] から、[情報表示] → [ボリューム情報] をクリックします。



2 接続しているハードディスクの接続状況が表示されます。
確認したいハードディスクをクリックすれば、各ハードディスクの詳細情報が表示されます。

ご注意

eSATA ハードディスクを接続しても認識されない場合は、以下をご覧ください。

【eSATA ハードディスクを接続しても認識されない】(27-220 ページ)

増設ハードディスクにアクセスする

- 1 ネットワーク上から、本製品の共有フォルダーを表示させます。
- 2 USB 接続ハードディスクの場合は、一覧に共有フォルダー [usbx] が表示されます。
eSATA 接続ハードディスクの場合は、一覧に共有フォルダー [esata1] が表示されます。
これが増設ハードディスクです。
[usbx] および [esata1] をダブルクリックします。
※ x には増設ハードディスクを接続した本製品の [USB ポート] 番号が表示されます。

ハードディスクの接続先	ネットワーク上での表示
内蔵ハードディスク	disk1
USB ポート1 接続	usb1
USB ポート2 接続	usb2
eSATA ポート接続	esata1

正常にウィンドウが表示されたら、増設ハードディスクのデータを使用できます。

ご注意

- NTFS フォーマットの増設ハードディスクは、読み込み専用です。ネットワーク上から NTFS フォーマットのハードディスクのデータを読み込むことはできますが、書き込むことはできません。
- ハードディスクを複数パーティションに分割していた場合は、先頭のパーティションのみしか表示されません。
- Mac OS から NTFS フォーマットの増設ハードディスクや読み取り専用の共有にアクセスすることはできません。
- Mac OS でお使いになる場合、本製品では、AFP over TCP/IP による接続のみをサポート対象とします。

増設ハードディスクを取り外す

ご注意

- ファイルコピー中に、USB ポートに接続した機器の接続や取り外しをしたり、本製品やハードディスクの電源を切らないでください。コピーの処理が正常におこなわれません。
- 増設ハードディスクをバックアップ機能のバックアップ先に指定されている場合、増設ハードディスクの取り外す処理をおこなうと、バックアップできません。
- 取り外し時は、必ず [ディスクの取り外し] 操作をおこなってください。
本製品動作中に以下の手順を行わずに、USB ケーブルや eSATA ケーブルを取り外すと、データの破損や本製品や増設ハードディスクの故障の原因になります。
何らかの理由で、増設ハードディスクにアクセスが行われている最中に、USB ケーブルや eSATA ケーブルを取り外すとデータが破損するばかりか、本製品や増設ハードディスクの故障の原因になります。
- 本製品をシャットダウンし、本製品の電源を切った後に取り外すこともできます。
- Windows と Mac OS で共有して利用していた場合
Windows パソコンに直接接続してハードディスク内を見ると、見覚えの無いファイル、フォルダーが見える場合があります。
これは、Mac OS で、フォルダーを作成したりファイルのコピーした際は、作成したファイル (フォルダー) の他に、別のファイル (フォルダー) が作成されるためです。
このファイル (フォルダー) には、Mac OS ユーザー用の必要な情報が書き込まれていますので、削除しないでください。

1 [詳細設定] から、[ディスク設定] → [ボリューム操作] をクリックします。

2 取り外すボリューム欄の [ディスクの取り外し] を選択後、[実行] ボタンをクリックします。



3 取り外すハードディスクを確認後、[設定する] ボタンをクリックします。
→結果の画面が表示されます。



4 取り外し手順をおこなった増設ハードディスクの USB ケーブルまたは eSATA ケーブルを本製品から取り外します。

ご注意

本製品の電源が入っている状態で、本製品から取り外すことができます。

5 増設ハードディスクの電源を切ります。
電源連動機能ハードディスクの場合は、USB ケーブルおよび eSATA ケーブルを取り外した時点で、電源が切れます。
※増設ハードディスクの電源の切り方については、増設ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。
※電源連動機能については、ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。

以上で作業は完了です。

ショートカットで取り外す

1 [詳細設定] から、[ショートカット] をクリックし、取り外すボリュームをクリックします。



2 取り外すハードディスクを確認後、[デバイスを取り外す] ボタンをクリックします。
→結果の画面が表示されます。

3 取り外し処理をおこなった増設ハードディスクのケーブルを本製品から取り外します。

ご注意

eSATA ミラーリングモードでのミラーディスクの取り外しはショートカットからできません。[詳細設定] から、[ディスク設定] → [ボリューム操作] にて取り外してください。

増設ハードディスクをフォーマットする

ご注意

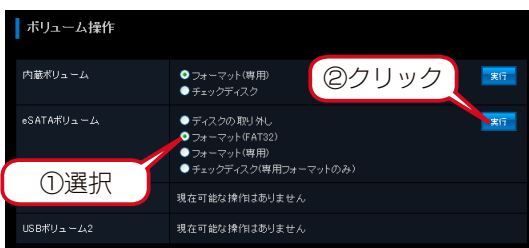
- フォーマットするとデータはすべて消去されます。
増設ハードディスク内に必要なデータがある場合は、事前にパソコンなどにバックアップしておいてください。
- フォーマット中は電源を切らないでください。完了するまでお待ちください。
- FAT32形式にできるのは、増設ハードディスクのみです。内蔵ハードディスクは、本製品専用フォーマットです。FAT32形式にすることはできません。
- 本製品でNTFS形式にすることはできません。増設ハードディスクをNTFS形式にする場合は、Windowsパソコンに直接接続してフォーマットしてください。ただし、NTFS形式でフォーマットすると本製品からは読み取りのみ可能となり、書き込みはできなくなります。詳しくは、ハードディスクの取扱説明書を参照してください。
- 2Tバイトより大きい容量のハードディスクを、本製品でFAT32フォーマットした場合、2TBのパーティションでフォーマットします。すべての領域を使用するには、専用形式でフォーマットしてください。
- 本製品に接続可能なハードディスクのフォーマット形式については、以下をご覧ください。
【増設ディスクに関するご注意】(25-153 ページ)
- 増設ハードディスクのフォーマット中は、共有サービスが停止するため、保存データへのアクセスはできません。
- フォーマット中は共有サービスが停止するため、本製品にアクセスしていないことを確認してから実行してください。

FAT32でフォーマットする

- 1 [詳細設定] から、[ディスク設定] → [ボリューム操作] をクリックします。



- 2 フォーマットするボリューム欄の [フォーマット (FAT32)] を選択後、[実行] ボタンをクリックします。



- 3 記載内容を確認後、[設定する] ボタンをクリックします。
→結果の画面が表示されるまでお待ちください。

以上で作業は完了です。

本製品専用形式でフォーマットする

- 1 [詳細設定] から、[ディスク設定] → [ボリューム操作] をクリックします。



- 2 フォーマットするボリューム欄の [フォーマット (専用)] を選択後、[実行] ボタンをクリックします。



- 3 記載内容を確認後、[設定する] ボタンをクリックします。
→結果の画面が表示されるまでお待ちください。

以上で作業は完了です。

専用形式でのフォーマット時間について

RHD4-UX8.0RW (RAID5 モード) の場合で、約 5 時間です。
USB HDD 2TB の場合では約 30 分です。
※接続するハードディスクにより、フォーマット時間は異なります。

プリンターを増設する

ご注意

- プリンターの電源は、本製品の電源の ON/OFF に関係なく、プリンターの電源を ON/OFF することができます。
(本製品は、プリンターのホットプラグに対応しています。)ただし、プリンターの電源を ON にした後、印刷可能となるまでにしばらく時間がかかる場合があります。
- 本製品に接続したプリンターは、本製品の電源が入っている状態でも取り外すことができます。プリンターを使用していないことを確認後、本製品から USB ケーブルを取り外してください。
- Windows パソコンのみ共有プリンターとして使用できます。Mac OS では使用できません。
- 本製品でプリンターを使用するすべてのパソコンにプリンタードライバーをインストールする必要があります。あらかじめ各パソコンにプリンタードライバーをインストールしてください。(詳細はプリンターの取扱説明書を参照してください。)
- プリンターの双方向機能には対応しておりません。
- 複合機 (プリンター機能以外にスキャナー機能やリーダーライター機能などを有するもの) をお使いの場合でも、プリンター機能にのみ対応します。
- Microsoft Windows Printing System(WPS) 専用プリンター、プリンターメーカーが独自に採用しているプリンティングシステムのプリンターでは、その仕様上プリントサーバー機能はご利用いただけません。
- 本製品にプリンターは 1 台のみ接続できます。プリンターを 2 台以上接続することはできません。
- 本製品の内蔵ハードディスクに空き容量が必要です。本製品を通して印刷時、プリントデータを本製品のハードディスクにスプールするため、スプールデータ用の空き容量が必要になります。(本製品の空き容量に関しては、設定画面の [ボリューム情報] をご確認ください。)印刷できなかった場合は、不要なデータを削除して空き容量を増やしてください。

プリンタードライバーをインストールする

お使いのパソコンに、使用するプリンターのドライバーをインストールします。

プリンターの取扱説明書をご覧ください、メーカーの指定するインストール方法にしたがってください。

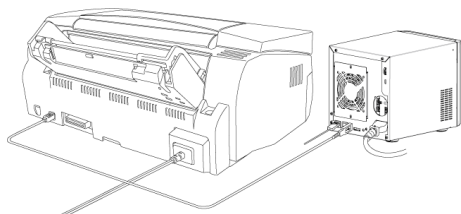
ご注意

プリンタードライバーを正しくインストールできない場合は、以下をご覧ください。

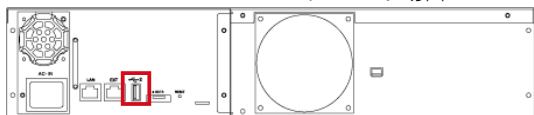
【プリントサーバー機能を利用して印刷を行ったところ、正常に印刷ができない】(27-222 ページ)

プリンターを接続する

- 1 本製品の電源が入っていることを確認します。
本製品の電源が入っている状態で接続できます。
- 2 プリンターの電源を入れ、プリンターが起動することを確認します。
プリンターの電源を入れてから本製品に接続します。
- 3 本製品の USB ポート 2 にプリンターを接続します。



▼ HDL-XR2U シリーズの場合



プリンターの接続を確認する

- 1 [詳細設定] から、[情報表示] → [ログ情報] をクリックします。
- 2 プリンターを接続した時間に、以下のログが記録されていることを確認してください。
プリントサーバー : プリンターが接続されました

プリントサーバーのログが表示されていない

何も表示されていない場合は、プリンターの情報を読み取るのに時間がかかっていることが考えられます。

プリンターが正常に起動していることを確認後、しばらくしてから、再度、[ログ情報] 画面を開いてみてください。

以上で本製品への接続の確認は終了です。

印刷用設定をする

Windows 7

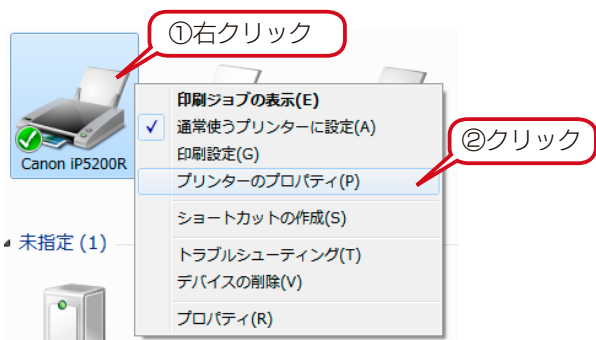
1 お使いのパソコンに、使用するプリンターのドライバーをインストールしていない場合は、インストールします。プリンターの取扱説明書をご覧になり、メーカーの指定するインストール方法にしたがってください。

2 本製品にプリンターが接続されていることを確認します。

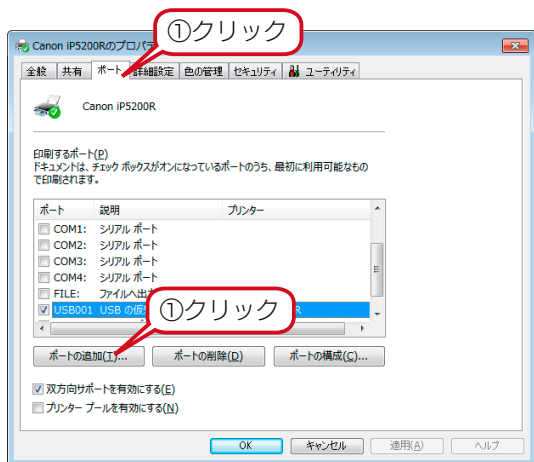
3 [スタート] → [コントロールパネル] → [ハードウェアとサウンド] → [デバイスとプリンターの表示] を順にクリックします。



4 インストールしたプリンターアイコンを右クリックし、表示されたメニューの[プリンターのプロパティ] をクリックします。

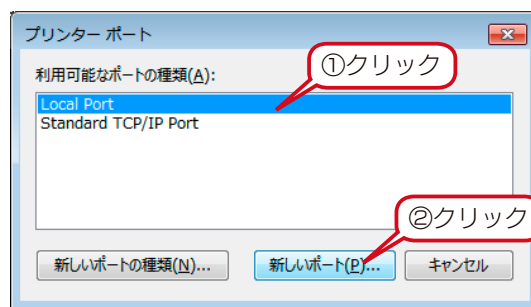


5 [ポート] タブをクリック後、[ポートの追加] ボタンをクリックします。



[ポートの追加]が無効になっている場合
[全般] タブをクリックし、[プロパティの変更] ボタンをクリックします。画面の表示にしたがって、プロパティの変更を許可します。

6 [Local Port] をクリック後、[新しいポート] ボタンをクリックします。



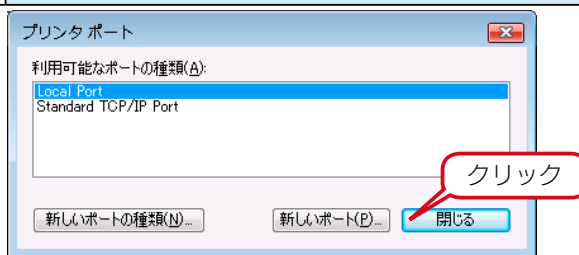
7 以下のように[ポート名]を入力後、[OK] ボタンをクリックします。

¥¥LAN DISK の名前¥USB_printer

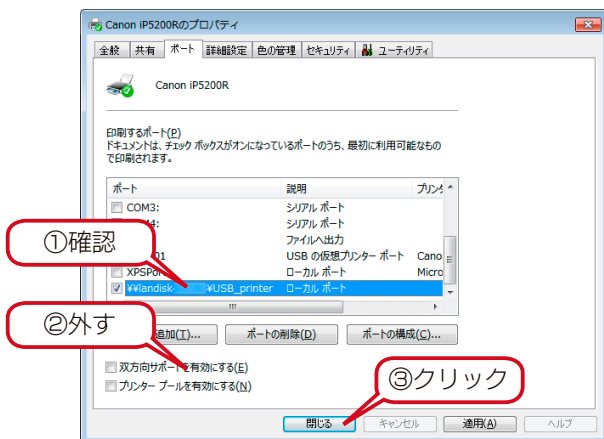
本製品に設定した [LAN DISK の名前] が、"landisk" の場合は、¥¥landisk ¥USB_printer となります。



8 [閉じる] ボタンをクリックします。



9 正しく設定されると以下の画面となります。表示を確認後、[双方向サポートを有効にする] のチェックを外した後、[閉じる] ボタンをクリックします。
※本製品はプリンターの双方向機能には対応しておりません。チェックは外してください。(グレー表示となっている場合は設定の必要はありません。)



エラー画面が表示された場合

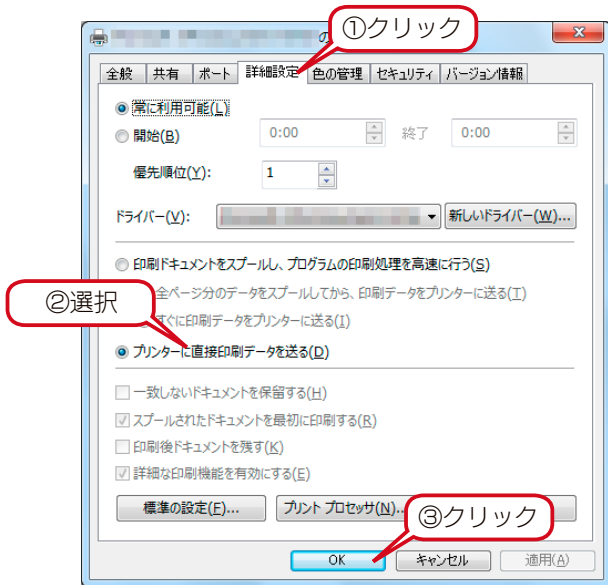
正しく入力されていないか、本製品の [LAN DISK の名前] が異なっている可能性があります。

入力内容、[LAN DISK の名前] を再度ご確認ください。

本製品の [LAN DISK の名前] を指定してもエラーが出る場合は、本製品の IP アドレスを入力してご確認ください。

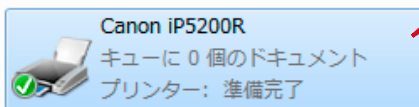
※ IP アドレスを指定する場合は、本製品の IP アドレスを [基本設定] → [ネットワーク設定] で [次の IP アドレスを使う] にて固定にすることをおすすめします。

- 10 [詳細設定] タブで「プリンターに直接印刷データを送る」のラジオボタンを選択し、[OK] ボタンをクリックします。



- 11 [スタート] → [コントロールパネル] → [ハードウェアとサウンド] → [デバイスとプリンター] をクリックし、プリンターの状態が「準備完了」になっていることを確認します。

プリンターと FAX (3)



状態が [オフライン] になっている場合

アイコンを右クリック後、[プリンターをオンラインで使用する] をクリックしてください。

これで、設定は完了です。

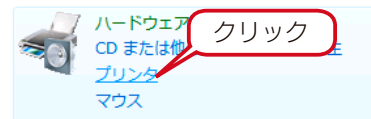
本製品を利用して実際に印刷できるかお試しください。

Windows Vista

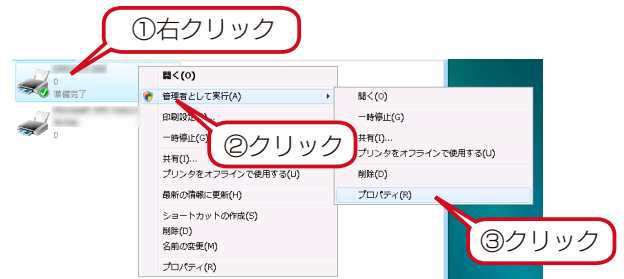
- 1 お使いのパソコンに、使用するプリンターのドライバーをインストールしていない場合は、インストールします。
プリンターの取扱説明書をご覧ください、メーカーの指定するインストール方法にしたがってください。

- 2 本製品にプリンターが接続されていることを確認します。取り外していた場合は、接続してください。

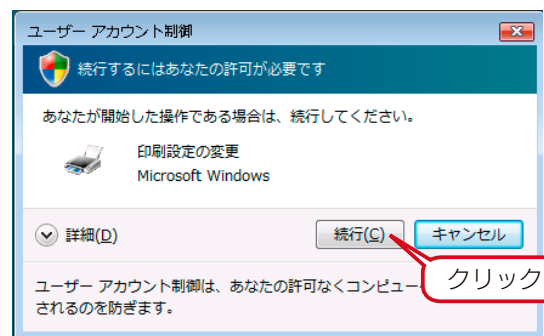
- 3 [スタート] → [コントロールパネル] → [ハードウェアとサウンド] → [プリンタ] を順にクリックします。



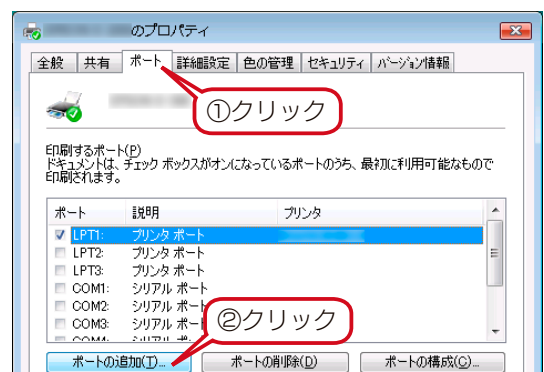
- 4 インストールしたプリンターアイコンを右クリックし、表示されたメニューの [管理者として実行] → [プロパティ] をクリックします。



- 5 ユーザーアカウント制御の画面が表示されますので、[続行] をクリックしてください。



- 6 ユーザーアカウント制御の画面が表示されますので、[続行] をクリックしてください。



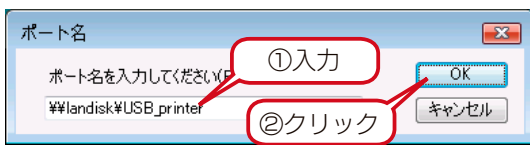
7 [Local Port] をクリック後、[新しいポート] ボタンをクリックします。



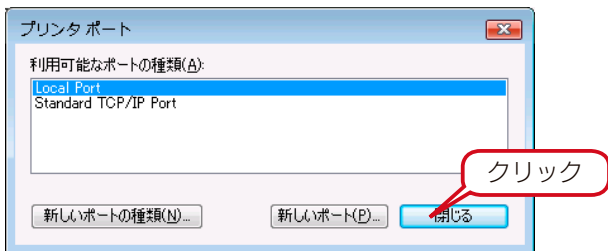
8 以下のように[ポート名]を入力後、[OK] ボタンをクリックします。

¥¥LAN DISK の名前¥USB_printer

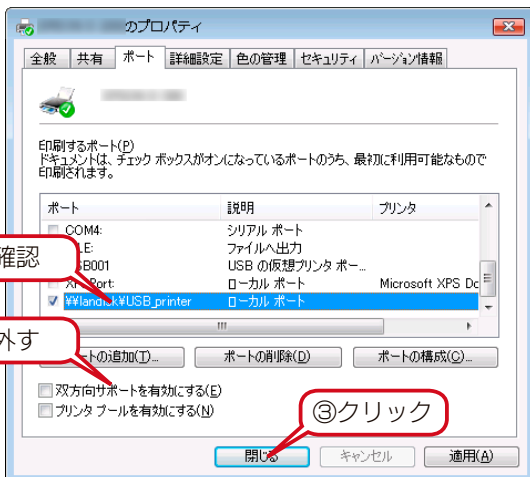
本製品に設定した [LAN DISK の名前] が、"landisk" の場合は、¥¥landisk ¥USB_printer となります。



9 [閉じる] ボタンをクリックします。



10 正しく設定されると以下の画面となります。表示を確認後、[双方向サポートを有効にする] のチェックを外した後、[閉じる] ボタンをクリックします。
※本製品はプリンターの双方向機能には対応しておりません。チェックは外してください。(グレー表示となっている場合は設定の必要はありません。)



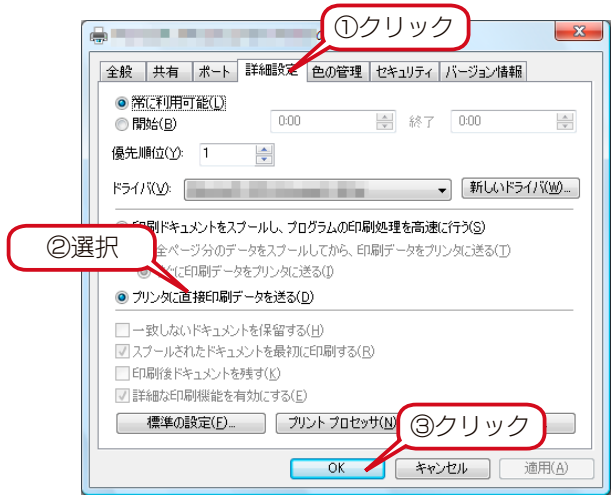
エラー画面が表示された場合

正しく入力されていないか、本製品の [LAN DISK の名前] が異なっている可能性があります。

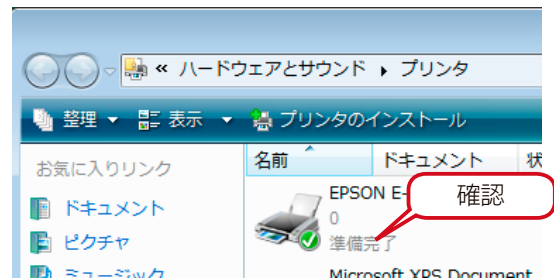
入力内容、[LAN DISK の名前] を再度ご確認ください。
本製品の [LAN DISK の名前] を指定してもエラーが出る場合は、本製品の IP アドレスを入力してご確認ください。

※ IP アドレスを指定する場合は、本製品の IP アドレスを [基本設定] → [ネットワーク設定] で [次の IP アドレスを使う] にて固定にすることをおすすめします。

11 [詳細設定] タブで「プリンタに直接印刷データを送る」のラジオボタンを選択し、[OK] ボタンをクリックします。



12 [スタート] → [コントロールパネル] → [ハードウェアとサウンド] → [プリンタ] をクリックし、プリンタの状態が「準備完了」になっていることを確認します。



状態が【オフライン】になっている場合

アイコンを右クリック後、[プリンターをオンラインで使用する] をクリックしてください。

これで、設定は完了です。

本製品を利用して実際に印刷できるかお試しください。

バックアップ

バックアップについて

万一に備えて定期的にデータはバックアップすることをおすすめします。本製品では、以下の方法でバックアップできます。

クイックコピー	本製品前面の [FUNC.] ボタンの機能です。 クイックコピーでは、USB メモリーやデジカメを [USB ポート 1] に接続した後、前面の [FUNC.] ボタンを押すと、自動的に USB メモリーやデジカメのデータをあらかじめ指定されている本製品の共有フォルダー内にコピーできます。 クイックコピー機能は、本製品前面の [USB ポート 1] でのみ機能します。また、USB ポート 1 の動作モードが [クイックコピー] となっている場合のみ機能します。
バックアップ	本製品、またはネットワーク上の HDL-XR シリーズに作成された共有フォルダーに保存されたデータを、指定した共有フォルダーへバックアップすることができます。 ・ユーザー、グループの情報や、各共有フォルダーのアクセス権設定などは保存することができません。 ・バックアップジョブは 5 個まで登録できます。

ご注意

- [クイックコピー] および [バックアップ] はデータのためのバックアップです。
本製品のシステムも含めてバックアップする場合は、ミラーリング構築後、ミラーリングしたディスクを保管するという方法にてバックアップすることができます。【ミラーリング】(14-99 ページ)
- 複数の [バックアップ] を同時に実行することはできません。
バックアップ実行中に異なるバックアップジョブを実行した場合は、現在実行中のバックアップジョブが終了してから実行されます。
- バックアップ中、ファイル共有などが遅くなる場合があります。
- バックアップ元には [この装置上] および [ネットワーク上] の共有フォルダーを 300 個まで指定できます。
- ネットワーク経由のバックアップは、ネットワーク上の HDL-XV シリーズおよび HDL-XR シリーズのみバックアップ元に指定できます。
また、バックアップ元に指定するネットワーク上の HDL-XV シリーズおよび HDL-XR シリーズの共有フォルダーは、[サービス設定] の [ネットワークバックアップの許可] を有効、かつ、[共有フォルダー設定] の [ネットワークバックアップを許可する] を有効に設定する必要があります。
- バックアップ元ディスクとバックアップ先ディスクは別々にすることをおすすめします。万一、ディスクが故障した場合でもどちらかのデータを取り出すことができます。
- バックアップ中はバックアップ元、先の共有フォルダーへアクセスしないでください。データ不整合、バックアップ失敗の原因となります。
- バックアップ中は設定画面の操作や、本製品のボタン操作などはおこなわないでください。
- 増設ハードディスクにバックアップする場合は、事前に増設ハードディスクを接続しておいてください。
- バックアップ先に増設ハードディスクを指定する場合は、増設ハードディスクが専用フォーマットでフォーマットされている必要があります。
- ネットワーク (ルーター) を超えるバックアップを行う場合のご注意
 - ・バックアップ設定では、バックアップ元を装置名ではなく IP アドレスで指定してください。
 - ・本製品はバックアップ通信に [IPv4 TCP : 873 番] を使用します。バックアップ元の本製品を接続しているルーターが NAT 設定されている場合は、[IPv4 TCP : 873 番] 宛の通信がバックアップ元の本製品に届くように、ポートフォワード設定が必要です。
 - ・バックアップ通信は暗号化していませんので、VPN 環境下でのご利用をおすすめします。
- バックアップでは、ネットワークを介して通信するため、その時のネットワーク上のパソコンやトラフィックなどの通信状態により、正常に完了しないことがあります。正常にバックアップされたかは、毎回確認することをおすすめします。
- バックアップ先は、本製品 (あるいは本製品に接続した専用フォーマットの増設ハードディスク) のみです。本製品のバックアップ機能では、本製品 (および本製品に接続した専用フォーマットの増設ハードディスク) のデータを、他の LAN DISK やパソコンへバックアップすることはできません。
- バックアップ先に指定する共有フォルダーは読み取り専用で設定され、バックアップ以外からの書込みができなくなります。
- バックアップ元には同一の共有フォルダーを複数登録できません。

USB ポート1(前面) を設定する

以下は、[USB ポート1] の動作モードを [クイックコピー] に変更する手順です。

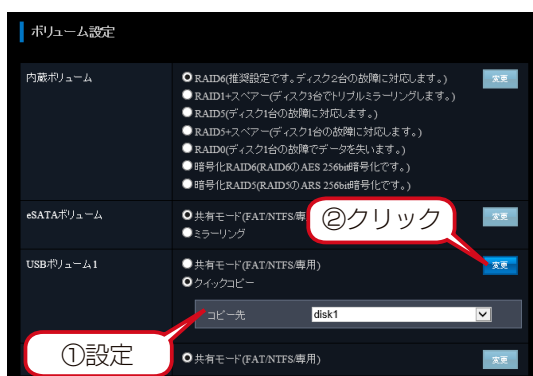
※ [USB ポート1] の動作モードを出荷時から変更していない場合、以下の手順は必要はありません。

※ [クイックコピー] に設定すると、USB ポート1のネットワークへの公開はおこなわれなくなります。

1 [詳細設定] から、[ディスク設定] → [ボリューム設定] をクリックします。



2 [USB ボリューム1] の [クイックコピー] を選択し、[コピー先] を選択し、[変更] ボタンをクリックします。



コピー先	[コピー先] で表示される共有フォルダー名
内蔵ボリューム	disk1
eSATA ボリューム	esata1
USB ボリューム2	usb2

USB ボリューム1はコピー先に選べません

USB ボリューム1はコピー元に使います。

3 [設定する] ボタンをクリックします。
→結果画面が表示されます。

これで、USB ポート1 をクイックコピー用として使用できるようになりました。

クイックコピー

使用できるデジカメや USB メモリー

使用できるデジカメや USB メモリーは以下のものです。

- ・ USB マスストレージクラスの転送に対応し、かつ、そのモードに設定されているデジカメ
- ・ FAT または NTFS 形式のデジカメ、または USB メモリー

最新の対応機器については、弊社製品ホームページをご覧ください。

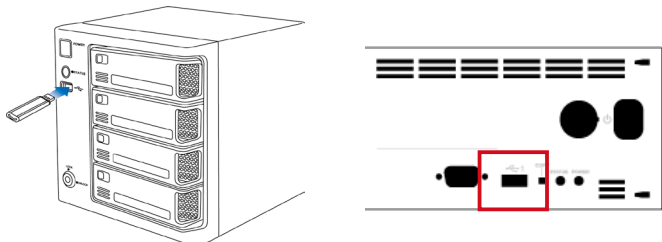
ご注意

- クイックコピーは本製品の [USB ポート 1] でのみご利用になれます。他の USB ポートにデジカメや USB メモリーを接続してもご利用いただけません。
- コピー先のディスクに空き容量に余裕があることをご確認ください。
- [USB ポート 1] で増設ハードディスクを使用するために [USB ポート 1] の設定を変更した場合は、クイックコピーの設定に戻す必要があります。
- すでに [USB ポート 1] に USB 機器を接続している場合は、その USB 機器の取り外し処理をする必要があります。
【増設ハードディスクを取り外す】(11-78 ページ) 参照
- コピー先が FAT32 形式の場合、ファイルシステムの制限のため、ファイルサイズが 4G バイト以上のファイルはコピーできません。
- コピー先に NTFS 形式の増設ハードディスクを選択してもコピーすることはできません。NTFS 形式のハードディスクに書き込みはできません。

デジカメや USB メモリーのデータをコピーする

- 1** 本製品前面の USB ポート 1 にデジカメや USB メモリーを接続します。
[STATUS] ランプが点滅し、しばらくすると点灯します。

▼ HDL-XR シリーズの場合 ▼ HDL-XR2U シリーズの場合



- 2** 本製品前面の [FUNC.] ボタンを "ピッ" と音がするまで押します。
コピーを開始します。コピー中は、[STATUS] ランプが点滅します。"ピッピッピッ" と音が鳴り、点滅が点灯に変わったらコピー完了です。

▼ HDL-XR シリーズの場合 ▼ HDL-XR2U シリーズの場合



以上でコピーは完了です。コピー完了後は、そのままデジカメや USB メモリーを取り外すことができます。

データのコピー先について

データは、コピー先に指定された共有フォルダー (出荷時は [disk 1]) の下に、自動で作成される [Quickcopy] フォルダー内にコピーされます。

さらにその下に「実行時の [日付] フォルダー」を作成し、そのフォルダーにファイルがコピーされます。

複数の USB メモリーなどをコピーする場合でも、「実行時の [日付] フォルダー」で区別されますので、上書きされることはありません。

ご注意

ブザーが「ピーピーピー」と鳴り、[STATUS] ランプが赤点滅し、エラーになる場合は、[FUNC.] ボタンを押して [STATUS] ランプが緑点灯に変わることを確認します。その後以下をご覧ください。

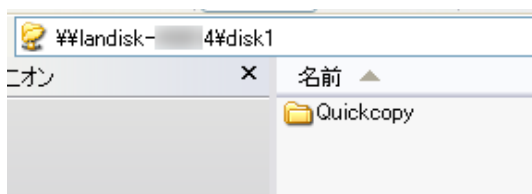
【本製品の電源を入れると、[STATUS] ランプが赤点滅し、ブザーがピーピーピーと鳴り続ける】(27-198 ページ)

コピーしたデータを確認する

1 ネットワーク上から、本製品の共有フォルダーを表示させます。

2 [disk1] フォルダーをダブルクリックします。

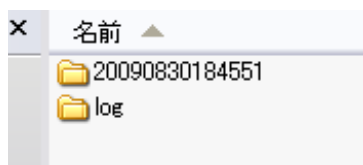
3 [Quickcopy] フォルダーが作成されていることを確認後、ダブルクリックします。



[Quickcopy] フォルダーについて

[FUNC.] ボタンでコピーする手順を行った場合に自動で作成されるフォルダーです。

4 「実行時の[日付]フォルダー」が作成されていることを確認後、ダブルクリックします。
→コピーしたファイルやフォルダーが表示されます。



実行時の[日付] フォルダーについて

[FUNC.] ボタンでコピーする手順を行った場合に、[Quickcopy] フォルダーの下に、デジカメ・USBメモリーのデータコピーを開始した年月日・時刻をもとにして、自動で作成されるフォルダーです。

上記画面例（[20090830184551]）は、2009年08月30日18時45分51秒にコピーを開始したときに作成した例です。

log フォルダーについて

log フォルダーはバックアップのシステムに必要な情報が入っています。削除しないでください。

以上で確認は終了です。

バックアップ

設定前に、12-84 ページのご注意をご確認ください。

USB ポートに接続するハードディスクにバックアップする場合は、事前に USB ハードディスクを専用フォーマットにフォーマットします。ハードディスクの増設や、フォーマット手順は、【ハードディスクやプリンターの増設】(11-75 ページ) をご覧ください。本製品同士でネットワーク上のバックアップをする場合は、事前にバックアップ元共有について [ネットワークバックアップの許可] する設定をおこなってください。

バックアップを設定する

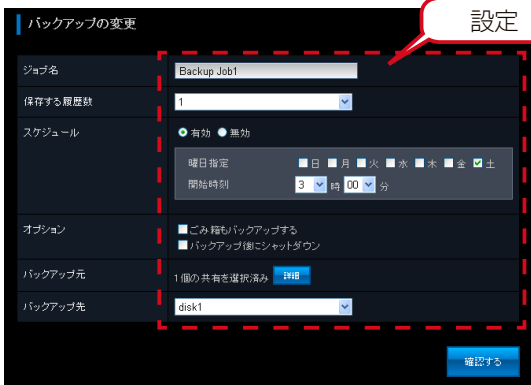
1 [詳細設定] から、[サービス設定] → [バックアップ] をクリックします。



2 設定するバックアップジョブの [変更] ボタンをクリックします。



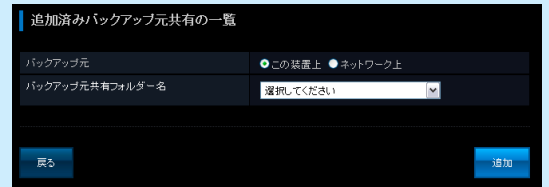
3 バックアップ内容を設定します。



ジョブ名	任意の名前を入力します。
保存する履歴数	保存する履歴数を設定します。
スケジュール	設定したスケジュールでバックアップを行う場合に [有効] をチェックします。
曜日指定	バックアップする曜日を指定します。 ※複数の指定が可能です。
時刻指定	バックアップする時刻を指定します。24 時間制で指定します。 例) 午後 9 時の場合、[21] 時 [00] 分
オプション	ごみ箱もバックアップする ごみ箱もバックアップする場合にチェックします。 バックアップ後にシャットダウン バックアップ後に本製品の電源を切る場合にチェックします。
バックアップ元	バックアップ元を選択します。手順 4 にお進みください。
バックアップ先	バックアップ先を選択します。

4 バックアップ元の [詳細] ボタンをクリックします。バックアップ元を選択します。

●バックアップ元に「この装置上」を選択した場合



バックアップ元共有フォルダーを選択し、[追加] ボタンをクリックします。

●バックアップ元に「ネットワーク上」を選択した場合



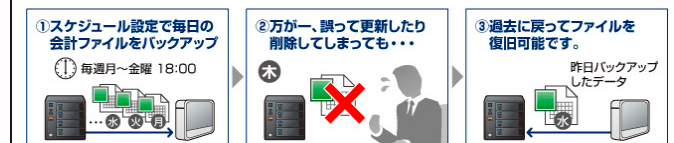
以下の項目を設定し、[追加] ボタンをクリックします。複数のバックアップ元を指定する場合は、上記の手順をくりかえします。

バックアップ元指定が終わったら、[戻る] ボタンをクリックします。

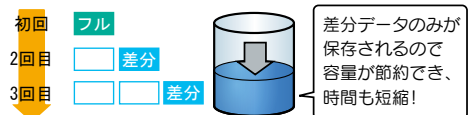
バックアップ元ホスト名	ネットワーク上の HDL-XR シリーズの LAN DISK の名前、もしくは IP アドレスを入力します。
バックアップ元共有フォルダー名	ネットワーク上の HDL-XR シリーズのバックアップ元とする共有フォルダー名を指定します。
アクセスパスワード	ネットワーク上の HDL-XR シリーズのバックアップ元とする共有フォルダーにアクセスパスワードを設定した場合は指定します。

履歴差分バックアップについて

ファイルやフォルダー単位のバックアップに最適です。



フルバックアップしたときのように、バックアップした時点でのファイルやフォルダーの構造が日付ごとに丸ごと残ります。フルバックアップとは違い、アイオー独自の差分バックアップ方式を使っているので、容量は最小です。



ご注意

- バックアップ元には、本製品上やネットワーク上の HDL-XV シリーズ、HDL-XR シリーズの共有フォルダーを 1 ジョブにつき 300 まで指定することができます。共有モード (FAT/NTFS/専用) の外付けハードディスクの共有も選択できます。
- ネットワーク上の HDL-XV シリーズおよび HDL-XR シリーズの共有フォルダーをバックアップ元に指定する場合、次の設定が必要です。
 - ・[サービス設定] の [ネットワークバックアップの許可] を有効
 - ・バックアップ元とする共有フォルダーの [共有フォルダー設定] の [ネットワークバックアップを許可] を有効
- バックアップ元として IPv6 ネットワーク上の HDL-XV シリーズ、HDL-XR シリーズ上の共有フォルダーを指定することはできません。
- バックアップ先には 1 ジョブにつき 1 つの内蔵ボリューム上または専用フォーマットの外付けハードディスクの共有のみ指定できます。
- バックアップ先には FAT32/NTFS フォーマットした外付けハードディスクの共有を指定することはできません。
- バックアップ先に指定する共有フォルダーは読み取り専用を設定され、バックアップ以外からのファイルの削除、書込みができません。ファイルの削除、書き込みを行うためには、必要なデータをバックアップした後、バックアップ設定を解除する必要があります。
- スケジュール設定を行う場合は、他のスケジュール設定と重ならないようご注意ください。
- ネットワーク (ルーター) を超えるバックアップを行う場合のご注意
 - ・バックアップ設定では、バックアップ元を装置名ではなく IP アドレスで指定してください。
 - ・本製品はバックアップ通信に「IPv4 TCP : 873 番」を使用します。バックアップ元の本製品を接続しているルーターが NAT 設定されている場合は、「IPv4 TCP : 873 番」宛の通信がバックアップ元の本製品に届くように、ポートフォワード設定が必要です。
 - ・バックアップ通信は暗号化を行っていませんので、VPN 環境下でのご利用をおすすめします。

5

[確認する] ボタンをクリックします。
確認画面が表示されますので、内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。

これでバックアップ設定は完了です。

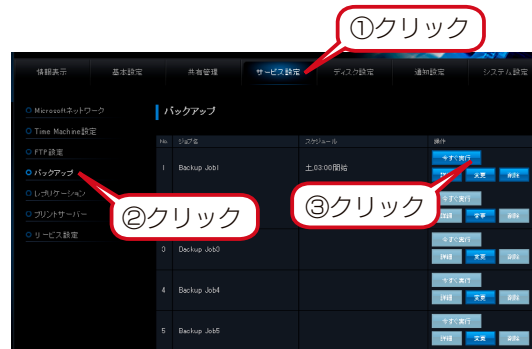
バックアップする

ご注意

事前にバックアップ設定を行っておいてください。

今すぐバックアップする場合

[詳細設定] から、[サービス設定] → [バックアップ] をクリックし、[今すぐ実行] ボタンをクリックします。



バックアップ中は、[STATUS] ランプが緑点滅になります。バックアップが完了すると本製品のブザーが「ピッピッピッ」と鳴り、[STATUS] ランプが緑点灯に変わります。

スケジュールバックアップを有効にした場合

設定した日時 / 時刻に自動でバックアップを開始します。バックアップ中は、[STATUS] ランプが緑点滅になります。バックアップが完了すると本製品のブザーが「ピッピッピッ」と鳴り、[STATUS] ランプが緑点灯に変わります。

ご注意

- ブザーが「ピーピーピー」と鳴り、[STATUS] ランプが赤点滅し、エラーになる場合は、[FUNC.] ボタンを押して [STATUS] ランプが緑点灯に変わることを確認します。その後以下をご覧ください。
【本製品の電源を入れると、[STATUS] ランプが赤点滅し、ブザーがピーピーピーと鳴り続ける】(27-198 ページ)
- バックアップにかかる時間については、以下をご覧ください。
【バックアップにかかる時間について】(27-224 ページ)

バックアップしたデータを確認する

1 ネットワーク上から、本製品の共有フォルダーを表示させます。

2 バックアップ先に設定した共有フォルダーをダブルクリックします。

3 「実行したジョブのフォルダー」が作成されていることを確認後、ダブルクリックします。

「実行したジョブのフォルダー」について

数字が実行したバックアップジョブの番号になります。

1 番目のバックアップジョブを実行した場合は [Job1]、
5 番目のバックアップジョブを実行した場合は [Job5] のように作成されます。

4 「実行時の [日付] フォルダー」が作成されていることを確認後、ダブルクリックします。

[日付] フォルダーについて

バックアップを開始した年月日・時刻をもとにして、自動で作成されるフォルダーです。

上記画面例 ([20090830184551]) は、2009 年 08 月 30 日 18 時 45 分 51 秒にバックアップを開始したときに作成した例です。

log フォルダーについて

log フォルダーはバックアップのシステムで必要な情報が入っています。削除しないでください。

5 「バックアップ元 [ホスト名] フォルダー」が作成されていることを確認後、ダブルクリックします。

「バックアップ元 [ホスト名] フォルダー」について

バックアップ元で選択されたホスト名になります。

この装置上を選択した場合は「localhost」となります。

6 「バックアップ元ホストの「共有名」フォルダー」が作成されていることを確認後、ダブルクリックします。
→コピーしたファイルやフォルダーが表示されます。

「バックアップ元ホストの「共有名」フォルダー」について

バックアップ元で選択された共有名になります。

以上で確認は終了です。

ご注意

- バックアップデータを見せないようにしたい場合は、以下をご覧ください。
【バックアップデータを見せないようにできますか?】(27-224 ページ)
- バックアップ先の共有フォルダーは読み込み専用を設定されています。そのためデータを取り出すことはできますが、書き込むことはできません。

バックアップログを確認する

バックアップを実行後、[詳細設定]から、[情報表示]→[ログ表示]をクリックします。
[ログ] 欄にバックアップ実行時のバックアップのログが表示されます。

ログの内容については、【[ログ一覧](#)】(25-162 ページ)をご覧ください。



弊社製 EasySaver 4 LE を使う

EasySaver 4 LE の最新版は弊社ホームページ「サポートライブラリ」からダウンロードできます。

<サポートライブラリ> <http://www.iodata.jp/lib/>

弊社製 EasySaver 4 LE を使用して、パソコンのデータを本製品にバックアップしたり、逆に本製品のデータをパソコンにバックアップしたりすることができます。詳細は、EasySaver 4 LE の取扱説明書を参照してください。

ご注意

- EasySaver 4 LE を使用してバックアップする場合、バックアップ元(先)に使用する本製品、あるいは、増設ハードディスクを事前にネットワークドライブに割り当てておく必要があります。
【(Windows) ネットワークドライブの割り当て方法がわからない】(27-232 ページ)
- 増設ハードディスクをバックアップで使用する場合は、事前に増設ハードディスクを接続しておいてください。
【ハードディスクやプリンターの増設】(11-75 ページ)

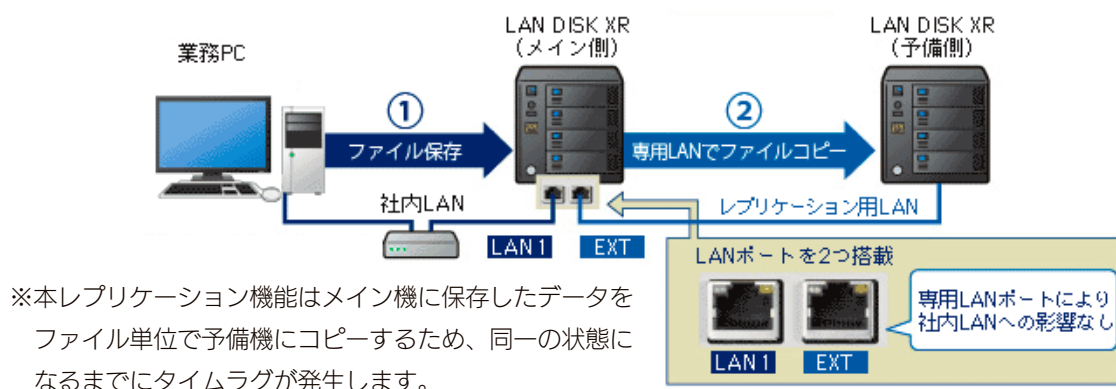
レプリケーション

レプリケーションについて

レプリケーション元に設定したメイン機の共有フォルダーと、レプリケーション先に指定した予備機の共有フォルダーをリアルタイムで同期し、同じ状態に保ちます。

※ LAN 環境により遅延が発生します。

遠隔地へのレプリケーションにより、メイン機側での災害・事故によるデータ損失のリスク低減ができます。



ご注意

- レプリケーション機能はレプリケーション元（メイン機）1 台、レプリケーション先（予備機）1 台の 2 台でのみご利用できます。
- 予備機に使用できる機器は HDL-XR シリーズのみです。
- 予備機の、[詳細設定] の [サービス設定] → [サービス設定] で、[ネットワークバックアップの許可] を「有効」にする必要があります。（出荷時設定は「有効」）
- レプリケーション機能でコピーされるのは、「レプリケーション元共有フォルダー」に指定した共有フォルダー上に保存された、ファイル・フォルダーのデータのみです。アクセス権はコピーされません。
- 予備機をメイン機に接続する前に、予備機の設定をしてください。
- VPN 経由でレプリケーションする場合は、余裕を持ったスループットを確保できる光回線をご使用ください。
- レプリケーション元共有フォルダーとして指定可能な共有フォルダーは 297 個になります。また、指定共有フォルダー内のファイル数の制限はありませんが、共有フォルダー全体でフォルダー数は 200000 個までになります。制限を超えた場合はレプリケーションが無効になります。
- 本製品の EXT ポートを使用する場合、EXT ポートを接続したネットワーク上のパソコンから Magical Finder を使用して本製品を検索できません。本製品の設定画面を開くには、Web ブラウザーに直接本製品の IP アドレスを入力して開いてください。
- レプリケーション先に設定された共有フォルダーのデータは、レプリケーション実施後に消去されます。
- レプリケーション先として IPv6 ネットワーク上の HDL-XR シリーズおよび HDL-XV シリーズ上の共有フォルダーを指定することはできません。
- ネットワーク（ルーター）を超えるレプリケーションを行う場合のご注意
 - ・レプリケーション設定では、レプリケーション先を装置名ではなく IP アドレスで指定してください。
 - ・本製品はレプリケーション通信に「IPv4 TCP：873 番」を使用します。レプリケーション先の本製品を接続しているルーターが NAT 設定されている場合は、「IPv4 TCP：873 番」宛の通信がバックアップ先の本製品に届くように、ポートフォワード設定が必要です。
 - ・レプリケーション通信は暗号化を行っていませんので、VPN 環境下でのご利用をおすすめします。

レプリケーションを設定する

あらかじめメイン機、予備機のネットワーク設定について決めておきます。以下は、設定例です。

※「共通」の項目については、お使いのご利用環境に合わせて設定してください。

メイン機 (レプリケーション元)	
レプリケーション元共有フォルダー	disk1
LAN ポート※	ネットワークへ接続 ・ IP アドレスを自動的に取得する
EXT ポート※	予備機の LAN ポートへ接続 ・ 次の IP アドレスを使う 192.168.100.12 255.255.255.0

※ LAN ポートと EXT ポートの IP アドレスのセグメントは一致しないように設定してください。

予備機 (レプリケーション先)	
レプリケーション先共有フォルダー	disk1
LAN ポート	メイン機の EXT ポートへ接続 ・ 次の IP アドレスを使う 192.168.100.10 255.255.255.0
EXT ポート	未使用 ・ 無効にする

ご注意

- 予備機はメイン機の LAN ポートに直結した時点で設定画面へのアクセスはできなくなります。

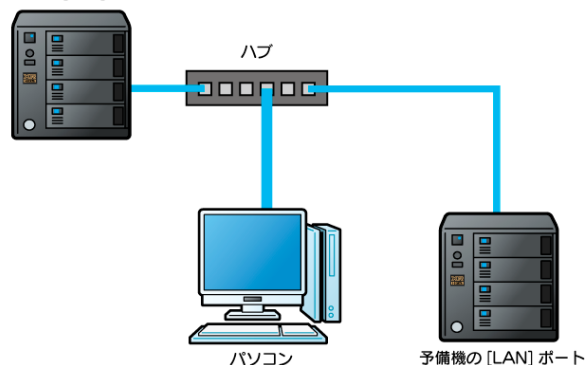
予備機の設定を行う場合は、メイン機の [EXT] ポートにハブを接続し、

ハブに予備機 ([LAN] ポート) と設定用のパソコンを接続します。

例に沿うと、パソコンの IP アドレスは 192.168.10.xxx (xxx は 10,12

以外) に設定します。

メイン機の [EXT] ポート



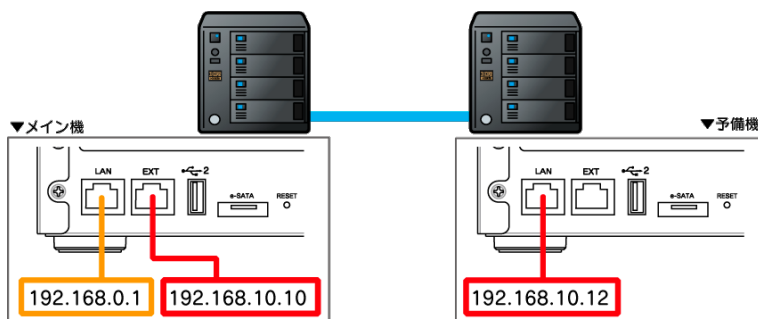
- IP アドレスの決め方について

メイン機の [LAN] ポートと [EXT] ポート、予備機の [LAN] ポートの 3 つの IP アドレスを決める必要があります。

同一 LAN 内にメイン機と予備機を設置した場合、メイン機の [LAN] ポート、[EXT] ポートのセグメントを変える必要があります。

以下の例のように設定します。

- ・メイン機の [LAN] ポートと [EXT] ポートは異なるセグメントに設定
- ・メイン機の [EXT] ポートと予備機の [LAN] ポートは同セグメントに設定



- LAN 環境にもよりますが、メイン機の LAN ポートと予備機の LAN ポートでもレプリケーション可能です。

- 一時的に子機を切り離した場合、1 時間以内は 1 分ごと、それ以降は 1 時間ごとに接続を再試行し、接続できた段階で再開します。(親機を再起動した場合でも再開されます。) この場合、レプリケーションの再設定は不要です。

①レプリケーション先（予備機）の本製品を設定する

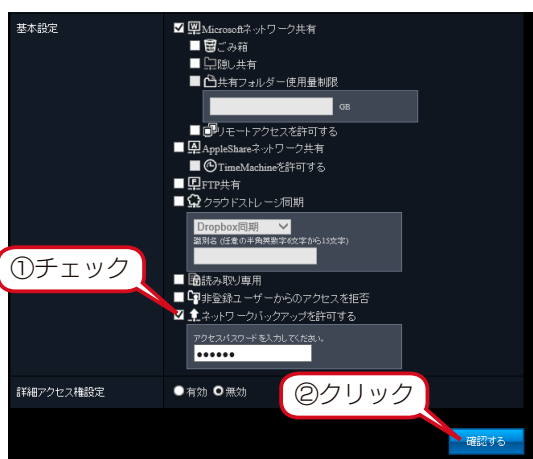
1 レプリケーション先の本製品の [詳細設定] から「サービス設定」→「サービス設定」をクリックし、[ネットワークバックアップの許可] が「有効」となっていることを確認してください。



2 [詳細設定] から、[共有管理] → [共有フォルダー設定] をクリックし、レプリケーション先にする共有フォルダーの [変更] ボタンをクリックします。レプリケーション先にする共有フォルダーは、新規作成してもかまいません。



3 [ネットワークバックアップを許可する] にチェックをつけ、[確認する] ボタンをクリックします。必要に応じてアクセスパスワードも設定します。



4 設定内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。

6 レプリケーション先の本製品の [詳細設定] から、「基本設定」→「ネットワーク設定」をクリックし、[LAN] ポート、[EXT] ポートにご利用の環境にあわせた IP アドレス、サブネットマスクの設定をします。

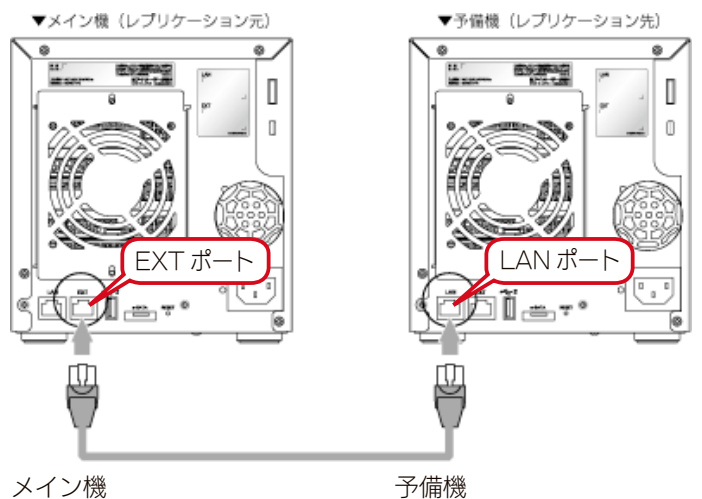
7 レプリケーション先の本製品詳細設定のステータスに表示された「名前」と「IP アドレス」をメモしてください。レプリケーション元の本製品の設定、「レプリケーション元ホスト名」の入力値として使用します。

ご注意
①の設定後、予備機の [詳細設定] の [基本設定] → [ネットワーク設定] で、メイン機と通信できるように設定しておく必要があります。設定例では、予備機の LAN のポートの設定を、接続するメイン機の EXT ポートと通信できるように設定します。

②予備機を接続する

1 メイン機、予備機ともに、いったん電源を OFF にします。

2 メイン機背面の [EXT] ポートと予備機背面の [LAN] ポートを LAN ケーブルで接続します。



3 メイン機、予備機ともに電源を入れます。起動が完了するまでお待ちください。

③レプリケーション元（メイン機）の本製品を設定する

ご注意

- 設定の前に、メイン機の [詳細設定] の [基本設定] → [ネットワーク設定] で、予備機と通信できるように設定しておく必要があります。
設定例では、メイン機の EXT のポートの設定を、予備機の LAN ポートと通信できるように設定します。
- メイン機の LAN ポートと EXT ポートのセグメントが異なる IP アドレスを設定してください。セグメントが同じになっていると正しくレプリケーションができません。

1 レプリケーション元の本製品の [詳細設定] から、「基本設定」→「ネットワーク設定」をクリックし、13-92 ページの設定例の LAN、EXT ポート設定となっていることを確認してください。

2 レプリケーション元の本製品の [サービス設定] → [レプリケーション] をクリックし、[レプリケーション機能] で [有効] を選択し、[確認する] をクリックします。



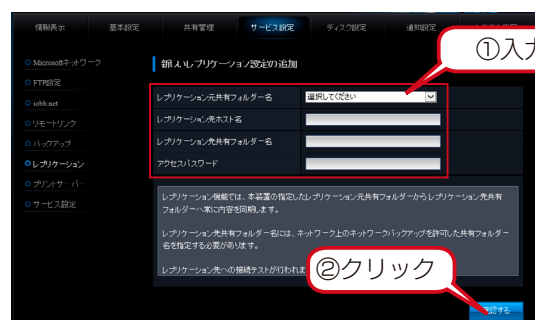
3 確認画面が表示されますので、[設定する] をクリックします。
これでレプリケーション機能が有効になります。



4 再度、[レプリケーション] をクリックし、[新規作成] ボタンをクリックします。



5 新しいレプリケーション設定をして、[確認する] ボタンをクリックします。



レプリケーション元共有フォルダー名	13-93 ページ設定例の「レプリケーション元共有フォルダー名」を選択してください。
レプリケーション先ホスト名	【①レプリケーション先（予備機）の本製品を設定する】（13-94 ページ）手順7でメモした「名前」もしくは「IP アドレス」を入力します。
レプリケーション先共有フォルダー名	13-93 ページ設定例の「レプリケーション先共有フォルダー名」を入力します。
アクセスパスワード	【①レプリケーション先（予備機）の本製品を設定する】（13-94 ページ）手順4で設定したアクセスパスワードを入力します。アクセスパスワードを未設定の場合は何も入力しないでください。

ご注意

レプリケーションの設定に失敗した場合は、【レプリケーション設定時に「レプリケーション先に接続できませんでした。」と表示された】（27-225 ページ）

6 レプリケーション元の本製品の [基本設定] → [ネットワーク設定] をクリックし、設定例（13-92 ページ）の LAN、EXT ポート設定となっていることを確認してください。

7 レプリケーションの状態を確認します。
レプリケーション元の本製品の [詳細設定] から、[情報表示] → [ログ情報] をクリックしてください。下記のログが設定後の時間に確認できればレプリケーションは開始されています。

レプリケーション：初期同期を開始しました。

ログの内容については、【ログ一覧】（25-162 ページ）をご覧ください。

以上でレプリケーション設定は完了です。

④レプリケーションを設定した機器の設定情報を保存する

LAN DISK Restore を使用してメイン機、予備機の設定情報を保存します。

設定方法は、LAN DISK Restore の取扱説明書をご覧ください。

詳しくは、[【添付ソフトをインストールする】](#) (3-26 ページ) をご覧ください。

メイン機が故障した場合

メイン機が故障した場合に予備機をメイン機に切り替える方法を説明しています。
この方法は、事前に LAN DISK Restore を使用して設定情報を保存している必要があります。

① 予備機をメイン機に切り替える

LAN DISK Restore を使用して、予備機にメイン機の設定を復元します。

※予備機にはメイン機のネットワーク設定とレプリケーション設定のみを復元します。その他の項目を復元すると予備機のデータが消えてしまう場合がありますので、指定をしないでください。

1 故障したメイン機の LAN ケーブルをネットワークから外します。

2 LAN DISK Restore を起動して、[検索] ボタンをクリックします。

3 予備機が検出されたら、予備機を選択して、[設定復元] ボタンをクリックします。



4 管理者パスワード画面が表示されたら、予備機のパスワードを入力して [OK] ボタンをクリックします。

5 保存済みのメイン機の設定ファイルを指定し [OK] ボタンをクリックします。

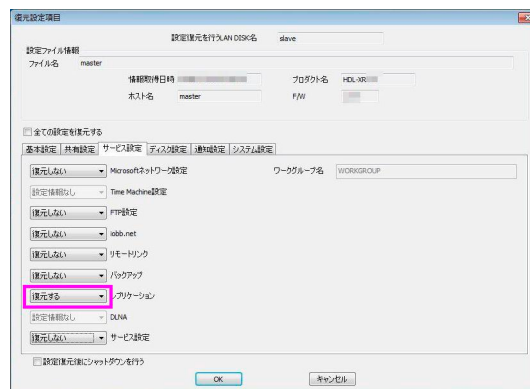


6 復元設定項目を指定する画面が表示されます。
以下のピンク枠のネットワーク設定とレプリケーション設定のみを復元します。
その他の項目は「復元しない」を選択します。

- [基本設定] の [名前設定] → [LAN DISK 名]
- [基本設定] の [名前設定] → [LAN DISK の説明]
- [基本設定] の [ネットワーク設定] → [ネットワーク]



- [サービス設定] の [レプリケーション]



7 設定後、[OK] ボタンをクリックします。
確認画面が表示されますので、復元内容を確認した上で [OK] ボタンをクリックします。
設定復元進捗画面が表示されますので、しばらくお待ちください。

「設定復元に成功しました。」と表示されたら復元完了です。
共有フォルダーにアクセスできることをご確認ください。
故障したメイン機は修理をご依頼ください。

②レプリケーションを再構成する

修理から戻った機器を予備機として設定構成する手順です。

1 修理より戻ってきた機器を、予備機として接続します。
【②予備機を接続する】(13-94 ページ) 参照

2 LAN DISK Restore を使用し、修理より戻ってきた機器に保存してある予備機の設定情報を読み込みます。
この手順により、元々メイン機だった機器が予備機となります。
※ LAN DISK Restore を使用して、修理から戻ってきたデータの入っていない本製品に予備機の設定情報を復元する場合には、すべての設定を復元してください。

これで設定は完了です。

メイン機の [情報表示] → [ログ情報] に、「レプリケーション: 初期同期を開始しました。」と表示されることを確認してください。

ミラーリング

ミラーリングに使用できる増設ハードディスク

本製品本体と eSATA ハードディスクでミラーリングを構築することができます。
ミラーリングとして増設できるハードディスク（ミラーディスク）は、以下のハードディスクです。
※最新の対応機器については、弊社ホームページをご覧ください。

ミラーリングで使用できる動作確認済みのハードディスク	以下の弊社製ハードディスクが対応しています。 ・RHD-UX シリーズ
ミラーリングで接続する本製品のポート	背面の [eSATA ポート] に接続する必要があります。 本製品の [USB ポート 1 または 2] に接続してもミラーリングを構築することはできません。 すでに [eSATA ポート] に、ミラーリングを構築する以外の増設ハードディスクを接続している場合は、一度取り外す必要があります。 【増設ハードディスクを取り外す】 (11-78 ページ)
ミラーリングに必要な増設ハードディスクの容量	HDL-XR2.0W とミラーリングを行う場合 RAID 6 および暗号化 RAID 6 … 約 1 TB RAID 5 および暗号化 RAID 5 … 約 1.5TB

ご注意

- ミラーリングを構築するには、内蔵ボリュームが次のミラーリング可能な RAID モードである必要があります。
RAID 6、RAID 5、暗号化 RAID 6、暗号化 RAID 5
- HDL-XR/2D シリーズでは、eSATA ミラーリング機能をご利用いただけません。
- ミラーリング実行中に eSATA ケーブルが抜けたり、eSATA 接続ハードディスクの電源が落ちたりすると、最悪の場合 RAID 崩壊に至ることがあります。ケーブルをしっかりと接続し抜けないようご注意ください。

eSATA ハードディスクでミラーリングする

ミラーリングする

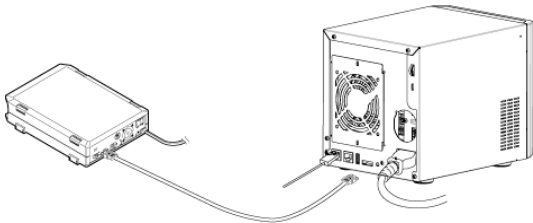
1 本製品の電源が入っていることを確認します。

eSATA ハードディスクの接続

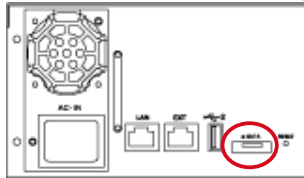
本製品の電源が入っている状態で接続できます。

2 eSATA ハードディスクの電源コードを電源コンセントに接続します。

3 本製品の [eSATA ポート] に eSATA ハードディスクを接続します。
※接続する eSATA ハードディスクに電源連動機能がある場合は、本製品に接続してはじめて電源が入ります。eSATA ハードディスクの電源連動機能については、eSATA ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。



▼ HDL-XR2U シリーズの場合



ご注意

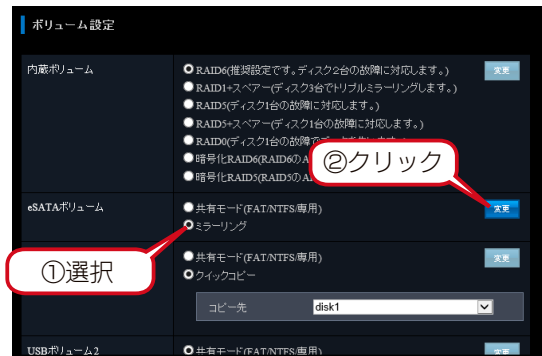
本製品のランプが点滅中は、増設ハードディスクを接続しないでください。

本製品の電源が入っている状態で接続できますが、[STATUS] ランプが点滅中 (設定画面操作中) や、本製品にアクセス中 ([ACCESS] ランプが点滅中) に増設ハードディスクを接続しないでください。本製品にすでに別の増設ハードディスクを接続している場合にも、そのハードディスクのランプをご確認ください。

4 [詳細設定] から、[ディスク設定] → [ボリューム設定] をクリックします。



5 [eSATA ボリューム] の [ミラーリング] を選択し、[変更] ボタンをクリックします。



6 [設定する] ボタンをクリックします。



7 本製品の [STATUS] ランプが点灯し、結果画面が表示されたら、ミラーリング設定完了です。続けてミラーリング再構築が行われます。再構築されれば、システムの復旧はすべて完了です。構築中は、[STATUS] ランプが緑点灯、4つの [ACCESS] ランプはすべて青点滅します。※動作モードと構築状況は、[情報表示] の [ボリューム情報] 画面の [eSATA ボリューム] の [動作モード]、[状態] で確認することができます。[再構築中] の表示が、[正常動作] の表示となれば、構築終了です。※再確認するには、[情報表示] → [ボリューム情報] をクリックしてください。一度開いた [ボリューム情報] 画面の情報は、再度 [ボリューム情報] 画面を開かないと更新されません。

以上でミラーリングの設定は完了です。

ミラーリング可能な容量で空の eSATA ハードディスクが接続されている場合はミラーリングが開始されます。

ミラーリングが開始されない場合は eSATA ハードディスクの容量や中身を確認の上、ボリューム操作からミラーリングを開始してください。

ご注意

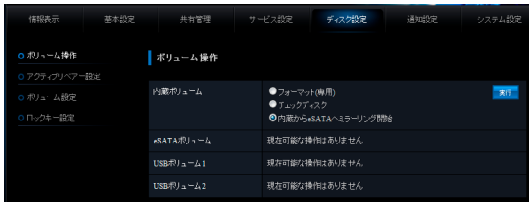
ミラーリングの途中で本製品の電源を切るとミラーリングは完了しません。ミラーリングが完了したことを確認してから本製品の電源を切ってください。

ご注意

[STATUS] ランプが赤点灯になりブザーがピーピーと鳴った場合は、eSATA ハードディスクにデータが入っている状態です。この場合は待機中の状態となり自動的にミラーリングを開始しません。必要に応じてバックアップをして、下記の手順でミラーリングを再開させてください。

① [詳細設定] → [ディスク設定] → [ボリューム操作] をクリックします。

② [内蔵ボリューム] の [内蔵から eSATA へミラーリング開始] をチェックし、[実行] ボタンをクリックします。



ミラーディスクを保管する

本製品と eSATA ハードディスクでミラーリング運用中に eSATA ハードディスクを「ミラーディスクの取り外し」機能で取り外すことができます。

ミラーディスクの保管について

取り外した eSATA ハードディスクは、取り外した時点のミラーリング上に作成した「共有データ」、「登録ユーザー」、「グループ情報」、「ネットワーク設定」などすべての設定情報が記録されたミラーディスクとして保管できます。

本製品に接続する eSATA ハードディスクを定期的に交換することで、ミラーリングを行いながら、ミラーリングしたディスク上に作成した共有データ、すべての設定情報を一定期間バックアップとして保管するといった運用も可能になります。

1 [詳細設定] から、[ディスク設定] → [ボリューム操作] をクリックします。



2 [eSATA ボリューム] で [ミラーディスクの取り外し] を選択し、隣の [実行] ボタンをクリックします。



3 本製品の電源が切れること（[POWER] ランプが赤点灯すること）を確認し、eSATA ハードディスクを取り外します。

ご注意

[ミラーディスクの取り外し] を行った後、別の eSATA ハードディスクを接続すると、ミラーリングを開始します。ただし、eSATA ハードディスクが FAT/NTFS フォーマットでデータがある場合は、そのままではミラーリングを開始しません。

eSATA ハードディスクを接続後、[詳細設定] → [ディスク設定] → [ボリューム操作] で内蔵ボリュームの設定を「内蔵から eSATA へミラーリング開始」にチェックし「実行」をクリックしてください。

以上でミラーディスクの保管は完了です。

ミラーディスクから復旧する

[ミラーディスクの取り外し]をした eSATA ハードディスクのシステムに戻す (復旧する) ことができます。

ご注意

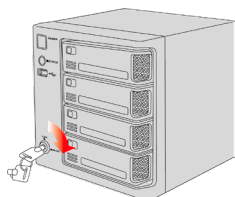
ミラーリングの再構築にはディスク容量および処理中の本製品の使用状況にもよりますが、目安として RAID 6 構成の HDL-XR2.0W において約 16 時間要します。再構築中はミラーリングによるデータ保護が有効ではありませんのでご注意ください。

- 1 本製品の電源が切れていることを確認します。
([POWER] ランプが赤点灯していることを確認します。)

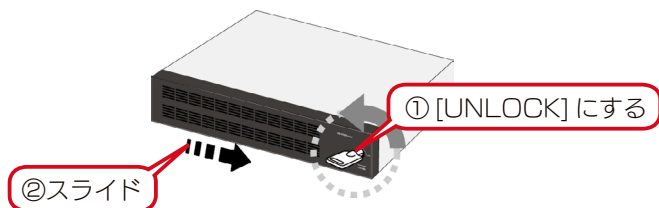
本製品の電源が入っている場合

[電源] ボタンを押して、電源を切ります。

- 2 ● HDL-XR シリーズの場合
前面の [カートリッジ固定 LOCK] を開錠 ([UNLOCK]) します。添付のロックキーを [カートリッジ固定 LOCK] に挿し、時計回りにまわして、[UNLOCK] にします。



- HDL-XR2U シリーズの場合
添付の LOCK キーを使用して LOCK を解除し、フロントカバーを右へスライドさせて取り外します。



- 3 カートリッジ4台すべて取り外します。
※どのカートリッジから取り外しても構いません。
①カートリッジの [スライドスイッチ] を右に移動 ([UNLOCK]) します。
②カートリッジの「取っ手」を手前に引いてカートリッジを取り出します。

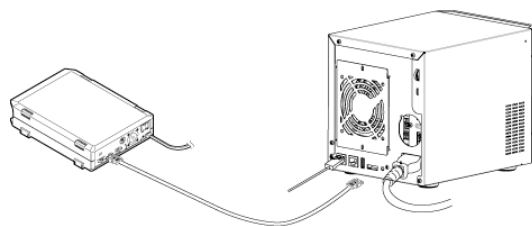


- 4 [ミラーディスクの取り外し]をした eSATA ハードディスクの電源コードを電源コンセントに接続します。

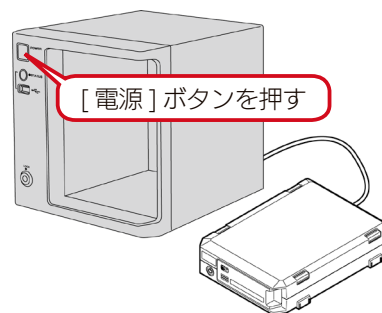
- 5 本製品の [eSATA ポート] に eSATA ハードディスクを接続します。
※接続する eSATA ハードディスクに電源連動機能がある場合は、本製品に接続してはじめて電源が入ります。eSATA ハードディスクの電源連動機能については、eSATA ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

必ず内蔵ハードディスクすべてを取り外してから電源を入れてください。内蔵ハードディスクが接続されている状態で電源を入れると、eSATA ハードディスクから起動できず、復旧することができません。



- 6 本製品の [電源] ボタンを押します。
[STATUS] ランプが緑点滅になります。
このあと、[STATUS] ランプが赤点滅に変わり、ブザーが 1 秒間隔で鳴り続けます。
これは内蔵 HDD が接続されていないため、ミラーリングが「異常」状態で起動したためですが、問題ありません。



ご注意

ブザーを止めるには、前面の [FUNC.] ボタンを押してください。ブザーが約 1 秒間隔で鳴る (約 1 秒間に 1 回鳴る) 場合は、eSATA ハードディスクから起動できていますが、ブザーが約 0.5 秒間隔で鳴る (約 1 秒間で 2 回鳴る) 場合は、eSATA ハードディスクから起動できていない可能性があります。

[FUNC.] ボタンを押して、いったんブザーを止めた後、以下をご覧ください。

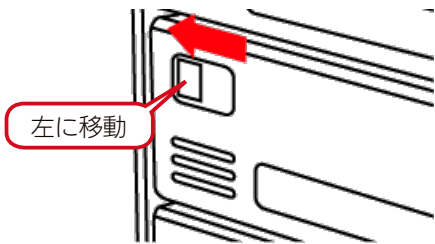
【[ミラーディスクの取り外し]を行った eSATA ハードディスクから起動できない】(27-204 ページ)

7 カートリッジを1台ずつ順に取り付けます。
カートリッジをスロットの奥まで挿入します。

ご注意

同時に複数台取り付けないでください。
各カートリッジの接続が正常に認識されたかどうかは、カートリッジの[ACCESS]ランプを確認してください。[ACCESS]ランプが青点灯になったら、次のカートリッジを取り付けるようにしてください。[ACCESS]ランプが青点灯になっていない状態で、別のカートリッジを取り付けると、正しく構築できない場合があります。

8 取り付けカートリッジの[スライドスイッチ]を左側([LOCK])に移動させます。
[ACCESS]ランプが青点灯になるまでお待ちください。



9 2台目以降のカートリッジも同様に取り付け、4台ともすべて取り付けます。

10 ● HDL-XRシリーズの場合
添付のロックキーを[カートリッジ固定LOCK]に挿し、反時計回りにまわして、[LOCK]にします。
● HDL-XR2Uシリーズの場合
フロントカバーを取り付けて、添付のロックキーでLOCKを時計回りにまわして、[LOCK]にします。

11 すべてのカートリッジの[ACCESS]ランプが青点灯となっていることを確認した後、Webブラウザから本製品の設定画面を開きます。

12 [詳細設定]から、[ディスク設定]→[ボリューム操作]をクリックします。



13 [eSATA ボリューム] → [eSATA から内蔵へミラーリング開始]を選択後、[実行]ボタンをクリックします。



14 [設定する]ボタンをクリックします。



15 本製品の[STATUS]ランプが点灯し、結果画面が表示されたら、ミラーリング設定完了です。
続けてミラーリング再構築がおこなわれます。
再構築が完了すれば、システムの復旧はすべて完了です。
構築中は、[STATUS]ランプが緑点灯、4つの[ACCESS]ランプはすべて青点滅します。
構築状況は、[情報表示]の[ボリューム情報]画面の[eSATA ボリューム]の[状態]情報で確認することができます。
[再構築中]の表示が、[正常動作]の表示となれば、構築終了です。
※再確認するには、[情報表示] → [ボリューム情報]をクリックしてください。一度開いた[ボリューム情報]画面の情報は、再度[ボリューム情報]画面を開かないと更新されません。

以上の操作で、eSATAハードディスクからシステムが復旧されます。

リモートリンク機能

iobb.net

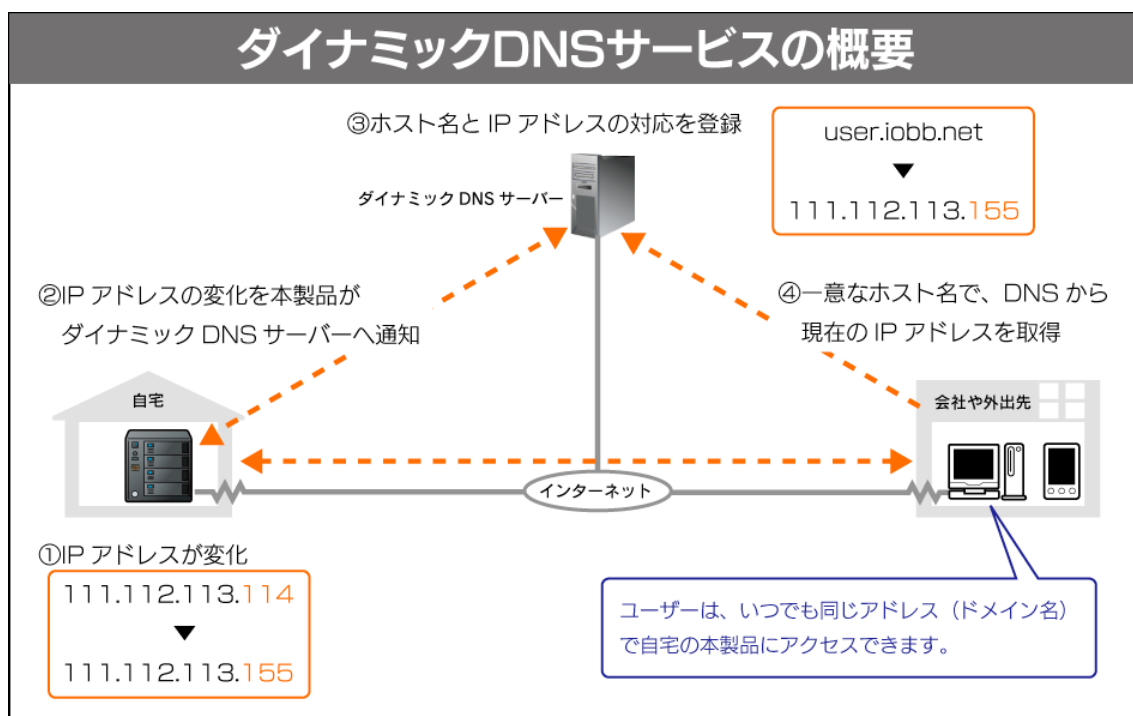
●本製品のリモートリンク機能を使用する場合の注意

弊社（I-O DATA）が提供するダイナミック DNS サービス「iobb.net」について説明します。

リモートリンク機能を使用するには、弊社が提供するダイナミック DNS サービスである「iobb.net」を使用します。

ダイナミック DNS とは、仮想サーバーなどを公開する場合に、IP アドレスを指定せずにドメイン名で指定できるようにする機能です。

接続するたびに IP アドレスが変わってしまう場合でも、ダイナミック DNS サービスを利用すれば、常にドメイン名でアクセスできます。



ご注意

- ご利用にはプロバイダーよりグローバル IP が配布される環境が必要です。
- 複数のルーターが存在している環境ではご利用いただけない場合があります。
- 本製品は「iobb.net」以外のダイナミック DNS サービスには対応していません。
- アクセスしようとしているサーバーと同じ LAN 内でのパソコンからはドメイン名ではアクセスできません。外部の別のネットワークからドメイン名でアクセスできる事をご確認ください。
サーバーと同じ LAN 内から接続する場合には、ローカル IP アドレスでアクセスしてください。
- リモートリンク機能をご利用になる場合は、FTTH(光)、ADSL、CATV 等のブロードバンド回線をご用意ください。
- 必ず LAN ポートをインターネットに接続してください。EXT ポートで接続した場合、機能をご利用いただけません。
- 本機能は IPv4 ネットワークでのみ使用できます。

● iobb.net に登録する

ステップ 1 本製品を設定する

- 1 設定画面の [サービス] タブをクリックし、[iobb.net] をクリックします。
- 2 現以下の順に設定します。
 - ① [iobb.net へ登録・更新] を [有効] にチェックをつけます。
 - ② [シリアル No] に本製品のシリアル番号 (12 桁の英数字) を入力します。
※本製品貼付のシールに記載されています。
 - ③ [ホスト名] に iobb.net に登録するホスト名を入力します。
※ここで登録するホスト名が iobb.net で登録するドメイン名「http://(ホスト名).iobb.net/」となります。
 - ④ [パスワード]、[パスワード (確認)] に iobb.net に登録するパスワードを入力します。
※ iobb.net の登録情報の確認、変更の為に必要です。
パスワードは確認のため、2 回入力してください。
 - ⑤ [メールアドレス] に iobb.net から送信される登録通知メールを受信するメールアドレスを入力します。
※ iobb.net は仮登録と本登録があり、それぞれ入力したメールアドレス宛に通知メールが送られます。
 - ⑥ [UPnP 機能利用] の [使う] にチェックをつけます。
※ UPnP 機能はリモートリンクを利用する上で必要な機能です。
 - ⑦ 必要な項目を入力したら、[確認する] ボタンをクリックします。



ご注意

使用できる文字については、【文字制限一覧】(25-157 ページ)をご覧ください。

- 3 入力内容が表示されますので、確認の上、[OK] ボタンをクリックします。
→ iobb.net の登録処理が始まります。

4 しばらくすると、以下のような画面が表示されます。



これで仮登録は完了です。

ご注意

- 画面にエラーが表示される場合は、エラー内容にしたがって、入力し直し、再度 [確認する] ボタンをクリックしてください。
- 一部の環境では、LAN DISK の設定画面から UPnP 機能を使用してポート設定ができないことがあります。
この場合は、設定画面から UPnP 機能を使わないを選び、お使いのルーターの設定画面より手動でポートを開放の設定をしてください。
ポートの開放方法については、お使いのルーターの取扱説明書を参照してください。
※「ポートの開放」はお使いのルーターによって、「ポートフォワードリング」や「仮想サーバー」などと表記される場合があります。

ステップ2 登録する

1 iobb.net より受付確認の通知メール (件名:ダイナミック DNS サービス「iobb.net」申込みのご案内 (xxx.iobb.net)) が送信されますので、通知メールの内容にしたいが、登録手続きを進めてください。

lnishino@iodata.jp 様

この度は、アイ・オー・データ機器提供のダイナミックDNSサービス「iobb.net」へお申し込み頂きありがとうございます。

本メールは、「ダイナミックDNSサービス」の受付確認メールです。

「ダイナミックDNSサービス」の登録にお心当たりがない場合は、お手数ですがこのメールを削除してください。

今回お申し込みのホスト名は「iob55io.iobb.net」です。仮申し込みの状態ですので、ダイナミックDNSサービス開始をご希望の方は、「2012-12-13 18:20:49」までに、下記のリンクをクリック、またはブラウザで開いてください。この期間を過ぎますと、ホスト名: iob55io.iobb.net の利用権利はなくなりますので、ご注意ください。

(ただしこの操作は、1回のみとさせていただきます。
ダイナミックDNSサービス「iobb.net」開始のご案内メールを差し上げます。)
http://www.iobb.net/cgi-bin/dns_s/cgi/registdns.cgi?host=iob55io.iobb.net&wd=18365®=1

3 ダイナミック DNS サービス開始のご案内メールが送信されます。お申込み完了後、設定画面に戻ると、以下のように表示されます。



IO Portal サイトから登録情報の確認と変更が行えます。

<https://ioportal.iodata.jp>

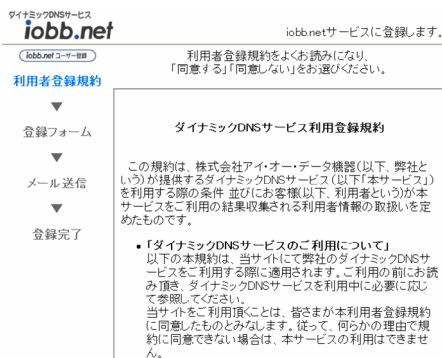
(サイトにアクセスする際、登録した製品シリアル番号とパスワードの入力が必要です。)

これで、iobb.net の登録は完了しました。

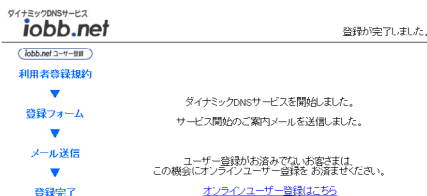
次に【リモートアクセス】(15-107 ページ) の設定を行ってください。

ご注意
仮登録後 1 時間経つと、ホスト名の利用権利はなくなりますのでご注意ください。

2 登録フォームの指示にしたがって、iobb.net の本登録を行います。



▼次のように表示されたら、iobb.net の登録は完了です。



ご注意
仮登録完了後、改めて設定画面 (iobb.net 設定) を開くと、「更新に失敗しました」と表示されますが、本登録が済んでいないためです。本ページの本登録を完了してください。



リモートアクセス

ご注意

- 【iobb.net】(15-104 ページ) への登録作業を行わないと、リモートアクセス機能はお使いいただけません。
- 同時に3ユーザーまで、リモートアクセスにログオンできます。
- 本製品では、マイウェブサーバー機能、ホームメディアリンク機能はお使いいただけません。

●リモートアクセスの設定を行う

本製品の共有フォルダーを「公開フォルダー」として設定することで、インターネット経由で外部からファイルにアクセスできる「リモートアクセス機能」を以下の方法で設定します。

ご注意

Microsoft ネットワーク共有が有効になっていないと、リモートアクセスは有効に設定できません。

無効にした場合は、[サービス設定]→[サービス設定]の[Microsoft ネットワーク共有]を有効に設定しておいてください。

【サービス設定】(26-185 ページ)

- 1 設定画面の[サービス設定]をクリック、[リモートリンク]をクリックします。



- 2 以下の順に設定します。
- ① [リモートアクセス]を[有効]にします。
 - ② [ポート番号]にリモートアクセスに使用するポート番号を入力します。
 - ③ リモートアクセスを有効にする共有フォルダーにチェックをつけます。
 - ④ [確認する]ボタンをクリックします。



設定について

- ポート番号は、通常、初期設定値から変更する必要はありません。ただし、同一ネットワーク上で複数のLAN DISK でリモートアクセスを使用する場合は、それぞれ異なるポート番号を設定する必要があります。

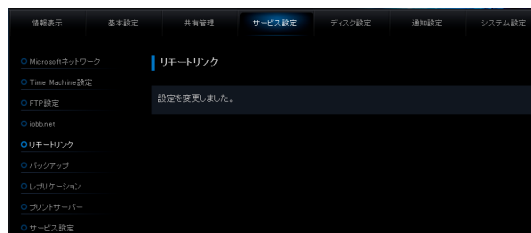
- 3 入力内容が表示されますので、確認の上、[設定する]ボタンをクリックします。

→リモートアクセスの設定処理が始まります。

※リモートアクセス共有のアクセス権はフォルダーに設定されたMicrosoft ネットワーク共有のアクセス権限に依存します。



次のような画面が表示されたら、設定完了です。



これで、リモートアクセスの設定は完了しました。

次ページ以降で、リモートアクセスでの操作を説明していますのでご確認ください。

●インターネット経由で共有フォルダーにアクセスする

インターネットから、リモートアクセス機能にて LAN DISK 内のファイルにアクセスする手順について説明します。

リモートアクセスにログインするユーザーを確認 / 登録する

リモートアクセスは、リモートアクセスクライアントをリモートリンクスタートページから実行します。このとき LAN DISK に登録されているユーザーでリモートアクセスクライアントにログインします。

LAN DISK に登録されているユーザーを確認するには、設定画面の [共有] タブから、[ユーザー管理] ボタンをクリックし、表示されるユーザー一覧を確認してください。

また、ユーザーが登録されていない場合は、新規ユーザーボタンよりユーザーを新規登録してください。

リモートアクセスを開始する

1 Web ブラウザーで次のリモートリンクスタートページを開きます。
<http://rm.iobb.net/>

2 リモートリンクスタートページの [リモートアクセス] ボタンをクリックします。
 しばらく待つとリモートアクセスクライアントが起動します。



ご注意 (Mac OS の場合)

●リモートアクセスクライアントが起動しない場合は、以下のよう
 に設定してください。

① [ダウンロード] をクリック

② [rm_access.jnlp] をダブルクリック

③-A [開く] があれば、クリック

③-B [OK] があれば、クリック

リモートアクセスが起動します

④ [システム環境設定] → [セキュリティとプライバシー] を開く

⑤ カギをクリック

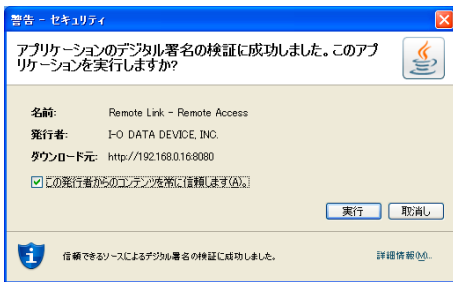
⑥ [すべてのアプリケーションを許可] を選ぶ

⑦ [すべてのアプリケーションを許可] をクリック

左上の【リモートアクセスを開始する】を手順1から進める

ご注意

●次のような画面が表示された場合は、「この発行社からのコンテンツを常に信頼します」にチェックをつけて「実行」ボタンをクリックしてください。

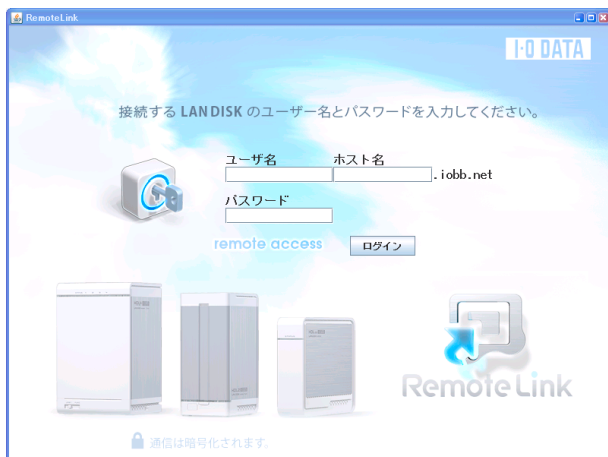


●次のような画面が表示された場合は、【Java Runtime Environmentをインストールする】(15-110 ページ)をご覧ください。お使いのパソコンにインストールしてください。



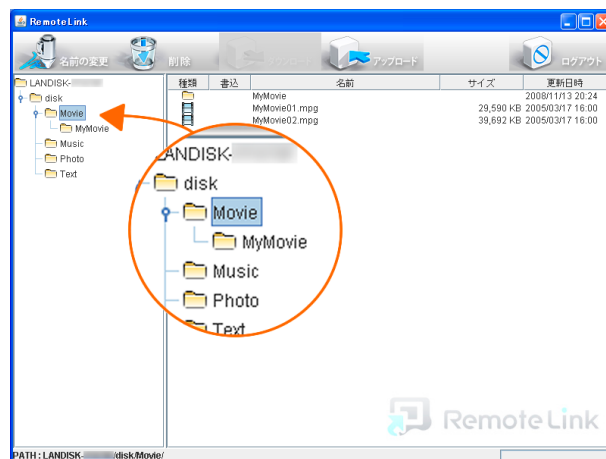
3

- リモートアクセスクライアントにログインします。
- ① [ユーザー名]に、LAN DISK に登録したユーザー名を入力します。
 - ② [ホスト名]に、LAN DISK の iobb.net 設定で登録したホスト名を入力します。
 - ③ [パスワード]に、LAN DISK に登録したユーザーのパスワードを入力します。
※ iobb.net 登録時のパスワードではありません。
 - ④ [ログイン] ボタンをクリックします。



公開するフォルダーを参照する

公開するフォルダーがツリー構造で表示されます。



【参考】

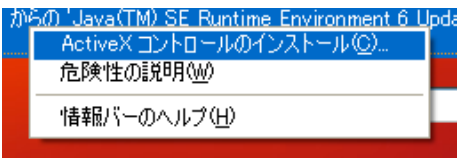
Java Runtime Environment をインストールする

1 次のサイトで、Java Runtime をダウンロードします。
<http://www.java.com/ja/download>



ご注意

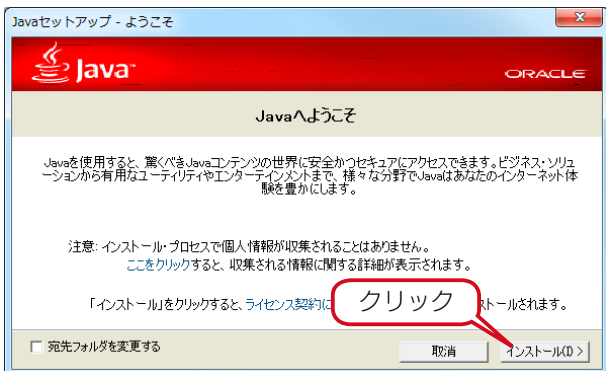
自動的にダウンロードが開始されずに、エラーが発生した場合は、Web ブラウザーのアドレス表示部下の帯部分を右クリックして、「ActiveX コントロールのインストール」をクリックします。



2 以下のような画面が表示された場合は、[インストールする] ボタンをクリックします。



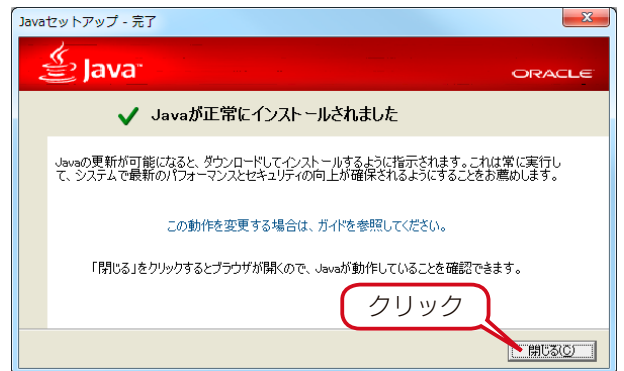
3 ライセンス契約を確認の上、[インストール] をクリックします。



4 オプションソフトウェアのインストールが選ばれます。リモートリンク機能を使用する上で、このソフトウェアは必要ないので、チェックボックスのチェックを外して、[次へ] ボタンをクリックします。



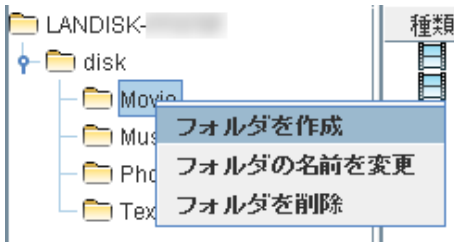
5 以下の画面で[閉じる] ボタンをクリックしたら、Java Runtime のインストールが完了です。



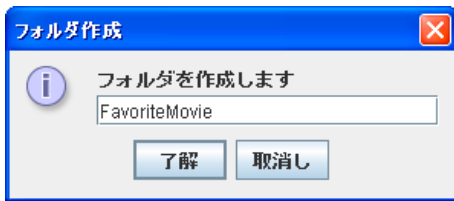
●使用方法

フォルダーを作成する

- 1 フォルダーを右クリックし、表示されたメニューから [フォルダーを作成] をクリックします。



- 2 名前を入力し、[了解] ボタンをクリックします。



ファイルやフォルダーの名前を変更する

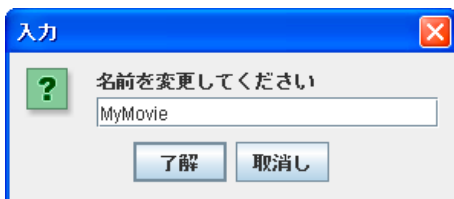
- 1 [名前の変更] ボタンをクリックします。



ファイル/フォルダーを選択して、右クリックメニューでも実行できます。



- 2 名前を入力し、[了解] ボタンをクリックします。



ご注意

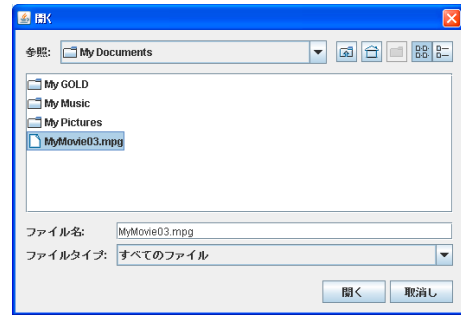
使用できる文字については、【文字制限一覧】(25-157 ページ) をご覧ください。

ファイルをアップロードする

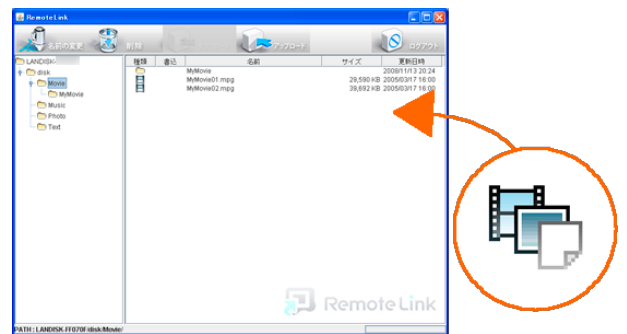
- 1 [アップロード] ボタンをクリックします。



- 2 表示されるファイルダイアログからアップロードするファイルを選択し、[開く] ボタンをクリックします。ファイルが LAN DISK 内にアップロードされます。



ファイルのアップロードはドラッグ & ドロップでもできます。






ご注意

- フォルダーごとにアップロードすることはできません。フォルダーを作成後、作成したフォルダー内にファイルをアップロードしてください。
- すでにアップロードされているファイルを再度アップロードして上書きすることはできません。すでにアップロードされているファイルを削除して、再度アップロードしてください。

ファイルをダウンロードする




1 ダウンロードするファイルを選択します。

種類	書込	名前
		MyMovie
		MyMovie01.mpg
		MyMovie02.mpg

2 [ダウンロード] ボタンをクリックします。



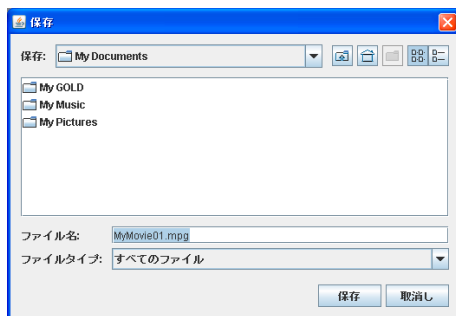
ファイルを選択して右クリックメニューでも実行できます。

種類	書込	名前
		MyMovie
		MyMovie01.mpg
		MyMovie02.mpg

右クリックメニュー:

- ダウンロード
- 名前の変更
- 削除

3 表示されるファイルダイアログからファイルのダウンロード先を選択し、[保存] ボタンをクリックします。






ご注意

- フォルダーごとにダウンロードすることはできません。フォルダーを作成後、作成したフォルダー内にファイルをダウンロードしてください。
- ファイルのダウンロードはドラッグ & ドロップで行えません。

ファイル / フォルダを削除する




1 削除するファイル / フォルダを選択します。

種類	書込	名前
		MyMovie
		MyMovie01.mpg
		MyMovie02.mpg

2 表示されるファイルダイアログからアップロードするファイルを選択し、[開く] ボタンをクリックします。ファイルが LAN DISK 内にアップロードされます。



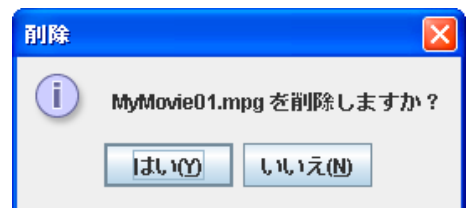
ファイル / フォルダを選択して、右クリックメニューでも実行できます。

種類	書込	名前
		MyMovie
		MyMovie01.mpg
		MyMovie02.mpg

右クリックメニュー:

- ダウンロード
- 名前の変更
- 削除

3 [はい] ボタンをクリックすると、削除されます。



Time Machine

本製品の特定の共有フォルダーを、Mac OS X 10.5以降で使用できるTime Machine機能のバックアップディスクとして使用できるようにします。

ご注意

- Time Machine 設定をおこなうと、設定した保存先共有フォルダーに次のファイル・フォルダーが自動的に作成されます。
.com.apple.timemachine.supported (Macintosh のコンピューター名)_(Macintosh の MAC アドレス).sparsebundle
これらのファイル・フォルダーは Time Machine を動作させるために必要ですので、削除しないでください。
- Time Machine 設定を無効にして使用しなくなった場合は、上記のファイル・フォルダーは削除しても構いません。

本製品の設定をする

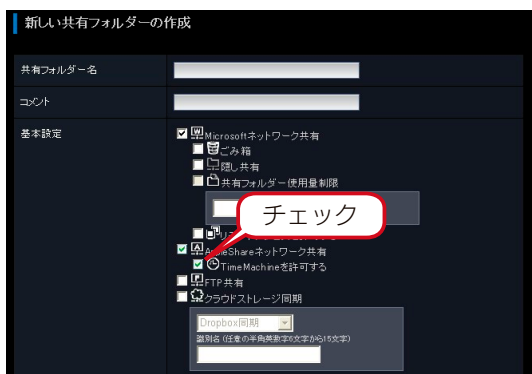
- 1 [詳細設定] から、[共有設定] → [共有フォルダー設定] をクリックします。



- 2 保存先共有フォルダーを新規作成する場合は、[新規追加] ボタンをクリックします。
既存のフォルダーを保存先共有フォルダーに設定する場合は、[編集] ボタンをクリックします。



- 3 Time Machine 機能で使用する共有フォルダーの設定をします。
[TimeMachine を許可する] にチェックをつけます。
※他の設定項目については、【[新しい共有フォルダーの作成] 画面】(7-49 ページ) をご覧ください。



以上で、本製品側の設定は完了です。

Mac OS 側の設定をする

- 1 [システム環境設定] → [Time Machine] を開きます。

- 2 スイッチを[入]にします。

- 3 保存先ディスクを選択する画面が開きますので、本製品の保存先共有フォルダーを指定します。

以上で、設定は完了です。

UPS 装置を接続する

UPS 装置を接続する

UPS 装置を接続する

ご注意

- 最新の対応機器は、弊社製品ホームページをご覧ください。
- UPS 装置を電源コンセントに、本製品を UPS 装置のバックアップ出力コンセントに、正しく接続してください。
- 本製品の電源が入っている場合に UPS の接続・取り外しをおこなう場合は、30 秒以上間隔をあけてください。

1 UPS 装置の電源を入れ、UPS 装置が起動することを確認します。

2 本製品の USB ポートに UPS 装置を接続します。
本製品の電源が ON の状態でも接続できます。

以上で接続は完了です。

次に正しく接続されているかを確認します。

UPS 装置の接続を確認する

1 [詳細設定]から、[情報表示]→[システム情報]をクリックします。

2 「UPS 接続状態」で「正常」と表示されることを確認します。

ご注意

- 「UPS 接続状態」で「未接続」と表示される場合
→UPS と本製品の接続をご確認ください。
- 「UPS 接続状態」で「バッテリー動作」と表示される場合
→停電のため UPS のバッテリーによる動作状態と考えられます。

UPS 警告機能を有効にする

本製品と UPS 装置の接続状態を監視し、以下の状態を [STATUS] ランプやブザーでお知らせします。

- ・システム起動時に、UPS 装置が接続されていない状態を検知
- ・システム稼動中に、UPS 接続ケーブルが抜けたことを検知

UPS 装置を接続する

1 [詳細設定] から、[システム設定] → [UPS 設定] をクリックします。



2 [UPS 警告機能] の [有効] を選択し、[確認する] ボタンをクリックします。



3 内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。

以上で、設定は完了です。

便利な使いかた

- [通知設定] → [イベント通知設定] → [UPS 警告] を設定すると、UPS 警告メールを送信したり、1 時間に 1 回、定期的に再警告をおこなうことができます。
- 「AC 電源復旧時の自動起動」を「自動起動する」に設定しておくと、停電から復旧した際に本製品を自動起動させることができます。

ご注意

- 停電時、「停電後の経過時間」にて設定された時間よりも早く、UPS 装置のバッテリー残容量が約 30% 以下となった場合もシャットダウンします。
- 本製品は停電時のシャットダウンの際、UPS 装置にシャットダウン信号を送ってシャットダウンします。UPS 装置はシャットダウン信号を受信後、数分後に電源出力コンセントの出力を停止しますので次をお守りください。
 - ・ 停電中には本機器の電源を手動では投入しないでください。
 - ・ 停電から復帰した場合でも、UPS がシャットダウン処理中の場合もあります。本機器の電源を投入するときは、UPS がシャットダウン処理から復帰していることをご確認ください。
- 停電から復旧して 10 分経過しても本製品が自動起動しない場合は、電源ボタンを押して起動してください。

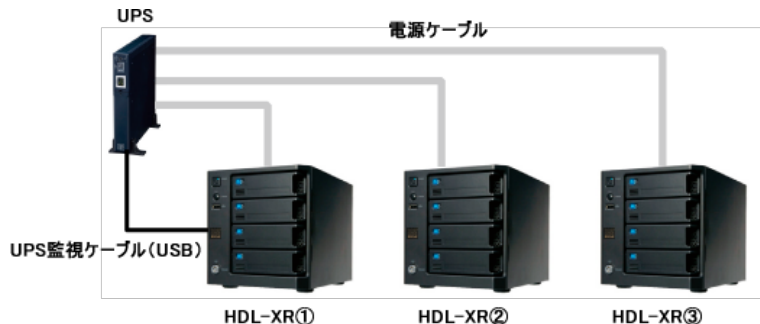
ネットワークシャットダウン機能を有効にする

UPS 装置を接続すると、停電時に本製品を自動的にシャットダウンすることができます。

ひとつの UPS 装置に複数の HDL-XR シリーズの電源を接続して使用する場合、ネットワークシャットダウン機能を設定することにより、UPS 接続ケーブルを接続していない HDL-XR シリーズも停電時のシャットダウンを同時に行うことができます。

下の例では、HDL-XR ①に [UPS 監視ケーブル (USB)] を接続し、UPS を監視しています。

停電時には、HDL-XR ①からのシャットダウンコマンドを受けて、HDL-XR ②、③もシャットダウンを実行します。



ご注意

●ネットワークシャットダウン（スレープ）の LAN DISK シリーズは、ファームウェアバージョンが対応している必要があります。

ネットワークシャットダウン（スレープ）対応機器の情報については、弊社製品ホームページをご覧ください。

<http://www.iodata.jp/pio/io/nas/landisk/function.htm>

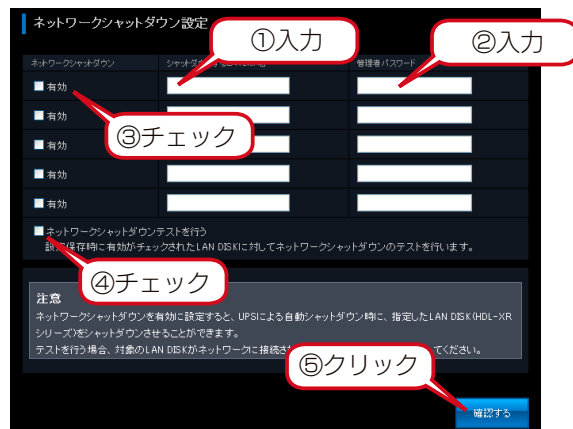
●停電時、ハブなどのネットワーク機器が正しく動作しないなどの要因で、ネットワークシャットダウン設定を行った HDL-XR シリーズから、ネットワークシャットダウン先の HDL-XR シリーズへのネットワークアクセスができない場合、ネットワークシャットダウンは実行できません。ネットワークシャットダウンを行う場合、ネットワーク経路上のすべてのネットワーク機器について、UPS による電源保護する必要があります。

1 [詳細設定] から、[システム設定] → [UPS 設定] をクリックします。



2 [ネットワークシャットダウン設定] で次の設定をします。

- ①停電時にシャットダウンする [LAN DISK 名] (または IP アドレス) を入力します。
- ② [管理者パスワード] を入力します。
- ③ [有効] にチェックをつけます。
- ④設定が正しいかどうかテストするために、ネットワークシャットダウンを実行する場合は、[ネットワークシャットダウンテストを行う] にチェックをつけます。
- ⑤ [確認する] ボタンをクリックします。



3 内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。

以上で、設定は完了です。

ご注意

ネットワークシャットダウンテストをおこなうと、指定した LAN DISK は実際にシャットダウンをおこないます。ネットワークシャットダウンテストをおこなう場合は、対象の LAN DISK がネットワークに接続され、電源が ON になっていることを確認してください。

FTP 共有

本製品での FTP 共有機能

FTP 共有サービスにより、「FTP 共有」オプションを有効に設定した共有フォルダーに、FTP クライアントよりアクセスすることができます。

FTP 共有サービスを利用して本製品にアクセスする際の権限は、共有フォルダーに設定したアクセス権設定により以下のようになります。

本製品の FTP 共有サービスに、「anonymous」ユーザーでアクセスする場合	<ul style="list-style-type: none">共有フォルダーの詳細アクセス権設定を無効にした共有フォルダーにアクセスできます。共有フォルダーの読み取り専用オプションをチェックしている場合は、ダウンロードのみ可能です。共有フォルダーの読み取り専用オプションを未チェックの場合は、ダウンロード / アップロードができます。
本製品の FTP 共有サービスに、本製品に登録したユーザーでアクセスする場合	<ul style="list-style-type: none">本製品に登録したユーザー名とパスワードで FTP 共有に接続できます。登録したユーザー名、もしくは、登録したユーザーが含まれるグループ名に設定したアクセス権にしたがってアクセスできます。 読み取り → ダウンロードのみ可能 読み書き → ダウンロード / アップロードが可能 <p>ただし、共有フォルダーの読み取り専用オプションをチェックしている場合は、上記の設定にかかわらず、ダウンロードのみ可能です。</p>

FTP 共有を有効にする

1 [詳細設定] から、[サービス設定] → [サービス設定] をクリックします。



2 [FTP共有] の [有効] を選択し、[設定する] をクリックします。



ご注意

[Microsoft ネットワーク共有] の [共有フォルダー使用量制限] を有効にしている場合は [FTP共有] を有効にできません。

3 内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。

4 [詳細設定] から、[サービス設定] → [FTP設定] をクリックします。

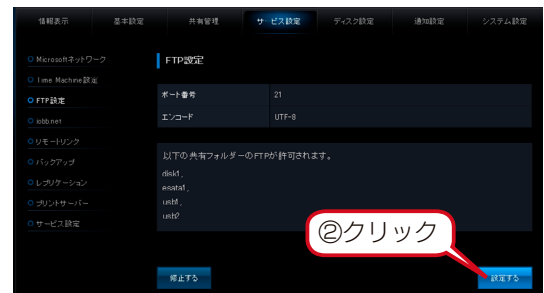


5 各項目を設定し、[確認する] をクリックします。



ポート番号	ネットワーク環境に応じて変更してください。通常は変更する必要はありません。
エンコード	接続するFTPクライアントによっては、ファイル名が文字化けする場合があります。使用するクライアントに合わせてエンコードを選択してください。
共有フォルダーリスト	FTP共有を許可する共有フォルダーにチェックします。

6 内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。



以上で、設定は完了です。

FTP クライアントから接続する

FTP クライアントからのご利用について

詳細アクセス権を設定している場合

作成した FTP 用の共有フォルダーに保存されているファイルを FTP 経由でダウンロードできます。アクセス許可設定したユーザー / グループに限りアクセスできます。FTP クライアントから接続するには、下記のユーザー名、パスワードでログオンしてください。
ユーザー名：設定したユーザー名
パスワード：設定したパスワード
アップロードしたファイルの使用量は、ログオンしたユーザー、およびユーザーのプライマリーグループに加算されます。

【使用量制限】(8-63 ページ)

詳細アクセス権を設定していない場合

作成した FTP 用の共有フォルダーはネットワーク経由で誰でもデータをダウンロード / アップロードできるようになります。FTP クライアントから接続するには、下記のユーザー名、パスワードでログオンしてください。

ユーザー名：anonymous もしくは ftp
パスワード：任意

anonymous もしくは ftp ユーザーでファイルをアップロードした場合のファイルの使用量はゲストユーザーに加算されます。

公開フォルダーについて

- ログイン直後はフォルダーの最上位階層 (/) が見えます。
このフォルダーや sataraid1 フォルダーには、フォルダーを作成したりファイルを保存することはできません。
- 内蔵ボリューム上に作成した共有フォルダーは、以下のフォルダーに公開されます。
/sataraid1 / 作成した共有名
- eSATA ポートに接続した eSATA ハードディスクは、FTP で公開すると、以下のようにアクセスできます。
/esata1
- USB ポート 1 に接続した USB ハードディスクは、FTP で公開すると、以下のようにアクセスできます。
/usb1
- USB ポート 2 に接続した USB ハードディスクは、FTP で公開すると、以下のようにアクセスできます。
/usb2

```
/ ---+--- sataraid1---+--- 作成した共有名 1
|
|      +--- 作成した共有名 2
|      +--- ...
|
|
+-- esata1
|
+-- usb1
|
+-- usb2
```

FTP クライアントソフトについて

本製品に FTP でアクセスするには、FTP クライアントソフトが必要となりますので、別途ご用意ください。なお、Windows 標準の FTP 機能を使用する場合は、右をご覧ください。

ご注意

ご使用になる FTP クライアントソフトのサポートする文字コードにあわせて、[サービス設定] → [FTP 設定] のエンコードを選択してください。

日本語ファイル名を取り扱う場合は、Shift-JIS もしくは UTF-8 の文字コードに対応した FTP クライアントソフトをご利用ください。

Windows 標準の FTP 機能を使用する場合

※ Windows 標準の FTP 機能の詳細な操作方法や不明点は、各パソコンメーカーへお問い合わせください。

ここでは、Windows の FTP コマンドによるアクセスの例を説明します。

1 あらかじめ本製品の「FTP 設定」のエンコードを「Shift-JIS」に変更しておいてください。

2 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [コマンドプロンプト] をクリックします。

3 コマンドプロンプトのカレントカレントディレクトリを FTP でアップロードするファイルを保存したフォルダー、または FTP でダウンロードしたファイルを保存するフォルダーに移動します。
C: ¥FTP フォルダーにカレントディレクトリを移動する場合
> cd c: ¥ftp

4 コマンドプロンプトに以下のように入力します
>ftp xxx.xxx.xxx.xxx
※「xxx.xxx.xxx.xxx」の部分は、同一 LAN 内から接続する場合は本製品の IP アドレスを入力します。

5 ユーザー名、パスワードを入力します。
アクセスする共有フォルダーへのアクセス権を持ったユーザー名とパスワードを入力してください。
※詳細アクセス権設定していない共有フォルダーへのアクセスには以下のユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名：anonymous もしくは ftp
パスワード：任意

6	<p>FTP によるアクセスをおこないます。</p> <p>以下は内蔵ボリューム上の共有フォルダー「disk1」に対する操作例です。</p> <ul style="list-style-type: none">●ファイルのアップロード ftp > cd /sataraid1/disk1 ftp > put アップロードするファイル名●ファイルのダウンロード ftp > cd /sataraid1/disk1 ftp > get ダウンロードするファイル名●FTP アクセスを終了 ftp > bye
----------	--

ご注意

- エクスプローラーまたは、Internet Explorer のアドレスバーで ftp://xxx.xxx.xxx.xxx/ (xxx.xxx.xxx.xxx の部分は、本製品の IP アドレス) や ftp://LAN DISK の名前/ でアクセスした場合、全角文字が文字化けした状態で表示される場合があります。これらの FTP クライアントをご利用になる場合は、共有フォルダー名・フォルダー名・ファイル名は、半角英数文字のみご使用ください。
- FTP 共有機能を使用すると、フォルダーやファイル名が文字化けしてしまう場合は、以下をご覧ください。
【FTP 共有機能を使用すると、フォルダーやファイル名が文字化けしてしまう】(27-230 ページ)

Microsoft ネットワーク共有サービスアクセスログ

本製品に対してどのような操作をおこなったかを記録することができます。

ファイルの参照・作成・編集などのアクセス記録がリアルタイムに記録されます。

また、管理者宛にメールでログを一括転送するように設定できますので、監査記録として利用することができます。

アクセスログを有効にする

- 1 [詳細設定] から、[サービス設定] → [サービス設定] をクリックします。



- 2 Microsoft ネットワーク共有の [アクセスログを記録] にチェックをつけ、[設定する] ボタンをクリックします。



- 3 内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。

以上で、設定は完了です。

アクセスログを確認する

1 [詳細設定]から、[情報表示]→[アクセスログ]をクリックします。
→ログが表示されます。

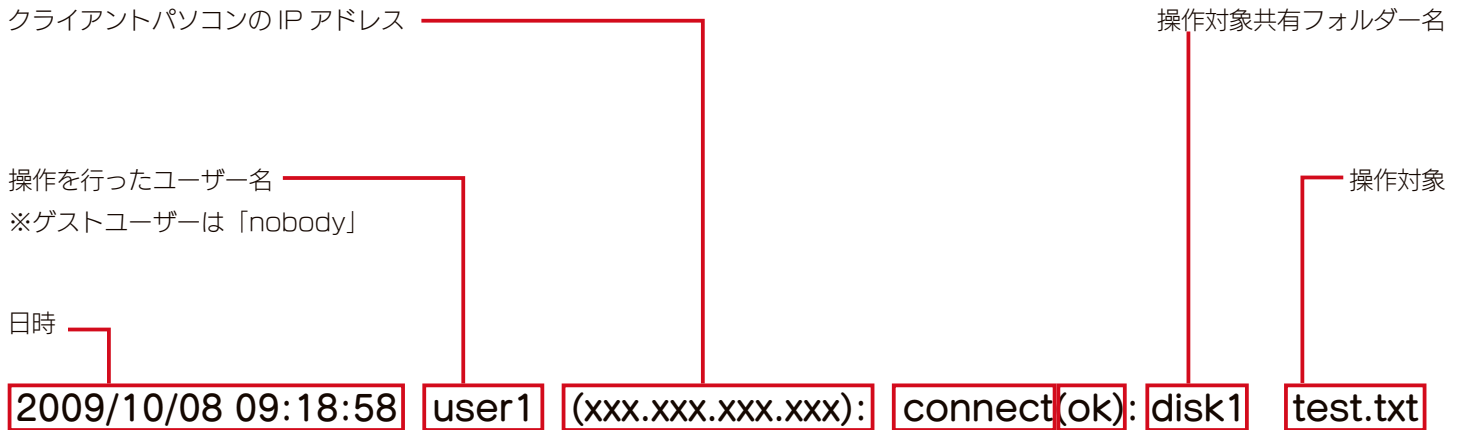


アクセスログをメール送信する

[通知設定]→[イベント通知]設定の「ログ転送」の「メール通知」にチェックを付けてメールアドレスを設定してください。
アクセスログも送信されるようになります。

【通知機能】(20-123 ページ)

アクセスログのリファレンス



クライアントパソコンから行われた操作

connect - クライアント PC が共有フォルダーに接続した
disconnect - クライアント PC が共有フォルダーの接続を解除した
open_read - 対象ファイルを読み込みモードで開いた
open_write - 対象ファイルを書き込みモードで開いた
close - ファイルが閉じられた
mkdir - フォルダー作成時
rmdir - フォルダー削除時
rename - ファイル/フォルダーの名前が変更された
unlink - ファイル削除時

操作結果
ok- 操作成功
fail(yyyy)- 操作失敗

※メールで転送されるアクセスログ形式

行番号, 年, 日付, 時間, ユーザー名, PC の IP アドレス, 操作対象共有フォルダー名, 接続 ID, 操作, 結果, 対象フォルダー・ファイル名

通知機能

メール基本設定

各種情報をメール送信するための設定をおこないます。

本製品でメール通知機能を利用するには、メール基本設定が正しく設定されていることが必要です。

必ずテストメールを送信し、メール基本設定が正しくおこなわれていることを確認してください。

- 1 [詳細設定] から、[通知設定] → [メール基本設定] をクリックします。



- 2 設定をして、[確認する] ボタンをクリックします。



ご注意

SMTP サーバー名には、IPv4 ネットワークで使用できるサーバーを指定してください。IPv6 ネットワーク上のサーバーを使用することはできません。

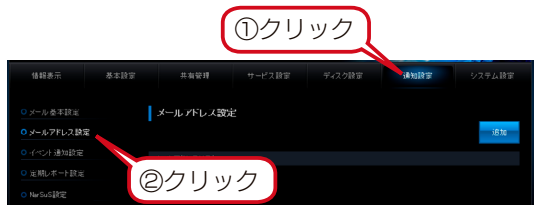
- 3 内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。

SMTP サーバー名	メール送信に利用する SMTP サーバーを設定します。プロバイダーや会社から指定されたサーバー名を入力してください。
SMTP ポート番号	メール送信に利用する TCP ポート番号を指定します。(初期値:25) ご利用のプロバイダーがセキュリティ上の理由で 25 番ポートでのメール送信を遮断している場合は、適切な番号に変更してください。
差出人メールアドレス	送信するメールアドレスの差出人を設定することができます。送信メールサーバーが差出人チェックを実行している場合や、どこから送られてきているのかを明確にしたい場合などに設定します。
メールエンコード	送信するメールのエンコードを選択します。受信するメーラーの設定に合わせてください。
メール送信時認証設定	メール送信時の認証方式を選択できます。指定する SMTP サーバーがサポートしている認証方式を設定してください。
メール通知テスト	テストメールを送信します。送信先のメールアドレスを入力します。

メールアドレス設定

メール通知設定に登録する個々のメールアドレスに対して、基本設定で設定したメールエンコードとは異なるエンコード送信する場合は、メールアドレス設定にて指定することができます。

1 [詳細設定] から、[通知設定] → [メールアドレス設定] をクリックします。



2 [追加] ボタンをクリックします。



3 追加するメールアドレスを入力し、[確認する] ボタンをクリックします。



4 内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。

イベント通知設定

通知を行いたいイベントを設定します。

メール通知イベントについては【メール通知一覧】(25-166 ページ)を確認してください。

また、本製品でメール通知機能を利用するには、メール基本設定が正しく設定されていることが必要です。

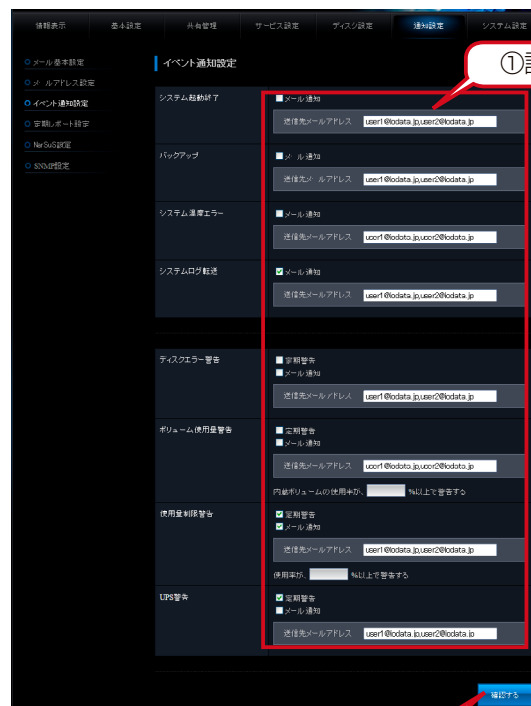
必ずテストメールを送信し、メール基本設定が正しくおこなわれていることを確認してください。

1 [詳細設定] から、[通知設定] → [イベント通知設定] をクリックします。



2 イベントごとに、通知方法と通知先メールアドレスの設定を行います。

定期警告	チェックをつけると、該当の項目のエラーが発生している場合、1 時間ごとにブザー、[STATUS] ランプ、メールによる再通知をおこないます。エラーを解決すると警告は止まります。 エラー内容は、【メール通知一覧】(25-166 ページ)を確認してください。
メール通知	チェックをつけると、エラー発生時および定期警告時に、メールを指定した宛先に送信します。
送信先メールアドレス	送信先のメールアドレスを入力します。 、で区切って入力することで、複数のメールアドレスを指定できます。(文字数は、255 文字まで)



ご注意
[ボリューム使用量警告]と[使用量制限警告]は「定期警告」を有効にしないと「メール通知」を有効にできません。

3 内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。

定期レポート設定

「ボリューム使用量レポート」を有効に設定すると、指定曜日の指定時刻に、内蔵ボリューム使用量のレポートメールを送信します。

使用量制限機能が有効な場合は、ユーザー、グループ、および共有フォルダー別の使用量のレポートもします。

また、本製品でメール通知機能を利用するには、メール基本設定が正しく設定されていることが必要です。必ずテストメールを送信し、メール基本設定が正しくおこなわれていることを確認してください。

1 [詳細設定] から、[通知設定] → [定期レポート設定] をクリックします。



2 レポート送信したい「曜日」「時刻」「送信先」を設定し、[確認する] をクリックします。



3 内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。

NarSuS 設定

弊社サーバーに状態を通知し、サーバー側で稼働状況を監視します。

登録機器の稼働状況を遠隔地でも一瞥で確認できる他、万一のトラブルの際は対処方法についてのガイド表示などがおこなわれます。

ご注意

- 本機能を利用するためには、常時ネットワークに接続しておく必要があります。
- 本機能は IPv4 ネットワークでのみ使用できます。
- インターネット上の Web ページを見るためにプロキシ設定が必要な場合は、あらかじめ [プロキシ設定] を行ってください。
詳しくは、【プロキシ設定をする】(21-131 ページ) をご覧ください。

1 [詳細設定] から、[通知設定] → [NarSuS 設定] をクリックします。



2 [NarSuS 設定] の [有効] を選択して、[確認する] をクリックします。



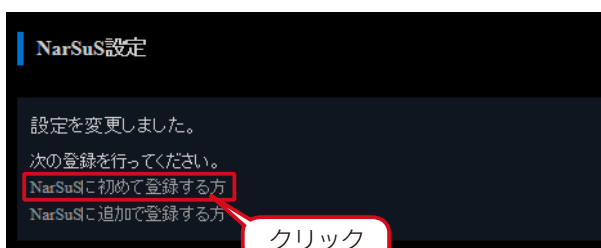
これで有効になりました。

ご注意

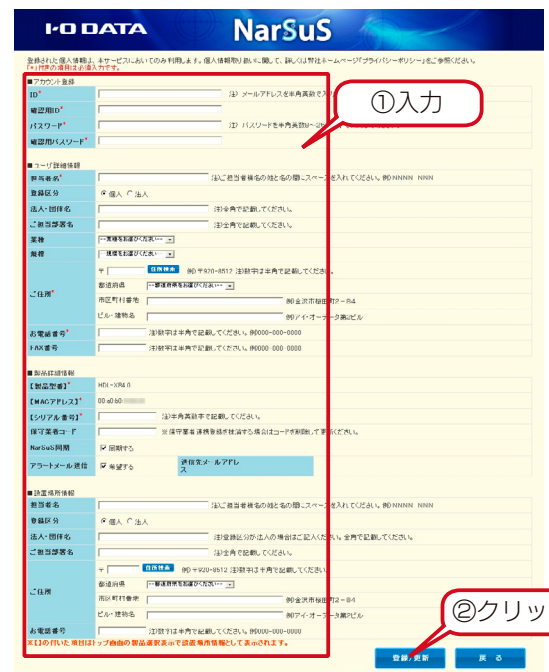
- 設定変更に失敗した場合、本製品がインターネットに接続可能な環境に設置されているか、LAN ケーブルが抜けていないか確認してください。
また、プロキシを介してインターネットへ接続が必要な場合にはプロキシが正しく設定されているか確認してください。
- NarSuS 登録に失敗した場合、お使いの Web ブラウザーのキャッシュ (Cookie) をクリアして再度お試しください。

NarSuS 登録をしていない状態で有効にした場合は、以下にお進みください。

3 [NarSuS に初めて登録する方] をクリックします。
※すでに NarSuS への登録を完了している場合は、[NarSuS に追加で登録する方] をクリックしてください。



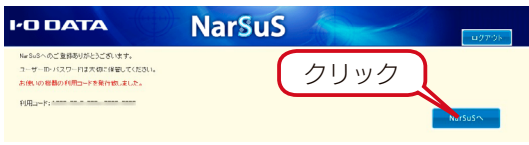
4 画面の指示にしたがって必要事項を入力し、[登録 / 更新] ボタンをクリックします。
※画面例は、新規登録の場合です。



5 内容を確認し、[この内容で登録する] ボタンをクリックします。
※追加登録の場合は、[OK] ボタンをクリックします。
※画面例は、新規登録の場合です。



6 登録完了画面が表示されますので、[NarSuSへ] ボタンをクリックします。
別途、登録通知がメールアドレスに送付されますので、保管しておいてください。



以上で NarSuS 登録は完了です。

SNMP トラップ機能

SNMPトラップ機能を有効にした場合、お知らせに表示される「エラー」や「警告」の状態が発生すると、以下内容のSNMPトラップが送信されます。

バージョン	:	2c
コミュニティ	:	public
トラップOID	:	1.3.6.1.4.1.4615.7.2.1

上記トラップには、メッセージコードと追加情報が付加されます。

メッセージコード

OID	:	1.3.6.1.4.1.4615.7.1.1.1
型	:	INTEGER(整数値)
値	:	お知らせに表示されるメッセージに対応するメッセージコード

追加情報

OID	:	1.3.6.1.4.1.4615.7.1.1.2
型	:	STRING(文字列)
値	:	お知らせメッセージに埋め込まれる追加情報 (エンコード :UTF-8) 追加情報がない場合は、空文字となる。

エラーコード一覧、MIB 情報については、弊社ホームページ「サポートライブラリ」でダウンロードしてください。

※お知らせでは、下記表のメッセージ中 "%s" の部分が追加情報で置き換えられたメッセージが表示されます。

①以下にアクセスし、本製品の型番で検索します。

<http://www.iodata.jp/lib/>

②「ソフトウェアダウンロード」の「SNMP トラップエラーコード一覧」「SNMP MIB 情報」をクリックします。

システム管理

LAN DISK の名前を変更する

1 [詳細設定] から、[基本設定] → [名前設定] をクリックします。

①クリック



②クリック

2 [LAN DISK の名前] を入力して、[確認する] ボタンをクリックします。



①設定

②クリック

3 内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。

以上で、設定は完了です。

日付と時刻を設定する

1 [詳細設定] から、[基本設定] → [日付と時刻の設定] をクリックします。

①クリック



②クリック

2 [日付と時刻] を入力して、[確認する] ボタンをクリックします。
※サーバーと同期する場合は、[同期する] にチェックをつけます。
※ [PC の時刻を設定] ボタンをクリックするとパソコンに設定されている時刻が自動的に入力されます。



①設定

②クリック

3 内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。
※インターネット環境下に接続されている場合は、サーバーと同期するを有効にした場合、設定と同時に同期を開始します。

以上で、設定は完了です。

ネットワークを設定する

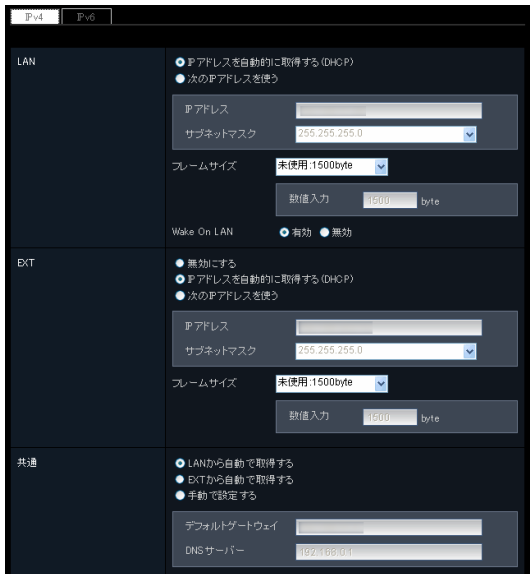
1 [詳細設定] から、[基本設定] → [ネットワーク設定] をクリックします。

①クリック



2 各項目を設定し、[確認する] ボタンをクリックします。
※設定項目については、【ネットワーク設定】(26-174 ページ) をご覧ください。

▼ [IPv4] タブ



▼ [IPv6] タブ



ご注意

- IPv4 と IPv6 のいずれか、または両方を同時に利用できます。
- [フレームサイズ]、[DNS サーバー] は、IPv4 と IPv6 での共通項目です。
- 以下の機能は IPv6 通信に対応していません。
[iobb.net]、[リモートリンク]、[バックアップ]、
[レプリケーション]、[メール通知]、[NarSuS]、
[SNMP トラップ]、[WakeOnLAN]、[Dropbox 同期]、
[Amazon S3 同期]、[Cloud[®] 同期]
- 本製品に IPv6 で接続するには、お使いの OS が IPv6 に対応している必要があります。また、接続方法はお使いの OS やアプリケーションによって異なります。

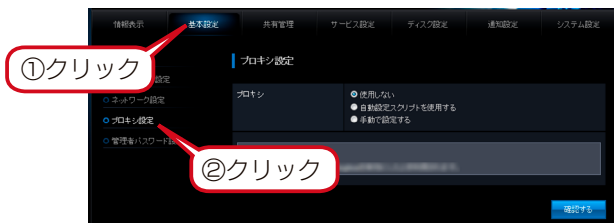
3 内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。

以上で、設定は完了です。

プロキシ設定をする

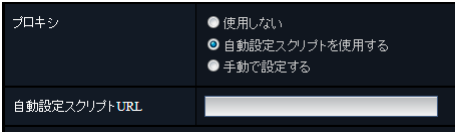
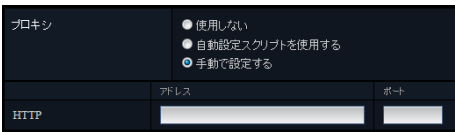
インターネットに接続する際に、プロキシを利用する必要がある場合に設定します。

1 [詳細設定] から、[基本設定] → [プロキシ設定] をクリックします。



2 各項目を設定し、[確認する] ボタンをクリックします。



使用しない	プロキシ設定を利用しません。
自動設定スクリプトを利用する	以下の画面が表示されますので、自動設定スクリプトファイルの URL を入力します。 ※指定する URL については、ご利用のネットワーク管理者に確認してください。 
手動で設定する	以下の画面が表示されますので、プロキシサーバーの [アドレス] と [ポート] を入力します。 ※指定するアドレス、ポートについては、ご利用のネットワーク管理者に確認してください。 

3 内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。

以上で、設定は完了です。

管理者パスワードを変更する

管理者は本製品の全設定や、すべての共有（全員共有、ユーザー共有、グループ共有）にアクセスできる権限を持っています。
※すべての共有にアクセスできるのは Windows パソコンからのみです。他の人にパスワードが漏れないようしっかり管理し、定期的にパスワードを変更してください。

※管理者パスワードは以下の場合に使用します。

- ・本製品の設定画面を開く場合
- ・「Magical Finder」から IP 設定画面を開く場合
- ・管理者として共有フォルダーにアクセスする際のパスワード

ご注意

●パスワードは忘れないようしっかり管理してください。

設定したパスワードを忘れた場合、LAN DISK 稼動時に本製品背面の [RESET] ボタンを押すことにより、管理者パスワードとネットワーク設定が出荷時設定に戻ります。

【出荷時設定に戻す】(22-138 ページ)

●出荷時、パスワードは設定されていません。

1 [詳細設定] から、[基本設定] → [管理者パスワード設定] をクリックします。

①クリック



2 [パスワード] と [パスワード (確認)] に同じ新パスワードを入力して、[設定する] ボタンをクリックします。



以上で、設定は完了です。

シャットダウン / 再起動する

1 [詳細設定] から、[システム設定] → [電源 ON/OFF 設定] をクリックします。

①クリック



2 電源を切る場合は、[シャットダウン実行] ボタンをクリックします。
本製品を再起動する場合は、[再起動実行] ボタンをクリックします。



以上で、設定は完了です。

起動スケジュールを設定する

1 [詳細設定] から、[システム設定] → [電源 ON/OFF 設定] をクリックします。



2 各曜日の起動時間と終了時間を設定し、[確認する] ボタンをクリックします。



3 内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。

以上で、設定は完了です。

ご注意

- 起動スケジュール設定を使用する場合は、電源コンセントに常に接続した状態（電源を切った場合は [POWER] ランプが赤点灯の状態：スタンバイ状態）にしておいてください。電源コンセントから電源コードを取り外した状態では、起動スケジュール機能は動作しません。
- 起動スケジュールによる終了（シャットダウン）に関して、指定した終了時間にアクティブリペアー、バックアップ、リビルドが行われている場合、処理が完了するまで終了しません。
- LAN DISK 本体の時刻を正しく設定してください。

各スイッチを設定する

1 [詳細設定] から、[システム設定] → [スイッチ設定] をクリックします。



2 [リセットボタン]、[FUNC. ボタン] の [有効] / [無効] にチェックをつけ、[確認する] ボタンをクリックします。



3 内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。

以上で、設定は完了です。

ご注意

リセットボタンを無効に設定した場合、リセットボタンによるネットワーク設定の初期化、および管理者パスワードのリセット機能が無効になります。設定した管理者パスワードを忘れた場合、本製品の設定画面を開くことができなくなります。管理者パスワードは厳重に管理してください。

ランプの明るさを設定する

1 [詳細設定] から、[システム設定] → [ランプ設定] をクリックします。



2 [ランプの明るさ] の [明] [中] [暗] にチェックをつけ、[確認する] ボタンをクリックします。



3 内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。

以上で、設定は完了です。

省電力機能を使う

省電力設定にすることにより、一定時間アクセスがなければ内蔵ハードディスクの回転を停止します。これにより電力消費を抑えることができます。また、本製品の省電力機能に対応しているドライブを増設ハードディスクとして使用することにより増設ハードディスクも同時に省電力モードに設定することができます。

1 [詳細設定] から、[システム設定] → [省電力設定] をクリックします。



2 各項目を設定し、[確認] ボタンをクリックします。

時間選択	停止までの時間を変更できます。 「10分後」「15分後」「20分後」「30分後」「1時間後」「なし」から選択できます。
各ボリューム	有効 / 無効：ボリューム毎に有効 / 無効を設定できます。



3 内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。

以上で、設定は完了です。

ご注意

- eSATA ポート、USB ポートに接続した増設ディスクは、省電力機能に対応している場合のみ有効となります。
- 最新の対応機器については、弊社製品ホームページをご覧ください。
- 設定時間内にハードディスクにアクセスしなくても、本製品のシステムがハードディスクにアクセスした場合は、ハードディスクは停止しません。
- ハードディスク停止中にアクセスしなくても、本製品システムからのアクセスによってディスクがスピニングアップする場合があります。
- 冷却ファンは停止しません。
- 本製品を DHCP クライアントモードでご使用の場合、IP アドレスを更新する際に、内蔵ディスクがスピニングアップします。また、ネットワークの通信中やシステム処理のためにディスクアクセスすることがあります。DHCP サーバーのリース時間を長く設定すると、アドレス更新によるスピニングアップ間隔も長くできます。
- 定期的に本製品にアクセスするソフトウェア (例: 弊社製 LANDISK Admin, SightOn など) をお使いいただく場合、本製品の省電力設定を行っても、ハードディスク停止をしない場合があります。

ファームウェアを更新する

ファームウェアは弊社ホームページ (<http://www.iodata.jp/lib>) よりダウンロードできます。

ファームウェアの更新（アップデート）には、新しい機能の追加のほかにも装置の修正など、重要な更新が含まれます。

定期的に弊社ホームページを確認し、最新のファームウェアで本製品をご利用ください。

ご注意

- ファームウェアを更新する際は、パソコンのファイアウォールの設定を解除してください。解除されていないと、正常に更新できない場合があります。
- ファームウェアの更新中は本製品の電源を切らないでください。更新中に電源を切ると、本製品を破損する恐れがあります。
- 完全にファームウェアを更新するために、本製品にアクセスしているユーザーがいないことを確認するか、パソコンと本製品を1対1で接続して実行してください。
- ファームウェアバージョンを以前のバージョンに戻すことはできません。
- ファームウェアのアップデートをしても設定やデータは消えませんが、万が一を考え大事なデータのバックアップは必ずお取りください。

ファームウェア更新通知機能を設定する

ファームウェア更新通知機能を「有効」に設定すると、新しいファームウェアが公開されていた場合、「お知らせ」やランプで通知します。

- 1 [詳細設定] から、[システム設定] → [ファームウェア更新] をクリックします。



- 2 [ファームウェア更新通知機能] の [有効] / [無効] を選択し、[確認する] をクリックします。



- 3 内容を確認し、[設定する] をクリックします。



ファームウェアを更新する

- 1 [詳細設定] から、[システム設定] → [ファームウェア更新] をクリックします。



- 2 [参照] ボタンをクリックして、ダウンロードしたファームウェアのファイル名 (update_xr_xxx.tgz※) を設定し、[確認する] ボタンをクリックします。
※ xxx はバージョン番号



- 3 内容を確認し、[更新する] ボタンをクリックします。本製品の [STATUS] ランプが点滅を開始します。更新後、本製品が再起動します。
※ファームウェアのファイルサイズおよび本製品の状態により変化しますが、2～3分程度かかります。

以上で、ファームウェアの更新は完了です。

※添付の管理ツール「LAN DISK Admin」を使うと複数のHDL-XRシリーズをまとめて更新することができます。詳しくは、LAN DISK Admin 取扱説明書をご覧ください。

ご注意

ファームウェアを更新後、設定画面が変更される場合がありますので、Webブラウザのキャッシュのクリアを行ってください。Internet Explorer の場合は、Webブラウザ画面上で、キーボードの [Ctrl] キーを押しながら、[F5] キーを押します。Safari の場合は、Safari を起動し、メニューより [Safari] → [キャッシュを空にする] をクリックし、表示されるダイアログからキャッシュを空にします。

システムログを確認する

1 [詳細設定] から、[情報表示] → [ログ情報] をクリックします。



2 [ログ] 欄にシステムログが表示されます。
上から新しい順に 100 件のログを表示します。

日付	ログを記録した日付を表示します。
時間	ログを記録した時間を表示します。
メッセージ	ログの内容を表示します。 [カテゴリ名]:[内容]

ご注意

ログ情報は、以下のような状況のときに古いログから削除されます。

- ・ログのサイズが一定のサイズを超えた場合
- ・本製品をシャットダウンした場合

※システムログをメール送信する設定については、以下をご覧ください。
[【通知機能】 \(20-123 ページ\)](#)

※システムログの一覧は、以下をご覧ください。

[【ログ一覧】 \(25-162 ページ\)](#)

パッケージを管理する

本製品の機能を追加パッケージにて拡張することができます。(パッケージは機能ごとに追加・削除・更新できます。)

※追加されたパッケージに関する取扱説明書は共有フォルダー「LAN DISK manual」に保存されています。

パッケージを追加・更新する

1 [詳細設定] から、[システム設定] → [パッケージ管理] をクリックします。



2 [追加] ボタンをクリックします。
→弊社ホームページに公開されている「新しいパッケージ」や、「既存パッケージの更新版」のリストが表示されます。



3 追加・更新するパッケージにチェックして、[一括追加] ボタンをクリックします。
※[詳細] ボタンをクリックすると、そのパッケージの詳細情報が表示されます。



4 内容に問題がなければ[実行する] ボタンをクリックします。



これでパッケージが追加されました。

パッケージが追加されたことや、バージョンが更新されたことをご確認ください。

ご注意

- 本製品を初期化した場合、追加したパッケージが削除された状態になります。本製品を初期化した場合は、パッケージを再度追加してください。

ファームウェア更新機能が有効な場合

本製品が定期的に弊社ホームページを確認し、更新版が公開されている場合は、[更新] ボタンが表示されます。

更新する場合は、[更新] ボタンをクリックしてください。

※パッケージ追加画面で公開されたパッケージを確認した後、更新されたパッケージがある場合、同様に[更新] ボタンが表示されます。

パッケージを削除する

1 [詳細設定] から、[システム設定] → [パッケージ管理] をクリックします。



2 パッケージリストに表示されている[削除] ボタンをクリックします。
複数削除する場合は、左側のチェックボックスをクリックし、[一括削除] ボタンをクリックします。



複数同時に削除する場合

左側のチェックボックスをクリックし、[一括削除] ボタンをクリックします。



3 内容に問題がなければ[実行する] ボタンをクリックします。



これでパッケージが削除されました。

出荷時設定に戻す

IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す

本製品背面の [RESET] ボタンで初期化します。

万一本製品に設定した IP アドレスを忘れた場合や本製品設定時の管理者パスワードを忘れてしまった場合に行います。

初期化される項目は下記の3つのみです。

IP アドレス	LAN ポートの IP アドレスを [自動に取得する (DHCP)] に戻ります。 IP アドレスを設定していた場合は、最初から設定し直す必要があります。
管理者パスワード	[未設定] に戻ります。 管理者パスワードを設定していた場合は、最初から設定し直す必要があります。
フレームサイズ	[未使用: 1500byte] に戻ります。

ご注意

- 上記以外のすべての設定情報は変更されません。
- ハードディスク内のデータは残ります。(消去されません。)
- 初期化処理中は、本製品の電源を切らないでください。
- ネットワークに接続したまま行うことができます。
- [RESET] ボタンを無効に設定してある場合は、この機能を利用できません。
この場合、パスワードも戻すことができませんので、管理者パスワードがわからなくなった場合の対応が行えなくなります。

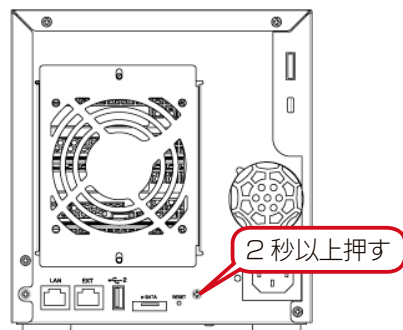
- 1** 本製品の電源が入っていること ([POWER] ランプが緑点灯していること) を確認します。
電源が入っていない場合は、電源を入れます。

ご注意

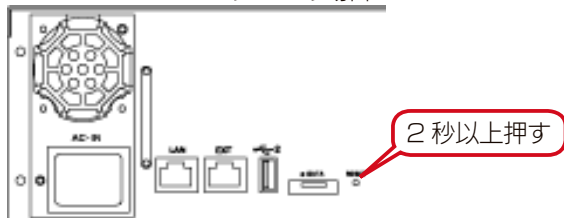
- 初期化は、本製品の電源が入っている状態で行います。
- [ACCESS] ランプが点滅中には、初期化しないでください。

- 2** 背面の [RESET] ボタンを先の細いもので約 2 秒以上、[STATUS] ランプが点滅し、「ピッ」と音が鳴るまで押します。

▼ HDL-XR シリーズの場合



▼ HDL-XR2U シリーズの場合



- 3** [STATUS] ランプが緑色点灯 (DHCP サーバーがある場合)、または、赤色点灯 (DHCP サーバーがない場合) すれば、初期化完了です。

IP アドレスと管理者パスワードが初期値となりますので、再度設定をやり直してください。

本製品のすべての設定を出荷時設定に戻す

設定画面の [システム初期化] で本製品のすべての設定を初期化し、内蔵ハードディスクをフォーマットします。

※ HDL-XR2.0W の場合で約 6 分かかります。(時間は本製品の容量によって変化します。)

初期化される項目は下記のとおりです。

- すべての装置設定
- 内蔵ハードディスクの全データ

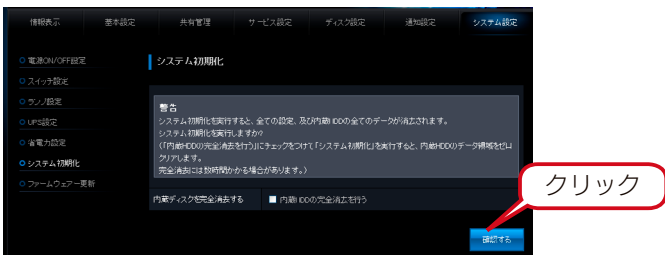
ご注意

- 事前にハードディスク内のデータをバックアップしてください。(増設ハードディスクのデータも事前にバックアップしてください。)
 - 増設ハードディスクのデータは消去されませんが、取り外しておくことをおすすめします。
 - 内蔵ハードディスクの4つのカートリッジはすべて接続しておく必要があります。
 - [システム初期化]を行うと、以前の RAID モードに関係なく、RAID 6 になります。
 - 動作モードもすべて初期設定に戻ります。
- eSATA ハードディスクを [ミラーリングモード] でご利用の場合、先に [ミラーディスクの保管] を行ってください。

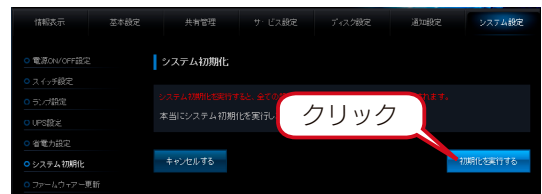
1 [詳細設定] から、[システム設定] → [システム初期化] をクリックします。



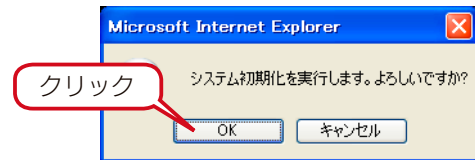
2 警告内容を確認し、[確認する] ボタンをクリックします。



3 警告内容を確認し、[初期化を実行する] ボタンをクリックします。



4 [OK] ボタンをクリックします。→結果画面が表示されます。



内蔵 HDD の完全消去を行う

チェックした場合、ボリューム全体に 0 を書き込んだ後、内蔵ハードディスクをフォーマットします。

0 を前面に書き込むことにより、一般のツールからハードディスク内容の復元処理をすることが難しくなりますので、ファイル断片からの情報漏れに強くなります。

本製品を廃棄や譲渡される場合におすすめします。

完全消去	約 2 時間 20 分
非完全消去	初期化時間：約 6 分 (再構築に約 5 時間 30 分)

ご注意

- 結果画面が表示された後、自動的に本製品が再起動しますが、再起動後もシステム初期化処理を続行しています。[STATUS] ランプが緑点灯または赤点灯状態になるまでそのまましばらくお待ちください。
- システム初期化処理中に電源を切ったり、カートリッジを取り外したりすると、本製品が正常に起動しなくなります。[STATUS] ランプが緑点灯または赤点灯状態になるまで、何も操作しないでください。

すべての設定が初期値となりますので、再度設定をやり直してください。

RAID が崩壊したときには

本製品使用中に、以下の「RAID 崩壊モードの状態」の場合、内蔵ボリュームに異常が発生し、RAID が崩壊した状態 (RAID 崩壊モード) となっています。

RAID が崩壊した状態になった場合、内蔵ボリュームに保存されたデータの一部またはすべては失われている可能性があります。

▼ RAID 崩壊モードの状態

ランプやブザー	状態	補足
[STATUS] ランプ	赤点滅	-
[ACCESS] ランプ	赤点灯または赤点滅	赤点滅：故障したカートリッジ。交換が必要です。 赤点灯：使用可能なカートリッジ。 消灯：UNLOCK のカートリッジ。使用可能なカートリッジの接続が必要です。
ブザー	「ピーポーピーポーピーポー」と鳴り続けている	前面の [FUNC.] ボタンを押すとブザーは停止します。

RAID 崩壊モードとなった場合、以下のいずれかの対処をおこなってください。

※ブザーは、前面の「FUNC.」ボタンを押すと止まります。

- ・対処1 システムを再起動する。
- ・対処2 RAID を強制復帰する
- ・対処3 保管したミラーディスクから復旧する
- ・対処4 RAID を再設定 (再フォーマット) する

対処1 システムを再起動する

本製品の電源ボタンを押し、いったん完全に電源 OFF の状態にしたのち、再び電源を ON にします。本製品の起動に成功すると、一部データが破損した状態で、内蔵ボリュームに保存されたデータに再度アクセスできる場合があります、この場合でも取り出したデータについては保障されません。できるだけデータのバックアップを行った後、システムの初期化 (内蔵 HDD の完全消去を行うを有効) をおこなうことをおすすめします。上記手順でシステムを再起動しても再び RAID 崩壊モードの状態で起動する場合は、別の対処をご確認ください。

対処2 RAID を強制復帰する

設定画面から、RAID が崩壊したディスク内容を使用して、強制復帰を試みることができます。手順については、以下をご覧ください。

[【RAID 強制復帰】 \(23-141 ページ\)](#)

対処3 保管したミラーディスクから復旧する

以前に eSATA ハードディスクに「ミラーディスクの保管」を行い、システムのバックアップがある場合には、その eSATA ハードディスクからシステムを復旧することができます。手順については、以下をご覧ください。

[【ミラーディスクから復旧する】 \(14-102 ページ\)](#)

対処4 RAID を再設定 (再フォーマット) する

設定画面の [ボリューム操作] → [RAID 再設定 (再フォーマット)] で RAID を再設定することができます。

ただし、[RAID 再設定 (再フォーマット)] では、ユーザー、グループの設定をはじめとする各種設定は引き継ぐことができますが、内蔵ボリュームを再度作成し直しますので、以前の内蔵ボリューム上の共有フォルダーの設定、および共有フォルダー内のデータは失われます。手順については以下をご覧ください。

RAID を再設定 (再フォーマット) するには、内蔵 HDD が 4 台すべて接続されている必要があります。故障した HDD がある場合は、HDD の交換を行った上で、RAID の再設定 (再フォーマット) をおこなってください。

[【RAID 再設定】 \(23-142 ページ\)](#)

RAID 強制復帰

ご注意

内蔵ボリューム上に保存されたデータの一部またはすべてはすでに失われています。

RAID 強制復帰を実行すると、崩壊した内蔵ボリュームの RAID の復帰処理を試みます。

成功した場合は、一部データが破損した状態で、内蔵ボリュームに保存されたデータに再度アクセスできる場合があります。

この場合でも取り出したデータについては保障されません。失敗した場合は、データ復旧業者に依頼してもデータを回復できなくなる場合があります。

データ復旧する場合は、できる限り RAID 強制復帰を実行せず、データ復旧業者へご依頼ください。

1 [詳細設定] から、[ディスク設定] → [ボリューム操作] をクリックします。



2 [内蔵ボリューム] の [RAID 強制復帰] を選択し、[実行] ボタンをクリックします。



3 注意事項を同意頂ける場合には、[上記の内容に同意する] にチェックを入れ、[実行する] をクリックします。RAID 強制復帰を開始します。しばらくお待ちください。



4 完了画面が表示されます。正常に強制復帰できた場合は、復旧したボリュームをご確認ください。
※強制復帰できた場合でも共有フォルダーにアクセスできない場合があります。
強制復帰できなかった場合、データを取り出すことはできません。

以上で完了です。

RAID 再設定

ここでは、RAID の強制復帰に失敗した場合など、正常な RAID ボリュームを構成できなくなった場合に、RAID を再設定 (再フォーマット) をおこなう手順について説明します。

ご注意

本操作をおこなうと、ユーザー、グループの設定をはじめとする各種設定は引き継ぐことができますが、内蔵ボリュームを再度作成し直しますので、以前の内蔵ボリューム上に作成した共有フォルダーや、共有フォルダー内のデータはすべて失われます。

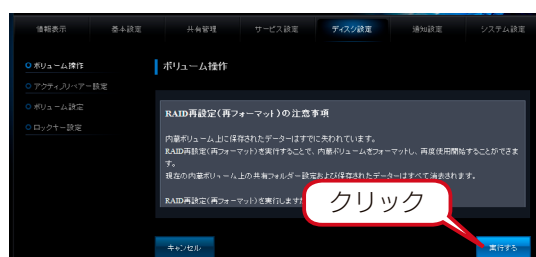
1 [詳細設定] から、[ディスク設定] → [ボリューム操作] をクリックします。



2 [内蔵ボリューム] の [RAID 再設定 (再フォーマット)] を選択して、[実行] ボタンをクリックします。



3 注意事項を確認後、[実行する] をクリックします。RAID 再設定を開始します。しばらくお待ちください。



4 完了画面が表示されます。内蔵ボリューム上の共有フォルダーは削除されていますので、再度設定をおこなってください。

以上で完了です。

ランプ表示別の対応

ランプやブザーによって、現在の状態や操作が正常か、あるいは、エラーが発生しているかを知ることができます。

※エラー状況によってはブザーが鳴り続けます。ブザーを止める場合は、前面の [FUNC.] ボタンを押してください。

[POWER] ランプ	消灯	電源コンセント未接続
	赤点灯	電源コンセント接続済 / システム OFF
	緑点灯	システム ON
[STATUS] ランプ	緑点灯	正常状態
	緑点滅	システム処理中 / 新ファームウェアを検出
	赤点灯	注意すべき問題が発生 / [FUNC.] ボタンを押すにより緑点灯に変更可能
	赤点滅	エラーが発生 / ディスクの故障の場合、ディスク交換を行うまで赤点滅
[ACCESS] ランプ	青点灯 (高速点滅)	正常状態 (アクセス中)
	赤点灯	起動停止 / RAID 崩壊時にディスクが接続されているスロット
	赤点滅	該当スロットのディスクが故障
	消灯	該当スロットが未接続

状態・操作	STATUS	ACCESS	ブザー	対応など
システム起動中	緑点滅	[ACCESS] ランプ表に従う	—	—
システム起動直後	正常	[ACCESS] ランプ表に従う	「ピー」と鳴る	—
	DHCP 失敗	[ACCESS] ランプ表に従う	「ピーピーピー」と鳴る	DHCP サーバーを設置する、固定 IP 設定などネットワーク設定を再検討してください。
	起動停止	赤点灯：接続されたスロット 消灯：未接続のスロット	「ピーピーピー・・・」と鳴りつづける	システムを起動可能なディスクが接続されていません。
	RAID 構成異常	[ACCESS] ランプ表に従う	「ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、…」と鳴りつづける	RAID の構成ディスクに問題が発生しています。
	RAID 崩壊	赤点灯：接続されたスロット 赤点滅：故障したスロット 消灯：未接続のスロット	「ピーポーピーポー…」と鳴りつづける	RAID が崩壊している。 【補足 RAID 崩壊】 (24-145 ページ) をご覧ください。
	UPS エラー	[ACCESS] ランプ表に従う	「ドレミドレミ…」と鳴りつづける	UPS 警告が有効で UPS が接続されていない、または、停電状態です。
	使用量警告	[ACCESS] ランプ表に従う	「ピピピピピッ…」と鳴りつづける	使用量警告が有効で、使用量警告対象ユーザー、グループ、共有フォルダーが存在する。
使用中	RAID 構成異常	[ACCESS] ランプ表に従う	「ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、…」と鳴りつづける	RAID の構成ディスクに問題が発生しています。
	RAID 崩壊	赤点灯：接続されたスロット 赤点滅：故障したスロット 消灯：未接続のスロット	「ピーポーピーポー…」と鳴りつづける	RAID が崩壊している。 【補足 RAID 崩壊】 (24-145 ページ) をご覧ください。
	UPS エラー	[ACCESS] ランプ表に従う	「ドレミドレミ…」と鳴りつづける	UPS 警告が有効で UPS が接続されていない、または、停電状態です。
定期警告	RAID 構成異常	[ACCESS] ランプ表に従う	「ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、…」と鳴りつづける	RAID の構成ディスクに問題が発生しています。
	RAID 崩壊	赤点灯：接続されたスロット 赤点滅：故障したスロット 消灯：未接続のスロット	「ピーポーピーポー…」と鳴りつづける	RAID が崩壊している。 【補足 RAID 崩壊】 (24-145 ページ) をご覧ください。
	UPS エラー	[ACCESS] ランプ表に従う	「ドレミドレミ…」と鳴りつづける	UPS 警告が有効で UPS が接続されていない、または、停電状態です。
	使用量警告	[ACCESS] ランプ表に従う	「ピピピピピッ…」と鳴りつづける	使用量警告が有効で、使用量警告対象ユーザー、グループ、共有フォルダーが存在しています。
内蔵カートリッジ取り外し操作	取り外し成功	アンロックしたスロットは、消灯。その他は [ACCESS] ランプ表に従う	「ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、…」と鳴りつづける	正常終了しました。 取り外した結果、RAID 構成異常となります。
	取り外し不可	アンロックしたスロットは青点灯。その他は [ACCESS] ランプ表に従う	「ピーピーピー」と鳴る	システム使用中のため取り外し処理が実行できない状態になります。 このままスライドスイッチをロックの位置へ戻してください。

状態・操作		STATUS	ACCESS	ブザー	対応など
内蔵カートリッジ取り付け操作	取り付け成功	緑点灯または赤点滅	ロックしたスロットは青点灯。その他は [ACCESS] ランプ表に従う	「ピー」と鳴る	正常終了しました。
	取り付け失敗	赤点滅	ロックしたスロットは赤点滅。その他は [ACCESS] ランプ表に従う	「ピーピーピー」と鳴る	接続したカートリッジは故障または容量不足のため、内蔵 RAID に使用できません。
ミラーリングモード時に eSATA ハードディスクの接続時	接続成功	緑点灯または赤点滅	[ACCESS] ランプ表に従う	「ピー」と鳴る	正常終了しました。
	接続失敗	赤点灯または赤点滅	[ACCESS] ランプ表に従う	「ピーピーピー」と鳴る	接続したディスクは、FAT/NTFS によるフォーマットがされており、データがコピーされていることを確認したため組み込みを停止しました。
	接続失敗	赤点灯または赤点滅	[ACCESS] ランプ表に従う	「ピーピーピー」と鳴る	接続したディスクは、エラーまたは容量不足のため、内蔵 RAID に使用できません。
共有モード (FAT/NTFS / 専用) 時に外付け eSATA, USB1, USB2 を接続	接続成功	緑点灯または赤点滅	[ACCESS] ランプ表に従う	「ピー」と鳴る	正常終了しました。
	接続失敗	赤点灯または赤点滅	[ACCESS] ランプ表に従う	「ピーピーピー」と鳴る	使用できないディスクを接続した。ボリューム情報を確認してください。
クイックコピーモード時に USB 1 に USB ディスクを接続	接続成功	緑点灯または赤点滅	[ACCESS] ランプ表に従う	「ピー」と鳴る	正常終了しました。
	接続失敗	赤点灯または赤点滅	[ACCESS] ランプ表に従う	「ピーピーピー」と鳴る	クイックコピーできないディスクを接続しました。
クイックコピーを実行時	成功	緑点灯	[ACCESS] ランプ表に従う	「ピッピッピッ」と鳴る	正常終了しました。
	失敗	赤点灯	[ACCESS] ランプ表に従う	「ピーピーピー」と鳴る	クイックコピーに失敗しました。ログを確認してください。
ボリューム設定変更を実行	成功	緑点灯または赤点滅	[ACCESS] ランプ表に従う	「ピー」と鳴る	正常終了しました。
	失敗	赤点灯または赤点滅	[ACCESS] ランプ表に従う	「ピーピーピー」と鳴る	設定変更に失敗しました。画面表示およびログを確認してください。
ボリューム操作を実行	成功	緑点灯または赤点滅	[ACCESS] ランプ表に従う	「ピー」と鳴る	正常終了しました。
	失敗	赤点灯または赤点滅	[ACCESS] ランプ表に従う	「ピーピーピー」と鳴る	設定変更に失敗しました。画面表示およびログを確認してください。
新ファームウェアを検出		「緑点滅(4回)→消灯」の繰り返し	[ACCESS] ランプ表に従う	-	新ファームウェアが公開されていることを検出しました。 以下のホームページを確認し、最新ファームウェアをダウンロードの上、 【ファームウェアを更新する】 (21-135 ページ)の手順にしたがってファームウェアアップデートを行ってください。

補足 RAID 崩壊

[STATUS]ランプが赤点滅し、接続されたスロットの[ACCESS]ランプが赤点灯、かつ、ブザーが「ピーポーピーポー…」と鳴り続けている場合は、何らかの理由により、本製品の RAID が崩壊している状態です。

[FUNC.] ボタンを押して、いったんブザーを止め、以下を参照して、対処してください。

【RAID が崩壊したときには】(23-140 ページ)

補足 構成異常

一度構成異常となりブザーを止めた後でも、内蔵カートリッジの取り外し操作など RAID 構成に関する処理をおこなった場合、再度「ピッ、ピッ、ピッ、…」とブザーが鳴り続ける場合があります。

補足 [STATUS]ランプが赤点灯・赤点滅した場合

ブザーが鳴っている場合には [FUNC.] ボタンを押して、いったんブザーを止め、「お知らせ」を確認してください。

補足 再構築の完了

再構築が完了すると「ピ、ポ、パ、ポ」とブザーが鳴ります。

内蔵ボリュームの再構築中に eSATA ミラーリングを開始するなどの操作を行った場合、それぞれの再構築が完了する度にブザーが鳴ります。

製品仕様

仕様

製品名		LAN DISK XR		
		HDL-XR	HDL-XR/2D	HDL-XR2U
LAN	転送規格	IEEE 802.3ab、IEEE802.3u、IEEE802.3(1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T)		
	最大転送速度	1000/100/10Mbps		
	コネクタ	RJ45 × 2		
	アクセス方法	CSMA/CD		
	MDI/MDI-X	自動切換		
	適合ケーブル	UTP カテゴリー6以上、100m以下		
eSATA ホスト	転送規格	SATA I / SATA II (NCQ 対応)		
	最大転送速度	3.0Gbps (SATA II) / 1.5Gbps (SATA I)		
	コネクタ	eSATA コネクタ × 1		
USB ホスト	転送規格	USB 2.0(1.1 含む)		
	最大転送速度	480Mbps		
	コネクタ	USB A コネクタ × 2		
電源仕様	定格電圧	AC 100V、50/60Hz		
	消費電力	60W(TYP)		
動作環境	使用温湿度	5 ~ 40°C、10 ~ 85%(結露無きこと)		
物理仕様	外形寸法	170(W) × 230(D) × 183(H)mm(脚を含む)	約430(W) × 270(D) × 88(H)mm(背面FANを含む)	
	質量	約 7kg	約 5.5kg	約 8.4kg

動作環境

本製品は、「LAN インターフェイスを搭載し、TCP/IP が正常に動作する機器」であれば対応しています。

LAN 環境

本製品は、LAN で接続します。

パソコンが LAN コネクタを搭載していない場合は、LAN アダプターが必要です。(別売の弊社製 ETG3-PCI など)

複数のパソコンを接続するには、ハブ(ハブ機能付きルーター含む)が必要です。(別売の弊社製 ETG-ESH8 など)

無線 LAN 接続をする場合は、無線アクセスポイントと無線 LAN アダプターを接続したパソコンが必要です。

LAN アダプター

本製品に接続するパソコンの LAN アダプターの設定をご確認ください。

(LAN アダプター: LAN ボード、USB LAN アダプター、LAN PC カードなど)

※ LAN アダプター使用時は、パソコンに取り付け、必要なソフトウェアをインストールしておいてください。

(詳しくは、各 LAN アダプターの取扱説明書をご覧ください。)

サポート対象機種・OS

LAN インターフェイスを使用できる下記の機種

機種	OS
Windows パソコン	Windows 8.1(32/64 ビット版) ^{※1}
	Windows 8(32/64 ビット版) ^{※1}
	Windows 7(32/64 ビット版)
	Windows Vista(32/64 ビット版)
	Windows Server 2012/R2 ^{※2}
	Windows Server 2008/R2 ^{※3※5}
Windows Server 2003 SP1/R2 ^{※4※5}	
Mac	Mac OS 10.4 ~ 10.10

※ 1 設定画面はデスクトップモードで、Internet Explorer 10 の互換モードを有効にしてください。

※ 2 フルインストールのみ対応。

※ 3 Standard/Enterprise のみ対応、Server Core モードには対応していません。

※ 4 Standard (32 ビット) / Enterprise (32 ビット) のみ対応。

※ 5 本製品に作成した共有フォルダーへのアクセス、および NT ドメインログオン・Active Directory ログオン機能のみ対応し、Web ブラウザーによる設定画面操作、プリントサーバー機能等はサポート対象外です。

Windows XP、2000、2000 server をご使用の場合

本製品の操作については、サポート対応させていただきますが、OS に起因する技術的問題が発生した場合、調査および解決することができない場合があります。ご了承ください。

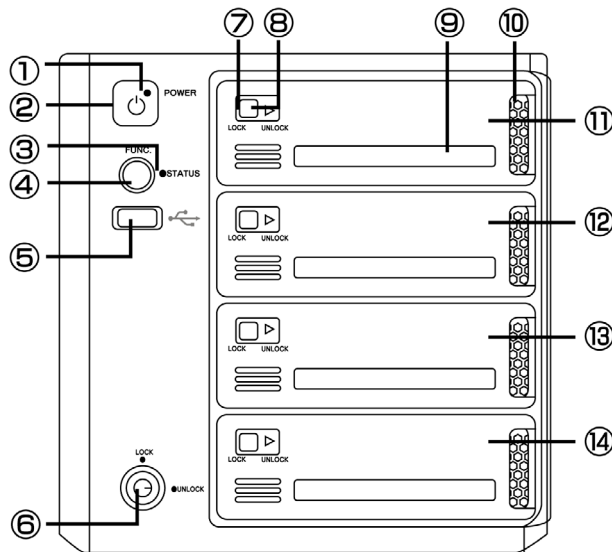
設定に必要なソフトウェア

本製品を設定するには、以下のバージョンのいずれかの Web ブラウザーが必要です。お持ちで無い場合は、別途ご用意ください。

- ・ Windows 版 Internet Explorer バージョン 6.0 以上
- ・ Mac OS X 版 Safari バージョン 3.0 以上

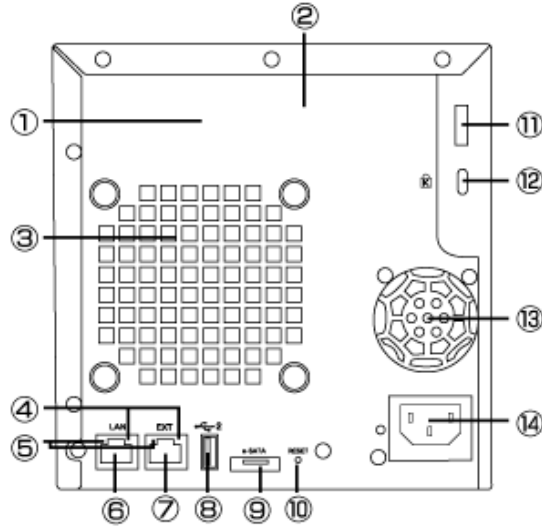
各部の名称・機能

▼ HDL-XR シリーズ前面



名称	機能・状態	
① [POWER] ランプ	赤点灯	電源コードが電源コンセントに接続されている状態 (スタンバイ状態)
	緑点灯	電源が入っている状態
② [電源] ボタン	本製品の電源を入/切します。	
③ [STATUS] ランプ	緑点灯	正常に起動完了した状態
	緑点滅	システム処理中
	赤点滅	ディスクエラー、使用量警告、使用量制限警告、UPS に関するエラー状態 (エラーに対処するまで点滅し続けます。エラー内容は設定画面の「お知らせ」で確認してください。)
	赤点灯	上記 (赤点滅) 以外のエラー状態 ([FUNC.] ボタンを押すか、設定画面の「お知らせ」を確認すると緑点灯 / 点滅に変わります。)
④ [FUNC.] ボタン	クイックコピーの開始や定期警告などのブザー音を止めたりします。	
⑤ USB ポート 1	USB 機器を接続します。 ※接続できる USB 機器については、 【増設できる USB 機器】 (25-152 ページ) をご覧ください。 ※ [USB ポート 1] にバスパワーハードディスクは接続できません。必ずセルフパワーにてご利用ください。 ※パソコンの USB ポートとの接続はできません。 ※暗号化 RAID モード使用時の USB ロックキーとする USB メモリーは [USB ポート 1] にのみ接続できます。	
⑥ カートリッジ固定 LOCK	UNLOCK	カートリッジのスライドスイッチを操作できるようにします。
	LOCK	カートリッジのスライドスイッチを操作できないようにします。
⑦ スライドスイッチ	UNLOCK	カートリッジを装置から取り外したい時にスライドさせます。
	LOCK	カートリッジを取り付けたときにスライドさせます。
⑧ [ACCESS] ランプ	青点灯	本製品内蔵ハードディスクへアクセスがない状態
	青点滅	本製品内蔵ハードディスクへアクセス中
	赤点灯	起動停止 / RAID 崩壊時にディスクが接続されているスロット
	赤点滅	ディスクが故障しているか容量不足
⑨ シール貼付溝	添付の [インデックスシール] を貼る場所です。	
⑩ 取っ手	カートリッジを取り外す時に使用する取っ手です。 ※吸気口となっていますので、ふさがないでください。	
⑪ カートリッジ 1・スロット 1	カートリッジを挿入する場所です。	
⑫ カートリッジ 2・スロット 2		
⑬ カートリッジ 3・スロット 3	カートリッジを挿入する場所です。	
⑭ カートリッジ 4・スロット 4	※ HDL-XR/2D シリーズは、空のカートリッジが挿入されてます。	

▼ HDL-XR シリーズ背面



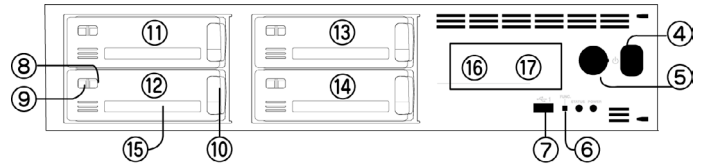
名称	機能・状態
①シリアル番号 (S/N)	12桁の英数字です。
② MAC アドレス	[00A0B0] で始まる 12桁の英数字です。
③メイン FAN	装置全体を冷却します。 ※ふさがないでください。
④ [ACT/LINK] ランプ (アクト/リンク)	黄点灯 LAN リンク時
	黄点滅 データ送受信中
	消灯 LAN 未接続
⑤ [1000/100/10] ランプ	橙点灯 1000BASE-T で接続中
	緑点灯 100BASE-TX で接続中
	消灯 LAN 未接続または 10BASE-T で接続中
⑥ LAN ポート	本製品添付の LAN ケーブルを接続します。 ※ Auto-MDI/MDI-X です。ストレートおよびクロスケーブルのどちらのケーブルでも接続できます。
⑦ EXT ポート	レプリケーション機能をご利用になる場合や、異なるネットワークに接続する場合に使用します。 ※ Wake On LAN 機能には対応していません。 ※ Auto MDI/MDI-X です。ストレートおよびクロスケーブルのどちらのケーブルでも接続できます。 ※ [EXT ポート] に接続されたネットワーク側から、Magical Finder をご利用いただくことはできません。
⑧ USB ポート 2	USB 機器を接続します。 ※ [USB ポート 2] にバスパワーハードディスクは接続できません。必ずセルフパワーにてご利用ください。 ※ プリンターを接続する場合は、[USB ポート 2] に接続してください。 ※ パソコンに接続するためのポートではありません。 ※ UPS を接続する場合は、[USB ポート 2] に接続してください。
⑨ eSATA ポート	eSATA 機器を接続します。 ※ パソコンに接続するためのポートではありません。
⑩ [RESET] ボタン	本製品の [IP アドレス] [管理者パスワード] [フレームサイズ] 設定を初期化します。(ハードディスク内のデータは残ります) 本製品の電源を入れたまま2秒以上押しと初期化されます。 ※ すべての設定を初期化する場合は、【本製品のすべての設定を出荷時設定に戻す】(22-139 ページ) をご覧ください。ただし、同時に、内蔵ハードディスクをフォーマットしますので、データはすべて消去されます。
⑪セキュリティワイヤー取付穴	セキュリティワイヤーを取り付けることができます。 市販のセキュリティワイヤーご利用時には、この穴にワイヤーを通してください。
⑫ケンジントンスロット	盗難防止用のロックケーブルを取り付けることができます。 ※ケンジントンスロットについて ケンジントンロックに合うように作られたセキュリティスロットのことです。ロックケーブルを固定された安全な机やラックなどに巻き付け、スロットに差し込みカギをかけることで盗難を防ぎます。 詳しくは、Kensington マイクロセーバーのホームページをご覧ください。 http://www.nanayojapan.co.jp/products/security/
⑬電源 FAN	電源ユニットを冷却します。 ※ふさがないでください。
⑭電源コネクタ	添付の「電源コード」を接続します。

▼ HDL-XR2U シリーズ前面

フロントカバー装着時

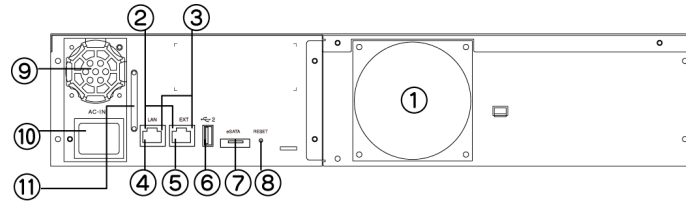


フロントカバー取り外し時



名称	機能・状態	
①フロントカバー固定フック	UNLOCK 時、フロントカバーを取り外します。LOCK 時、フロントカバーを取り付け固定します。 フロントカバーの取り外し方は、【カートリッジの交換方法】(2-9 ページ) をご覧ください。	
② [POWER] ランプ	赤点灯	電源コードが電源コンセントに接続されている状態 (スタンバイ状態)
	緑点灯	電源が入っている状態
③ [STATUS] ランプ	緑点灯	正常に起動完了した状態
	緑点滅	システム処理中
	赤点滅	ディスクエラー、使用量警告、使用量制限警告、UPS に関するエラー状態 (エラーに対処するまで点滅し続けます。エラー内容は設定画面の「お知らせ」で確認してください。)
	赤点灯	上記 (赤点滅) 以外のエラー状態 ([FUNC.] ボタンを押すか、設定画面の「お知らせ」を確認すると緑点灯 / 点滅に変わります。)
④フロントカバー固定ロック穴	フロントカバーのロックをかけるための穴です。	
⑤電源ボタン	本製品の電源を入 / 切します。	
⑥ [FUNC.] ボタン	クイックコピーの開始や定期警告などのブザー音を止めたりします。	
⑦ USB ポート 1	USB 機器を接続します。 ※接続できる USB 機器については、【増設できる USB 機器】(25-152 ページ) をご覧ください。 ※ [USB ポート 1] にパスパワーハードディスクは接続できません。必ずセルフパワーにてご利用ください。 ※パソコンの USB ポートとの接続はできません。 ※暗号化 RAID モード使用時の USB ロックキーとする USB メモリーは [USB ポート 1] だけに接続できます。	
⑧スライドスイッチ	UNLOCK	カートリッジを本製品から取り外したい時にスライドさせます。
	LOCK	カートリッジを本製品に固定させたい時にスライドさせます。
⑨ [ACCESS] ランプ	青点灯	本製品内蔵ハードディスクへアクセスがない状態
	青点滅	本製品内蔵ハードディスクへアクセス中
	赤点灯	未フォーマットか、認識できないフォーマットのハードディスクが接続されている状態
	赤点滅	ハードディスクに復旧困難なエラー (セクターエラーなど) が発生している状態
	消灯	取り外し処理が完了した状態
⑩取っ手	カートリッジを取り外す時に使用する取っ手です。 ※吸気口となっていますので、ふさがないようにください。	
⑪カートリッジ 1・スロット 1	カートリッジを挿入する場所です。	
⑫カートリッジ 2・スロット 2		
⑬カートリッジ 3・スロット 3		
⑭カートリッジ 4・スロット 4		
⑮シール貼付溝	添付の [インデックスシール] を貼る場所です。	
⑯シリアル番号 (S/N)	12 桁の英数字です。ユーザー登録やサポートソフトのダウンロードの際に使用します。	
⑰ MAC アドレス	本製品の MAC アドレスである 12 桁の英数字です。	

▼ HDL-XR2U シリーズ背面



名称	機能・状態
①メイン FAN	本製品全体を冷却します。 ※ふさがないでください。
② [1000/100/10] ランプ	橙点灯 1000BASE-T で接続中
	緑点灯 100BASE-TX で接続中
	消灯 LAN 未接続または 10BASE-T で接続中
③ [ACT/LINK] ランプ (アクト/リンク)	黄点灯 LAN リンク時
	黄点滅 データ送受信中
	消灯 LAN 未接続
④ LAN ポート	本製品添付の LAN ケーブルを接続します。 ※ Auto-MDI/MDI-X です。ストレートおよびクロスケーブルのどちらのケーブルでも接続できます。
⑤ EXT ポート	レプリケーション機能をご利用になる場合や、異なるネットワークに接続する場合に使用します。 ※ Wake On LAN 機能には対応していません。 ※ Auto MDI/MDI-X です。ストレートおよびクロスケーブルのどちらのケーブルでも接続できます。 ※ [EXT ポート] に接続されたネットワーク側から、Magical Finder をご利用いただくことはできません。
⑥ USB ポート 2	USB 機器を接続します。 ※ [USB ポート 2] にバスパワーハードディスクは接続できません。必ずセルフパワーにてご利用ください。 ※ プリンターを接続する場合は、[USB ポート 2] に接続してください。 ※ パソコンに接続するためのポートではありません。 ※ UPS を接続する場合は、[USB ポート 2] に接続してください。
⑦ eSATA ポート	eSATA 機器を接続します。 ※ パソコンに接続するためのポートではありません。
⑧ [RESET] ボタン	本製品の [IP アドレス] [管理者パスワード] [フレームサイズ] 設定を初期化します。(ハードディスク内のデータは残ります) 本製品の電源を入れたまま 2 秒以上押しと初期化されます。 ※ すべての設定を初期化する場合は、 【本製品のすべての設定を出荷時設定に戻す】 (22-139 ページ) をご覧ください。ただし、同時に、内蔵ハードディスクをフォーマットしますので、データはすべて消去されます。
⑨電源 FAN	電源ユニットを冷却します。 ※ふさがないでください。
⑩電源コネクタ	添付の「電源コード」を接続します。
⑪ AC 固定具	AC コードの抜け防止に使用します。

増設できる USB 機器

ご注意

- USB 機器を増設する前に、次の注意もご確認ください。【使用上のご注意】(1-6 ページ)
- 本製品の USB ポートに、以下の対応機器以外の機器は接続しないでください。(USB ハブも接続できません。)
- 本製品の USB ポートに、LAN DISK シリーズを接続することはできません。

増設できる USB ハードディスク

動作確認済み機種については、以下の弊社ホームページの製品情報をご覧ください。

<http://www.iodata.jp/pio/io/nas/landisk/hdd.htm>

USB 機器・プリンター

<http://www.iodata.jp/pio/io/nas/landisk/function.htm>

※バスパワーモードのハードディスクは、本製品には接続できません。必ずセルフパワーモードをご利用ください。

※プリンターの双方向機能には対応していません。

※デジカメは USB マスストレージクラスの転送に対応している必要があります。

※ USB ハブを接続して、USB 機器を使用することはできません。

※対応機器以外には省電力設定を有効にしないでください。

※弊社 iSPIS 対応ハードディスクを本製品でご利用いただく場合、iSPIS 機能は使用できません。

増設できる UPS

動作確認済み機種については、以下の弊社ホームページの製品情報をご覧ください。

<http://www.iodata.jp/pio/io/nas/landisk/ups.htm>

増設できる eSATA 機器

ご注意

- eSATA 機器を増設する前に、次の注意もご確認ください。【使用上のご注意】(1-6 ページ)
- 本製品の eSATA ポートに、ポートマルチプライヤー (Port Multiplier) は接続できません。
- 本製品の eSATA ポートには、以下の対応機器以外の機器は接続しないでください。
- eSATA ミラーリング機能を使用する場合、本製品の内蔵ボリュームの全容量以上の容量を持つ eSATA ハードディスクが必要です。

動作確認済み機器については、以下の弊社ホームページの製品情報をご覧ください。

<http://www.iodata.jp/pio/io/nas/landisk/hdd.htm>

増設ディスクに関するご注意

本製品で共有モードに設定してあるポートに、フォーマット済みのディスクを接続した場合、ディスク全体を共有フォルダーとして使用することができます。

ポートに対する共有フォルダー名とポートの初期状態は以下のようになります。

ポート名	共有フォルダー名	ポートの初期状態
USB ポート 1	usb1	クイックコピー ※使用するためには設定が必要です。
USB ポート 2	usb2	共有
eSATA ポート	esata1	共有

※ 共有フォルダーの設定については、以下をご覧ください。

[【共有フォルダー】\(7-42 ページ\)](#)

※ ポートの設定については、以下をご覧ください。

[【USB ポート 1 \(前面\) の設定】\(11-75 ページ\)](#)

対応フォーマット以外のフォーマットを共有モードで使用することはできません。

(本製品ミラーリング機能を使用して作成されたミラーディスクを含みます)

使用可能なフォーマット形式と読み書き制限については以下をご覧ください。

対応フォーマット形式	FAT ^{*1}	NTFS ^{*2}	専用
本製品に接続して使用	読み書き可	読み込みのみ可	読み書き可
本製品のバックアップ機能で使用	読み込みのみ可	読み込みのみ可	読み書き可
パソコンに接続して使用 ^{*3}	読み書き可	読み書き可	読み込みのみ可 ^{*4}

※ 1 FAT 形式のフォーマットでは、2TB 以上の容量を使用することはできません。

本製品で 2TB より大きい容量のハードディスクを FAT 形式でフォーマットする場合は、2TB のパーティションを作成してフォーマットされます。

※ 2 NTFS 形式のフォーマットでは、2TB 以上の容量を使用することはできません。

本製品で NTFS 形式のフォーマットをすることはできません。ご利用のパソコンでフォーマットしてお使いください。

※ 3 2TB より大きい容量のハードディスクは、Windows Vista 以降でのみご利用になれます。

※ 4 添付の「LAN DISK Backup Reader」を使用する必要があります。

出荷時設定一覧

システムバージョン	2.06 (出荷時期による)
-----------	----------------

◆基本設定

名前設定	LAN DISK の名前	landisk-xxxxxx(製品のLANポートのMACアドレス下6桁が表示される)		
	LAN DISK の説明	HDL-XR series		
日付と時刻の設定	サーバーと同期	同期する		
	利用するタイムサーバー	ntp.nict.jp		
ネットワーク設定 (IPv4)	同期するタイミング	起動時		
	TCP/IP 設定 (LAN)	自動取得失敗時	IP アドレスを自動取得する (DHCP)	
		IP アドレス	192.168.0.200	(AutoIP 自動割当 169.254.xxx.xxx)
		サブネットマスク	255.255.255.0	(AutoIP アドレスは 255.255.0.0)
		フレームサイズ	未使用 (1500byte)	
	Wake On LAN	有効		
	TCP/IP 設定 (EXT)	無効		
	共通設定	設定方法	LAN から自動で取得する	
		デフォルトゲートウェイ	なし	
		DNS サーバーアドレス	なし	
ネットワーク設定 (IPv6)	TCP/IP 設定 (LAN)	無効		
	TCP/IP 設定 (EXT)	無効		
	共通設定	設定方法	LAN から自動で取得する	
		デフォルトゲートウェイ	なし	
DNS サーバーアドレス		なし		
プロキシ設定	プロキシ	使用しない		
管理者パスワード設定	パスワード	なし		

◆共有管理

ユーザー管理	登録済みユーザー	なし			
ユーザー使用量管理	使用量制限	無効			
グループ管理	作成済みグループ	なし			
グループ使用量管理	使用量制限	無効			
共有フォルダー管理	作成済み共有	disk1			
		場所	内蔵ボリューム		
		コメント	HDL-XR RAID share		
		詳細アクセス権	有効 (管理者のみ読み書き可能)		
		有効サービス	Microsoft ネットワーク共有 ※ AppleShare ネットワーク共有、FTP 共有は無効		
		esata1			
		場所	eSATA ボリューム		
		コメント	HDL-XR esata1 share		
		詳細アクセス権	有効 (管理者のみ読み書き可能)		
		有効サービス	Microsoft ネットワーク共有 ※ AppleShare ネットワーク共有、FTP 共有は無効		
		usb1			
		場所	USB ボリューム 1		
		コメント	HDL-XR usb1 share		
		詳細アクセス権	有効 (管理者のみ読み書き可能)		
		有効サービス	Microsoft ネットワーク共有 ※ AppleShare ネットワーク共有、FTP 共有は無効		
		usb2			
		場所	USB ボリューム 2		
		コメント	HDL-XR usb2 share		
		詳細アクセス権	有効 (管理者のみ読み書き可能)		
		有効サービス	Microsoft ネットワーク共有 ※ AppleShare ネットワーク共有、FTP 共有は無効		
		LAN DISK manual			
		場所	内蔵ボリューム		
		コメント	画面で見るマニュアル		
		詳細アクセス権	無効 (すべてのユーザーは読み取り専用)		
		有効サービス	Microsoft ネットワーク共有、AppleShare ネットワーク共有		
		共有フォルダー使用量管理	使用量制限	無効	

◆サービス設定

Microsoft ネットワーク設定	参加方法	ワークグループ
	ワークグループ名	WORKGROUP
	WINS サーバアドレス	なし
FTP 設定	SMB プロトコル	SMB1,SMB2 を使用する
	ポート番号	21
iobb.net	エンコード	UTF-8
	iobb.net への登録・更新	無効
リモートリンク	リモートアクセス	無効
バックアップ	Backup Job 1～5	無効
レプリケーション	レプリケーション機能	無効
プリントサーバ	プリントサーバ	USB プリンタ接続時に有効
サービス設定	Microsoft ネットワーク共有	有効
	アクセスログを記録	無効
	AppleShare ネットワーク共有	有効
	FTP 共有	有効
	ネットワークバックアップの許可	有効
	使用量制限	無効

◆ディスク設定

ボリューム設定	内蔵ボリューム	RAID 6 ※ HDL-XR/2D シリーズの場合は RAID 1 (2台)	
	eSATA ボリューム	共有モード (FAT/NTFS/専用)	
	USB ボリューム 1	クイックコピー コピー先: disk1	
	USB ボリューム 2	共有モード (FAT/NTFS/専用)	
アクティブリペアー	スケジューリング実行機能	使用する	
		曜日指定 (毎月最初)	土曜日
ロックキー設定	Key Server 機能	開始時刻	0 時 00 分開始
			無効

◆通知設定

メール基本設定	メール基本設定	SMTP サーバ名	なし
		SMTP ポート番号	25
		差出人メールアドレス	なし
		メールエンコード	ISO-2022-JP
	メール送信時認証設定	認証方式	認証なし
メール通知テスト	送信先メールアドレス	なし	
メールアドレス設定	なし		
イベント通知設定	システム	メール通知	無効
		送信先メールアドレス	なし
	バックアップ	メール通知	無効
		送信先メールアドレス	なし
	温度 FAN エラー	メール通知	無効
		送信先メールアドレス	なし
	ログ転送	メール通知	無効
		送信先メールアドレス	なし
	ディスクエラー警告	定期警告	有効
		メール通知	無効
	ボリューム使用量警告	送信先メールアドレス	なし
		定期警告	無効
		メール通知	無効
	使用量制限警告	送信先メールアドレス	なし
		使用率	90% 以上
定期警告		無効	
UPS 警告	メール通知	無効	
	送信先メールアドレス	なし	
	使用率	90% 以上	
定期レポート設定	定期警告	有効	
	メール通知	無効	
NarSuS 設定	送信先メールアドレス	なし	
	ボリューム使用量レポート	無効	
NarSuS 設定	NarSuS	無効	

◆通知設定 (つづき)

SNMP 設定	SNMPトラップ機能	無効
	ポート番号	162
	送信先ホスト	(空白)

◆システム設定

電源 ON/OFF 設定	AC 電源復旧時の自動起動	無効	
	スケジュール設定	起動設定	無効
		起動時刻設定	なし
		終了設定	無効
		終了時刻設定	なし
スイッチ設定	リセットボタン	有効	
	FUNC. ボタン	有効	
ランプ設定	ランプの明るさ	明	
UPS 設定	UPS 警告機能	無効	
	シャットダウン条件	停電後の経過時間 10分後にシャットダウン	
	ネットワークシャットダウン設定	未登録	
省電力設定	時間選択	なし	
	内蔵ボリューム	無効	
	eSATA ボリューム	無効	
	USB ボリューム 1	無効	
	USB ボリューム 2	無効	
ファームウェア更新	ファームウェア更新通知機能	無効	

文字制限一覧

各設定項目の文字制限

各項目には、以下の使用文字の制限があります。(パスワードに空白文字を使用しないでください。)

項目名	文字数		使用できる文字		使用できない文字列
	最小	最大	半角	全角	
管理者パスワード	4	20	表 1	×	
LAN DISK の名前	1	15	表 2	×	・ハイフンから始まる文字列 ・数字のみの文字列 ※ IE 5.01 SP1 以降では、名前に "_" を使用した場合、本製品の IP アドレスを指定して、管理画面にアクセスしてください。(LAN DISK の名前からアクセスできません)
LAN DISK の説明	0	半角 48 全角 48	表 4	○	
ユーザー名	1	20	表 2	×	・ハイフンから始まる文字列 ・数値のみの文字列 ・大文字小文字のみが異なるユーザー名
ユーザーフルネーム	0	半角 48 全角 48	表 4	○	
ユーザーコメント	0	半角 48 全角 48	表 4	○	
ユーザーパスワード	0	20	表 1	×	
グループ名	1	20	表 2	×	・ハイフンから始まる文字列 ・数値のみの文字列 ・大文字小文字のみが異なるグループ名
共有フォルダー	1	半角 27 全角 9	表 4	○	・ドル記号で終わる文字列 ・半角スペースで始まる文字列 ・半角スペースで終わる文字列 ・半角スペースが連続する文字列 ・# で始まる文字列 ・共有フォルダー名として「global」「homes」「printers」は指定不可
共有フォルダーコメント	0	半角 48 全角 48	表 4	○	
アクセスパスワード	0	20	表 1	×	
ワークグループ名	1	15	表 2	×	LAN DISK の名前と同じ文字列
NT ドメイン名	1	15	表 2	×	LAN DISK の名前と同じ文字列
NT ドメインコントローラー名	1	15	表 2	×	LAN DISK の名前と同じ文字列
ドメイン名 (NetBIOS 名)	1	15	表 2	×	LAN DISK の名前と同じ文字列
ドメイン名 (フル DNS 名)	1	155	表 3	×	ピリオドで区切られた各フィールドは 63 文字以内
ドメイン管理者ユーザー名	1	20	表 3	×	
ドメイン管理者パスワード	0	20	表 1	×	
ドメインコントローラーの名前	1	155	表 3	×	ピリオドで区切られた各フィールドは 63 文字以内
メール基本設定 - 認証設定 (ユーザー名)	1	155	○	○	
メール基本設定 - 認証設定 (パスワード)	0	20	○	○	

【表：使用できる半角文字】 ※グレーの文字は使用できません。

表 1

	+0	+1	+2	+3	+4	+5	+6	+7	+8	+9	+A	+B	+C	+D	+E	+F
0x00	[DHL]	[SOH]	[STX]	[ETX]	[EOT]	[ENO]	[ACK]	[BEL]	[BS]	[HT]	[LF]	[VT]	[FF]	[CR]	[SO]	[SI]
0x01	[DLE]	[DC1]	[DC2]	[DC3]	[DC4]	[NAK]	[SYN]	[ETB]	[CAN]	[EM]	[SUB]	[ESC]	[FS]	[GS]	[RS]	[US]
0x20	[SPC]	!	"	#	\$	%	&	'	()	*	+	,	-	.	/
0x30	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?
0x40	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
0x50	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[\]	^	_
0x60	~	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
0x70	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	~	[DEL]

表 2

	+0	+1	+2	+3	+4	+5	+6	+7	+8	+9	+A	+B	+C	+D	+E	+F
0x00	[DHL]	[SOH]	[STX]	[ETX]	[EOT]	[ENO]	[ACK]	[BEL]	[BS]	[HT]	[LF]	[VT]	[FF]	[CR]	[SO]	[SI]
0x01	[DLE]	[DC1]	[DC2]	[DC3]	[DC4]	[NAK]	[SYN]	[ETB]	[CAN]	[EM]	[SUB]	[ESC]	[FS]	[GS]	[RS]	[US]
0x20	[SPC]	!	"	#	\$	%	&	'	()	*	+	,	-	.	/
0x30	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?
0x40	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
0x50	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[\]	^	_
0x60	~	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
0x70	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	~	[DEL]

表 3

	+0	+1	+2	+3	+4	+5	+6	+7	+8	+9	+A	+B	+C	+D	+E	+F
0x00	[DHL]	[SOH]	[STX]	[ETX]	[EOT]	[ENO]	[ACK]	[BEL]	[BS]	[HT]	[LF]	[VT]	[FF]	[CR]	[SO]	[SI]
0x01	[DLE]	[DC1]	[DC2]	[DC3]	[DC4]	[NAK]	[SYN]	[ETB]	[CAN]	[EM]	[SUB]	[ESC]	[FS]	[GS]	[RS]	[US]
0x20	[SPC]	!	"	#	\$	%	&	'	()	*	+	,	-	.	/
0x30	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?
0x40	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
0x50	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[\]	^	_
0x60	~	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
0x70	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	~	[DEL]

表 4

	+0	+1	+2	+3	+4	+5	+6	+7	+8	+9	+A	+B	+C	+D	+E	+F
0x00	[DHL]	[SOH]	[STX]	[ETX]	[EOT]	[ENO]	[ACK]	[BEL]	[BS]	[HT]	[LF]	[VT]	[FF]	[CR]	[SO]	[SI]
0x01	[DLE]	[DC1]	[DC2]	[DC3]	[DC4]	[NAK]	[SYN]	[ETB]	[CAN]	[EM]	[SUB]	[ESC]	[FS]	[GS]	[RS]	[US]
0x20	[SPC]	!	"	#	\$	%	&	'	()	*	+	,	-	.	/
0x30	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?
0x40	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
0x50	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[\]	^	_
0x60	~	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
0x70	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	~	[DEL]

iobb.net 設定で使用できる文字 / できない文字

項目名	文字数	使用できる文字	使用できない文字
ホスト名	3 文字以上 16 文字以内	半角小文字英字 a ~ z 半角数字 0 ~ 9 ハイフン - (ハイフン - で始まる文字列は不可) (ハイフン - で終わる文字列は不可)	「使用できる文字」以外不可
パスワード	6 文字以上 8 文字以内	半角小文字英字 a ~ z 半角数字 0 ~ 9 ハイフン - (ハイフン - で始まる文字列は不可) (ハイフン - で終わる文字列は不可)	「使用できる文字」以外不可

Dropbox の識別名で使用できる文字 / できない文字

文字数	使用できる文字	使用できない文字
6 文字以上 15 文字以内	半角大文字小文字英字 a ~ z 半角数字 0 ~ 9	「使用できる文字」以外不可

共有フォルダー使用時の文字制限

共有フォルダーに保存できるファイル名、フォルダー名には以下の制限があります。

- ・半角 255 文字（全角 85 文字）までとなります。
※使用する文字種によっては上記の数値よりも少なくなる場合があります。
- ・使用できる名前は、クライアント OS により制限されます。
- ・ftp で Shift-JIS を使用する場合は、[【FTP 共有使用時のトラブル】（27-230 ページ）](#) もご覧ください。

お知らせ一覧

種別	内容	表示条件と対処方法
エラー ^{*1}	使用量制限の警告使用率 xx%を超えました。	使用量制限の使用率警告値 xx% を超えた場合に表示されます。 [対処] ユーザー、グループ、共有フォルダーの使用量制限設定を確認し、使用率の高いユーザー、グループ、共有フォルダーの、使用していないファイルや、不要なファイルをバックアップの上、削除を行ってください。
	使用量制限情報を取得できません。	使用量制限に関する情報が取得できなかった場合に表示されます。 [対処] 詳細設定画面の [情報表示]-[ボリューム情報] を確認し、内蔵ボリュームが崩壊状態の場合、【RAID が崩壊したときには】(23-140 ページ) を参照し、対処を行ってください。 また、RAID モードの変更中、内蔵ボリュームのフォーマット中、チェックディスク中に、このお知らせが表示される場合があります。この場合は、処理が完了後、1 時間以内に自動的にクリアされますので対処は必要ありません。
	内蔵ボリュームの使用率が xx%を超えました。	内蔵ボリュームの使用率が xx% を超えた場合に表示されます。 [対処] ユーザー、グループ、共有フォルダーの使用量制限設定を確認し、使用率の高いユーザー、グループ、共有フォルダーの、使用していないファイルや、不要なファイルをバックアップの上、削除を行ってください。
	内蔵ボリュームの使用率を取得できません。	内蔵ボリュームの使用率が取得できなかった場合に表示されます。 [対処] 詳細設定画面の [情報表示]-[ボリューム情報] を確認し、内蔵ボリュームが崩壊状態の場合、【RAID が崩壊したときには】(23-140 ページ) を参照し、対処を行ってください。 また、RAID モードの変更中、内蔵ボリュームのフォーマット中、チェックディスク中に、このお知らせが表示される場合があります。この場合は、処理が完了後、1 時間以内に自動的にクリアされますので対処は必要ありません。
	RAID が崩壊しました。	RAID が崩壊した場合に表示されます。 [対処] 【RAID が崩壊したときには】(23-140 ページ) を参照し、対処を行ってください。
	RAID の構成異常が発生しました。	RAID が構成異常となった場合に表示されます。 [対処] 詳細設定画面の [情報表示]-[ボリューム情報] を確認し、内蔵ボリュームの構成ディスクがすべて接続されていることを確認してください。「接続」以外の状態の構成ディスクは交換が必要です。
	RAID が異常状態になりました。	RAID が異常状態となった場合に表示されます。 [対処] 詳細設定画面の [情報表示]-[ボリューム情報] を確認し、内蔵ボリュームが崩壊状態の場合、内蔵ボリュームの構成ディスクがすべて接続されていることを確認し、詳細設定画面の [ディスク]-[ボリューム操作] より「eSATA より内蔵ボリュームへミラーリング開始」を行ってください。
	内蔵ボリュームのマウントに失敗しました。	内蔵ボリュームのマウントに失敗した場合に表示されます。 [対処] 詳細設定画面の [ディスク]-[ボリューム操作] より「チェックディスク」を行ってください。「チェックディスク」を行っても状況が改善しない場合は、「フォーマット」を行ってください。ただし、フォーマットを行うと、内蔵ボリューム上に作成した共有フォルダーおよび、共有フォルダーに保存したファイルはすべて消去されます。
	セキュリティロックモードで起動しました。	USB ロックキーの接続が確認できないため「セキュリティロックモード」で起動した場合に表示されます。 [対処] 正しい USB ロックキーを接続してください。本製品は正しい USB ロックキーの接続を確認すると、「セキュリティロックモード」を解除し、本製品の共有フォルダーにアクセスできるようになります。
	UPS が接続されていません。	UPS が接続されていないことを検出した場合に表示されます。 [対処] UPS の監視ケーブルを本製品の USB ポートにしっかり接続されていることを確認してください。UPS の警告が不要な場合は、詳細設定画面の [システム]-[UPS 設定] より UPS 警告を「無効」に設定してください。
停電により、バッテリー動作を開始しました。	UPS が停電によりバッテリー動作に切り替わったことを検出した場合に表示されます。 [対処] 現在停電状態になっています。電力供給状態、およびブレーカー等の確認等を行ってください。	
停電後、指定した経過時間を超えました。	UPS が停電状態から指定時間経過したことを検出した場合に表示されます。 [対処] 現在停電状態になっています。電力供給状態、およびブレーカー等の確認等を行ってください。	
UPS のバッテリー残量が 30%以下であることを検出しました。	UPS が停電状態でバッテリー残量 30% 以下を検出した場合に表示されます。 [対処] 現在停電状態になっています。電力供給状態、およびブレーカー等の確認等を行ってください。	
注意 ^{*2}	LAN - DHCP 失敗 - アドレス : xxx.xxx.xxx.xxx	DHCP サーバーから IP アドレスの取得に失敗した場合に表示されます。 [対処] 本製品の LAN ポートを接続したネットワークに DHCP サーバーが存在することを確認してください。DHCP サーバーが接続されていない場合は、詳細設定画面の [基本設定]-[ネットワーク設定] の [LAN] より次の「IP アドレスを使う」を選択し、手動で IP アドレスを設定してください。
	EXT - DHCP 失敗 - アドレス : xxx.xxx.xxx.xxx	DHCP サーバーから IP アドレスの取得に失敗した場合に表示されます。 [対処] 本製品の EXT ポートを接続したネットワークに DHCP サーバーが存在することを確認してください。DHCP サーバーが接続されていない場合は、詳細設定画面の [基本設定]-[ネットワーク設定] の [EXT] より次の「IP アドレスを使う」を選択し、手動で IP アドレスを設定してください。

種別	内容	表示条件と対処方法
注意 ^{*2}	バックアップに失敗しました。	バックアップの開始に失敗した場合に表示されます。 [対処] 詳細設定画面の [サービス設定]-[バックアップ] の各プロファイルを確認し、バックアップ元、バックアップ先の指定が正しく行われていること、存在することを確認してください。
	xxxxx が一部失敗しています。	バックアップ中、一部項目が正常にバックアップできなかった場合に表示されます。 [対処] 詳細設定画面の [サービス設定]-[バックアップ] のプロファイル名「xxxxx」を確認し、バックアップ元、バックアップ先の指定が正しく行われていること、存在することを確認してください。
	クイックコピーに失敗しました。	クイックコピーに失敗した場合に表示されます。 [対処] コピー元の USB ディスクが読み取り可能なフォーマットであること (FAT/NTFS) を確認してください。 コピー先の共有フォルダーが存在することを確認してください。
	レプリケーション元共有フォルダー内のフォルダー数が多すぎます。 フォルダー数を減らしてからレプリケーション設定をやり直してください。	監視対象フォルダー数の最大値 200,000 フォルダーを超えた場合に表示されます。 [対処] レプリケーション元共有フォルダーに指定している共有フォルダー内のフォルダー数を減らしてからレプリケーション設定をやり直してください。
	xxxxx の接続に失敗しました。	外付けボリューム xxxxx の接続に失敗した場合に表示されます。 [対処] 外付けボリュームが使用できない形式の場合があります。 パソコンに接続してフォーマット後、再度接続してみてください。
	xxxxx の取り外しに失敗しました。	外付けボリューム xxxxx の取り外しに失敗した場合に表示されます。 [対処] しばらく待ってから再度取り外し処理を行ってみてください。
	xxxxx が故障しました。交換してください。	外付けボリューム xxxxx の故障を検出した場合に表示されます。 [対処] eSATA ポートに接続した eSATA ディスクに問題が発生しました。新しい eSATA ディスクに交換してください。
	セキュリティロックモードの解除に失敗しました。	「セキュリティロックモード」の解除に失敗した場合に表示されます。 [対処] 正しい USB ロックキーを接続してください。暗号化ボリュームを設定時に作成した USB ロックキーを接続する必要があります。
	アクティブリペアーの開始に失敗しました。	アクティブリペアーの開始に失敗した場合に表示されます。 [対処] 詳細設定画面の [情報表示]-[ボリューム情報] を確認し、内蔵ボリュームが崩壊状態の場合、【RAID が崩壊したときには】(23-140 ページ) を参照し、対処を行ってください。
	アクティブリペアーの停止に失敗しました。	アクティブリペアーの停止に失敗した場合に表示されます。 [対処] しばらく待ってから再度試行してみてください。
	修復できないエラーが発生しました。(xxx) 何度か実行しても正常終了しない場合 データをバックアップ後、システム初期化を「内蔵 HDD の完全消去を行う」オプションを付けて実行してください。	ボリューム xxxxx のディスクエラーを修復できなかった場合に表示されます。 [対処] 何度か実行しても正常終了しない場合、データをバックアップ後、システム初期化を「内蔵 HDD の完全消去を行う」オプションを付けて実行してください。
	xxxxx メール の送信に失敗しました。	イベント xxxxx のイベント通知メールの送信に失敗した場合に表示されます。 [対処] メール送信に失敗しています。メール基本設定を再度確認し、テストメールの送信が成功することを確認してください。
	メールの送信に失敗しました。	定期レポートメールの送信に失敗した場合に表示されます。 [対処] メール送信に失敗しています。メール基本設定を再度確認し、テストメールの送信が成功することを確認してください。
	ログ情報転送メールの送信に失敗しました。	ログ情報のメール転送に失敗した場合に表示されます。 [対処] メール送信に失敗しています。メール基本設定を再度確認し、テストメールの送信が成功することを確認してください。
	アクセスログ転送メールの送信に失敗しました。	アクセスログのメール転送に失敗した場合に表示されます。 [対処] メール送信に失敗しています。メール基本設定を再度確認し、テストメールの送信が成功することを確認してください。
	ネットワークシャットダウン要求の送信に失敗しました。(認証エラー)	ネットワークシャットダウンテスト実行時、指定した LAN DISK の管理者パスワードが異なる場合に表示されます。 [対処] UPS 設定のネットワークシャットダウン設定で、[管理者パスワード] を正しく設定してください。
	ネットワークシャットダウン要求の送信に失敗しました。(通信エラー)	ネットワークシャットダウンテスト実行時、指定した LAN DISK にアクセスできない場合に表示されます。 [対処] UPS 設定のネットワークシャットダウン設定で、[LAN DISK の名前] を正しく設定してください。
	ネットワークシャットダウン要求の送信に失敗しました。(IP アドレス変換エラー)	ネットワークシャットダウンテスト実行時、指定した LAN DISK にアクセスできない場合に表示されます。 [対処] UPS 設定のネットワークシャットダウン設定で、[LAN DISK の名前] を正しく設定してください。 [LAN DISK の名前] を正しく設定しても解決しない場合は、ネットワークシャットダウンする LAN DISK のネットワーク設定で IP アドレスを固定で設定し、ネットワークシャットダウン設定で、LAN DISK 名の代わりに IP アドレスを指定してください。

種別	内容	表示条件と対処方法
注意※2	新しいファームウェアが公開されています。	最新ファームウェアが公開されていることを検出した場合に表示されます。 [対処] 以下のホームページを確認し、最新ファームウェアをダウンロードの上、【ファームウェアを更新する】(21-135 ページ) の手順にしたがってファームウェアアップデートを行ってください。
	装置温度が異常です。	装置温度が 60℃に達したことを検出した場合に表示されます。 [対処] 装置の設置環境を見直し、装置温度が上昇しない環境に設置してください。
	FAN が停止しました。FAN の状態を確認してください。	FAN が停止を検出した場合に表示されます。 [対処] 本製品の電源を投入後、背面の FAN の回転が確認できない場合は、FAN の交換が必要です。
	iobb.net への接続に失敗しました。	iobb.net への接続に失敗した場合に表示されます。 [対処] 仮登録時にも表示されます。その場合は本登録を行ってください。
	トラップの送信に失敗しました。	SNMP トラップの送信に失敗した場合に表示されます。 [対処] SNMP トラップ設定を再度確認し、テストトラップの送信に成功することを確認してください。
	xxxxx の取り外しはできません。	RAID を維持できなくなるため、スイッチ操作による内蔵ディスク xxxxxx の取り外しができなかった場合に表示されます。 [対処] 内蔵ディスクの取り外しはできませんので、スライドスイッチを「LOCK」の状態に戻してください。
	サーバーへの接続に失敗しました。	NarSuS サーバーへの接続に失敗した場合に表示されます。 [対処] 本製品がインターネットに接続可能な環境に設置されているか、LAN ケーブルが抜けていないかご確認ください。 また、プロキシを介してインターネットへ接続が必要な場合は、プロキシが正しく設定されていることをご確認ください。
	xxxx の同期に失敗しました。	Amazon S3、Dropbox または Cloud [®] との同期に失敗した場合に表示されます。 [対処1] 一時的な通信エラーの可能性があり。その場合は、しばらくお待ちいただくと解消されます。 [対処2] 本製品がインターネットに接続可能な環境に設置されているかご確認ください。 なお、本製品のプロキシ設定を有効にしている場合、プロキシの設定もご確認ください。 [対処3] Amazon S3 同期 /Cloud [®] 同期であり、かつ本製品のプロキシ設定を有効にしている場合は、同期のプロトコルを「https」にしてください。(「http」に設定していたら、変更してください。)
	サーバーに空きがありません。	Dropbox 上の共有フォルダに空きがない場合に表示されます。 [対処] 同期が不要なファイルを削除してください。
	共有フォルダに空きがありません。(XXXX)	本製品上の共有フォルダに空きがない場合に表示されます。 [対処] 同期が不要なファイルを削除してください。
	xxxx を同期できません。スキップします。	ファイルを正しく同期できなかった場合に表示されます。 [対処 1] ファイル名を正しく扱えていないおそれがあります。ファイル名を変更してみてください。 [対処 2] Amazon S3 同期 /Cloud [®] 同期の場合、ファイル名が長すぎる場合があります。短いファイル名に変更してみてください。ファイル名は半角 255 文字 (全角 85 文字) までとなります。 ※使用する文字種によっては前記の数値よりも少なくなる場合があります。
	XXX はアップロードできるサイズを超えています。スキップします。	アップロードできるサイズを超えていた場合に表示されます。 •Amazon S3 同期 /Cloud [®] 同期の場合、設定した [アップロード最大ファイルサイズ] よりもファイルのサイズが大きくなっています。 •Dropbox 同期の場合、1 つのファイルのサイズが 300MB を超えています。 [対処] 同期対象共有フォルダとは別の記憶領域にファイルを移動してください。
	バックアップ元が指定されていません。バックアップ設定を確認してください。	バックアップ元が正しく設定されているか確認し、再度設定とバックアップしてください。
	接続がタイムアウトしました。(XXXX)	共有フォルダを同期する際、サーバーとの接続でタイムアウトが発生しました。 [対処1] 本製品がインターネットに接続可能な環境に設置されているかご確認ください。 なお、本製品のプロキシ設定を有効にしている場合、プロキシの設定もご確認ください。 [対処2] Amazon S3 同期 /Cloud [®] 同期の場合、エンドポイントやポート番号の設定が正しいかをご確認ください。

※1 エラーについて

エラーの内容がお知らせに表示される場合、本製品に重大なエラーが発生しています。

お知らせ画面のクリアボタンをクリックするか、エラーの原因を解消するまで、本製品の [STATUS] ランプは赤点滅しています。対処方法を確認し、エラーの原因に対処してください。

※2 注意について

注意の内容がお知らせに表示される場合、本製品に注意すべき問題が発生しています。

注意の内容は一度お知らせ画面を確認すると自動的に消去されます。

何度もお知らせに表示される場合は、対処方法を確認し、問題の原因に対処してください。

ログ一覧

カテゴリー	メッセージ	説明
すべて	システムは処理中です。もう一度操作をやり直してください。	システムが処理中です。もう一度操作を行ってみてください。
	システムが処理中です。	システムが処理中です。しばらく待ってからもう一度操作を行ってみてください。
	設定を変更しました。	設定の変更が正常に終了。
	設定変更に失敗しました。	設定の変更に失敗した。
名前設定	名前を変更しました。	LANDISK の名前設定が正常に終了。
日付と時刻	NTP サーバーと時刻を同期しました。	NTP サーバーと時刻を同期した (起動時 / 指定時刻)。
	NTP サーバーと時刻を同期できませんでした。	NTP サーバーとの時刻の同期に失敗した。
ネットワーク	LAN - DHCP 成功 - アドレス : xxx.xxx.xxx.xxx 更新間隔 : dddd 秒	DHCP サーバー (LAN 側) から IP アドレス XXX.XXX.XXX.XXX (リース時間 dddd 秒) の取得に成功した。
	EXT - DHCP 成功 - アドレス : xxx.xxx.xxx.xxx 更新間隔 : dddd 秒	DHCP サーバー (EXT 側) から IP アドレス XXX.XXX.XXX.XXX (リース時間 dddd 秒) の取得に成功した。
	LAN - DHCP 失敗 - アドレス : xxx.xxx.xxx.xxx	DHCP サーバーから IP アドレスの取得に失敗した。
	EXT - DHCP 失敗 - アドレス : xxx.xxx.xxx.xxx	DHCP サーバーから IP アドレスの取得に失敗した。
パスワード	xxxxx のパスワードを変更しました。	ユーザー xxxxx のパスワード変更が正常に終了。
	管理者のパスワードを変更しました。	管理者のパスワード変更が正常に終了。
ユーザー管理	xxxxx を追加しました。	ユーザー xxxxx の追加に成功。
	xxxxx を削除しました。	ユーザー xxxxx の削除に成功。
	xxxxx の情報を変更しました。	ユーザー xxxxx の情報変更に成功。
	一括削除しました。	ユーザーを複数選択し一括削除に成功。
	追加に失敗しました。	ユーザー xxxxx 追加に失敗した。
	削除に失敗しました。	ユーザー xxxxx 削除に失敗した。
	xxxxx は存在しません。	指定されたユーザー xxxxx は存在しない。
	作成可能な最大数を超えています。	最大ユーザー数を超えて作成を試みた。
グループ管理	xxxxx を追加しました。	グループ xxxxx の追加に成功。
	xxxxx を削除しました。	グループ xxxxx の削除に成功。
	xxxxx の情報を変更しました。	グループ xxxxx の情報変更に成功。
	一括削除しました。	グループ xxxxx を複数選択し一括削除に成功。
	追加に失敗しました。	グループ追加に失敗した。
	削除に失敗しました。	グループ削除に失敗した。
	xxxxx は存在しません。	指定されたグループ xxxxx は存在しない。
	作成可能な最大数を超えています。	最大グループ数を超えて作成を試みた。
共有管理	xxxxx を追加しました。	共有 xxxxx の追加に成功。
	xxxxx を削除しました。	共有 xxxxx の削除に成功。
	xxxxx の情報を変更しました。	共有 xxxxx の情報変更に成功。
	一括削除しました。	共有を複数選択し一括削除に成功。
	追加に失敗しました。	共有の追加に失敗した。
	削除に失敗しました。	共有の削除に失敗した。
	xxxxx は存在しません。	指定された共有 xxxxx は存在しない。
	作成可能な最大数を超えています。	最大共有数を超えて作成を試みた。
	xxxxx を追加しました。	共有 xxxxx の追加に成功。
	xxxxx を削除しました。	共有 xxxxx の削除に成功。
	xxxxx の情報を変更しました。	共有 xxxxx の情報変更に成功。
使用量制限	各使用量制限の使用率は正常値です。	ユーザー、グループ、共有フォルダーの使用量制限で使用率が正常 (指定値未満)。
	使用量制限の警告使用率 xx% を超えました。	使用量制限の使用率警告値 xx% を超えた。
	使用量制限情報を取得できません。	使用量制限に関する情報が取得できなかった。
	内蔵ボリュームの使用率は正常値です。	内蔵ボリュームの使用率が正常 (指定値未満)。
	内蔵ボリュームの使用率が xx% を超えました。	内蔵ボリュームの使用率が xx% を超えた。
	内蔵ボリュームの使用率を取得できません。	内蔵ボリュームの使用率が取得できなかった。
	開始しました。	一括登録を開始。
	完了しました。	一括登録が完了。
一括登録	aaaaa:bbbb の設定が不正です	一括登録で aaaaa の処理で、bbbb に禁則文字や禁則設定の指定のため、登録をスキップした。
バックアップ	設定を削除しました。	バックアップの設定削除が正常に終了。
	開始しました。	バックアップを開始。
	xxxxx を開始しました。	プロファイル xxxxx のバックアップを開始。
	完了しました。	バックアップが完了。
	xxxxx が完了しました。	プロファイル xxxxx のバックアップが完了。
	実行を開始しました。	バックアップの実行を開始。
	バックアップ元 : xxxxx を開始しました。	バックアップ元 xxxxx のバックアップを開始。
	バックアップ元 : xxxxx が完了しました。	バックアップ元 xxxxx のバックアップが完了。
	バックアップに失敗しました。	バックアップに失敗した。
	シャットダウンに失敗しました。	バックアップ後のシャットダウンに失敗した。
	バックアップ元 : xxxxx が失敗しました。	特定の項目のバックアップに失敗した。
	xxxxx が一部失敗しています。	バックアップ中、一部項目が正常にバックアップできなかった。
	バックアップ先が専用フォーマットではありません。	バックアップ先が専用フォーマットでフォーマットされていない。
	xxxxx は読み取り専用である必要があります。	指定されている共有が読み取り専用でない。
	xxxxx のボリュームが異常です。	指定されている共有のボリュームが異常。
	xxxxx のボリュームがバックアップ可能な状態ではありません。	指定されている共有のボリュームが使用可能な状態でない。
	xxxxx のボリュームは専用フォーマットである必要があります。	指定されている共有のボリュームが専用フォーマットでない。
	xxxxx への接続に失敗しました。	xxxxx への接続に失敗した。
	バックアップ元が指定されていません。バックアップ設定を確認してください。	バックアップ元が指定されていないため、バックアップがおこなわれなかった。

カテゴリー	メッセージ	説明
レプリケーション	初期同期を開始しました。	レプリケーションの初期同期処理を開始した。
	初期同期を完了しました。	レプリケーションの初期同期処理が完了し、監視動作を開始した。
	このレプリケーション先はサポート外です。	疎通テストでプロトコル不適合。
	レプリケーション先に接続できませんでした。	疎通テストで非サポートのアクションを行った。
	レプリケーション先を認証できませんでした。	疎通テストで接続プロトコルエラー。
	接続テストが中断されました。	疎通テストが何らかの理由で中断された。
	接続テストがタイムアウトしました。	疎通テストで接続タイムアウトエラー。
	初期同期が失敗しました。再試行します。	初期同期動作が失敗した。初期同期を再試行する。
	内部エラーが発生しました。初期同期を再試行します。	監視イベントの過多を検出した。初期同期を再試行する。
	同期が失敗しました。初期同期を再試行します。	監視中に同期処理が失敗した。初期同期を再試行する。
レプリケーション元共有フォルダー内のフォルダー数が多すぎます。 フォルダー数を減らしてからレプリケーション設定をやり直してください。	監視対象フォルダー数の限界を超えた。	
プリントサーバー	バッファをクリアしました。	プリントバッファのクリアが正常に終了。
	プリンターが接続されました。	プリンターが接続された。
	プリンターが取り外されました。	プリンターの取り外しが正常に終了。
	バッファのクリアに失敗しました。	プリンタバッファのクリアに失敗した。
	プリンターの接続に失敗しました。	プリンターの接続に失敗した。
プリンターの取り外しに失敗しました。	プリンターの取り外しに失敗した。	
ボリューム	取り外しが完了しました。	外付けボリュームの取り外しが正常終了。
	フォーマットを開始しました。	ボリュームのフォーマットを開始。
	フォーマットが完了しました。	ボリュームのフォーマットが正常終了。
	フォーマットに失敗しました。	ボリュームのフォーマットに失敗した。
	使用中のためフォーマットできません。使用されていないことを確認してから、再度操作を行ってください。	ボリュームが使用中のためにフォーマットに失敗した。
	容量が小さすぎるためフォーマットできません。	ボリュームの容量が小さすぎるためにフォーマットに失敗した。
	チェックディスクを開始しました。	ボリュームのチェックディスクを開始。
	チェックディスクが完了しました。	ボリュームのチェックディスクが正常終了。
	チェックディスクでエラーが発生しました。	ボリュームのチェックディスクに失敗した。
	使用中のためチェックできません。使用されていないことを確認してから、再度操作を行ってください。	ボリュームが使用中のためにチェックディスクを行うことができなかった。
	モード変更が完了しました。	ボリューム (接続するポート) のモード変更が正常終了。
	xxxxx が接続されました。	外付けボリューム xxxxx の接続が正常終了。
	xxxxx が取り外されました。	外付けボリューム xxxxx の取り外し処理が正常終了。
	使用中のため取り外しできません。使用されていないことを確認してから、再度操作を行ってください。	ボリュームが使用中のために取り外しに失敗した。
	取り外しに失敗しました。	ボリュームの取り外しに失敗した。
	使用中のためモードを変更できません。使用されていないことを確認してから、再度操作を行ってください。	RAID デバイスが使用中のために操作を行うことができなかった。
	モード変更に失敗しました。	RAID ボリュームのモード変更に失敗した。
	xxxxx の接続に失敗しました。	外付けボリューム xxxxx の接続に失敗した。
	xxxxx の取り外しに失敗しました。	外付けボリューム xxxxx の取り外しに失敗した。
	xxxxx が故障しました。交換してください。	外付けボリューム xxxxx の故障を検出した。
	xxxxx は容量不足です。	外付けボリューム xxxxx の容量が RAID に組み込むには小さ過ぎる。
	xxxxx は故障しています。	外付けボリューム xxxxx は S.M.A.R.T. エラーかエラーカウンタ値が 100 を超えている
	xxxxx は未フォーマットです。	外付けボリューム xxxxx は未フォーマット。
	xxxxx のマウントに失敗しました。	外付けボリューム xxxxx はフォーマット済と認識したがマウントに失敗した。
	xxxxx にはデータが入っています。	外付けボリューム xxxxx にはデータが存在するため、RAID に組み込まない。
	RAID の再設定に失敗しました。	RAID の再設定に失敗した。
	RAID の強制復帰に失敗しました。	RAID の強制復帰に失敗した。
	ロックキー用 USB メモリーが接続されていません。	ロックキーとして利用する USB メモリーが接続されていない。
	ロックキー用 USB メモリーの容量が小さすぎます。	ロックキーとして利用する USB メモリーの容量が小さ過ぎる。
	ディスク	xxxxx が接続されました。
xxxxx が取り外されました。		ディスクの取り外し処理が正常終了。
xxxxx の接続に失敗しました。		内蔵ディスク xxxxx の接続に失敗した。
xxxxx の取り外しに失敗しました。		内蔵ディスク xxxxx の取り外しに失敗した。
xxxxx が故障しました。交換してください。		内蔵ディスク xxxxx の故障を検出した。
xxxxx は未フォーマットです。		内蔵ディスク xxxxx はフォーマットされていない。
xxxxx のマウントに失敗しました。		内蔵ディスク xxxxx のマウント処理に失敗した。
xxxxx にはデータが入っています。		内蔵ディスク xxxxx にファイル / フォルダが記録されている。
xxxxx の取り外しはできません。		RAID を維持できなくなるため、スイッチ操作による内蔵ディスク xxxxxx の取り外しができなかった。
xxxxx は容量不足です。		内蔵ディスク xxxxx の容量が RAID に組み込むには小さ過ぎる。
xxxxx は故障しています。		内蔵ディスク xxxxx は S.M.A.R.T. エラーかエラーカウンタ値が 100 を超えている。

カテゴリー	メッセージ	説明
RAID	モード変更が完了しました。	RAID モードの設定が正常に終了。
	xxxxx- 再構築を開始しました。	ボリューム xxxxx の RAID の再構築が開始された。
	xxxxx- 再構築進捗 dd%	ボリューム xxxxx の RAID の再構築が進行中。
	xxxxx- 再構築を完了しました。	ボリューム xxxxx の RAID の再構築が正常に終了した。
	RAID が正常状態に復帰しました。	RAID システムが崩壊や構成異常状態から正常動作となった。
	RAID の再設定を開始しました。	内蔵ボリュームが RAID 崩壊時に RAID の再設定 (再フォーマット) を開始した。
	RAID の再設定が完了しました。	内蔵ボリュームが RAID 崩壊時に RAID の再設定 (再フォーマット) が完了した。
	RAID の強制復帰を開始しました。	内蔵ボリュームが RAID 崩壊時に RAID 強制復帰を開始した。
	RAID の強制復帰が完了しました。	内蔵ボリュームが RAID 崩壊時に RAID 強制復帰が完了した。
	ミラーディスクの取り外しを開始しました。	ミラーディスクの取り外しを開始した。この後シャットダウンする。
	シャットダウンが完了したら、ミラーディスクを取り外してください。	シャットダウンが完了したら、ミラーディスクを取り外す。
	ミラーリングを開始しました。	内蔵ボリュームと eSATA とのミラーリングを開始した。(リビルドはこれから)
	RAID が崩壊しました。	RAID が崩壊した。
	RAID の構成異常が発生しました。	RAID が構成異常となった。(デグレード)
	RAID が異常状態になりました。	RAID が異常状態となった。(eSATA ミラー側で動作、内蔵崩壊状態)
内蔵ボリュームのマウントに失敗しました。	内蔵ボリュームのマウントに失敗した。	
ロックキー	削除が完了しました。	ロックキーの削除が正常に終了。
	コピーが完了しました。	ロックキーのコピーが正常に終了。
	セキュリティロックモードを解除しました。	「セキュリティロックモード」を解除した。
	削除に失敗しました。	ロックキーの削除に失敗した。
	コピーに失敗しました。	ロックキーのコピーに失敗した。
	鍵ファイルが見つかりません。	ロックキーファイルが存在しない。
	セキュリティロックモードで起動しました。	ロックキーがないため「セキュリティロックモード」で起動した。
	セキュリティロックモードの解除に失敗しました。	「セキュリティロックモード」の解除に失敗した。
	設定を変更しました。	設定の変更が正常に終了。
	通信テストは正常に完了しました。	Key Server との通信テストに成功。
	設定変更失敗しました。	Key Server 設定の変更失敗。
	通信テストに失敗しました。	通信テストが失敗。
アクティブリペアー	開始しました。	アクティブリペアーを開始。
	停止しました。	アクティブリペアーを停止。
	完了しました。	アクティブリペアーを完了。
	アクティブリペアーの開始に失敗しました。	アクティブリペアーの開始に失敗した。
	アクティブリペアーの停止に失敗しました。	アクティブリペアーの停止に失敗した。
	修復できないエラーが発生しました。(xxxxx) 何度か実行しても正常終了しない場合データをバックアップ後、システム初期化を「内蔵HDDの完全消去を行う」オプションを付けて実行してください。	ボリューム xxxxx のディスクエラーを修復できなかった。
メール	テストメールを送信しました。	テストメールの送信が正常に終了。
	テストメールの送信に失敗しました。	テストメールの送信に失敗した。
イベント通知	xxxxx メールを送信しました。	イベント xxxxx のイベント通知メールの送信が正常に終了。
	xxxxx メールを送信に失敗しました。	イベント xxxxx のイベント通知メールの送信に失敗した。
定期レポート	メールを送信しました。	定期レポートメールの送信が正常に終了。
	メールの送信に失敗しました。	NarSuS サーバーへの接続に失敗した。
NarSuS	定期通知を行いました。	定期的に行う NarSuS サーバーへ状態通知が正常に終了した。
	サーバーへの接続に失敗しました。	NarSuS サーバーへの接続に失敗した。
	利用コードが不正です。	入力された利用コードが不正なコードだった。
SNMP	テストトラップを送信しました。	テストトラップの送信が正常に終了。
	テストトラップの送信に失敗しました。	テストトラップの送信に失敗した。
	トラップを送信しました。	トラップの送信が正常に終了。
	トラップの送信に失敗しました。	トラップの送信に失敗した。
電源	シャットダウンを開始しました。	シャットダウンを開始。
	再起動を開始しました。	再起動を開始。
UPS	UPS が取り外されました。	UPS の警告機能無効な状態で UPS が取り外された。
	停電復旧により、通常動作に復帰しました。	UPS が停電復旧により、通常動作に切り替わったことを検出した。
	UPS が接続されていることを確認しました。	UPS が接続されていることを検出した。
	状態取得に失敗しました。	UPS の状態取得に失敗した。
	UPS が接続されていません。	UPS が接続されていないことを検出した。
	停電により、バッテリー動作を開始しました。	UPS が停電によりバッテリー動作に切り替わったことを検出した。
	停電後、指定した経過時間を超えました。	UPS が停電状態から指定時間経過したことを検出した。
	UPS のバッテリーローを検出しました。	UPS が停電状態でバッテリーローを検出した。
	ネットワークシャットダウン要求を送信しました。 - xxxxxxxxxx	xxxxxxxxxx に対して、ネットワークシャットダウン要求を送信した。
	ネットワークシャットダウン要求を受信したため、シャットダウンを開始します。	ネットワークシャットダウン要求を受信したため、シャットダウンを開始した。
	ネットワークシャットダウン要求の送信に失敗しました。(認証エラー)	認証エラーによりネットワークシャットダウン要求の送信に失敗した。
	ネットワークシャットダウン要求の送信に失敗しました。(通信エラー)	通信エラーによりネットワークシャットダウン要求の送信に失敗した。
	ネットワークシャットダウン要求の送信に失敗しました。(IP アドレス変換エラー)	IP アドレスへの変換エラーによりネットワークシャットダウン要求の送信に失敗した。
	ファームウェア	アップデートを開始しました。
ファームウェアアップデートに成功しました。 : x.xx		ファームウェアアップデートに成功した。
新しいファームウェアが公開されています。		最新ファームウェアが公開されていることを検出した。
現在のファームウェア (x.xx) と同じまたは古いバージョンです。		現在と同じまたは古いバージョンでアップデートしようとした。(ファームウェアバージョン)
不正なファームウェアファイルです。		本装置用のファームウェアではないファイルを検出した。
ファームウェアアップデートに失敗しました。		ファームウェアアップデートに失敗した。

カテゴリー	メッセージ	説明	
システム	システムを起動しました。	システムの起動が完了した。	
	システムを終了しました。	システムのシャットダウンが開始された。	
	再起動を開始しました。	システムの再起動が開始された。	
	シャットダウンに失敗しました。	シャットダウンに失敗した。	
	再起動に失敗しました。	再起動に失敗した。	
	管理者ログインしました。 : xxx.xxx.xxx.xxx	WEB 設定画面へログインした。(接続 PC の IP アドレス)	
	管理者ログアウトしました。 : xxx.xxx.xxx.xxx	WEB 設定画面からログアウトした。(接続 PC の IP アドレス)	
	管理者ログインに失敗しました。 : xxx.xxx.xxx.xxx	WEB 設定画面へのログインに失敗した。(接続 PC の IP アドレス)	
	装置温度が異常です。	装置温度が 60°C に達した。	
	FAN が停止しました。FAN の状態を確認してください。	FAN が停止を検出した。	
初期化	初期化を完了しました。	システム初期化を完了した。	
	初期化に失敗しました。	システム初期化中にエラーが発生した。	
ログ転送	ログ情報をメール転送しました。	ログ情報をメール転送。	
	アクセスログをメール転送しました。	アクセスログをメール転送。	
	ログ情報転送メールの送信に失敗しました。	ログ情報のメール転送に失敗した。	
ツール	設定取得を開始しました。	LAN DISK Restore で設定保存が開始された。	
	設定取得を完了しました。	LAN DISK Restore での設定保存が完了した。	
	設定を開始しました。	LAN DISK Restore で設定復元が開始された。	
	設定を完了しました。	LAN DISK Restore での設定復元が完了した。	
	要求処理中に他の要求がありました。この要求はキャンセルされま す。	すでにリクエストを処理している最中に別のリクエストを受信した。	
	設定中にエラーが発生しました。	設定中にエラーが発生しました。	
	設定保存中にエラーが発生しました。	設定保存中にエラーが発生した。	
	eSATA ボリュームが接続されているため設定を行えません。	eSATA ボリュームが接続されているため設定が行えない	
	現在の内蔵ボリュームの動作モードではミラーリングモードに変 更できません。	現在の RAID モードではミラーリングに設定を変更できない。	
	xxxxx はミラーリングモードでは設定できないモードです。	ミラーリングモードでは指定された RAID モード xxxxx は設定できない。	
	aaaaa-bbbbbb に ccccc は不正です。	設定項目 aaaaa の bbbbbb に対して ccccc は不正な値である。	
	iobb.net	仮登録が完了しました。メールを確認し、本登録を行ってください。	iobb.net への仮登録が完了した。この後、本登録が必要。
		シリアル番号が正しくありません。	シリアル番号が正しくない。
希望のホスト名はすでに登録されています。		入力したホスト名がすでに他のユーザーによって使われているため登録できな い。	
システムエラーが発生しました。		システムエラーが発生した。	
サーバーエラーが発生しました。		サーバーエラーが発生した。	
iobb.net への接続に失敗しました。		iobb.net への接続に失敗した。	
Amazon S3/ Cloud [®]	xxxx の同期に失敗しました。	同期処理時、共有フォルダー xxxx の同期に失敗した。	
	共有フォルダーに空きがありません。(xxxx)	同期処理時、共有フォルダー xxxx の空き容量が足りず、同期に失敗した。	
	xxxx を同期できません。スキップします。	同期処理時、ファイル/ディレクトリ xxxx の同期に失敗した。	
	xxxx はアップロードできるサイズを超えています。スキップしま す。	同期処理時、アップロードファイル xxxx が「アップロード最大ファイルサイズ」 に設定したサイズを超えていた。	
	バケットが存在しません。(xxxx)	同期処理時、共有フォルダー xxxx に指定されたバケットが存在しない。	
	アクセスキーが不正です。(xxxx)	同期処理時、共有フォルダー xxxx に指定されたアクセスキーが不正。	
	シークレットキーが不正です。(xxxx)	同期処理時、共有フォルダー xxxx に指定されたシークレットキーが不正。	
Dropbox	xxxx の同期に失敗しました。	同期処理時、Dropbox との同期に失敗した。	
	サーバーに空きがありません。	同期処理時、Dropbox 上の共有フォルダーに空きがない。	
	共有フォルダに空きがありません。(xxxx)	同期処理時、本製品上の共有フォルダー xxxx に空きがない。	
	xxxx を同期できません。スキップします。	同期処理時、ファイルを正しく同期できなかった。	
	xxxx はアップロードできるサイズを超えています。スキップしま す。	同期処理時、アップロードファイル xxxx が 300MB を超えていた。	
	接続がタイムアウトしました。(XXXX)	同期処理時、Dropbox との接続でタイムアウトが発生した。	
パッケージ管理	追加完了しました。	パッケージの追加が完了した。	
	更新完了しました。	パッケージの更新が完了した。	
	削除完了しました。	パッケージの削除が完了した。	
	追加失敗しました。	パッケージの追加に失敗した。	
	更新失敗しました。	パッケージの更新に失敗した。	
	削除失敗しました。	パッケージの削除に失敗した。	

● Microsoft ネットワーク共有サービスアクセスログ

【アクセスログのリファレンス】(19-122 ページ) をご覧ください。

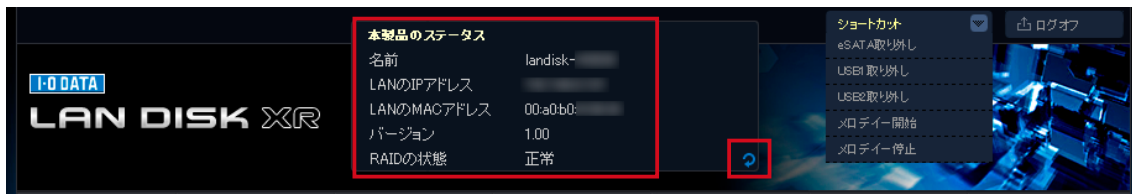
メール通知一覧

メール通知設定	送信タイミング	通知内容 (メール Subject)	通知内容 (メール body)	補足	
イベント通知設定	システム	イベント発生時	[LAN DISK の名前] システム	システムを起動しました。	システム起動の完了時にメール通知されます。
		イベント発生時	[LAN DISK の名前] システム	システムを終了しました。	システムのシャットダウン開始時にメール通知されます。
		イベント発生時	[LAN DISK の名前] システム	再起動を開始しました。	再起動の再起動が開始時にメール通知されます。
		システム起動 5 分後と 1 日 1 回	[LAN DISK の名前] システム	新しいファームウェアが公開されています。	最新ファームウェアが公開されていることを検出時にメール通知されます。
バックアップ	イベント発生時	[LAN DISK の名前] バックアップ	xxxxx を開始しました。	プロファイルのバックアップを開始時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] バックアップ	xxxxx が完了しました。	プロファイルのバックアップが完了時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] バックアップ	xxxxx が一部失敗しています。	バックアップ中、一部項目が正常にバックアップできなかった場合にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] バックアップ	バックアップに失敗しました。	バックアップに失敗した時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] レプリケーション	レプリケーション元共有フォルダー内のフォルダー数が多すぎます。フォルダー数を減らしてからレプリケーション設定をやり直してください。	監視対象フォルダー数の限界を超えた時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] バックアップ	バックアップ元が指定されていません。バックアップ設定を確認してください。	バックアップ元が指定されていない状態でバックアップされた場合に通知されます。	
温度 FAN 警告	システム起動 5 分後以降のイベント発生時	[LAN DISK の名前] 温度 FAN 警告	装置温度が異常です。装置の設置環境を見直してください。システムを強制終了します。	装置温度が 60°C に達した時にメール通知されます。	
	システム起動 5 分後以降のイベント発生時	[LAN DISK の名前] 温度 FAN 警告	FAN が停止しました。FAN の状態を確認してください。装置が高温となり障害の原因となりますので、システムを強制終了します。	FAN が停止した時にメール通知されます。	
ログ転送	ログローテート時 システムシャットダウン時	[LAN DISK の名前] ログ情報転送	本文なし、 添付ファイルに CSV 形式ログ情報が添付ファイルとして添付		
	ログローテート時 システムシャットダウン時	[LAN DISK の名前] アクセスログ転送	本文なし、 添付ファイルに CSV 形式アクセスログが添付ファイルとして添付		
ディスクエラー警告	イベント発生時	[LAN DISK の名前] ディスクエラー警告	xxxxx の接続に失敗しました。	外付けボリュームの接続に失敗時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] ディスクエラー警告	xxxxx の取り外しに失敗しました。	外付けボリュームの取り外しに失敗時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] ディスクエラー警告	xxxxx が故障しました。交換してください。	外付けボリューム故障を検出時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] ディスクエラー警告	xxxxx の接続に失敗しました。	内蔵ディスクの接続に失敗時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] ディスクエラー警告	xxxxx の取り外しに失敗しました。	内蔵ディスクの取り外しに失敗時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] ディスクエラー警告	xxxxx が故障しました。交換してください。	内蔵ディスクの故障を検出時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] RAID	xxxxx- 再構築を開始しました。	表示されたボリュームの RAID の再構築が開始時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] RAID	xxxxx- 再構築を完了しました。	表示されたボリュームの RAID の再構築が正常に終了時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] RAID	RAID が正常状態に復帰しました。	RAID システムが崩壊や構成異常状態から正常動作となった時にメール通知されます。	
	イベント発生時と起動時と定期警告時	[LAN DISK の名前] ディスクエラー警告	内蔵ボリュームのマウントに失敗しました。	内蔵ボリュームのマウントに失敗時にメール通知されます。	
	イベント発生時と起動時と定期警告時	[LAN DISK の名前] ディスクエラー警告	RAID が崩壊しました。	RAID が崩壊時にメール通知されます。	
	イベント発生時と起動時と定期警告時	[LAN DISK の名前] ディスクエラー警告	RAID の構成異常が発生しました。	RAID の構成異常検出時にメール通知されます。	
	イベント発生時と起動時と定期警告時	[LAN DISK の名前] ディスクエラー警告	RAID が異常状態になりました。	RAID の異常状態検出時にメール通知されます。	
	ロックキー接続時	[LAN DISK の名前] ロックキー	セキュリティロックモードを解除しました。	「セキュリティロックモード」を解除時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] ロックキー	セキュリティロックモードで起動しました。	ロックキーがないため「セキュリティロックモード」で起動時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] アクティブリペアー	開始しました。	アクティブリペアーを開始時にメール通知されます。	
イベント発生時	[LAN DISK の名前] アクティブリペアー	停止しました。	アクティブリペアーを停止時にメール通知されます。		
イベント発生時	[LAN DISK の名前] アクティブリペアー	完了しました。	アクティブリペアーを完了時にメール通知されます。		
イベント発生時	[LAN DISK の名前] アクティブリペアー	アクティブリペアーの開始に失敗しました。	アクティブリペアーの開始に失敗時にメール通知されます。		

メール通知設定	送信タイミング	通知内容 (メール Subject)	通知内容 (メール body)	補足
イベント通知設定	ディスクエラー警告	イベント発生時	[LAN DISK の名前] アクティブリペアー アクティブリペアーの停止に失敗しました。	アクティブリペアーの停止に失敗時にメール通知されます。
		イベント発生時	[LAN DISK の名前] アクティブリペアー 修復できないエラーが発生しました。(xxxxx) 何度か実行しても正常終了しない場合データをバックアップ後、システム初期化を「内蔵 HDD の完全消去を行う」オプションを付けて実行してください。	ディスクエラーの修復失敗時にメール通知されます。
	UPS 警告	イベント発生時	[LAN DISK の名前] UPS 警告 停電復旧により、通常動作に復帰しました。	UPS が停電復旧により、通常動作に切り替わったことを検出時にメール通知されます。
		イベント発生時と起動時と定期警告時	[LAN DISK の名前] UPS 警告 UPS が接続されていません。	UPS が接続されていないことを検出時にメール通知されます。
		イベント発生時と起動時と定期警告時	[LAN DISK の名前] UPS 警告 停電により、バッテリー動作を開始しました。	UPS が停電によりバッテリー動作に切り替わったことを検出時にメール通知されます。
		イベント発生時と起動時と定期警告時	[LAN DISK の名前] UPS 警告 停電後、指定した経過時間を超えました。	UPS が停電状態から指定時間経過したことを検出時にメール通知されます。
	イベント発生時と起動時と定期警告時	[LAN DISK の名前] UPS 警告 UPS のバッテリーローを検出しました。	UPS が停電状態でバッテリーローを検出時にメール通知されます。	
イベント発生時	[LAN DISK の名前] UPS 警告 ネットワークシャットダウン要求を受信したため、シャットダウンを開始します。	ネットワークシャットダウン要求を受信時にメール通知されます。		
ボリューム使用量警告	起動時と定期警告時	[LAN DISK の名前] ボリューム使用量警告 ボリューム使用量警告 内蔵ボリュームの使用率が x% 以上になりました。 全容量 :xxxxGB (xxxxxxxxxxx byte) 使用量 :xxxxGB (xxxxxxxxxxx byte) xx.x%	内蔵ボリュームの使用率が指定値を超えるとメール通知されます。	
	起動時と定期警告時	[LAN DISK の名前] ボリューム使用量警告 内蔵ボリュームの使用率を取得できません。お知らせを確認してください。(4005-221)	内蔵ボリュームの使用率の取得に失敗時にメール通知されます。	
使用量制限警告	起動時と定期警告時	[LAN DISK の名前] 使用量制限警告 使用量制限警告 下記ユーザーの使用率が 90% 以上になりました。 xxxxx: 制限設定値 :xx.xGB 使用量 :xx.xGB (xx.x%)	定期警告時に使用量制限容量に対する使用率が指定値を超えたユーザー、グループ、共有フォルダーの情報がメール通知されます。 警告使用率を超えたユーザー別制限設定値と使用量 警告使用率を超えたグループ別設定値と使用量 警告使用率を超えた共有フォルダー別設定値と使用量 ※ NT ドメイン、ActiveDirectory に参加している場合は、警告使用率を超えたドメインユーザー、ドメイングループの設定値と使用量も記載されます。	
	起動時と定期警告時	[LAN DISK の名前] 使用量制限警告 使用量制限情報を取得できません。お知らせを確認してください。(905-218)	使用量制限情報を取得に失敗するとメール通知されます。	
定期レポート設定	ボリューム使用量レポート	[LAN DISK の名前] 定期レポート ボリューム使用量レポート 内蔵ボリューム： 全容量 :xxxGB (xxxxxxxxxxx byte) 使用量 :xxxGB (xxxxxxxxxxx byte) xx.x % ユーザー： xxxxx: 制限設定値 : xx GB 使用量 : xx GB (xx.x %) xxxxx: 制限設定値 : xx GB 使用量 : xx GB (xx.x %) グループ： xxxxx: 制限設定値 : xx GB 使用量 : xx GB (xx.x %) フォルダー： xxxxx: 制限設定値 : xx GB 使用量 : xx GB (xx.x %) xxxxx: 制限設定値 : xx GB 使用量 : xx GB (xx.x %)	指定曜日時間に下記の情報がメール通知されます。 内蔵ボリューム使用量 ユーザー別使用量 グループ別使用量 共有フォルダー別使用量 ※ NT ドメイン、ActiveDirectory に参加している場合は、ドメインユーザー、ドメイングループの使用量も記載されます。 ボリューム使用量の情報は常に記載されますが、ユーザー別、グループ別、共有フォルダー別の使用量は、サービスの使用量制限設定が有効、かつ、使用量制限設定が設定された項目のみ記載されます。	

設定画面のリファレンス

本製品のステータス

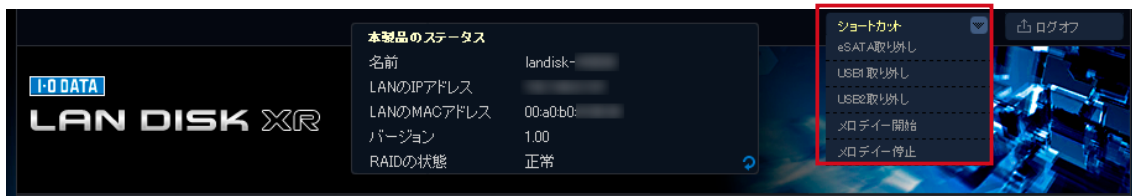


名前	本製品に設定している名前を表示します。
LANのIPアドレス	本製品のLANポートに設定しているIPアドレスを表示します。
LANのMACアドレス	本製品のLANポートのMACアドレスを表示します。
バージョン	本製品システムのバージョンを表示します。
RAIDの状態	本製品のRAIDの状態を表示します。 詳細な状態は、[情報表示] → [ボリューム情報] で確認できます。

本製品のステータスの右下にある、円形の矢印をクリックすると、本製品のステータスの表示を更新することができます。

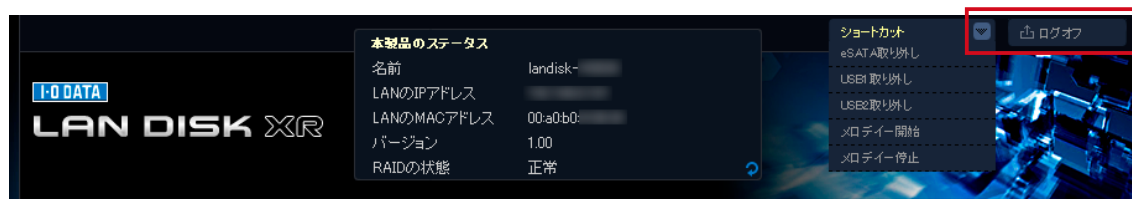
ショートカット

ショートカットメニューは選択するだけで簡単に本機の操作ができます。



eSATA 取り外し	共有モード (FAT/NTFS/専用) 設定時に、eSATAポートに接続したeSATAハードディスクを取り外せる状態にします。 eSATAハードディスクを取り外す時は、「eSATAの取り外し」を実行した後に取り外してください。
USB1 取り外し	共有モード (FAT/NTFS/専用) 設定時に、USBポート1に接続したUSBディスクを取り外せる状態にします。 USB1ポートに接続したハードディスクを取り外す時は、「USB1の取り外し」を実行した後に取り外してください。
USB2 取り外し	共有モード (FAT/NTFS/専用) 設定時に、USBポート2に接続したUSBディスクを取り外せる状態にします。 USB2ポートに接続したハードディスクを取り外す時は、「USB2の取り外し」を実行した後に取り外してください。
メロディー開始	メロディー機能では、ランプとメロディー音で本製品の設置場所や現在設定画面を開いている本製品を確認することができます。 ネットワーク内に複数台の本製品を設置した場合などにご利用ください。 [STATUS] ランプと各内蔵HDDの[ACCESS] ランプが点滅し、メロディー音が鳴ります。
メロディー停止	メロディー音を停止し、[STATUS] ランプと各内蔵HDDの[ACCESS] ランプは現在の状態表示に戻ります。

ログオフ

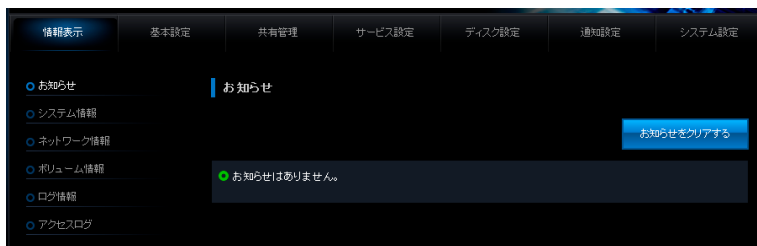


設定画面からログオフして、トップページに戻ります。再度、詳細設定画面にて操作設定するには再ログインが必要となります。

情報表示

お知らせ

本製品に関するお知らせが表示されます。ブザーや [STATUS] ランプで本製品がエラーや注意を示す時に確認してください。表示させるメッセージは全て [情報表示] → [ログ情報] にも記録されますので、発生時刻など、詳細はログ情報をご確認ください。お知らせで表示される内容は以下の 3 種類があります。



エラー	赤色マークで表示される内容は、本製品に重大なエラーが発生しています。 【お知らせ一覧】(25-159 ページ) を参照し、対処してください。 エラーの原因を解消するまでメッセージは表示されます。 発生時刻については、ログ情報とあわせてご確認ください。 エラーのお知らせが表示されている場合、本製品の「STATUS」ランプが赤点滅しています。
注意	黄色マークで表示される内容は、本製品に注意が必要な問題が発生しています。 【お知らせ一覧】(25-159 ページ) を参照し、対処してください。 注意のお知らせは、お知らせ画面を再度表示させると表示されません。 発生時刻については、ログ情報とあわせてご確認ください。
正常	緑色マークで「お知らせはありません。」と表示されている場合は、お知らせ画面を表示した時点では、お知らせする内容はありません。

[お知らせをクリアする] ボタン	すべてのお知らせ情報をクリアします。 [イベント通知設定] → [定期警告] にチェックしておくこと、エラーの原因を解消していない場合は、[お知らせをクリアする] ボタンでお知らせをクリアしても、1 時間に 1 回再度お知らせにエラーが表示されます。
------------------	--

システム情報

▼ HDL-XR シリーズの場合

情報表示	基本設定	共有管理	サービス設定	ディスク設定	通知設定	システム設定
○ お知らせ	システム情報					
○ システム情報	プロダクト名	HDL-XR2.0				
○ ネットワーク情報	システムバージョン	1.00				
○ ボリューム情報	現在時刻	2009年10月16日 11時44分11秒				
○ ログ情報	タイムサーバーとの時刻同期	同期する				
○ アクセスログ	有効な共有サービス	<input checked="" type="checkbox"/> Microsoft ネットワーク共有 <input checked="" type="checkbox"/> アクセスログを記録 <input checked="" type="checkbox"/> AppleShare ネットワーク共有 <input checked="" type="checkbox"/> FTP共有 <input checked="" type="checkbox"/> ネットワークバックアップの許可 <input checked="" type="checkbox"/> 使用量制限				
	内蔵ボリュームの動作モード	RAID6				
	クイックコピー	有効				
	バックアップスケジュール	無効				
	ディスク省電力	なし				
	ランプの明るさ	明				
	起動スケジュール	無効				
	筐体内温度	88 °C				
	メイン FAN 回転数	1385 rpm				
	UPS 接続状態	未接続				
	UPS バッテリー残量	-				
	UPS 警告機能	無効				

▼ HDL-XR/2D シリーズの場合

情報表示	基本設定	共有管理	サービス設定	ディスク設定	通知設定	システム設定
○ お知らせ	システム情報					
○ システム情報	プロダクト名	HDL-XR1.0/2D				
○ ネットワーク情報	システムバージョン	1.01 (2009/12/04 19:29)				
○ ボリューム情報	現在時刻	2009年12月8日 17時27分3秒				
○ ログ情報	タイムサーバーとの時刻同期	同期する				
○ アクセスログ	有効な共有サービス	<input checked="" type="checkbox"/> Microsoft ネットワーク共有 <input checked="" type="checkbox"/> AppleShare ネットワーク共有 <input checked="" type="checkbox"/> FTP共有 <input checked="" type="checkbox"/> ネットワークバックアップの許可				
	内蔵ボリュームの動作モード	RAID1				
	クイックコピー	有効				
	バックアップスケジュール	無効				
	ディスク省電力	なし				
	ランプの明るさ	明				
	起動スケジュール	無効				
	筐体内温度	37 °C				
	メイン FAN 回転数	1305 rpm				
	UPS 接続状態	未接続				
	UPS バッテリー残量	-				
	UPS 警告機能	無効				

プロダクト名	製品型番です。
システムバージョン	本製品システムのバージョンです。
現在時刻	本製品に設定されている時刻です。
タイムサーバーとの時刻同期	本製品の時刻をタイムサーバーから取得するかどうかについて表示します。取得する場合、タイムサーバーの設定状況と設定するタイミングも表示します。 例) タイムサーバー : ntp.nict.jp 設定は、【日付と時刻の設定】(26-174 ページ) をご覧ください。
有効な共有サービス	現在本製品が提供しているサービスを表示します。 設定は、【サービス設定】(26-185 ページ) をご覧ください。
	Microsoft ネットワーク共有 Windows パソコンがファイル共有に使用するサービスです。
	アクセスログを記録 Microsoft ネットワーク共有アクセス時にログを記録します。
	AppleShare ネットワーク共有 Mac OS パソコンがファイル共有に使用するサービスです。
	FTP 共有 FTP によるファイル転送に使用するサービスです。
	ネットワークバックアップの許可 ネットワーク越しのデータをバックアップ、レプリケーションを使用する場合に必要なサービスです。
	使用量制限 ユーザー・グループ・フォルダーの使用量制限を使用する場合に必要なサービスです。
内蔵ボリュームの動作モード	現在の内蔵ボリュームがどのようなモードで動作しているのかを表示します。 設定は、【ボリューム設定】(26-187 ページ) をご覧ください。
クイックコピー	USB ポート 1 に接続された USB 機器から共有へ一括コピーを実行するモードです。 このモードに設定した場合、USB ポート 1 に接続された USB 機器はコピー元として認識され、[FUNC.] ボタンを長押しすると、あらかじめ設定された共有へコピーします。 クイックコピーモードを解除して一般共有ポートとして利用したり、クイックコピーのコピー先共有を変更したい場合には、【ボリューム設定】(26-187 ページ) をご覧ください。
バックアップスケジュール	バックアップスケジュールの設定状況を表示します。 設定は、【バックアップ】(26-183 ページ) をご覧ください。
ディスク省電力	一定時間ディスクアクセスがない場合に内蔵ドライブ、外付けドライブを省電力モードにして消費電力を抑える機能を提供します。 時間が表示されている場合は、最後のディスクアクセスからその時間経過すると消費電力を抑えるモードに入ります。次回ディスクアクセスが発生すると、自動的に通常モードに戻ります。外付けドライブにおいては対応する装置以外、省電力モードは利用できません。 最新の対応機器については、弊社製品ホームページをご覧ください。 設定は、【省電力設定】(26-193 ページ) をご覧ください。
ランプの明るさ	本製品前面の [STATUS] ランプ、および、4 台のカートリッジの [ACCESS] ランプの明るさを表示します。明るさは「明」「中」「暗」の 3 段階から選択できます。 設定は、【ランプ設定】(26-192 ページ) をご覧ください。
起動スケジュール	本製品を指定時刻に起動、終了する機能を利用しているかどうかを表示します。 設定は、【電源 ON/OFF 設定】(26-192 ページ) をご覧ください。
筐体内温度	現在の装置内の温度を表示します。
メイン FAN 回転数	メイン FAN の現在の回転数を表示します
UPS 接続状態	UPS 装置の接続状態を表示します。
UPS バッテリー残量	接続されているバッテリーの残容量を表示します。
UPS 警告機能	UPS 監視の有効 / 無効を表示します。

ネットワーク情報



LAN DISK の名前		本製品に設定している名前です。 この名前は、Windows ネットワークに接続しているクライアントから本製品を指定する場合などに利用します。 設定は、【名前設定】(26-174 ページ) をご覧ください。
コンピューターの説明		本製品に設定している説明文です。Windows ネットワークのプロパティ内にある [コンピューターの説明] 同様に、ネットワークで本製品を詳細表示したときのコメントです。 設定は、【名前設定】(26-174 ページ) をご覧ください。
LAN (EXT)	DHCP クライアント	本製品の LAN(EXT) ポートの IP アドレスを自動取得する DHCP 機能が有効か無効かを表示します。 有効：IP アドレスをルーターなどの DHCP サーバーから自動取得します。 無効：IP アドレスを手動設定したとりに設定します。 設定は、【ネットワーク設定】(26-174 ページ) をご覧ください。
	IP アドレス	本製品に設定している IP アドレスです。 DHCP クライアント機能が有効の場合は、DHCP サーバーから自動取得したアドレスが表示されます。 (LAN ポートの DHCP 取得失敗時) 192.168.0.200 (AutoIP 169.254.xxx.xxx は表示しません) (EXT ポートの DHCP 取得失敗時) 192.168.10.200
	サブネットマスク	本製品に設定しているサブネットマスクです。IP アドレスとの組み合わせにより、通信できるネットワークが決まります。DHCP クライアント機能を有効にしている場合は、DHCP サーバーから取得したサブネットマスク値が表示されます。 (DHCP 取得失敗時) 255.255.255.0 (AutoIP のサブネットマスクは表示しません)
	ジャンボフレーム	本製品が通信する際に送り出す 1 回分のデータの最大値を指定します。 ネットワーク上すべての製品が 1000BASE-T でジャンボフレームに対応している場合のみご利用いただけます。 ネットワーク上のすべての機器が同一の値でないと通信できません。設定値が正しいかどうかご確認ください。
	MAC アドレス	本製品の MAC アドレスです。 このアドレスは出荷時点で本製品に書き込まれており、変更はできません。
	リンク状態	現在のリンクスピードを表示しています。
	Wake On LAN (LAN のみ)	Wake On LAN の有効/無効を表示します。 設定は、【ネットワーク設定】(26-174 ページ) をご覧ください。
共通	設定方法	デフォルトゲートウェイと DNS サーバーアドレスの情報取得方法を表示します。 設定は、【ネットワーク設定】(26-174 ページ) をご覧ください。
	デフォルトゲートウェイ	本製品に設定しているデフォルトゲートウェイです。
	DNS サーバーアドレス	本製品に設定している DNS サーバーアドレスです。
ワークグループ設定時	ワークグループ	本製品に設定しているワークグループ名です。 設定は、【Microsoft ネットワーク】(26-181 ページ) をご覧ください。
NT ドメイン設定時	ドメイン名	本製品で設定している NT ドメイン名です。 設定は、【Microsoft ネットワーク】(26-181 ページ) をご覧ください。
	ドメインコントローラーの名前	本製品で設定している NT ドメインコントローラーの名前です。 設定は、【Microsoft ネットワーク】(26-181 ページ) をご覧ください。
ActiveDirectory 設定時	ドメイン名 (NetBIOS 名)	本製品で設定している Active Directory のドメイン名 (NetBIOS 名) です。 設定は、【Microsoft ネットワーク】(26-181 ページ) をご覧ください。
	ドメイン名 (フル DNS 名)	本製品で設定している Active Directory のドメイン名 (フル DNS 名) です。 設定は、【Microsoft ネットワーク】(26-181 ページ) をご覧ください。
	ドメインコントローラーの名前	本製品で設定している Active Directory のドメインコントローラーの名前です。 設定は、【Microsoft ネットワーク】(26-181 ページ) をご覧ください。
WINS サーバーアドレス		本製品に設定している WINS サーバーアドレスです。 この設定により、ルーターで区切られたネットワークにおいても名前による Windows ネットワーク共有サービスが受けられます。通常ご家庭で利用する場合は不要です。 設定は、【Microsoft ネットワーク】(26-181 ページ) をご覧ください。

ボリューム情報

▼ HDL-XR シリーズの場合



▼ HDL-XR/2D シリーズの場合



動作モード	ボリュームの動作モードを表示します。 設定は、【ボリューム設定】(26-187 ページ) をご覧ください。		
状態	ボリュームの動作状態を表示します。状態により複数表示される場合があります。		
	正常動作	ボリュームは正常に動作しています。	
	再構築中	RAIDの再構築を行っています。	
	セキュリティロック中	暗号化された RAID ボリュームの解除キーを待っている状態です。	
	構成異常	RAIDの構成ディスクの一部が外されています。	
	RAID 崩壊	崩壊モードで起動した、または、動作中に RAID が崩壊しています。	
	未接続	ディスクが接続されていないか、取り外し処理を行ったか、あるいは正常に認識されていない状態です。ケーブルの抜き差しが可能な状態です。	
	未フォーマット	対象ボリュームが未フォーマット状態です。	
	容量不足	ディスクが接続されており、正常に認識されていますが、RAID に組み込めない状態です。接続したディスクの容量がミラーリングするために必要な容量より小さい場合に表示されます。 適切な容量のディスクと交換してください。	
	取り外し済	ボリュームは取り外し処理済です。	
	マウント失敗	ボリュームのマウントに失敗しています。	
	異常	eSATA ミラー使用時に、内蔵ボリュームが構成できなかった状態です。	
	待機中	ミラーに追加したボリュームにデータが入っているため、手動でのミラーリング開始操作を待っている状態です。	
	ロックキー	暗号化された RAID ボリュームの解除キーが接続されています。	
全容量	ボリューム全体の容量を表示します。 1Kbyte = 1000byte で算出しています。		
使用容量	現在使用している容量を表示します。		
フォーマット形式	このボリュームのフォーマット形式を表示します。		
構成ディスク	ボリュームを構成するディスクの一覧を次の形式で表示します。(ディスク番号 ディスク状態 ディスク名 ディスク容量)		
	ディスク状態	接続済	本製品で正常に認識されています。
		未接続	本製品で認識されていません。カートリッジの交換、またはケーブルの抜き差しが可能な状態です。
		待機中	本製品で認識されていますが、RAID に組み込めない状態です。
		スペア	本製品で、スペアとして認識されています。
		容量不足	内蔵 RAID に組み込むために必要なディスク容量より小さいディスクが接続されている場合に表示されます。適切な容量のディスクに交換する必要があります。
		故障	読み書きエラーや S.M.A.R.T. 診断でエラーとなったディスクです。新しいディスクに交換する必要があります。
	ディスク名	ディスクのモデルナンバーを表示します。	
ディスク容量	ディスク容量を表示します。1Kbyte = 1000byte で算出しています。		

ログ情報

本製品のログ情報を表示します。上から新しい順に 100 件のログを表示しています。ログの内容については、以下をご覧ください。

[【ログ一覧】 \(25-162 ページ\)](#)



[ダウンロード] ボタン	すべてのログ情報を、CSV 形式でダウンロードすることができます。 ダウンロードしたファイルは Excel など CSV ファイルを開くことのできるソフトウェアで確認することができます。
前のページへ	現在表示しているログの以前の 100 件を表示します。
次のページへ	現在表示しているログの次の 100 件を表示します。

アクセスログ

本製品の共有フォルダー（Microsoft ネットワーク共有のみ）に対するクライアントからのアクセス内容を表示します。

上から新しい順に 100 件のログを表示しています。ログの内容については、以下をご覧ください。

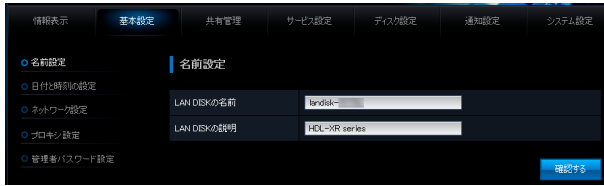
[【アクセスログのリファレンス】 \(19-122 ページ\)](#)



[ダウンロード] ボタン	すべてのログ情報を、CSV 形式でダウンロードすることができます。 ダウンロードしたファイルは Excel など CSV ファイルを開くことのできるソフトウェアで確認することができます。
前のページへ	現在表示しているログの以前の 100 件を表示します。
次のページへ	現在表示しているログの次の 100 件を表示します。

基本設定

名前設定



LAN DISK の名前	ネットワーク上で表示される本製品の名前を設定します。ネットワーク上に同じ名前が存在しないよう設定します。
LAN DISK の説明	Windows ネットワーク上で表示される本製品の説明を設定します。(入力しなくてもかまいません。)

日付と時刻の設定

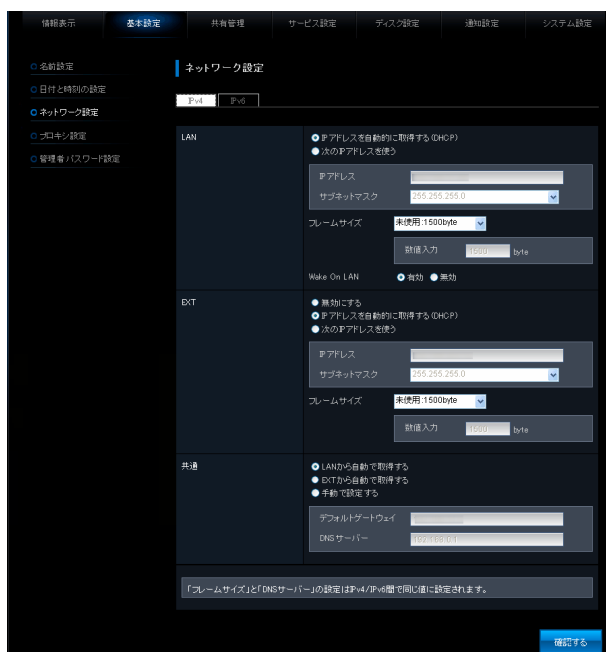


日付と時刻	日付と時刻を設定します。 [PCの時刻を設定] ボタンをクリックすると、パソコンに設定されている時刻を設定します。
サーバーと同期	タイムサーバーを利用して時刻設定する場合に、[同期する] を選択します。 ※サーバーと同期するを有効にした場合、設定と同時に同期を開始します。

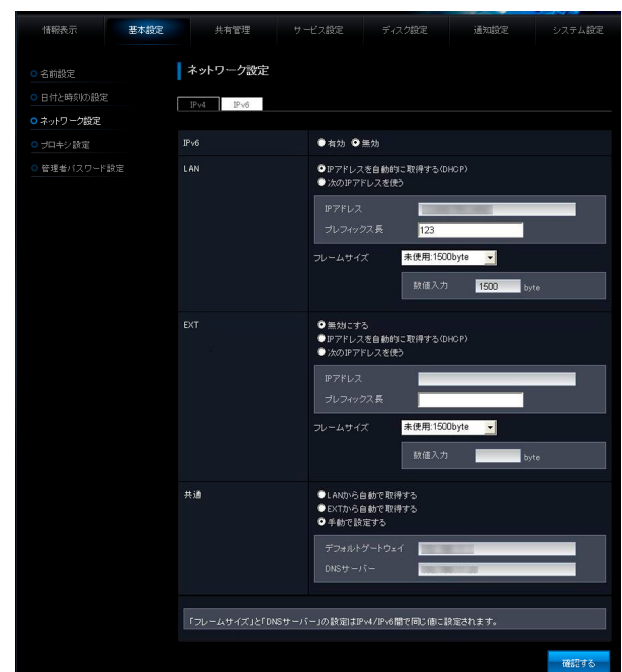
ネットワーク設定

[LAN] ポート、[EXT] ポートのネットワーク設定や、フレームサイズ、Wake On LAN などの設定を行います。

▼ [IPv4] タブ



▼ [IPv6] タブ



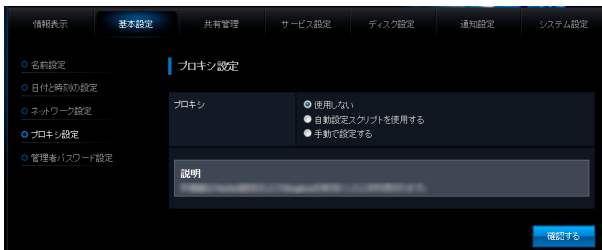
IPv6	有効	IPv6 を有効にする場合に選択します。
	無効	IPv6 を無効にする場合に選択します。

LAN	LAN ポートの設定をします。		
	IP アドレスを自動的に取得する (DHCP)	本製品の IP アドレスを DHCP サーバーから自動で取得する場合に選択します。	
	次の IP アドレスを使う	本製品の IP アドレスを手動で設定する場合に選択します。	
		IP アドレス	IP アドレスを入力します。
		サブネットマスク	サブネットマスクを入力します。
	フレームサイズ	フレームサイズを設定できます。[カスタム]を選択すると、数値を入力できます。	
Wake On LAN	有効	Wake On LAN を有効にする場合に選択します。	
	無効	Wake On LAN を無効にする場合に選択します。	

EXT	EXT ポートの設定をします。		
	無効にする	このポートを無効にします。	
	IP アドレスを自動的に取得する (DHCP)	本製品の IP アドレスを DHCP サーバーから自動で取得する場合に選択します。	
	次の IP アドレスを使う	本製品の IP アドレスを手動で設定する場合に選択します。	
		IP アドレス	IP アドレスを入力します。
		サブネットマスク	サブネットマスクを入力します。
フレームサイズ	フレームサイズを設定できます。[カスタム]を選択すると、数値を入力できます。		

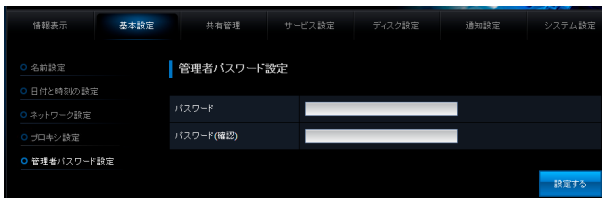
共通	デフォルトゲートウェイと DNS サーバーの設定をします。		
	LAN から自動で取得する	LAN ポートから自動で取得する場合に設定します。	
	EXT から自動で取得する	EXT ポートから自動で取得する場合に設定します。	
	手動で設定する	デフォルトゲートウェイと DNS サーバーを手動で設定する場合に選択します。	
		デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイを入力します。
	DNS サーバー	DNS サーバーを入力します。	

プロキシ設定



使用しない	プロキシ設定を利用しません。
自動設定スクリプトを利用する	自動設定スクリプトファイルの URL を入力して設定します。
手動で設定する	プロキシサーバーの [アドレス] と [ポート] を入力して設定します。

管理者パスワード



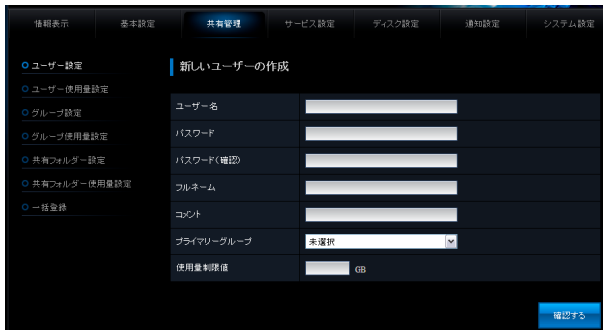
パスワード	管理者パスワードを入力します。
パスワード (確認)	確認のため再度管理者パスワードを入力します。

共有管理

ユーザー設定

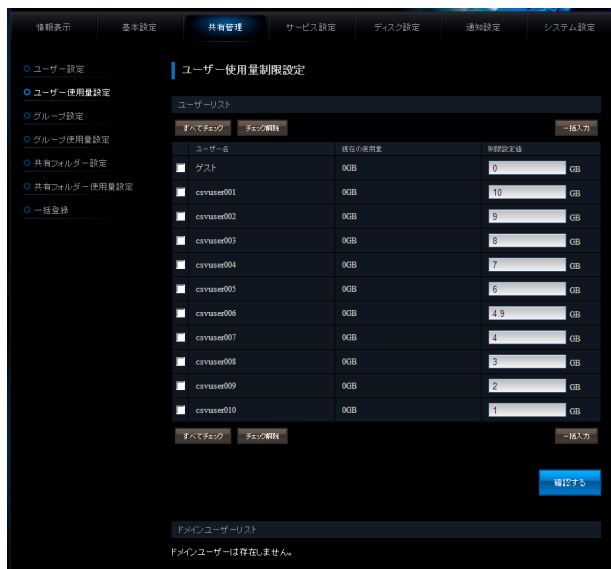


[新規作成] ボタン	新しいユーザーを作成します。
ユーザーリスト	ユーザーのリストを表示します。
[すべてチェック] ボタン	すべてにチェックをつけます。
[チェック解除] ボタン	すべてのチェックを解除します。
[一括削除] ボタン	チェックのついたユーザーを一括で削除します。
[詳細] ボタン	ユーザーの詳細を表示します。
[編集] ボタン	ユーザーの編集をおこないます。
[削除] ボタン	ユーザーを削除します。
ドメインユーザーリスト	ドメインユーザーのリストを表示します。



ユーザー名	ユーザー名を入力します。
パスワード	パスワードを入力します。
パスワード (確認)	確認のため再度パスワードを入力します。
フルネーム	フルネームを入力します。
コメント	コメントを入力します。
プライマリグループ	設定するユーザーが複数のグループにまたがっている場合、ファイルの追加・削除などでこのグループの使用量が変化します。
使用量制限値	使用量制限値を入力します。 ※サービス設定の使用量制限が無効の場合は設定できません。

ユーザー使用量設定



※サービス設定の使用量制限が無効の場合は表示されません。

ユーザーリスト	ユーザーのリストを表示します。
[すべてチェック] ボタン	すべてにチェックをつけます。
[チェック解除] ボタン	すべてのチェックを解除します。
[一括入力] ボタン	チェックのついたユーザーの制限設定値を一括して入力します。
現在の使用量	現在の使用量を表示します。
制限設定値	制限設定値を入力します。
ドメインユーザーリスト	ドメインユーザーのリストを表示します。

グループ設定



[新規作成] ボタン	新しいグループを作成します。
グループリスト	グループリストを表示します。
[すべてチェック] ボタン	すべてにチェックをつけます。
[チェック解除] ボタン	すべてのチェックを解除します。
[一括削除] ボタン	チェックのついたグループを一括で削除します。
[詳細] ボタン	グループの詳細を表示します。
[編集] ボタン	グループの編集をおこないます。
[削除] ボタン	グループを削除します。
ドメイングループリスト	ドメイングループのリストを表示します。



グループ名	グループ名を入力します。
使用量制限値	使用量制限値を入力します。 ※サービス設定の使用量制限が無効の場合は設定できません。
ユーザー登録設定	ユーザーリストへの追加 / 削除をおこないます。 「未登録ユーザーリスト」を選択して「追加」をクリックすると、「登録ユーザーリスト」に移動されます。 「登録ユーザーリスト」を選択して「削除」をクリックすると、「未登録ユーザーリスト」に移動されます。

グループ使用量設定



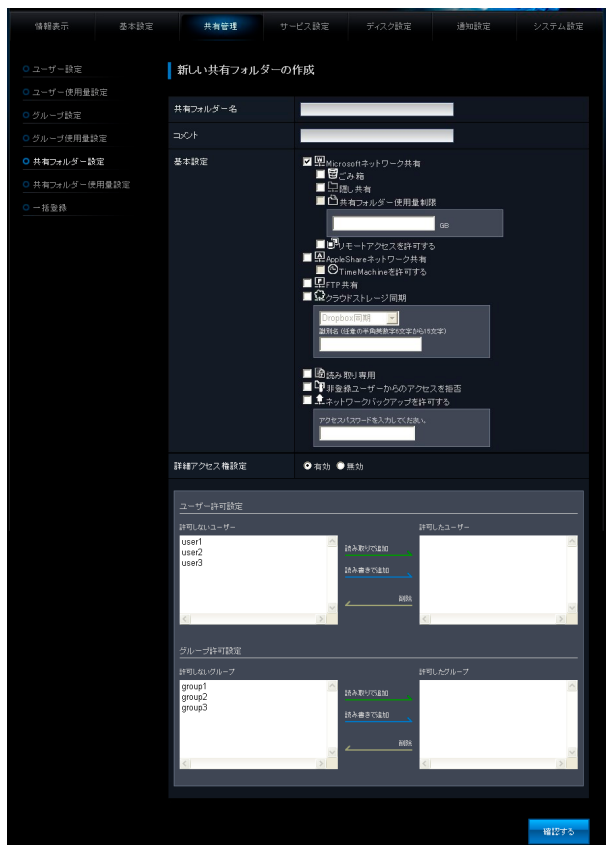
※サービス設定の使用量制限が無効の場合は表示されません。

グループリスト	グループのリストを表示します。
[すべてチェック] ボタン	すべてにチェックをつけます。
[チェック解除] ボタン	すべてのチェックを解除します。
[一括入力] ボタン	チェックのついたグループの制限設定値を一括して入力します。
現在の使用量	現在の使用量を表示します。
制限設定値	制限設定値を入力します。
ドメイングループリスト	ドメイングループのリストを表示します。

共有フォルダー設定



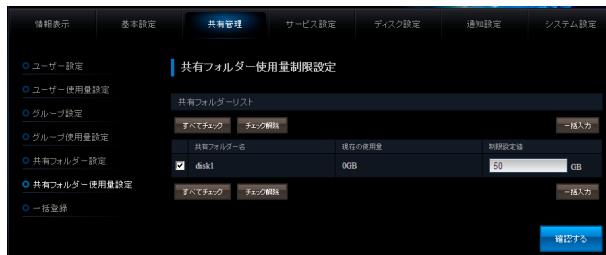
[新規作成] ボタン	新しい共有フォルダーの作成を行います。
共有フォルダーリスト	共有フォルダーリストを表示します。
[すべてチェック] ボタン	すべてにチェックをつけます。
[チェック解除] ボタン	すべてのチェックを解除します。
[一括削除] ボタン	チェックのついた共有フォルダーを一括で削除します。
基本設定	有効なサービスをアイコンで表示します。
[詳細] ボタン	共有フォルダーの詳細を表示します。
[変更] ボタン	共有フォルダーの変更をおこないます。
[削除] ボタン	共有フォルダーを削除します。



共有フォルダー名	共有フォルダー名を入力します。		
コメント	コメントを入力します。		
基本設定	Microsoft ネットワーク共有	Microsoft ネットワーク共有を有効にする場合にチェックを付けます。	
	ごみ箱	ごみ箱機能を有効にする場合にチェックを付けます。	
	隠し共有	隠し共有機能を有効にする場合にチェックを付けます。	
	共有フォルダー 使用量制限	共有フォルダー使用量制限を有効にする場合にチェックを付けて容量を入力します。 ※サービス設定の使用量制限が無効の場合は設定できません。	
	リモートアクセ スを許可する	リモートアクセスを有効にする場合にチェックを付けます。	
	AppleShare ネットワーク共有	AppleShare ネットワーク共有を有効にする場合にチェックを付けます。 ※フォルダー使用量制限が有効な場合は有効にできません。	
	Time Machine	Mac OS から Time Machine 機能を利用する場合にチェックを付けます。 を許可する	
	FTP 共有	FTP 共有機能を有効にする場合にチェックを付けます。 ※フォルダー使用量制限が有効な場合は有効にできません。	
	クラウドストレージ同期	Amazon S3 同期	各種クラウドストレージの同期をおこなう場合にチェックします。 共有フォルダーとオンラインストレージサービス「Amazon S3」間でデータを同期する場合に選択します。詳しくは、【Amazon S3 と同期する】(7-50 ページ) をご覧ください。
		Dropbox 同期	共有フォルダーとオンラインストレージサービス「Dropbox」間でデータを同期する場合に選択します。詳しくは、【Dropbox と同期する】(7-52 ページ) をご覧ください。
Cloudn 同期		共有フォルダーとオンラインストレージサービス「Cloudn」間でデータを同期する場合に選択します。詳しくは、【Cloudn と同期する】(7-54 ページ) をご覧ください。	
読み取り専用	読み取り専用機能を有効にする場合にチェックを付けます。		
非登録ユーザーからのアクセスを 拒否	共有フォルダーに対するHDL-XR上に登録されていないユーザーからのアクセスを拒否します。		
ネットワークバックアップを許可 する	ネットワークバックアップを許可する場合にチェックを付けてアクセスパスワードを入力します。		
詳細アクセス権設定	有効	詳細アクセス権を有効にする場合に選択します。	
	無効	詳細アクセス権を無効にする場合に選択します。	
ユーザー許可設定	許可したユーザーリストへの追加 / 削除をおこないます。 「許可しないユーザー」を選択して、「読み取りで追加」をクリックすると読み取り専用で、「読み書きで追加」をクリックすると読み書き可能で、「許可したユーザー」に移動されます。 「許可したユーザー」を選択して「削除」をクリックすると、「許可しないユーザー」に移動されます。		
グループ許可設定	許可したグループリストへの追加 / 削除をおこないます。 「許可しないグループ」を選択して、「読み取りで追加」をクリックすると読み取り専用で、「読み書きで追加」をクリックすると読み書き可能で、「許可したグループ」に移動されます。 「許可したグループ」を選択して「削除」をクリックすると、「許可しないグループ」に移動されます。		

共有フォルダー使用量設定

※サービス設定の使用量制限が無効の場合は表示されません。

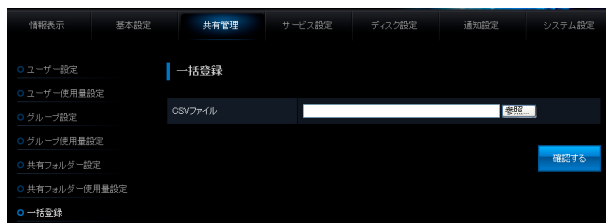


共有フォルダーリスト	共有フォルダーのリストを表示します。
[すべてチェック] ボタン	すべてにチェックをつけます。
[チェック解除] ボタン	すべてのチェックを解除します。
[一括入力] ボタン	チェックのついた共有フォルダーの制限設定値を一括して入力します。
現在の使用量	現在の使用量を表示します。
制限設定値	制限設定値を入力します。 ※サービス設定の使用量制限が無効の場合は設定できません。

一括登録

一括登録については以下をご覧ください。

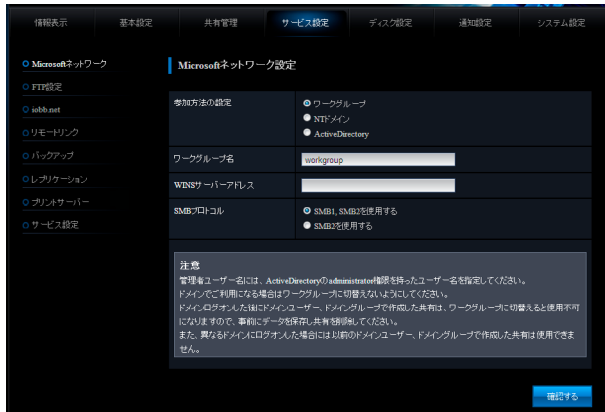
[【一括登録をする】 \(7-60 ページ\)](#)



CSV ファイル	ユーザー、グループ、共有フォルダーを一括登録するための CSV ファイルを指定します。
[参照] ボタン	CSV ファイルを選択します。

サービス設定

Microsoft ネットワーク



参加方法の設定	ワークグループ	ワークグループを使用する場合に選択します。
	NT ドメイン	NT ドメインを使用する場合に選択します。
	ActiveDirectory	ActiveDirectory を使用する場合に選択します。

ワークグループ	
ワークグループ名	ワークグループ名を入力します。
WINS サーバーアドレス	WINS サーバーアドレスを入力します。
SMB プロトコル	使用する SMB プロトコルを選びます。

NT ドメイン	
ドメイン名	ドメイン名を入力します。
ドメインコントローラーの名前	ドメインコントローラーの名前を入力します。
WINS サーバーアドレス	WINS サーバーアドレスを入力します。
SMB プロトコル	使用する SMB プロトコルを選びます。

ActiveDirectory	
ドメイン名 (NetBIOS 名)	ドメイン名 (NetBIOS 名) を入力します。
ドメイン名 (フル DNS 名)	ドメイン名 (フル DNS 名) を入力します。
ドメインコントローラーの名前	ドメインコントローラーの名前を入力します。
管理者ユーザー名	ドメインコントローラーの管理者ユーザー名を入力します。
管理者パスワード	ドメインコントローラーの管理者パスワードを入力します。
WINS サーバーアドレス	WINS サーバーアドレスを入力します。
SMB プロトコル	使用する SMB プロトコルを選びます。

FTP 設定



ポート番号	ネットワーク環境に応じて変更してください。通常は変更する必要はありません。
エンコード	接続する FTP クライアントによっては、ファイル名が文字化けする場合があります。使用するクライアントに合わせてエンコードを選択してください。
共有フォルダーリスト	FTP 共有を有効する共有フォルダーにチェックします。

iobb.net



iobb.net への登録・更新	iobb.net を利用する / しないの設定をします。
ステータス	本製品の iobb.net に関する現在の状態が表示されます。
シリアル No	本製品のシリアル No を入力します。
ホスト名	iobb.net に登録するホスト名を入力します。
パスワード	iobb.net に登録するパスワードを入力します。
パスワード (確認)	確認のため再度パスワードを入力します。
メールアドレス	iobb.net に登録するメールアドレスを入力します。
UPnP 機能利用	UPnP 機能の有効 / 無効を設定します。

リモートリンク



リモートアクセス	リモートアクセスの有効 / 無効を設定します。
ポート番号	リモートアクセスに使用するポートの番号を入力します。
共有フォルダーリスト	リモートアクセスを有効にしたい共有フォルダーにチェックをします。

バックアップ



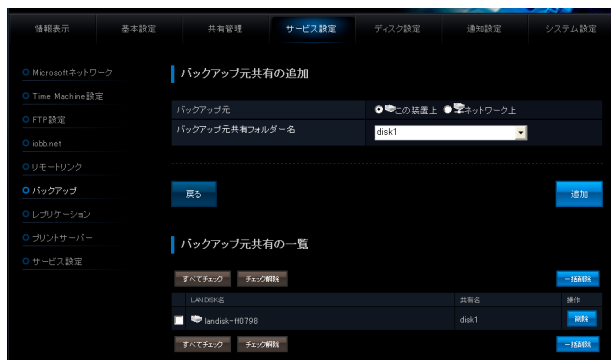
No.	バックアップ設定の管理番号です。No.1 の場合は Job1 として管理されます。
ジョブ名	バックアップ設定に付けられている名前が表示されます。
スケジュール	バックアップ設定のスケジュールが表示されます。
[今すぐ実行] ボタン	バックアップ設定を実行します。
[詳細] ボタン	バックアップ設定の詳細を表示します。
[変更] ボタン	バックアップ設定を変更します。
[削除] ボタン	バックアップ設定を削除します。

バックアップの変更



ジョブ名	バックアップ設定に名前を付けることができます。どのような名前を入力してもバックアップに影響はありません。わかりやすい名前を入力してください。	
保存する履歴数	保存する履歴数を選択します。選択された履歴数より多くのバックアップが取られた場合、古いものから削除されます。	
スケジュール	有効	スケジュールを有効にする場合に選択します。
		曜日指定
	開始時刻	開始時刻を選択します。
無効	スケジュールを無効にする場合に選択します。	
オプション	ごみ箱もバックアップする	ごみ箱内のデータもバックアップする場合にチェックします。
	バックアップ後にシャットダウン	バックアップ完了後にシャットダウンする場合にチェックします。
バックアップ元	[詳細] ボタンをクリックし、バックアップ元のフォルダーを選択します。【バックアップ元の選択】(26-184 ページ) をご覧ください。	
バックアップ先	バックアップ先を選択します。	

バックアップ元の選択



バックアップ元	この装置上	この装置上の共有を指定する場合に選択します。	
	ネットワーク上	バックアップ元共有フォルダー名	バックアップ元共有フォルダー名を選択します。
		バックアップ元ホスト名	ネットワーク上の HDL-XR シリーズの LAN DISK の名前、もしくは IP アドレスを入力します。
		バックアップ元共有フォルダー名	ネットワーク上の HDL-XR シリーズのバックアップ元とする共有フォルダー名を指定します。
	アクセスパスワード	ネットワーク上の HDL-XR シリーズのバックアップ元とする共有フォルダーにアクセスパスワードを設定した場合は指定します。	
[追加] ボタン	選択されたバックアップ元共有が追加されます。 ※ 1 つのバックアップ設定につき、この装置上・ネットワーク上の共有を合計で最大 300 個まで追加可能です。		
バックアップ元共有の一覧	現在指定されているバックアップ元共有の一覧が表示されます。		
[すべてチェック] ボタン	すべてにチェックをつけます。		
[チェック解除] ボタン	すべてのチェックを解除します。		
[一括削除] ボタン	チェックのついたバックアップ元共有を本設定から一括して削除します。		
LAN DISK 名	共有の存在する LAN DISK の名前です。アイコンがこの装置上 / ネットワーク上に対応しています。		
共有名	バックアップ元共有フォルダー名が表示されます。		
[削除] ボタン	バックアップ元共有を本設定から削除します。		

レプリケーション



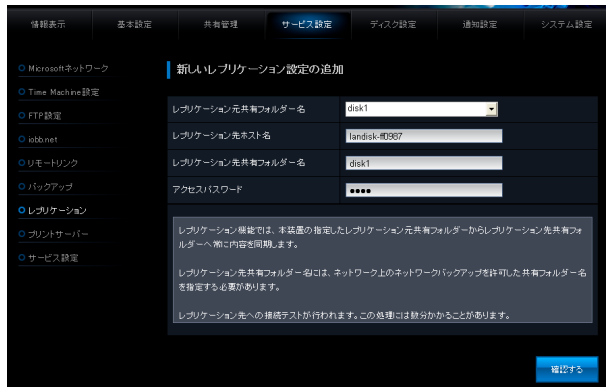
レプリケーション機能	レプリケーション機能の有効 / 無効を設定します。
------------	---------------------------

▼ [有効] 時



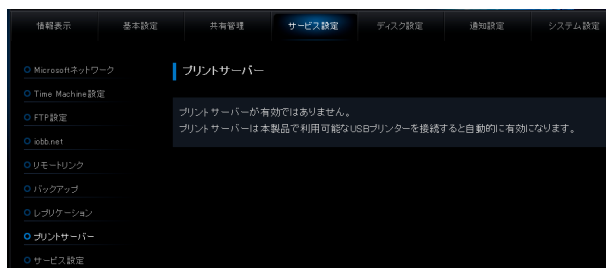
[新規作成] ボタン	[新しいレプリケーション設定の追加] 画面を表示します。
[一括削除] ボタン	チェックを付けた設定を削除します。
[詳細] ボタン	レプリケーション設定の詳細情報を表示します。
[編集] ボタン	レプリケーション設定を編集します。
[削除] ボタン	レプリケーション設定を削除します。

▼ [新しいレプリケーション設定の追加] 画面



レプリケーション元共有フォルダー名	レプリケーション元の共有フォルダー名を選択します。
レプリケーション先ホスト名	レプリケーション先とする HDL-XR シリーズの LAN DISK の名前、もしくは IP アドレスを入力します。
レプリケーション先共有フォルダー名	レプリケーション先とする HDL-XR シリーズの共有フォルダー名を入力します。
アクセスパスワード	上記レプリケーション先共有フォルダーに設定したアクセスパスワードと同じものを入力します。

プリントサーバー



ご注意

プリントバッファのクリアを実行した場合は、プリンター本体でのリセット操作をおこなってください。

プリントバッファクリア	接続されている場合はプリントバッファのクリアができます。
-------------	------------------------------

サービス設定



Microsoft ネットワーク共有	Microsoft ネットワーク共有の有効 / 無効を設定します。	
	アクセスログを記録	アクセスログの設定をします。
	リモートアクセス	リモートアクセスを有効にする場合にチェックします。
AppleShare ネットワーク共有	AppleShare ネットワーク共有の有効 / 無効を設定します。	
FTP 共有	FTP 共有の有効 / 無効を設定します。	
ネットワークバックアップの許可	ネットワークバックアップの許可を有効 / 無効に設定します。	
使用量制限	使用量制限の有効 / 無効を設定します。	

ディスク設定

ボリューム操作



内蔵ボリューム	内蔵ボリュームに関する操作です。		
	フォーマット (専用)	内蔵ボリュームをフォーマットします。 現在の内蔵ボリューム上の共有フォルダ設定および保存されたデータはすべて消去され、「disk1」共有を新規に作成します。 必要なデータは、あらかじめバックアップを取っておいてください。	
	チェックディスク	専用フォーマット形式のボリュームに論理的なエラーが発生していないか調査します。 もしエラーがあった場合には、ファイル構造を修復します。	
	RAID 再設定 (再フォーマット)	RAID 障害が発生し、内蔵ボリューム上に保存されたデータが失われてしまった場合にのみ表示されます。 RAID 再設定 (再フォーマット) を実行することで、内蔵ボリュームをフォーマットし、再度使用開始することができます。 現在の内蔵ボリューム上の共有フォルダ設定および保存されたデータはすべて消去されます。	
	RAID 強制復帰	RAID 障害が発生し、内蔵ボリューム上に保存されたデータが失われてしまった場合にのみ表示されます。 RAID 強制復帰を実行すると、崩壊した内蔵ボリュームの RAID の復帰処理を試みます。成功した場合は、一部データが破損した状態で、内蔵ボリュームに保存されたデータに再度アクセスできる場合があります。この場合でも取り出したデータについては保障されません。失敗した場合は、データ復旧業者に依頼してもデータを回復できなくなる場合があります。 できる限りデータ復旧をする場合は、RAID 強制復帰を実行せずにデータ復旧業者へご依頼ください。	
	内蔵から eSATA へミラーリング開始	eSATA ミラーリング有効時に、eSATA ポートに待機中の eSATA ハードディスクを接続している場合にのみ表示されます。実行するとミラーリングが開始されます。	
現在可能な操作はありません。		eSATA ミラーリング有効時に、eSATA ハードディスクのみで動作している時表示されます。	
eSATA ボリューム	eSATA ボリュームに関する操作です。		
	ディスクの取り外し	共有モード (FAT/NTFS/専用) 設定時に、eSATA ポートに接続した eSATA ハードディスクを取り外せる状態にします。 ディスクを取り外す時は、この「ディスクの取り外し」を実行した後にケーブルを外してください。	
	フォーマット (FAT32)	共有モード (FAT/NTFS/専用) 設定時に、eSATA ポートに接続した eSATA ハードディスクを FAT32 形式でフォーマットします。	
	フォーマット (専用)	共有モード (FAT/NTFS/専用) 設定時に、eSATA ポートに接続した eSATA ハードディスクを専用形式でフォーマットします。	
	チェックディスク (専用フォーマットのみ)	共有モード (FAT/NTFS/専用) 設定時に、専用フォーマット形式のボリュームに論理的なエラーが発生していないか調査します。 もしエラーがあった場合には、ファイル構造の修復を試みます。	
	現在可能な操作はありません。		eSATA ポートに eSATA ハードディスクを接続していない時、またはミラーリング中に表示されます。
	ミラーディスクの取り外し	eSATA ポートがミラーリングに設定されており、ミラーリングが完了している場合にのみ表示されます。 ミラーリング構成している eSATA ハードディスクを保管できる状態にします。この機能を実行すると本体の電源が自動的に切れますので、その後に eSATA ハードディスクを取り外して保管してください。手順は、【ミラーディスクを保管する】(14-101 ページ) をご覧ください。	
	eSATA から内蔵へミラーリング開始	ミラーディスクのみを接続して起動した場合にのみ表示されます。 このミラーディスクから内蔵ボリュームにすべてのデータをコピーし、ミラーリング状態を復旧します。手順は、【ミラーディスクから復旧する】(14-102 ページ) をご覧ください。	
USB ボリューム 1、2	USB ボリューム 1、2に関する操作です。		
	ディスクの取り外し	共有モード (FAT/NTFS/専用) 設定時に、USB ポート 1,2 に接続した USB ディスクを取り外せる状態にします。ディスクを取り外す時は、この「ディスクの取り外し」を実行した後にケーブルを外してください。	
	フォーマット (FAT32)	共有モード (FAT/NTFS/専用) 設定時に、USB ポート 1,2 に接続した USB ディスクを FAT32 形式でフォーマットします。	
	フォーマット (専用)	共有モード (FAT/NTFS/専用) 設定時に、USB ポート 1,2 に接続した USB ディスクを専用形式でフォーマットします。	
	チェックディスク (専用フォーマットのみ)	共有モード (FAT/NTFS/専用) 設定時に、専用フォーマット形式のボリュームに論理的なエラーが発生していないか調査します。エラーがあった場合には、ファイル構造の修復を試みます。	
	現在可能な操作はありません。		USB ポート 1 が「クイックコピー」に設定されている、すでに取り外し可能状態である、または、接続されていない場合に表示されます。

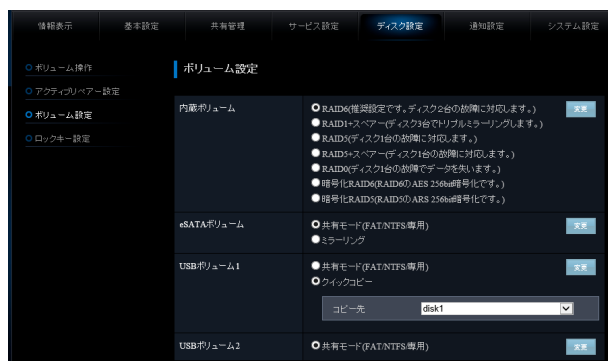
アクティブリペアー設定



アクティブリペアー機能	[今すぐアクティブリペアーを実行する] ボタンをクリックすると、アクティブリペアーを実行します。アクティブリペアー実行中は [アクティブリペアーを停止する] ボタンになり、クリックするとアクティブリペアーを停止します。
アクティブリペアー実行機能	アクティブリペアーをスケジュール実行する場合は [使用する] を選択し、曜日、時刻を設定します。

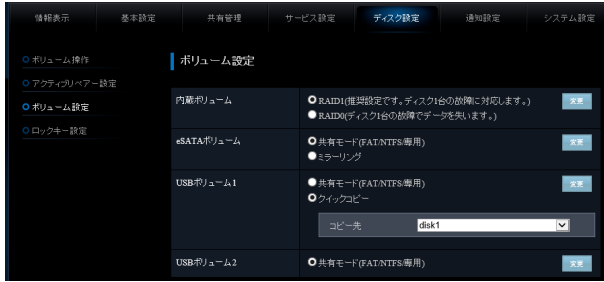
ボリューム設定

▼ HDL-XR シリーズの場合



内蔵ボリューム	RAID 6	RAID 6 に設定する場合に選択します。
	RAID 1+ スペアー	RAID 1+ スペアーに設定する場合に選択します。
	RAID 5	RAID 5 に設定する場合に選択します。
	RAID 5+ スペアー	RAID 5+ スペアーに設定する場合に選択します。
	RAID 0	RAID 0 に設定する場合に選択します。
	暗号化 RAID 6	暗号化 RAID 6 に設定する場合に選択します。
	暗号化 RAID 5	暗号化 RAID 5 に設定する場合に選択します。
eSATA ボリューム	共有モード (FAT/NTFS/専用)	共有モードで使用する場合に選択します。
	ミラーリング	ミラーリングモードで使用する場合に選択します。
	USB ボリューム 1	USB ボリューム 1 に関する設定です。
USB ボリューム 1	共有モード (FAT/NTFS/専用)	共有モードで使用する場合に選択します。
	クイックコピー	クイックコピーで使用する場合に選択します。
	コピー先	コピー先を選択します。
USB ボリューム 2	USB ボリューム 2 に関する設定です。	
	共有モード (FAT/NTFS/専用)	共有モードで使用する場合に選択します。

▼ HDL-XR/2D シリーズの場合



内蔵ボリューム	内蔵ボリュームに関する設定です。	
	RAID 0 (2台)	RAID 0 に設定する場合に選択します。
	RAID 1 (2台)	RAID 1 に設定する場合に選択します。
eSATA ボリューム	eSATA ボリュームに関する設定です。	
	共有モード (FAT/NTFS/専用)	共有モードで使用する場合に選択します。
	ミラーリング	ミラーリングモードで使用する場合に選択します。
USB ボリューム 1	USB ボリューム 1 に関する設定です。	
	共有モード (FAT/NTFS/専用)	共有モードで使用する場合に選択します。
	クイックコピー	クイックコピーで使用する場合に選択します。
	コピー先	コピー先を選択します。
USB ボリューム 2	USB ボリューム 2 に関する設定です。	
	共有モード (FAT/NTFS/専用)	共有モードで使用する場合に選択します。

ロックキー設定 / Key Server 設定



▼ロックキー設定

ロックキーの削除	暗号化ボリューム用の USB ロックキーを削除します。
ロックキーのコピー	暗号化ボリューム用の USB ロックキーをコピーします。 USB ロックキーが接続されていない場合は表示されません。

▼ Key Server 設定

Key Server 機能	Key Server 機能の有効 / 無効を設定します。	
Key Server 1、2	ホスト名	Key Server のホスト名もしくは IP アドレスを入力します。
	ポート番号	Key Server 側のポート番号を入力します。
通信テストを行う	Key Server に対して通信可能かテストをおこないます。	

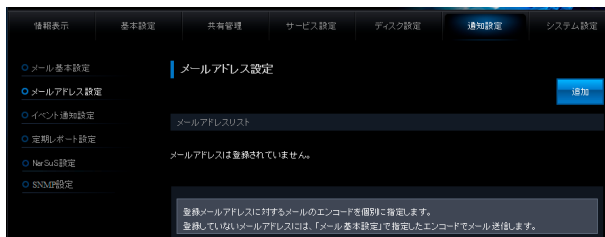
通知設定

メール基本設定



基本設定	SMTP サーバー名	SMTP サーバー名を入力します。
	SMTP ポート番号	SMTP ポート番号を入力します。
	差出人メールアドレス	差出人メールアドレスを入力します。
	メールエンコード	メールエンコードを選択します。
メール送信時認証設定	メール送信時認証を選択します。	
メール通知テスト	テストメールを送信する場合に、チェックをつけ、[送信先メールアドレス]を記入します。	

メールアドレス設定



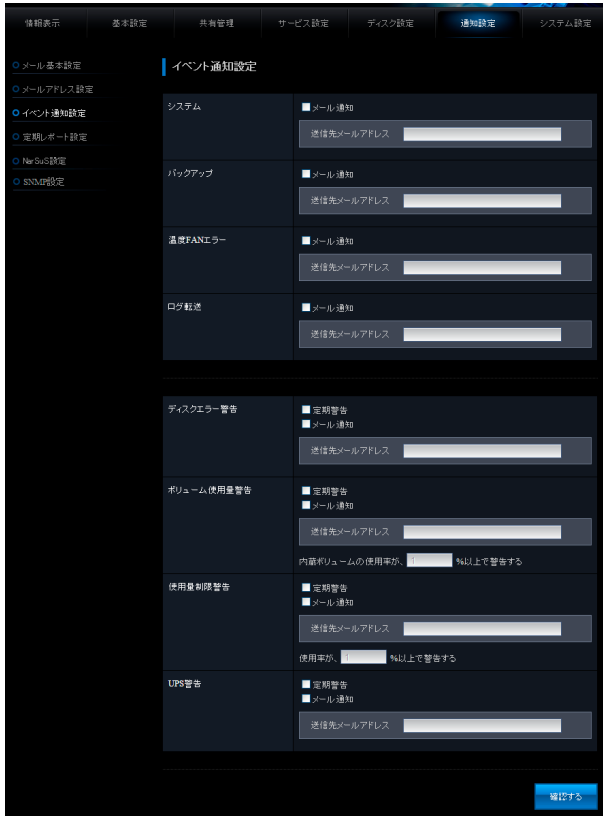
メールアドレスリスト	登録されたメールアドレスのリストを表示します。
[追加] ボタン	メールアドレスを追加する場合にクリックします。 以下をご覧ください。



送信先メールアドレス	送信先メールアドレスを入力します。
メールエンコード	メールエンコードを選択します。

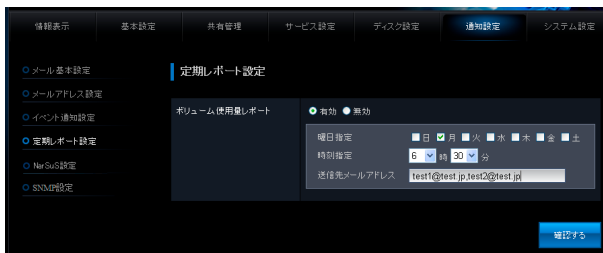
イベント通知設定

メール通知をイベントごとに設定できます。



システム	システムのイベントをメール通知することができます。
バックアップ	バックアップのイベントをメール通知することができます。
温度 FAN エラー	装置温度や FAN の異常をメール通知することができます。
ログ転送	システムログをメールで転送することができます。
ディスクエラー警告	ディスクや RAID のエラーをメール通知することができます。 [定期警告] にチェックすると、1 時間に 1 回定期警告することができます。
ボリューム使用量警告	内蔵ボリュームの使用率が指定値を超えていることを検出するとメール通知することができます。 [定期警告] にチェックすると、1 時間に 1 回定期警告することができます。
使用量制限警告	ユーザー、グループ、共有フォルダの使用量制限値に対する使用率が指定値を超えていることを検出するとメール通知することができます。 [定期警告] にチェックすると、1 時間に 1 回定期警告することができます。
UPS 警告	UPS の警告をメール通知することができます。 [定期警告] にチェックすると、1 時間に 1 回定期警告することができます。

定期レポート設定



ボリューム使用量レポート	[有効] にチェックをつけると、ボリューム使用量のレポートを定期的送信します。
--------------	---

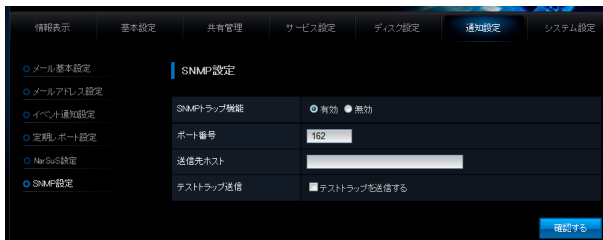
NarSuS 設定



NarSuS	有効	NarSuS 設定を有効にします。
	無効	NarSuS 設定を無効にします。

SNMP 設定

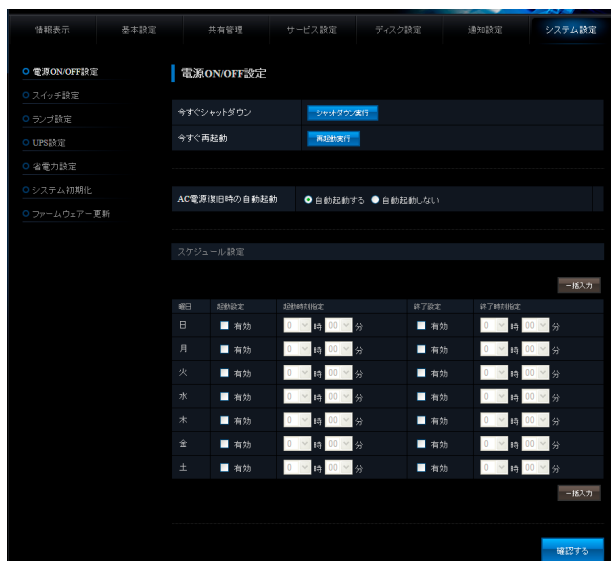
エラー通知を SNMP 形式で通知することができます。



SNMP トラップ機能	エラー通知に SNMP トラップを利用する場合に [有効] を選択してください。
ポート番号	SNMP トラップを送信する場合に利用するポート番号を指定します。
送信先ホスト	SNMP トラップを送信するホスト名または IP アドレスを入力します。
テストトラップ送信	設定された内容で SNMP トラップをテスト送信する場合は、[テストトラップを送信する] にチェックします。

システム設定

電源 ON/OFF 設定



今すぐシャットダウン	[シャットダウン実行] ボタンをクリックすると、本製品をシャットダウンします。
今すぐ再起動	[再起動実行] ボタンをクリックすると、本製品を再起動します。
AC 電源復旧時の自動起動	停電から復旧したときに、本装置を自動起動するかどうかを設定できます。 UPS と併用すると停電時自動シャットダウンし、停電から復旧した時に自動起動させることができます。
スケジュール設定	起動とシャットダウンのスケジュールを設定できます。 「一括入力」 ボタンをクリックすると、チェックボックスで選択されている項目に一括して時刻を指定できます。

スイッチ設定



リセットボタン	リセットボタンの有効・無効を設定します。無効にするとリセットボタン長押しでのパスワード・IP アドレスの初期化ができなくなり、パスワードを喪失した時に復旧できなくなりますのでご注意ください。
FUNC. ボタン	FUNC. ボタンの有効・無効を設定します。無効にするとクイックコピー機能が利用できなくなります。

ランプ設定



ランプの明るさ	本製品の [STATUS] ランプと [ACCESS] ランプの明るさを設定します。
---------	--

UPS 設定



UPS 警告機能	有効に設定すると、UPS の接続が確認できない時や停電状態を検出した場合に、ブザー音と [STATUS] ランプ (赤点滅) でお知らせします。
停電後の経過時間	停電を検出後指定時間が経過するか、UPS のバッテリー残容量が約30%以下になると、本装置のシャットダウンを開始します。
ネットワークシャットダウン設定	UPS による自動シャットダウン時に、ネットワークシャットダウン (スレープ) 機能に対応する LAN DISK をシャットダウンすることができます。
ネットワークシャットダウン	チェックをつけると、ネットワークシャットダウン機能が有効になります。
シャットダウンする LAN DISK 名	シャットダウンさせたい LAN DISK 名を入力します。
管理者パスワード	対象 LAN DISK の管理者パスワードを入力します。
ネットワークシャットダウンテストを行う	チェックをつけると、設定保存時に有効がチェックされた LAN DISK に対してネットワークシャットダウンのテストをおこないます。

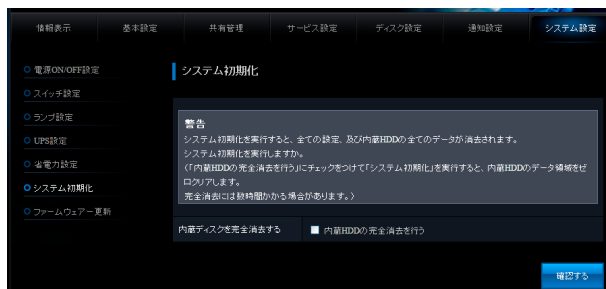
省電力設定



時間設定	時間設定をすると以下の設定ができます。
内蔵ボリューム	内蔵ボリュームの省電力機能の有効 / 無効を設定します。
eSATA ボリューム	eSATA ボリュームの省電力機能の有効 / 無効を設定します。
USB ボリューム 1	USB ボリューム 1 の省電力機能の有効 / 無効を設定します。
USB ボリューム 2	USB ボリューム 2 の省電力機能の有効 / 無効を設定します。

システム初期化

システム初期化を実行します。



内蔵 HDD の完全消去を行う 内蔵 HDD の完全消去を行う場合にチェックをつけます。

ファームウェア更新

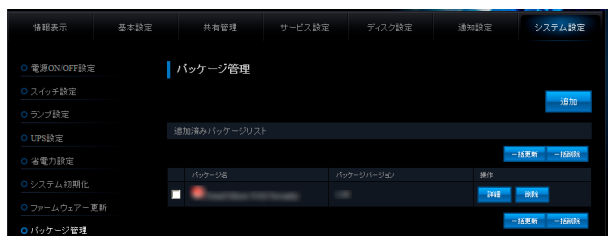
本製品のファームウェアを更新します。



ファームウェア更新通知機能 ファームウェア更新通知機能の有効 / 無効を設定します。

パッケージ管理

パッケージの追加 / 更新 / 削除をします。



[追加] ボタン	弊社ホームページに公開されているパッケージがすべて表示されます。
[一括更新] ボタン	チェックのついたパッケージを一括で更新します。
[一括削除] ボタン	チェックのついたパッケージを一括で削除します。
[詳細] ボタン	パッケージの詳細を表示します。
[更新] ボタン	パッケージの最新版が公開されている場合にボタンが表示されます。(ファームウェア更新通知機能を「有効」にする必要があります。) ボタンをクリックするとパッケージを更新します。
[削除] ボタン	パッケージを削除します。

▼ [追加] ボタンクリック後



[詳細] ボタン	パッケージの詳細を表示します。
[一括追加する] ボタン	チェックのついたパッケージを一括で追加します。

困ったときには

アイ・オー・データホームページをご覧ください

<http://www.iodata.jp/support/>

製品型番 (HDL-XR2.0W など) で検索してください。

サポートページには、最新の情報や過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。こちらも参考にしてください。

本製品起動時のトラブル

- 【本製品の電源を入れると、[STATUS] ランプが赤点灯し、ブザーがピーピーピーと鳴った】(27-198 ページ)
- 【本製品の電源を入れると、[STATUS] ランプが赤点滅し、ブザーがピーピーピーと鳴り続ける】(27-198 ページ)
- 【どうしても起動停止状態となるため、本製品を起動できない】(27-198 ページ)
- 【使用中に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーポーピーポーピーポー」と鳴り続けている】(27-198 ページ)
- 【起動時に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーピーピー」と鳴り続けている】(27-198 ページ)
- 【起動時、または起動中に [ACCESS] ランプが消灯しているカートリッジがある】(27-199 ページ)

セットアップ時のトラブル

- 【Mac OS と Windows が混在している環境の場合どのパソコンで設定したらよいですか?】(27-200 ページ)
- 【現在のネットワーク環境に DHCP サーバーがあるかわからない】(27-200 ページ)
- 【[Magical Finder] で本製品が検索されない】(27-203 ページ)
- 【DHCP サーバーがあるのにシステム起動後、[STATUS] ランプが赤点灯、または赤点滅している】(27-204 ページ)
- 【[ミラーディスクの取り外し]を行った eSATA ハードディスクから起動できない】(27-204 ページ)
- 【(Mac OS) パソコンに直接接続した後、本製品の設定画面が表示されない】(27-205 ページ)
- 【パソコンと LAN DISK を直接接続し、LAN DISK を起動すると、[STATUS] ランプが赤く点灯する】(27-207 ページ)
- 【LAN DISK の名前を変更したい】(27-207 ページ)
- 【ACT/LINK ランプが点灯あるいは点滅していない】(27-207 ページ)
- 【ファイアウォールソフトで、LAN DISK に対してアクセスを許可させたい場合、どのポート番号で設定すればよいかかわからない】(27-207 ページ)
- 【パソコンの IP アドレスがわからない】(27-207 ページ)

本製品へアクセス時のトラブル

- 【[landisk-xxxxxx] のアイコンを開いたり、共有フォルダーを開こうとすると、「アクセス権限が無い」とエラーが表示されたり、ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示される】(27-208 ページ)
- 【Mac OS から書き込んだファイルを Windows から削除すると、本製品の共有へ Mac OS からファイル保存ができなくなる】(27-208 ページ)
- 【本製品にネットワーク経由で接続するパソコンの台数に制限はありますか?】(27-208 ページ)
- 【LAN DISK にアクセスできないパソコンがある (他のパソコンからはすでに LAN DISK にアクセスできている場合)】(27-209 ページ)

▼ Windows の場合

- 【[コンピューターの検索]で [landisk-xxxxxx] が見つからない】(27-210 ページ)
- 【Windows 上から本製品を参照した場合に、見覚えのないフォルダーやファイルがある】(27-211 ページ)
- 【ユーザー権限共有フォルダーにログオンしようとする、エラーメッセージが出てきてログオンができない】(27-211 ページ)
- 【LAN DISK の検索を行うと「プリンタと FAX」(「プリンタ」)のアイコンが出ますが削除はできますか?】(27-211 ページ)
- 【共有フォルダーを開こうとすると、「組織のセキュリティポリシーによって非認証のゲストアクセスがブロックされているため…」と表示される】(27-211 ページ)

▼ Mac OS の場合

- 【[landisk-xxxxxx] が見つからない、もしくは、接続できない】(27-211 ページ)

設定画面に関するトラブル

- 【(Windows) ネットワークに導入後、本製品の設定画面が表示されない】(27-212 ページ)
- 【(Mac OS) ネットワークに導入後、本製品の設定画面が表示されない】(27-213 ページ)
- 【設定画面で一部表示されない項目がある】(27-214 ページ)
- 【空き容量が実際より少なく見える】(27-214 ページ)
- 【設定画面で文字が入力できない】(27-214 ページ)
- 【設定画面上から入力できる文字制限について】(27-214 ページ)
- 【設定画面にログオンするためのパスワードがわからない】(27-215 ページ)
- 【設定画面にログオンするためのパスワードがわからない】(27-215 ページ)
- 【次のメッセージが表示された「現在システムは処理中です。しばらく待ってから操作してください。」】(27-215 ページ)
- 【設定画面上のハードディスク使用領域が、ドライブのプロパティと異なる】(27-215 ページ)
- 【設定画面の動作が遅い】(27-215 ページ)

本製品の IP アドレスについて

- 【本製品に設定した IP アドレスを忘れた (本製品に設定されている IP アドレスを調べたい)】(27-216 ページ)

ファイルの保存について

- 【本製品に保存したファイルに、「読み込みのみ」「読み書き可能」のような属性設定ができない】(27-217 ページ)
- 【ファイル名やフォルダー名の制限について】(27-217 ページ)
- 【ファイルを削除するとごみ箱にいったん入りますか?】(27-217 ページ)
- 【共有フォルダーにファイルをコピーする際のサイズの制限はありますか?】(27-217 ページ)

ランプやブザーについて

- 【起動時に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーピーピー」となり続けている】(27-218 ページ)
- 【使用中、または、起動時に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーポーピーポーピーポー」となり続けている】(27-218 ページ)
- 【パソコンと本製品を直接接続すると、[STATUS] ランプが赤く点灯している】(27-218 ページ)
- 【ACT/LINK ランプが点灯または点滅していない】(27-218 ページ)

カートリッジ取り付け・取り外し時のトラブル

- 【カートリッジの取り外し(スライドスイッチを [UNLOCK] した)後に、UNLOCK したカートリッジの [ACCESS] ランプが青点灯している】(27-219 ページ)
- 【カートリッジの取り付け(スライドスイッチを [LOCK] した)後に、すべての [ACCESS] ランプが速く青点滅を開始している】(27-219 ページ)
- 【カートリッジの取り付け(スライドスイッチを [LOCK] した)後に、LOCK したカートリッジの [ACCESS] ランプが赤く点滅している】(27-219 ページ)
- 【HDL-XR/2D シリーズにて起動後に空カートリッジのスライドスイッチを UNLOCK にすると LOCK にもどした時に [ACCESS] ランプが青点滅し続ける】(27-219 ページ)

eSATA ハードディスクとミラーリング時のトラブル

- 【eSATA ハードディスクを接続すると、[STATUS] ランプが赤く点灯し、ブザーが「ピーピーピー」と鳴った】(27-220 ページ)
- 【eSATA ハードディスクを接続しても認識されない】(27-220 ページ)

プリントサーバー使用時のトラブル

- 【プリントサーバー機能を使用する際、プリンタードライバーのインストールがうまくできない】(27-221 ページ)
- 【印刷時にエラー画面が表示される、インク残量を確認するユーティリティソフトが使えない】(27-222 ページ)
- 【プリントサーバー機能を利用して印刷を行ったところ、正常に印刷ができない】(27-222 ページ)

クイックコピー機能について

- 【コピー後にデータを参照したい】 (27-223 ページ)
- 【コピーにかかる時間について】 (27-223 ページ)
- 【ログにクイックコピーのエラーが表示された、クイックコピーを実行するとブザーが鳴りエラーとなる】 (27-223 ページ)
- 【コピーデータを見せないようにできますか?】 (27-223 ページ)

バックアップについて

- 【バックアップ後にデータを参照したい】 (27-224 ページ)
- 【バックアップにかかる時間について】 (27-224 ページ)
- 【スケジュール設定でバックアップした場合、更新されたデータのみバックアップされますか?】 (27-224 ページ)
- 【バックアップログメールが送信されない】 (27-224 ページ)
- 【バックアップログでエラーのログが表示された、バックアップを実行するとブザーが鳴りエラーとなる】 (27-224 ページ)
- 【バックアップデータを見せないようにできますか?】 (27-224 ページ)

レプリケーションについて

- 【レプリケーション設定時に「レプリケーション先に接続できませんでした。」と表示された】 (27-225 ページ)
- 【レプリケーション設定が無効に戻っている】 (27-225 ページ)

内蔵・増設ハードディスクについて

- 【[USB ポート 1]に増設ハードディスクを接続しても利用できない】 (27-226 ページ)
- 【増設ハードディスクを接続するとブザーが「ピーピーピー」と鳴り、[STATUS] ランプが赤く点灯したままとなる】 (27-226 ページ)
- 【eSATA ハードディスクを [eSATA ポート] に接続しても認識されない】 (27-226 ページ)
- 【増設ハードディスクのパソコンでのフォーマット方法について】 (27-226 ページ)
- 【ハードディスクの不良でカートリッジ交換が必要な場合は?】 (27-226 ページ)
- 【本製品に接続可能なハードディスクについて】 (27-226 ページ)
- 【デフラグ機能はありますか?】 (27-227 ページ)
- 【省電力機能が働かない】 (27-227 ページ)

タイムサーバー使用時のトラブル

- 【タイムサーバーとの同期が行われない】 (27-228 ページ)

NT ドメイン・ActiveDirectory 使用時のトラブル

- 【NT ドメインへの参加ができない】 (27-229 ページ)
- 【ドメインモードに切り替えると共有にアクセスできなくなった】 (27-229 ページ)
- 【Active Directory への参加ができない】 (27-229 ページ)

FTP 共有使用時のトラブル

- 【FTP 共有機能を使用すると、フォルダーやファイル名が文字化けしてしまう】 (27-230 ページ)

メール送信でのトラブル

- 【メール送信テストでエラーとなる】 (27-231 ページ)

パソコンのネットワーク設定について

- 【パソコンの IP アドレスがわからない】 (27-232 ページ)
- 【Windows パソコンの [ワークグループ名] がわからない】 (27-232 ページ)
- 【(Windows) ネットワークドライブの割り当て方法がわからない】 (27-232 ページ)
- 【(Windows) [ローカルエリア接続] アイコンに×マークが付いている】 (27-232 ページ)
- 【パソコンに固定の IP アドレスを設定するには】 (27-233 ページ)

本製品起動時のトラブル

本製品の電源を入ると、[STATUS] ランプが赤点灯し、ブザーがピーピーピーと鳴った

原因	DHCP サーバーから本製品の IP アドレスを取得できていない。 ※本製品の IP アドレスの設定が、自動取得 (出荷時設定) に設定されている場合で、接続したネットワークに DHCP サーバーが見つからない場合は、[STATUS] ランプが点滅します。
対処	接続したネットワーク内の DHCP サーバーが正常に起動していることをご確認ください。 ※ DHCP サーバーから正常に IP アドレスなどの割り当てが受けられない場合、本製品は自動的に、以下の IP アドレスが設定されます。 LAN ポートの IP アドレス : 192.168.0.200 EXT ポートの IP アドレス : 192.168.10.200 また、[LAN] ポートと [EXT] ポートを間違えてケーブルを接続していないか、ケーブルを接続し直してどうかもご確認ください。 DHCP サーバーの割り当てリストがすでに一杯になっている場合があります。 DHCP サーバーの設定画面を確認し、リースアドレスプールに余裕があることを確認してください。

原因	DHCP サーバーのない環境で使用している、あるいは、DHCP サーバーと本製品の組み合わせにより IP アドレスが割り当てられない。
対処	本製品の IP アドレスを手動で固定の IP アドレスに設定してください。【 固定の IP アドレスを設定する場合 】 (3-14 ページ)

原因	本製品が取り扱えない USB 機器が USB ポートに接続された。
対処	本製品で取り扱えない USB 機器あるいはフォーマット形式の装置が USB ポートに接続された場合、ブザー音がピーピーピーと鳴り、[STATUS] ランプが赤点灯、または赤点滅になります。 この場合は該当する USB 機器を本製品から取り外してください。

本製品の電源を入ると、[STATUS] ランプが赤点滅し、ブザーがピーピーピーと鳴り続ける

原因	内蔵ボリュームにエラーが発生した。
対処	【 ボリューム情報 】画面で、内蔵ボリュームの状態を確認してください。

どうしても起動停止状態となるため、本製品を起動できない

対処	起動停止状態の対処については、【 起動停止状態を確認する 】 (次ページ) を参照してください。 どうしても起動できなくなった場合は、以下をご覧ください。 【 RAID 再設定 】 (23-142 ページ)
----	---

使用中に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーポーピーポーピーポー」と鳴り続けている

原因	RAID 崩壊の状態です。
対処	前面の [FUNC.] ボタンを押してブザーを止めた後、RAID の再構成をおこなってください。 詳細は、以下をご覧ください。 【 RAID が崩壊したときには 】 (23-140 ページ)

起動時に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーピーピー」と鳴り続けている

原因	起動を停止している状態です。
対処	前面の [FUNC.] ボタンを押してブザーを止めた後、【 起動停止状態を確認する 】 (27-199 ページ) をご覧ください。

起動停止状態を確認する

本製品起動時に、[STATUS] ランプが赤点滅、[ACCESS] ランプが赤点灯し、ブザーが「ピー」と鳴り続けている場合は、本製品が何らかの理由で起動停止している状態です。以下の手順で起動停止状態を確認し、原因・対処をご確認ください。

1 パソコンの [IP アドレス] [サブネットマスク] を一時的に以下の値に変更します。
[IP アドレス] … 192.168.0.xxx
(xxx には 200 を除く 1 ~ 254 のいずれかの値)
[サブネットマスク] … 255.255.255.0

2 Web ブラウザーを起動して下記を入力し、[Enter] キーを押します。
http://192.168.0.200/

3 停止画面が表示されますので、以下の対処をおこないます。

ご注意

- パソコンの IP アドレスの設定方法がわからない場合は、【パソコンに固定の IP アドレスを設定する方法】(27-233 ページ)をご覧ください。
- 後で元の設定に戻しますので、必ず現在の [IP アドレス] [サブネットマスク] [デフォルトゲートウェイ] [(ルーター) アドレス] などはメモしてください。

「起動可能なハードディスクが接続されていません」と表示されている場合

原因	本製品の各スロット、および eSATA ポートに接続されているディスクで、システムを起動できるディスクが見つからないため、システムが起動できない状態になります。
対処	内蔵ハードディスクから起動する場合は、各スロットのカートリッジのスライドスイッチが [LOCK] 状態となっているかご確認ください。 [ミラーディスクの保管] を実行した eSATA ハードディスクから起動する場合は、「[ミラーディスクの保管] を実行したディスク」の確認、[eSATA ポート] の接続、および電源を確認してください。 それでもうまくいかない場合は、サポートセンターへご連絡ください。

起動時、または起動中に [ACCESS] ランプが消灯しているカートリッジがある

原因	カートリッジのスライドスイッチが [LOCK] されていない。 ※ [LOCK] したつもりでも [LOCK] されていない場合があります。 スライドスイッチが確実に [LOCK] の位置になっていることを確認してください。
対処	本製品の電源を入れたまま、スライドスイッチを [LOCK] してください。 [ACCESS] ランプが青く点灯、または、青く点滅を開始します。 [LOCK] した後、そのカートリッジの [ACCESS] ランプが赤く点灯、または、赤く点滅した場合には、以下をご覧ください。 【カートリッジ取り付け・取り外し時のトラブル】(27-219 ページ)

セットアップ時のトラブル

Mac OS と Windows が混在している環境の場合どのパソコンで設定したらよいですか？

対処	<p>本製品は、本製品と同一ネットワーク内の1台のパソコンからすべての設定をおこなうことができます。</p> <p>ご利用環境に、Windows と Mac OS のどちらもある場合は、一方のパソコンからすべての設定をおこなうことができます。</p> <p>添付ソフト「Magical Finder」を使用できますので、本製品の IP アドレスの情報を知らなくても、本製品の設定画面を開いたり、また、直接「Magical Finder」で本製品の IP アドレスの設定等を簡単におこなうことができます。</p>
----	---

現在のネットワーク環境に DHCP サーバーがあるかわからない

対処	<p>ご使用のネットワーク環境に、「ブロードバンドルーター」「ルーター機能付きの ADSL モデム」「Windows NT 系のサーバー」などがある場合は、これらの DHCP サーバー機能を使用している可能性があります。</p> <p>以下の【方法1】あるいは【方法2】などの手順で確認できます。</p>
----	--

【方法1】パソコンの IP アドレスの設定で確認

すでにネットワーク内にあるインターネットなどに正常にアクセスできるパソコンの IP アドレスの設定で確認できます。
 (IP アドレスの設定が「DHCP サーバーから取得する」設定になっていて正常に LAN 内で使用できている場合は、ネットワーク内に DHCP サーバーがあります。)

● Windows 8 の場合

1 画面の左下にマウスポインターを動かし、右クリックします。メニューが表示されたら、[コントロールパネル] をクリックします。



2 [ネットワークとインターネット] をクリックします。

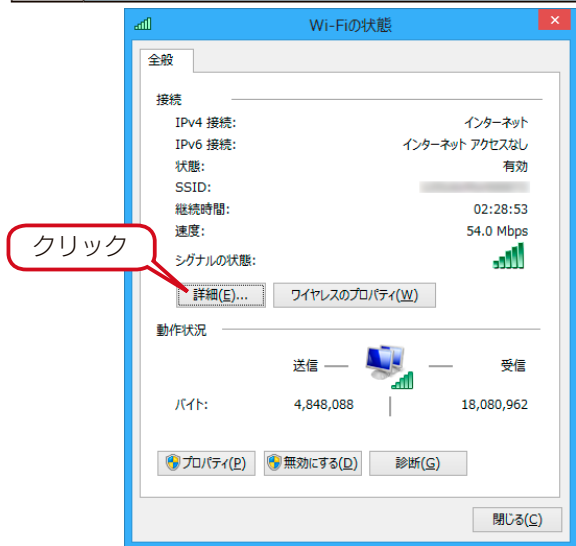
3 [ネットワークと共有センター] をクリックします。



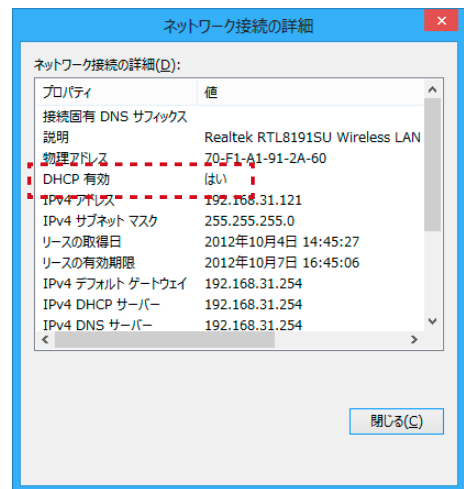
4 [接続] をクリックします。



5 [詳細] をクリックします。



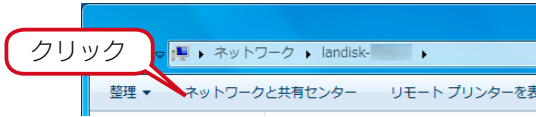
6 [DHCP 有効] 欄に [はい] と表示されていれば、DHCP サーバーがあります。



● Windows 7、Vista の場合

1 Windows 7 の場合は、[スタート]→[コンピューター]→[ネットワーク] をクリックします。
Windows Vista の場合は、[スタート] → [ネットワーク] をクリックします。

2 [ネットワークと共有センター] をクリックします。

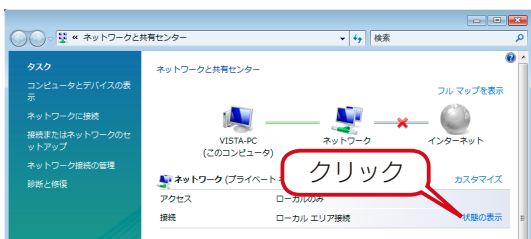


3 Windows 7 の場合は、[ローカル エリア接続] をクリックします。
Windows Vista の場合は、[状態の表示] をクリックします。

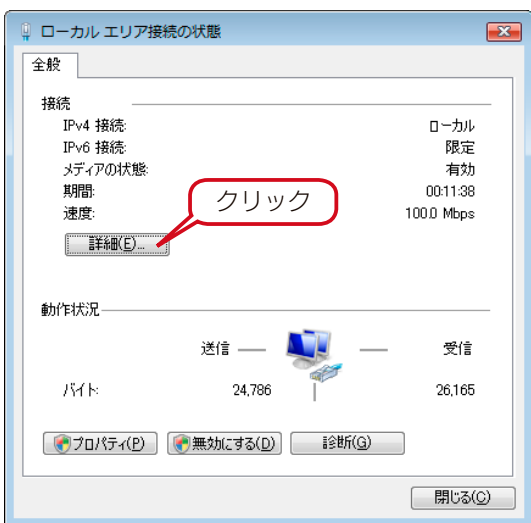
▼ Windows 7 の場合



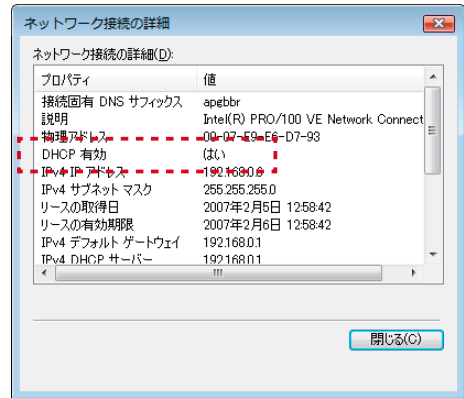
▼ Windows Vista の場合



4 [詳細] をクリックします。



5 [DHCP 有効] 欄に [はい] と表示されていれば、DHCP サーバーがあります。



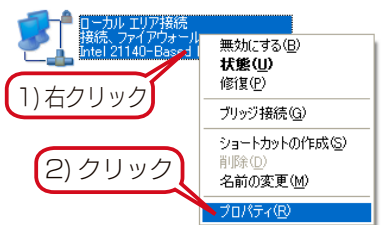
● Windows 8、7、Vista 以外の場合

1 パソコンの IP アドレスを確認できる画面を開きます。

Windows XP の例

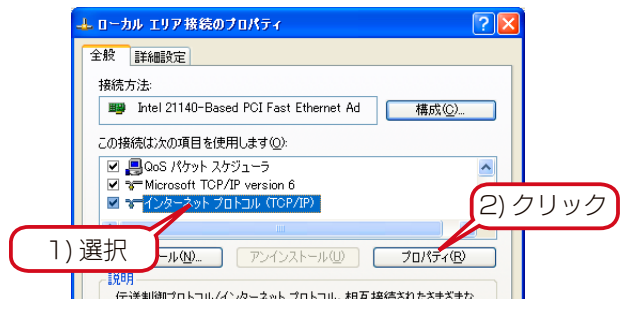
① [スタート]→[コントロールパネル]→[ネットワーク接続] をクリックします。

② [ローカルエリア接続] を右クリックし、[プロパティ] を開きます。

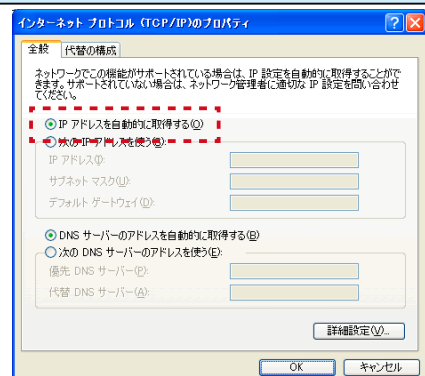


2) クリック

③ [インターネット プロトコル (TCP/IP)] を選択し、[プロパティ] ボタンをクリックします。



2 パソコンの IP アドレスの設定が、[IP アドレスを自動的に取得 (する)] や [DHCP サーバーを参照] となっている場合は、ネットワーク内に DHCP サーバーがあると考えられます。

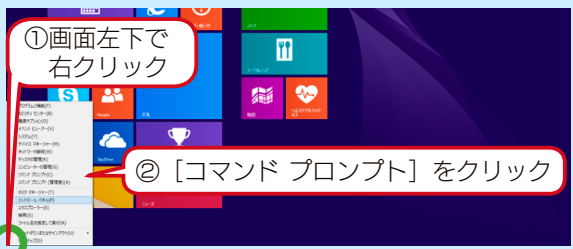


【方法 2】 Windows 標準添付のツールを使って確認する (Windows のみ)

Windows 標準添付のツールで DHCP サーバーを利用しているかを確認できます。

1

- Windows 8 の場合
画面の左下にマウスポインターを移動し、右クリックします。メニューが表示されたら、[コマンドプロンプト] をクリックします。



①画面左下で
右クリック

② [コマンド プロンプト] をクリック

- Windows 7、Vista、XP の場合
[スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [コマンドプロンプト] を開きます。

2

ipconfig /all (g と / の間にスペースが入ります。) と入力して、[Enter] キーを押します。

3

[DHCP サーバー] (または [DHCP Server]) 欄にアドレス (DHCP サーバーのアドレス) が表示されていれば、DHCP サーバーがあります。

▼ Windows 8、7、Vista の場合

```
イーサネット アダプター ローカル エリア接続:  
接続固有の DNS サフィックス . . . . .  
説明 . . . . .  
物理アドレス . . . . .  
DHCP 有効 . . . . . : (はい)  
自動構成有効 . . . . . : (はい)  
リンクローカル IPv6 アドレス . . . . .  
IPv4 アドレス . . . . .  
サブネット マスク . . . . . : 255.255.255.0  
リース取得 . . . . . : 2009年10月23日 10:58:23  
リースの有効期限 . . . . . : 2009年10月24日 10:58:23  
デフォルトゲートウェイ . . . . . : 192.168.111.1  
DHCP サーバー . . . . . : 192.168.111.1  
DHCPv6 Iaid . . . . .  
DHCPv6 クライアント DUID . . . . . :  
DNS サーバー . . . . . : 192.168.111.1  
NetBIOS over TCP/IP . . . . . : 有効
```

▼ Windows XP の場合

```
Windows IP Configuration  
Host Name . . . . . :  
Primary Dns Suffix . . . . . :  
Node Type . . . . . :  
IP Routing Enabled. . . . . :  
WINS Proxy Enabled. . . . . :  
Ethernet adapter ローカル エリア接続:  
Connection-specific DNS Suffix . . . . . :  
Description . . . . . :  
Physical Address . . . . . :  
Dhcp Enabled. . . . . :  
Autoconfiguration Enabled . . . . . :  
IP Address . . . . . :  
Subnet Mask . . . . . :  
Default Gateway . . . . . :  
DHCP Server . . . . . :  
DNS Servers . . . . . :  
Lease Obtained. . . . . :  
Lease Expires . . . . . :
```

[Magical Finder] で本製品が検索されない

原因	接続が正しくおこなわれていない。
対処	本製品の電源が入っているか（[POWER] ランプが緑色に点灯しているか）、LAN ケーブルが、本製品の LAN ポートに接続されているか、（背面の LAN ポート [ACT/LINK] ランプが点灯または点滅しているか）確認してください。 （EXT ポートに接続したネットワークからは、Magical Finder で検索することができません。） 【ACT/LINK ランプが点灯または点滅していない】（27-218 ページ） 本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側の LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。

原因	本製品が再起動中である。
対処	本製品が起動するまで（[STATUS] ランプが緑色に点灯するまで）お待ちください。 ※ DHCP サーバーの無いネットワークにはじめて接続した場合は、赤く点灯します。

原因	セキュリティ関連のソフトウェアが制限している。
対処	セキュリティ関連のソフトウェア（ファイアウォールソフト）の動作を一時的に停止していただき、本製品が検索されるかどうかをお試しください。 また、一時的に停止した場合に検索されるようになった場合には、ファイアウォールソフトの除外設定を行うと、ファイアウォールソフトを動作させたまま、本製品を検索することが可能となります。 詳しいソフトウェアの操作方法については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

<参考：Windows 8 の Windows ファイアウォール機能の除外設定>

- ①あらかじめ「Magical Finder」をパソコンにインストールします。
- ②画面の左下にマウスポインターを移動し、右クリックします。
- ③メニューが表示されたら、[コントロールパネル] をクリックします。
- ④コントロールパネルの検索に「Windows ファイアウォール」と入力します。
- ⑤「Windows ファイアウォール」の [Windows ファイアウォールによるアプリケーションの許可] をクリックし、画面内の [設定の変更] ボタンをクリックします。
- ⑥一覧から [Magical Finder] を選択し、チェックボックスにチェックをつけた後、[OK] ボタンをクリックします。

<参考：Windows 7 の Windows ファイアウォール機能の除外設定>

- ①あらかじめ「Magical Finder」をパソコンにインストールします。
- ② [スタート] - [コントロールパネル] を開き、コントロールパネルの検索に「Windows ファイアウォールによるプログラムの許可」と入力します。
- ③ [Windows ファイアウォール]-[許可されたプログラム] の画面が開いたら、画面内の [設定の変更] ボタンをクリックします。
- ④一覧から [Magical Finder] を選択し、チェックボックスにチェックをつけた後、[OK] ボタンをクリックします。

<参考：Windows Vista の Windows ファイアウォール機能の除外設定>

- ①あらかじめ「Magical Finder」をパソコンにインストールします。
- ② [スタート] - [コントロールパネル] - [Windows ファイアウォールによるプログラムの許可] を開きます。
※ユーザーアカウント制御の確認画面が表示された場合は「続行」ボタンをクリックします。
- ③ [例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。
- ④一覧から [Magical Finder] を選択し、[OK] ボタンをクリックします。
- ⑤「プログラムおよびサービス」の一覧に [Magical Finder] が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。

DHCP サーバーがあるのにシステム起動後、[STATUS] ランプが赤点灯、または赤点滅している

原因	接続が正しくおこなわれていない。
対処	いったん本製品の電源ボタンを押して電源を切り、LAN ケーブルが正しく接続されていることを確認してから、再度電源を入れてください。

原因	DHCP サーバーから本製品の IP アドレスが取得できていない。 ※本製品の IP アドレスを自動取得設定が有効 (出荷時設定) に設定されている場合で、接続したネットワークに DHCP サーバーが見つからない場合は、起動完了時に [STATUS] ランプが赤点灯し、ブザーがピーピーピーと鳴ります。
対処	接続したネットワーク内の DHCP サーバーが正常に起動していることをご確認ください。 ※ DHCP サーバーから正常に IP アドレスなどの割り当てが受けられない場合、本製品は自動的に、以下の IP アドレスが設定されます。 LAN ポートの IP アドレス : 192.168.0.200 EXT ポートの IP アドレス : 192.168.10.200

原因	何らかの理由で DHCP サーバーと通信できない、あるいは、DHCP サーバーと本製品の組み合わせにより IP アドレスが割り当てられない。
対処	本製品の IP アドレスを手動で固定の IP アドレスに設定してください。 【固定の IP アドレスを設定する場合】 (3-14 ページ)

原因	本製品で取り扱えない USB 機器が USB ポートに接続している。
対処	本製品で取り扱えない USB 機器あるいはフォーマット形式の装置が USB ポートに接続された場合、[STATUS] ランプが赤点灯、または赤点滅になります。 この場合は該当する USB 機器を本製品から取り外してください。

原因	内蔵ボリュームにエラーが発生した。
対処	[ボリューム情報] 画面で、内蔵ボリュームの状態を確認してください。

[ミラーディスクの取り外し] を行った eSATA ハードディスクから起動できない

原因	eSATA ハードディスクの電源が入っていない。
対処	eSATA ハードディスクの電源コードをご確認ください。

原因	正しく接続されていない。
対処	eSATA ポートへの接続をご確認ください。

原因	[ミラーディスクの取り外し] をおこなった eSATA ハードディスクでない。
対処	[ミラーディスクの取り外し] をおこなった eSATA ハードディスクかをご確認ください。

(Mac OS) パソコンに直接接続した後、本製品の設定画面が表示されない

原因	接続が正しくおこなわれていない。
対処	本製品の電源が入っているか ([POWER] ランプが緑色に点灯しているか)、接続ケーブルが LAN に接続されているか (背面の [ACT/LINK] ランプが点灯または点滅しているか) 確認してください。 【ACT/LINK ランプが点灯または点滅していない】 (27-218 ページ) 本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側の LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。

原因	本製品の IP アドレスとパソコンの IP アドレスの設定があていない。
対処	パソコンと本製品を直接接続して設定画面を開くには、以下の設定にする必要があります。 ①本製品の [STATUS] ランプを確認してください。 ・赤く点灯している場合 本製品の LAN ポートの IP アドレスは 192.168.0.200 に設定されています。 本製品の LAN ポートに接続したネットワークにパソコンの LAN ポートが接続されていることを確認してください。次にパソコンの IP アドレスを 192.168.0.xxx に設定します。 設定方法は、次の②の手順をご覧ください。 ・緑色に点灯している場合 本製品の IP アドレスは、設定画面で設定した値に設定されています。 本製品に設定した IP アドレスにあわせてパソコンの IP アドレスを設定します。 設定方法は、次の②の手順をご覧ください。 本製品の IP アドレスが分からない場合は、 【本製品に設定した IP アドレスを忘れた (本製品に設定されている IP アドレスを調べたい)】 (27-216 ページ) をご覧ください。 ②パソコンの IP アドレスを設定します。 本製品の IP アドレスと同じセグメントのアドレスに設定します。 例) 本製品の IP アドレスが 192.168.0.200 の場合…パソコンの IP アドレスは 192.168.0.123 などに設定します。 パソコンの IP アドレスの設定方法がわからない場合は、 【パソコンに固定の IP アドレスを設定する方法】 (27-233 ページ) をご覧ください。 ③ IP アドレスを設定できたら、Web ブラウザーを起動し、アドレス欄に以下を入力して開きます。 http://192.168.0.200/ ※本製品の IP アドレスが 192.168.0.200 の場合 本製品の IP アドレスを変更されている場合は、変更した IP アドレスを入力してください。

原因	セキュリティ関連のソフトウェアが制限している。
対処	セキュリティ関連のソフトウェアのファイアウォール機能により制限されている場合があります。 ファイアウォール機能を本製品設定時のみ解除していただくか、本製品のソフトウェアはファイアウォールの制限を受けないように設定を変更してお試しください。 なお、ファイアウォール機能に関する設定については、セキュリティ関連のソフトウェアメーカーにお問合せください。

原因	以前に設定した本製品の IP アドレスが間違っている、あるいは、正しく設定していなかった。
対処	RESET ボタンで、本製品の LAN ポートの IP アドレスを出荷時設定 (192.168.0.200) に戻してください。 【IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す】 (22-138 ページ) 出荷時設定に戻した後、再度、最初から本製品の IP アドレスの設定をやり直してください。 【パソコンに固定の IP アドレスを設定する方法】 (27-233 ページ)

原因	Web ブラウザーが、プロキシ経由でインターネット接続するようになっている。
対処	Web ブラウザーがプロキシサーバーを使用する設定になっている場合、本製品の設定画面を呼び出すことができません。 Web ブラウザーの設定でプロキシサーバーを使わない設定にしてください。 本製品の設定終了後は、プロキシ設定を元に戻してください。 Mac OS をお使いの場合は、 【Mac OS でプロキシサーバー設定を無効にする設定】 (27-206 ページ) をご覧ください。

Mac OS でプロキシサーバー設定を無効にする設定

1 [アップルメニュー]→[システム環境設定]をクリックします。



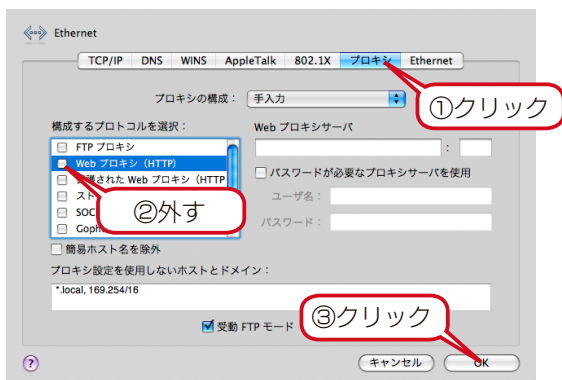
2 [ネットワーク]を開きます。



3 [詳細]をクリックします。



4 [プロキシ]タブをクリックし、以下の設定を行います。



以上で設定は完了です。

パソコンと LAN DISK を直接接続し、LAN DISK を起動すると、[STATUS] ランプが赤く点灯する

原因	本製品の IP アドレスを自動取得設定が有効 (出荷時設定) に設定されていて、接続したパソコンに DHCP サーバー機能がない。
対処	本製品の IP アドレスを手動で固定に設定してから、本製品の電源ボタンで一度本製品の電源を切り (シャットダウン) 後、再度本製品の電源を入れれば、[STATUS] ランプが緑色に点灯します。

LAN DISK の名前を変更したい

対処	以下をご覧ください。 【LAN DISK の名前を変更する】 (21-129 ページ)
----	--

ACT/LINK ランプが点灯あるいは点滅していない

原因	接続が正しく行われていない。
対処	本製品の電源が入っているか ([POWER] ランプが緑色に点灯しているか)、接続ケーブルが LAN に接続されているか (背面の [ACT/LINK] ランプが点灯または点滅しているか) 確認してください。 本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側の LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。

原因	接続先のネットワーク機器の電源が入っていない。
対処	本製品接続先のネットワーク機器 (ルーターやハブなど) の電源が入っているかご確認ください。

ファイアウォールソフトで、LAN DISK に対してアクセスを許可させたい場合、どのポート番号で設定すればよいかわからない

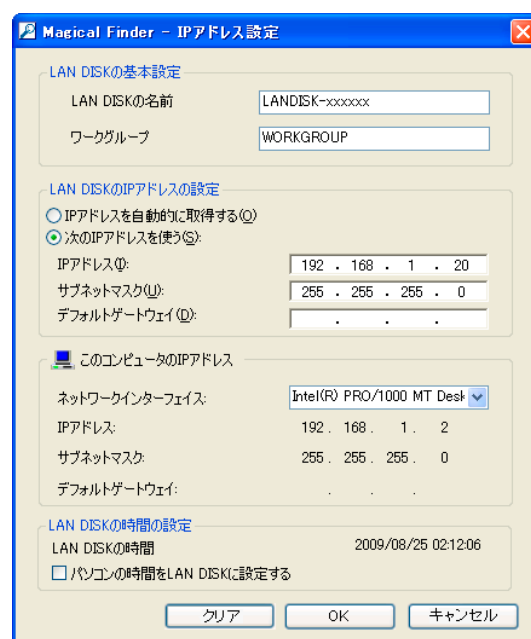
対処	ファイアウォールソフトをお使いの場合、本製品へアクセスできない場合があります。 その場合、ファイアウォールソフト側で、65 番のポートを UDP で、137 ~ 139 番、445 番、51055 番のポートを TCP でアクセスすることを許可する設定を行ってください。
----	--

パソコンの IP アドレスがわからない

対処	添付ユーティリティ「Magical Finder」で確認することができます。以下をご覧ください。
----	--

パソコンの IP アドレス確認方法

- 1 「Magical Finder」を起動します。
- 2 [IP 設定] ボタンをクリックします。
- 3 管理者パスワードを入力後 (出荷時はパスワードは設定されていません)、[OK] ボタンをクリックします。
- 4 表示された [IP アドレス設定] 画面の [このコンピュータの IP アドレス] で確認できます。



本製品へのアクセス時のトラブル

「landisk-xxxxxx」のアイコンを開いたり、共有フォルダーを開こうとすると、「アクセス権限が無い」とエラーが表示されたり、ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示される

原因	共有フォルダーにアクセス権限の設定を行って、本製品に登録したユーザー名、パスワードと、パソコンからログオンしたユーザー名とパスワードが一致していない。
対処	ネットワークログオン時に入力する [ユーザー名]、[パスワード] と本製品に登録したユーザーの [ユーザー名]、[パスワード] が一致するように、本製品とパソコンの設定をご確認ください。パソコンの設定については、次を確認してください。 ▼ Windows の場合 OS 側にユーザー登録しなおします。 ユーザー登録されていない場合には、本製品に登録した [ユーザー名] [パスワード] と同じユーザーアカウントを作成してください。 ▼ Mac OS の場合 [移動] → [サーバへ接続...] で本製品の IP アドレスを設定後、[接続] ボタンをクリックした際に表示される画面で、[登録ユーザー] を選択し、[名前] と [パスワード] に本製品に登録した [ユーザー名] と [パスワード] を入力してください。

Mac OS から書き込んだファイルを Windows から削除すると、本製品の共有へ Mac OS からファイル保存ができなくなる

原因	本製品のシステムに採用されている Windows サービスと Macintosh サービス間のファイル保存情報に不整合が生じるため。
対処	Mac OS のデスクトップ上にマウントした共有を一度、ゴミ箱へ捨て再度、Finder から本製品の共有へアクセスしてください。

本製品にネットワーク経由で接続するパソコンの台数に制限はありますか？

対処	本製品にネットワーク経由で接続可能な端末数について、Windows では制限は設けておりませんが、同時接続台数が増加するとパフォーマンスが低下します。 ・ Windows の場合：推奨する同時接続台数は 32 台まで（ネットワークドライブの割り当ても同様です。） ・ Mac OS の場合：推奨する同時接続台数は 8 台まで（最大 16 台まで）
----	---

LAN DISK にアクセスできないパソコンがある（他のパソコンからはすでに LAN DISK にアクセスできている場合）

対処	<p>すでに別のパソコンが LAN DISK にアクセスできている場合、LAN DISK 自体の動作、設定には問題がないため、LAN DISK 自体の設定変更を行う必要はありません。</p> <p>LAN DISK に接続できないパソコンで以下の点をご確認ください。</p> <p>▼ Windows の場合</p> <p>「コンピューターの検索」にて LAN DISK の名前ではなく、本製品に設定されている IP アドレスで検索を行ってください。</p> <p>● IP アドレスの検索で見つかる場合</p> <p>TCP/IP で正しく通信できていますので、IP アドレス設定は正常です。</p> <p>また、検索の結果表示された共有フォルダーへのアクセスをお試しください。</p> <p>● IP アドレスの検索で見つからない場合</p> <p>検索した IP アドレスが LAN DISK に設定されたものではない、または IP アドレスが正しく設定されていない可能性があります。以下の点をご確認ください。</p> <p>＜本製品の IP アドレスに PING を実行する＞</p> <p>① [コマンドプロンプト] を起動します。</p> <ul style="list-style-type: none">• Windows 8 の場合 画面の左下にマウスポインターを移動し、右クリックします。メニューが表示されたら、[コマンドプロンプト] をクリックします。• Windows 7、Vista の場合 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [コマンドプロンプト] をクリックします。• Windows XP の場合 [スタート] → [(すべての) プログラム] → [アクセサリ] → [コマンドプロンプト] を開きます。 <p>② 「ping」と入力し、スペースを 1 文字あけてから、本製品の IP アドレスを入力し Enter キーを押します。</p> <p>入力例) C:\xxxxx>ping 192.168.0.200 [Enter]</p> <p>③ 応答メッセージが表示されますので、メッセージ内容によりそれぞれの対処をご確認ください。</p> <p>＜「Reply from・・・」と応答があった場合＞</p> <p>OS のファイル共有サービスが正しく動作していない可能性があります。</p> <p>お使いの LAN アダプターのドライバーを再インストールしてみてどうかお試しください。</p> <p>＜「Request time out」と応答があった場合＞</p> <ul style="list-style-type: none">• 本製品の IP アドレスが、パソコンの IP アドレスと同じセグメントの IP アドレスになっているかを確認してください。[Magical Finder] より確認することができます。• ファイアウォールソフトがインストールされている場合には、一時的に機能を無効にしてみてください。 <p>▼ Mac OS の場合</p> <p>[[landisk-xxxxxx]が見つからない、もしくは、接続できない] (27-211 ページ)</p>
----	---



● Windows の場合

[コンピューターの検索] で [landisk-xxxxxx] が見つからない

原因	サービスが有効になってない。
対処	Web ブラウザーより設定画面の詳細設定にて、[サービス設定] → [サービス設定] で、[Microsoft ネットワーク共有] にチェックが入っていることを確認してください。 また、[共有管理] → [共有フォルダー設定] より、アクセスしたい共有フォルダーの [詳細] をクリックし、[Microsoft ネットワーク共有] が有効になっていることを確認してください。

原因	ネットワークの参照に時間がかかっている。
対処	エクスプローラーの [表示] メニュー → [最新の情報に更新] をクリックしてください。

原因	本製品がネットワークに正しく接続されていない。
対処	本製品の電源が入っているか ([POWER] ランプが点灯しているか)、接続ケーブルが LAN に接続されているか (背面の [ACT / LINK] ランプが点灯または点滅しているか) 確認してください。 (本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側の LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。)

原因	ファイアウォール系のソフトウェアを使用している。
対処	ファイアウォール系のソフトウェアで、本製品のコンピューター名 (初期値は [landisk-xxxxxx]) や本製品の IP アドレス (LAN ポートの初期値は [192.168.0.200]) を使用できるように設定してください。 詳しくは、お使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

原因	本製品の IP アドレスを変更後、検索しようとしている。
対処	パソコンを一度再起動する必要があります。 Windows が以前の情報を保持しているため、再起動で保持している情報を一度クリアする必要があるからです。

原因	Windows のネットワーク機能が不安定なため、ネットワーク参照が正しく行えない。
対処	<ul style="list-style-type: none"> 設定画面が開けることをご確認ください。 LAN アダプターが正常に認識されていることをご確認ください。(詳しくは、各 LAN アダプターの取扱説明書をご覧ください。)

原因	パソコン側の名前解決がうまくいっておらず、[landisk-xxxxxx](コンピューター名)の文字での検索では検索されない。
対処	本製品に設定されている IP アドレス (出荷時は、192.168.0.200) を入力して検索してください。 ※本製品の IP アドレスは、「Magical Finder」で確認することができます。 表示されている [IP アドレス] が本製品の IP アドレスです。

原因	お使いのネットワークの IP アドレスのセグメントが本製品の IP アドレスと異なっている。
対処	<ul style="list-style-type: none"> ●ブロードバンドルーターなどの DHCP サーバーをお使いの環境の場合 いったん本製品の電源を入れ直して、再度検索できるかどうかお試しください。 ●DHCP サーバーがない場合 本製品の IP アドレスをお使いのネットワークに合った IP アドレスに変更してください。

原因	すでに LAN DISK を使用しているネットワーク内へ本製品を導入する際に、本製品の [LAN DISK の名前] が他の LAN DISK と重複している。
対処	本製品を複数台使用する場合や他の弊社製 LAN DISK と併用する場合など、LAN DISK を複数台使用する場合は、導入する本製品の [LAN DISK の名前] を、すでに導入済みの LAN DISK と重複しない名前に変更する必要があります。

原因	本製品とお使いのパソコンのワークグループ名が異なる。
対処	本製品とパソコンのワークグループ名を一致するように設定してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・本製品のワークグループ名 設定画面の「詳細設定」→「情報表示」→「ネットワーク情報」【ネットワーク情報】(26-171 ページ) ・パソコンのワークグループ名 【Windows パソコンの [ワークグループ名] がわからない】(27-232 ページ)

Windows 上から本製品を参照した場合に、見覚えのないフォルダーやファイルがある

原因	アプリケーションが作業中に作成・削除した。
対処	アプリケーションによっては、作業ファイルを作成・削除するものがあります。 そのため、[TrashBox] フォルダーにファイルやフォルダーがある場合があります。

ユーザー権限共有フォルダーにログオンしようとする、エラーメッセージが出てきてログオンができない

原因	LAN DISK に登録したユーザー名・パスワードと、Windows に登録したユーザー名とパスワードが一致していない可能性が考えられます。
対処	LAN DISK に登録したユーザー名・パスワードを、Windows でも作成し、OS ログオン時にそのユーザー名・パスワードを使ってログオンしてください。

LAN DISK の検索を行うと「プリンタとFAX」(「プリンタ」)のアイコンが出ますが削除はできますか？

対処	削除はできません。
----	-----------

共有フォルダーを開こうとすると、「組織のセキュリティポリシーによって非認証のゲストアクセスがブロックされているため…」と表示される

原因	Windows 10 Enterprise や Windows 10 Education、Windows Server 2016 などでは、セキュリティの観点から詳細アクセス権が無効の共有フォルダーにアクセスできない場合があります。
対処	共有フォルダーに詳細アクセス権を設定してお使いいただくことをおすすめいたします。 ※どうしても詳細アクセス権が無効の共有フォルダーにアクセスしたい場合 ローカルグループポリシーエディターでセキュリティを下げるように設定すると、アクセスできるようになります。 ①画面左下の検索欄に「gpedit」と入力し、「グループポリシーの編集」を開く ② [コンピューターの構成] → [管理用テンプレート] → [ネットワーク] → [Lanman ワークステーション] を開く ③ [安全でないゲストログオンを有効にする] をダブルクリック ④ [有効] を選び、[OK] をクリック

● Mac OS の場合

[landisk-xxxxxx] が見つからない、もしくは、接続できない

原因	本製品がネットワークへ正しく接続されていない。
対処	本製品の電源が入っているか ([POWER] ランプが点灯しているか)、接続ケーブルが LAN に接続されているか (背面の [ACT/LINK] ランプが点灯または点滅しているか) 確認してください。 (本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側の LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。)

原因	ファイアウォール系のソフトウェアを使用している。
対処	ファイアウォール系のソフトウェアで、本製品のコンピューター名 (初期値は [landisk-xxxxxx]) や本製品の IP アドレス (LAN ポートの初期値は [192.168.0.200]) を使用できるように設定してください。 詳しくは、お使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

原因	すでに LAN DISK を使用しているネットワーク内へ本製品を導入する際に、本製品の [LAN DISK の名前] が他の LAN DISK と重複している。
対処	本製品を複数台使用する場合や他の弊社製 LAN DISK と併用する場合など、LAN DISK を複数台使用する場合は、導入する本製品の [LAN DISK の名前] を、すでに導入済みの LAN DISK と重複しない名前に変更する必要があります。

原因	LAN DISK の名前で検索できない。
対処 1	[サーバへ接続] 画面で、本製品の IP アドレスを使用して接続してください。 入力する IP アドレスは、本製品に設定されている IP アドレスを入力します。 ※本製品の IP アドレスは、「Magical Finder」で確認することができます。表示されている [IP アドレス] が本製品の IP アドレスです。 → IP アドレスを指定して接続する場合： <code>afp://192.168.0.200/</code>
対処 2	Web ブラウザー「Safari」を起動し、ブックマークの「Bonjour」に landisk-xxxxxx が表示されていることを確認します。

設定画面に関するトラブル

(Windows) ネットワークに導入後、本製品の設定画面が表示されない

対処 1	添付の CD-ROM 内の Magical Finder を起動し、本製品を検索してみてください。 詳しくは【ネットワーク導入手順】(3-12 ページ) をご覧ください。
対処 2	セキュリティ関連のソフトウェア (ファイアウォールソフト) の動作を一時的に停止していただき、本製品が検索されるかどうかをお試しください。 また、一時的に停止した場合に検索されるようになった場合には、ファイアウォールソフトの除外設定を行うと、ファイアウォールソフトを動作させたまま、本製品を検索することが可能となります。 詳しいソフトウェアの操作方法については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

<参考：Windows 8 の Windows ファイアウォール機能の除外設定>

- ①あらかじめ「Magical Finder」をパソコンにインストールします。
- ②画面の左下にマウスポインターを移動し、右クリックします。
- ③メニューが表示されたら、[コントロールパネル] をクリックします。
- ④コントロールパネルの検索に「Windows ファイアウォール」と入力します。
- ⑤「Windows ファイアウォール」の [Windows ファイアウォールによるアプリケーションの許可] をクリックし、画面内の [設定の変更] ボタンをクリックします。
- ⑥一覧から [Magical Finder] を選択し、チェックボックスにチェックをつけた後、[OK] ボタンをクリックします。

<参考：Windows 7 の Windows ファイアウォール機能の除外設定>

- ①あらかじめ「Magical Finder」をパソコンにインストールします。
- ② [スタート] - [コントロールパネル] を開き、コントロールパネルの検索に「Windows ファイアウォールによるプログラムの許可」と入力します。
- ③ [Windows ファイアウォール]-[許可されたプログラム] の画面が開いたら、画面内の [設定の変更] ボタンをクリックします。
- ④一覧から [Magical Finder] を選択し、チェックボックスにチェックをつけた後、[OK] ボタンをクリックします。

<参考：Windows Vista の Windows ファイアウォール機能の除外設定>

- ①あらかじめ「Magical Finder」をパソコンにインストールします。
- ② [スタート] - [コントロールパネル] - [Windows ファイアウォールによるプログラムの許可] を開きます。
※ユーザーアカウント制御の確認画面が表示された場合は「続行」ボタンをクリックします。
- ③ [例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。
- ④一覧から [Magical Finder] を選択し、[OK] ボタンをクリックします。
- ⑤「プログラムおよびサービス」の一覧に [Magical Finder] が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。

(Mac OS) ネットワークに導入後、本製品の設定画面が表示されない

原因	接続が正しく行われていない。
対処	本製品の電源が入っているか ([POWER] ランプが緑色に点灯しているか)、接続ケーブルが LAN に接続されているか (背面の [ACT/LINK] ランプが点灯または点滅しているか) 確認してください。 【ACT/LINK ランプが点灯または点滅していない】 (27-218 ページ) 本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側の LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。

原因	セキュリティ関連のソフトウェアが制限している。
対処	セキュリティ関連のソフトウェアのファイアウォール機能により制限されている場合があります。 ファイアウォール機能を本製品設定時のみ解除していただくか、本製品のソフトウェアはファイアウォールの制限を受けないように設定を変更してお試しください。 なお、ファイアウォール機能に関する設定については、セキュリティ関連のソフトウェアメーカーにお問合せください。

原因	(本製品に固定の IP アドレスを設定した場合) 本製品と設定用パソコンの IP アドレスのネットワークアドレス部が合っていない。
対処	お使いのパソコンの IP アドレスが例えば「192.168.1.xxx」に設定されている環境で、本製品の IP アドレスが「192.168.0.200」に設定されているなど、ネットワークアドレスが合っていないことが考えられます。 本製品の IP アドレスの設定を、お使いのネットワーク環境にあわせて設定し直してください。 【パソコンに固定の IP アドレスを設定する方法】 (27-233 ページ)

原因	本製品が DHCP クライアントに設定されているため、IP アドレスがわからない。
対処	本製品の IP アドレスは、Magical Finder で確認することができます。表示されている [IP アドレス] が本製品の IP アドレスです。

原因	設定画面を開こうとしているパソコンの IP アドレス設定が間違っている。
対処	設定画面を開こうとしている以外のパソコンで、設定画面が開けないかお試しください。 開ける場合は、開けなかったパソコン側の IP アドレスの設定が本製品にアクセスできる設定になっていない可能性があります。 本製品を設定時にパソコンの IP アドレスやサブネットマスクを一時的に変更していた場合などは、本製品設定前の IP アドレスやサブネットマスクに戻してください。

原因	以前に設定した本製品の IP アドレスが間違っている、あるいは、正しく設定していなかった。
対処	RESET ボタンで、本製品の IP アドレスを出荷時設定 (192.168.0.200) に戻してください。 【IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す】 (22-138 ページ) 出荷時設定に戻した後、再度、最初から本製品の IP アドレスの設定をやり直してください。 【固定の IP アドレスを設定する場合】 (3-14 ページ)

原因	Web ブラウザーが、プロキシ経由でインターネット接続するようになっている。
対処	Web ブラウザーがプロキシサーバーを使用する設定になっている場合、本製品の設定画面を呼び出すことができません。 Web ブラウザーの設定でプロキシサーバーを使わない設定にしてください。 本製品の設定終了後は、プロキシ設定を元に戻してください。 【Mac OS でプロキシサーバー設定を無効にする設定】 (27-206 ページ)

設定画面で一部表示されない項目がある

原因	セキュリティ関連のソフトウェアの影響により表示されない。
対処	セキュリティ関連のソフトウェアのファイアウォール機能により制限されている場合があります。 ファイアウォール機能を本製品設定時のみ解除していただくか、本製品のソフトウェアはファイアウォールの制限を受けないように設定を変更してお試しください。 なお、ファイアウォール機能に関する設定については、ソフトウェアメーカーにお問合せください。

原因	Web ブラウザーのセキュリティレベルが高く設定されている。
対処	本製品の設定時のみセキュリティレベルを「中」に設定してください。 設定後は、元の「高」設定に戻してください。 (参考) Internet Explorer 6 (Windows) をご利用の場合 ①デスクトップにある「Internet Explorer」のアイコンを右クリックし、メニューの中の [プロパティ] をクリックし、[インターネットオプション] もしくは [インターネットのプロパティ] を開いてください。 ② [セキュリティ] タブをクリックし、[このゾーンのセキュリティレベル] を「中」に合わせます。 ③ 「OK」 ボタンをクリックします。

空き容量が実際より少なく見える

原因	[TrashBox] フォルダのファイルが多数ある。
対処	各共有の [TrashBox] フォルダを空にしてください。

設定画面で文字が入力できない

原因	入力箇所をクリックしていない。
対処	一度入力したい箇所をクリックしてから入力してください。

原因	入力できない文字を入力しようとしている。
対処	入力できる文字かを確認してから入力してください。 本製品の設定画面上で入力できる文字には制限があります。 【文字制限一覧】 (25-157 ページ) をご覧ください。

設定画面上から入力できる文字制限について

対処	【文字制限一覧】 (25-157 ページ) をご覧ください。
----	--

パスワード認証に失敗し設定画面を表示できない

原因	パスワードが間違っている。
対処	出荷時設定では、「パスワード：(なし)」に設定されています。 出荷時設定の場合は、パスワード入力欄には何も入力せずに [OK] ボタンをクリックすれば設定画面が表示されます。 設定画面の [管理者パスワードの変更] でパスワードを設定した場合は、そのパスワードをパスワード入力欄に入力する必要があります。 再度パスワードをご確認いただき入力しなおしてみてください。 パスワードを忘れてしまった場合は、 【IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す】 (22-138 ページ) をご覧になり、出荷時状態に戻してください。

原因	空白 (スペース) のみのパスワードになっている。
対処	パスワード無しに設定したつもりで、空白 (スペース) で設定されていることがありますので、空白 (スペース) を入力してみてください。 ログオンできない場合は、上の対処をご覧ください。

設定画面にログオンするためのパスワードがわからない

対処	出荷時設定では、「パスワード：(なし)」に設定されています。 出荷時設定の場合は、パスワード入力欄には何も入力せずに [OK] ボタンをクリックすれば設定画面が表示されます。 設定画面の [管理者パスワードの変更] でパスワードを設定した場合は、そのパスワードをパスワード入力欄に入力する必要があります。 再度パスワードをご確認いただき入力しなおしてみてください。 パスワードを忘れてしまった場合は、【IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す】(22-138 ページ) をご覧になり、出荷時状態に戻してください。
----	---

次のメッセージが表示された「現在システムは処理中です。しばらく待ってから操作してください。」

原因	設定処理実行中に他の設定をしようとした。 設定処理の途中で別の設定を行おうとすると上記メッセージが表示されることがあります。
対処	他の設定処理が実行中でないかご確認ください。

原因	ファームウェアが正常に動作していない。
対処	①いったん、本製品の電源を入れ直して、同様の操作をしてみてください。 ②本製品の初期化を行ってください。詳しくは、【出荷時設定に戻す】(22-138 ページ) をご覧ください。

設定画面上のハードディスク使用領域が、ドライブのプロパティと異なる

対処	ハードディスクに問題はありません。本製品が使用するファームウェアの制限です。
----	--

設定画面の動作が遅い

原因	バックアップ中、アクティブリペアー中など、本製品の処理動作中である。 以下の動作中は、本製品の操作・動作が遅くなる場合があります。 ・バックアップ中 ・アクティブリペアー中 ・RAID リビルド中 ・ファイル共有サービス転送中 / 再生中 ・スピンアップ中
対処	処理が終了するまでお待ちください。

本製品の IP アドレスについて

本製品に設定した IP アドレスを忘れた（本製品に設定されている IP アドレスを調べたい）

ご注意

DHCP サーバーのあるネットワークで確認する場合は、毎回以下の手順を行うことをおすすめします。

DHCP サーバーは常に固定の IP アドレスを割り当てるわけではありません。

下記手順でいったん確認できた IP アドレスも、本製品の電源を入れなおした後や DHCP サーバーを再起動した場合などには、本製品やパソコンに割り当てられた IP アドレスが変更されている場合もあります。

対処 1	添付ユーティリティ Magical Finder を起動してください。 表示されている [IP アドレス] が本製品の IP アドレスです。
対処 2	(DHCP サーバーのあるネットワークの場合) DHCP サーバー内の情報から確認します。 ご使用のプロードバンドルーターなどの DHCP サーバーが、本製品に割り当てた IP アドレスの情報を記録している場合があります。 詳しくは、DHCP サーバーとなっている機器の取扱説明書などをご覧ください。

ファイルの保存について

本製品に保存したファイルに、「読み込みのみ」「読み書き可能」のような属性設定ができない

対処	製品の仕様上、ファイルごとのセキュリティー設定はできません。 ファイルやフォルダーに属性やセキュリティー設定はおこなわないでください。
----	--

ファイル名やフォルダー名の制限について

対処	本製品に保存できるファイルやフォルダー名は、文字制限があります。以下をご覧ください。 【文字制限一覧】 (25-157 ページ) をご覧ください。
----	--

ファイルを削除するとごみ箱にいったん入りますか？

対処	本製品の「ごみ箱機能」を有効（初期値は無効）に設定した場合は、その共有フォルダーの中の [TrashBox] フォルダーにいったん削除したファイルが入ります。 各 OS のデスクトップにあるごみ箱へは入らないのでご注意ください。 ごみ箱機能を無効にして削除した場合は、そのまま削除されます。
----	---

共有フォルダーにファイルをコピーする際のサイズの制限はありますか？

対処	以下をご覧ください。 【増設ディスクに関するご注意】 (25-153 ページ)
----	--

ランプやブザーについて

起動時に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーピーピー」となり続けている

原因	本製品が起動停止の状態です。
対処	前面の [FUNC.] ボタンを押していったんブザーを止めた後、起動停止画面を開いて画面の表示に応じた対処をおこなってください。 詳しくは、以下をご覧ください。 【起動時に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーピーピー」と鳴り続けている】 (27-198 ページ)

使用中、または、起動時に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーポーピーポーピーポー」となり続けている

原因	RAID 崩壊の状態です。
対処	前面の [FUNC.] ボタンを押していったんブザーを止めた後、RAID の再構成をおこなってください。 詳しくは、以下をご覧ください。 【RAID が崩壊したときには】 (23-140 ページ)

パソコンと本製品を直接接続すると、[STATUS] ランプが赤く点灯している

対処	本製品の LAN ポートの設定が「IP アドレスを自動的に取得する (DHCP)」である場合は、IP アドレスの自動取得に失敗したために [STATUS] ランプが赤く点灯している可能性があります。その場合は本製品の IP アドレスを手動で固定の IP アドレスに設定してください。 【固定の IP アドレスを設定する場合】 (3-14 ページ)
----	--

ACT/LINK ランプが点灯または点滅していない

対処	以下をご覧ください。 【各部の名称・機能】 (25-148 ページ) 【ランプ表示別の対応】 (24-143 ページ)
----	---

カートリッジ取り付け・取り外し時のトラブル

カートリッジの取り外し（スライドスイッチを [UNLOCK] した）後に、UNLOCK したカートリッジの [ACCESS] ランプが青点灯している

原因	カートリッジを取り外せない状態です。
対処	本製品が再構築中など、システムで使用中のため取り外すことはできません。 無理に取り外すと、データの損失や RAID 崩壊、ハードディスクの故障、システムの故障の原因となります。 スライドスイッチを [LOCK] に戻してください。 取り外したい場合は、再構築が終了するまで待つ、など取り外せる状態になってから取り外してください。 ただし、RAID 0（ストライピング）で使用中など、取り外せない場合もあります。

カートリッジの取り付け（スライドスイッチを [LOCK] した）後に、すべての [ACCESS] ランプが速く青点滅を開始している

原因	RAID を再構築している状態です。
対処	RAID 使用中に、カートリッジを交換したり再度取り付けした場合、RAID 再構築を開始します。 本製品は RAID 再構築中でも通常通り使用できます。ただし、RAID 再構築中は、操作や処理が遅くなる場合があります。 また、RAID 再構築中に [電源] ボタンを押すなどして本製品をシャットダウンした場合は、再起動後に再度最初から RAID 再構築を開始しますのでご注意ください。 RAID の再構築の状態は、[ボリューム情報] 画面で確認することができます。

カートリッジの取り付け（スライドスイッチを [LOCK] した）後に、LOCK したカートリッジの [ACCESS] ランプが赤く点滅している

原因	RAID に組み込むために必要なディスク容量が足りないカートリッジを接続した。
対処	[ボリューム情報] 画面で [内蔵ボリューム] の [構成ディスク] の状態をご確認ください。 ・取り付けたカートリッジの状態が、[容量不足] と表示されている場合 システムは RAID を構成するディスクとして使用できないため、適切なディスク容量を持つカートリッジと交換してください。

原因	ディスクエラー発生過多のカートリッジを接続した。
対処	[ボリューム情報] 画面で [内蔵ボリューム] の [構成ディスク] の状態をご確認ください。 ・取り付けたカートリッジの状態が、[故障] と表示されている場合 本製品はディスクにエラーが発生した回数を記録しており、エラーが多数発生したディスクは RAID を構成するディスクとして使用しないようにしています。新しいカートリッジを準備し、交換してください。

原因	S.M.A.R.T. チェックエラー発生のカートリッジを接続した。
対処	[ボリューム情報] 画面で [内蔵ボリューム] の [構成ディスク] の状態をご確認ください。 ・取り付けたカートリッジの状態が、[故障] と表示されている場合 本製品はディスクを接続されたとき、ディスク自身の故障診断機能 (S.M.A.R.T.) を利用してディスクが壊れていないか確認します。 S.M.A.R.T. 情報により故障と判定されるディスクは、使用しないようにしています。 新しいカートリッジを準備し、交換してください。

HDL-XR/2D シリーズにて起動後に空カートリッジのスライドスイッチを UNLOCK にすると LOCK にもどした時に [ACCESS] ランプが青点滅し続ける

対処	スイッチを LOCK に戻した状態で再起動してください。
----	------------------------------

eSATA ハードディスクとミラーリング使用時のトラブル

eSATA ハードディスクを接続すると、[STATUS] ランプが赤く点灯し、ブザーが「ピーピーピー」と鳴った

原因	FAT/NTFS/専用フォーマット形式でデータが入っている eSATA ハードディスクを接続した。
対処	[eSATA ポート] の動作モード設定が [ミラーリングモード] の場合、通常 FAT/NTFS/専用フォーマット形式以外や、FAT/NTFS/専用フォーマット形式でデータが入っていない eSATA ハードディスクを接続すると、自動的に本製品とミラーリングを開始します。ただし、以下のような場合、自動でデータを上書きしません。 <ul style="list-style-type: none">・FAT/NTFS/専用フォーマット形式でデータが入っている eSATA ハードディスクの場合・NTFS 形式の 2TB 以上容量のある eSATA ハードディスクの場合 この eSATA ディスクでミラーリングを開始するには、設定画面より [ディスク設定] → [ボリューム操作] 画面で、[内蔵から eSATA ヘミラーリング開始] を実行してください。

原因	ミラーリングに必要なディスク容量が足りない eSATA ハードディスクを接続した。
対処	システムはミラーリング構成する eSATA ハードディスクとして使用できないため、適切なディスク容量を持つ eSATA ハードディスクに交換する必要があります。必要な容量については、以下をご覧ください。 【ミラーリングに使用できる増設ハードディスク】(14-99 ページ)

原因	ディスクエラー発生過多の eSATA ハードディスクを接続した。
対処	本製品はディスクにエラーが発生した回数を記録しており、エラーが多数発生した eSATA ハードディスクは RAID を構成する eSATA ハードディスクとして使用しないようにしています。新しい eSATA ハードディスクと交換してください。

eSATA ハードディスクを接続しても認識されない

原因	eSATA ハードディスクの電源が入っていない。
対処	eSATA ハードディスクの電源を入れてください。

原因	USB で接続されたまま eSATA に接続している。
対処	RHD-UX などの複数インターフェイス対応ハードディスクの場合、使用するインターフェイス以外のポートは外してください。

プリントサーバー機能使用時のトラブル

プリントサーバー機能を使用する際、プリンタードライバーのインストールがうまくできない

対処	<p>以下の手順にしたがってください。</p> <p>● Windows 7の場合</p> <ol style="list-style-type: none">① [スタート] → [デバイスとプリンター] をクリックします。② 画面上側の「プリンターの追加」をクリックします。③ 「プリンターの追加」画面が表示されるので、「ネットワーク、ワイヤレスまたは Bluetooth プリンターを追加します」をクリックします。④ 「探しているプリンターはこの一覧にはありません」をクリックします。⑤ [プリンターを参照する] にチェックをし、[次へ] ボタンをクリックします。⑥ コンピューターの一覧の中に [LAN DISK の名前] が表示されたらダブルクリックし、更にその下に表示される [USB_printer] をクリックして、[選択] ボタンをクリックします。⑦ ダイアログ「ドライバーが見つかりません。～」が表示されたら、[OK] ボタンをクリックします。⑧ プリンターの製造元、機種名を選択して、[OK] ボタンをクリックします。⑨ 「USB_printer ([LAN DISK の名前] 上) が正しく追加されました」と表示されたら、[次へ] ボタンをクリックします。⑩ [完了] ボタンをクリックします。 <p>以上で設定は終了です。</p> <p>● Windows Vista の場合</p> <ol style="list-style-type: none">① [スタート] → [コントロール パネル] (→ 「ハードウェアとサウンド」) の「プリンタ」をクリックします。② 画面上側の「プリンタのインストール」をクリックします。③ 「プリンタの追加」画面が表示されるので、「ネットワーク、ワイヤレスまたは Bluetooth プリンタを追加します」をクリックします。④ 「探しているプリンタはこの一覧にはありません」をクリックします。⑤ [プリンタを参照する] にチェックをし、[次へ] ボタンをクリックします。⑥ コンピューターの一覧の中に [LAN DISK の名前] が表示されたらダブルクリックし、更にその下に表示される [USB_printer] をクリックして、[選択] ボタンをクリックします。⑦ ダイアログ「プリンタのサーバーに正しいプリンタドライバがインストールされていません。～」が表示されたら、[OK] ボタンをクリックします。⑧ プリンターの製造元、機種名を選択して、[OK] ボタンをクリックします。⑨ 「プリンタ名を入力してください」と表示されたら [次へ] ボタンをクリックします。⑩ 「USB_printer - [LAN DISK の名前] が正しく追加されました」と表示されたら [完了] ボタンをクリックします。 <p>以上で設定は終了です。</p>
----	--

印刷時にエラー画面が表示される、インク残量を確認するユーティリティソフトが使えない

原因	双方向機能が有効になっている。
対処	本製品のプリントサーバー機能は双方向通信に対応しておりません。 そのため、インク残量等を確認するユーティリティソフトにも対応できませんので、ユーティリティソフトをアンインストールしてください。

プリントサーバー機能を利用して印刷を行ったところ、正常に印刷ができない

原因	プリンターメーカーより提供されている、ユーティリティソフトをインストールしている。
対処	本製品ではプリンターの双方向通信には対応していません。 プリンターメーカーから提供されてるインク残量の確認が行えるようなユーティリティソフトがインストールされている場合には、アンインストールしてください。

原因	動作確認済み以外のプリンターを使用している。
対処	お使いのプリンターが動作確認済みのプリンターかどうかご確認ください。 最新の対応機器については、弊社製品ホームページをご覧ください。

原因	印刷先のポートの設定が正しくない。
対処	以下の手順でポートの設定が LAN DISK 経由の設定されているかご確認ください。 ● Windows 7 の場合 ① [スタート] → [コントロールパネル] → ([ハードウェアとサウンド] →) [プリンター] をクリックします。 ② 登録したプリンターを選択後、右クリックしメニューより [プリンターのプロパティ] をクリックします。 ③ [ポート] タブをクリックし、現在チェックが付いているポート名が「¥¥LAN DISK の名前¥¥USB_printer」と表示されているか確認してください。 <例> LAN DISK の名前が、" LANDISK" の場合は「¥¥landisk¥¥USB_printer」となります。 ● Windows Vista の場合 ① [スタート] → [コントロールパネル] → ([ハードウェアとサウンド] →) [プリンタ] をクリックします。 ② 登録したプリンターを選択後、右クリックし、メニューより [プロパティ] をクリックします。 ③ [ポート] タブをクリックし、現在チェックが付いているポート名が「¥¥LAN DISK の名前¥¥USB_printer」と表示されているか確認してください。 <例> LAN DISK の名前が、" LANDISK" の場合は「¥¥landisk¥¥USB_printer」となります。

原因	プリンターの設定で双方向通信が有効になっている。
対処	以下の手順で、双方向通信が無効に設定されているかどうかご確認ください。 ● Windows 7 の場合 ① [スタート] → [コントロールパネル] → ([ハードウェアとサウンド] →) [プリンター] をクリックします。 ② 登録したプリンターを選択後、右クリックしメニューより [プリンターのプロパティ] をクリックします。 ③ [ポート] タブをクリックし、「双方向サポートを有効にする」にチェックが入っている場合には、チェックを外し [OK] ボタンをクリックして画面を閉じます。 ● Windows Vista の場合 ① [スタート] → [コントロールパネル] → ([ハードウェアとサウンド] →) [プリンタ] をクリックします。 ② 登録したプリンターを選択後、右クリックし、メニューより [プロパティ] をクリックします。 ③ [ポート] タブをクリックし、「双方向サポートを有効にする」にチェックが入っている場合には、チェックを外し [OK] ボタンをクリックして画面を閉じます。

クイックコピー機能について

コピー後にデータを参照したい

対処	以下をご覧ください。 【コピーしたデータを確認する】 (12-87 ページ)
----	---

コピーにかかる時間について

対処	目安として 1G バイトあたり約 200 秒かかります。 コピー元・コピー先のアクセス速度やファイル構成などにより、さらに多くの時間を要する場合があります。
----	---

ログにクイックコピーのエラーが表示された、クイックコピーを実行するとブザーが鳴りエラーとなる

対処	コピー先が増設ハードディスクの場合は、接続されていること、電源が入っていること、書き込み可能なフォーマットでフォーマットされていることをご確認ください。
----	--

対処	コピー先のディスクに空きが不足している可能性があります。 ディスクの使用量をご確認ください。 空き容量が不足している場合は、不要なファイルを削除するなどして空き容量を確保してください。
----	--

コピーデータを見せないようにできますか？

対処	見せないようにできます。 すべてのサービスを無効にした共有フォルダーをコピー先に指定してください。
----	--

バックアップ機能について

バックアップ後にデータを参照したい

対処	【バックアップしたデータを確認する】 (12-90 ページ) をご覧ください。
----	---

バックアップにかかる時間について

対処	バックアップ元が本製品の場合、目安として 1G バイトあたり約 200 秒かかります。 バックアップ元がネットワーク上の場合、ネットワークの負荷状況などにより変動しますが、さらに多くの時間を要します。
----	---

スケジュール設定でバックアップした場合、更新されたデータのみバックアップされますか？

対処	更新されたデータのみバックアップされます。
----	-----------------------

バックアップログメールが送信されない

対処	【メール送信テストでエラーとなる】 (27-231 ページ) をご覧ください。
----	---

バックアップログでエラーのログが表示された、バックアップを実行するとブザーが鳴りエラーとなる

対処	バックアップ先が増設ハードディスクの場合は、接続されていること、電源が入っていること、専用フォーマットでフォーマットされていること、正しくファイルが読めることをご確認ください。
----	--

対処	バックアップ元がネットワーク上の場合は、本製品やネットワーク上の機器がネットワークに接続されていること、電源が入っていることをご確認ください。 バックアップ元から該当の装置を削除し、再度追加することでも確認できます。
----	---

対処	バックアップ先のドライブに空きがない可能性があります。 ディスクの使用量を確認してください。 空き容量が無い場合はバックアップ先の読み取り専用オプションを外して不要なファイルを削除する必要があります。
----	--

対処	バックアップ元または先のファイルシステムに異常がある可能性があります。 チェックディスクにより、ファイルシステムに異常がないかご確認ください。
----	--

バックアップデータを見せないようにできますか？

対処	見せないようにできます。 すべてのサービスを無効にした共有フォルダーをバックアップ先に指定してください。
----	---

レプリケーションについて

レプリケーション設定時に「レプリケーション先に接続できませんでした。」と表示された

原因	レプリケーション設定を行うためには、レプリケーション先が使用できる状態である必要があります。
対処 1	レプリケーション先の設定を先におこなってください。 詳しくは、【①レプリケーション先（予備機）の本製品を設定する】（13-94 ページ）をご覧ください。
対処 2	レプリケーション元とレプリケーション先がネットワークケーブルで接続され、レプリケーション先が正常に起動していることを確認してください。 詳しくは、【②予備機を接続する】（13-94 ページ）をご覧ください。

原因	レプリケーション設定で入力している情報が正しくない。
対処	レプリケーション設定時にレプリケーション先で設定した内容を正確に入力していることを確認してください。

原因	レプリケーション先のホスト名が解決できない。
対処	レプリケーション設定の「レプリケーション先ホスト名」欄にレプリケーション先の IP アドレスを入力して接続できるか確認してください。

レプリケーション設定が無効に戻っている

原因	レプリケーション元にフォルダーを 20000 個を越えて保存した。
対処	レプリケーション元に保存されているフォルダー数を 20000 個以下に減らしてからレプリケーション設定をやり直してください。

原因	内蔵ボリュームのボリューム設定またはフォーマットをおこなった。
対処	レプリケーション設定をやり直してください。

内蔵および増設ハードディスクについて

[USB ポート 1] に増設ハードディスクを接続しても利用できない

対処	本製品の出荷時設定では、前面の [USB ポート 1] は、クイックコピー用に設定されているため、そのままの状態では利用できません。 【USB ポート1(前面)の設定】(11-75 ページ) をご覧になり、USB ポート 1 を共有モードに変更してください。
----	--

増設ハードディスクを接続するとブザーが「ピーピーピー」と鳴り、[STATUS] ランプが赤く点灯したままとなる

原因	FAT/NTFS/専用フォーマット形式以外の増設ハードディスクを接続した。 以下のような場合にエラーとなります。 <ul style="list-style-type: none">・ Mac OS で使用していたハードディスク・ 未フォーマット状態のハードディスク・ 以前に [ミラーディスクの保管] をおこなった eSATA ハードディスク・ 本製品以外の LAN DISK で専用フォーマットにした増設ハードディスク・ NTFS 形式の 2TB 以上容量のあるハードディスク
対処	以下の方法があります。 <ul style="list-style-type: none">・ いったんケーブルを抜いて FAT/NTFS 形式にパソコンなどでフォーマットしてから再度接続する。・ 接続したまま設定画面で「フォーマット (FAT32)」もしくは「フォーマット (専用)」を実行する。 フォーマット方法については、以下をご覧ください。 【増設ハードディスクをフォーマットする】(11-79 ページ)

eSATA ハードディスクを [eSATA ポート] に接続しても認識されない

原因	eSATA ハードディスクのケーブルを USB ケーブルから eSATA ケーブルに切り替えて接続した。
対処	パソコンや本製品の USB ポートでご利用になっていた eSATA ハードディスクの USB ケーブルを eSATA ケーブルに切り替える場合は、切り替える前に一度 eSATA ハードディスクの電源コードの抜き差しをおこなってください。 電源コードの抜き差しを行わずに eSATA ケーブルに切り替えて本製品の [eSATA ポート] に接続しても、本製品に認識されない場合があります。

増設ハードディスクのパソコンでのフォーマット方法について

対処	FAT32 や NTFS 形式のハードディスクはそのまま Windows ではご利用になれます。 再度フォーマットする場合などのフォーマット方法の詳細については、お使いの増設ハードディスクの取扱説明書を参照してください。 ※フォーマットするとデータはすべて消去されます。 ※ LAN DISK をパソコンに直接接続して、FAT32 や NTFS 形式にフォーマットすることはできません。 なお、弊社ホームページ (http://www.iodata.jp/) で「DiskRefresherLE を使用した FAT32 へのフォーマット手順」をご案内しています。
----	---

ハードディスクの不良でカートリッジ交換が必要な場合は？

対処	以下の場合が考えられます。 各カートリッジの状態については、[ボリューム情報] 画面の [構成ディスク] でご確認ください。 ① [S.M.A.R.T. 自己診断機能] で異常と判断されたハードディスク →この場合、[ボリューム情報] 画面の [構成ディスク] には、[故障] と表示されています。 ②エラーが多数発生しているハードディスク →この場合も、[ボリューム情報] 画面の [構成ディスク] には、[故障] と表示されています。
----	--

本製品に接続可能なハードディスクについて

対処	以下をご覧ください。 【増設できる USB 機器】(25-152 ページ) 【増設できる eSATA 機器】(25-152 ページ)
----	--

デフラグ機能はありますか？

対処	本製品にデフラグ機能はありませんが、本製品に採用しているファイルシステムの仕様により、フラグメンテーション（断片化）が起こりにくくなっています。
----	--

省電力機能が働かない

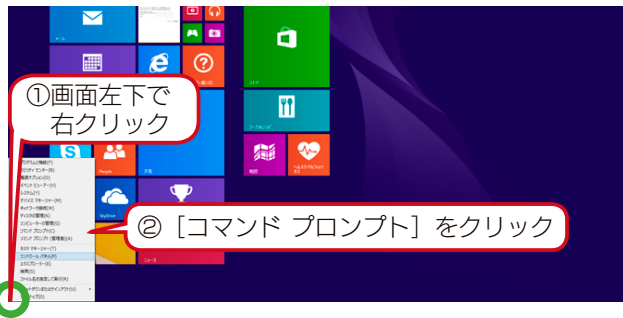
原因	省電力に対応していない増設ハードディスクである。
対処	増設ハードディスクによっては、省電力に対応していないハードディスクがあります。 最新の対応機器については、弊社製品ホームページをご覧ください。

原因	本製品のシステムがアクセスしている。
対処	本製品のシステムが必要なファイルにアクセスする場合があります。

タイムサーバー機能使用時のトラブル

タイムサーバーとの同期が行われない

原因	[ネットワーク設定] で正しく設定されていない。
対処	<p>[ネットワーク設定] で「デフォルトゲートウェイ」と「DNS サーバー」を DHCP サーバーから自動で取得していない場合は、以下を確認してください。</p> <p>設定画面の [ネットワーク設定] で、「デフォルトゲートウェイ」と「DNS サーバー」を正しく設定してください。</p> <p>入力するデフォルトゲートウェイと DNS サーバーの IP アドレスは、パソコンで設定されているものと同じ値に設定してください。</p> <p>以下の手順で確認した IP アドレスを、本製品の「ネットワーク設定」画面に入力してタイムサーバーとの同期とメール通知テストで送信ができるかどうかご確認ください。</p> <p>【デフォルトゲートウェイと DNS サーバーの確認方法】</p> <ul style="list-style-type: none">● Windows 8 の場合<ol style="list-style-type: none">①画面の左下にマウスポインターを移動し、右クリックします。②メニューが表示されたら、[コマンドプロンプト] をクリックします。③ ipconfig /all と入力して Enter キーを押します。④ [デフォルトゲートウェイ] と「DNS サーバー」の IP アドレスを確認します。● Windows 7、Vista の場合<ol style="list-style-type: none">① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [コマンドプロンプト] をクリックします。② ipconfig /all と入力して Enter キーを押します。③ [デフォルトゲートウェイ] と「DNS サーバー」の IP アドレスを確認します。● Mac OS X の場合<ol style="list-style-type: none">① [アップルメニュー] → [システム環境設定] で [ネットワーク] を開きます。② [Ethernet] を選択し、表示された [ルーター] [DNS サーバ] の IP アドレスを確認します。



NT ドメイン・Active Directory 使用時のトラブル

NT ドメインへの参加ができない

対処	設定画面の [詳細設定] → [サービス設定] → [Microsoft ネットワーク設定] 開き、[ドメイン名]、[ドメインコントローラーの名前] が正しく設定されていることを確認してください。
対処	サーバーに本製品の名前と同じコンピューターがすでに登録されていた場合は、登録されているコンピューターをいったん削除してから再度設定してください。
対処	設定画面の [詳細設定] → [サービス設定] → [Microsoft ネットワーク] 開き、一度ワークグループモードに設定を戻してから、再度 NT ドメインモードに設定してください。
対処	本製品を再起動してから、再度 NT ドメインモードに設定してください。
対処	ご利用のネットワークに BDC(バックアップドメインコントローラー) がある場合、以下について確認してください。 ①いったん、NT ドメインモードからワークグループモードに変更します。 設定画面の [詳細設定] → [サービス設定] → [Microsoft ネットワーク] の参加方法の設定で、[ワークグループ] を選択して設定します。 ② PDC(プライマリドメインコントローラー) を再起動します。 ③本製品を再度 NT ドメインモードに設定します。

ドメインモードに切り替えると共有にアクセスできなくなった

対処	ドメインモードでは、ユーザー認証をドメインコントローラーでおこないます。そのため、本製品に登録しているユーザーやグループに詳細アクセス権設定を有効にした共有フォルダーは、Windows ネットワーク共有サービスから利用できなくなります。ただし、詳細アクセス権設定を無効に設定されている場合はアクセス可能です。 ワークグループモードでは、あらかじめ詳細アクセス権設定でドメインユーザーやドメイングループを設定した共有フォルダーは、Windows ネットワーク共有サービスから利用できません。
----	---

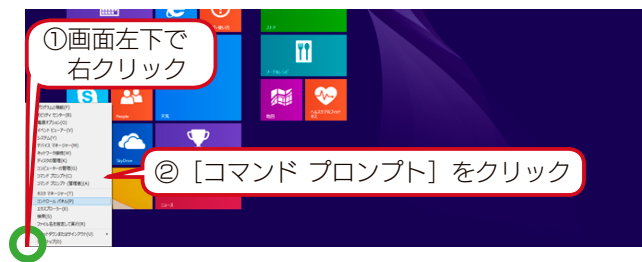
Active Directory への参加ができない

対処	設定画面の [詳細設定] → [基本設定] → [ネットワーク設定] を開き、[DNS サーバーアドレス] が正しく設定されていることを確認してください。
対処	[詳細設定] → [基本設定] → [ネットワーク設定] から [ドメイン名 (NetBIOS 名)]、[ドメイン名 (フル DNS 名)]、[ドメインコントローラーの名前]、[管理者ユーザー名]、[管理者パスワード] が正しく設定されていることを確認してください。
対処	指定の管理者ユーザーがドメインコントローラー上で Administrator 権限を有していることを確認してください。
対処	Active Directory の仕様により、ドメインコントローラーの Administrator パスワードが一度も変更されていない場合、ログオンは失敗します。Administrator パスワードを変更してから再度設定してください。
対処	ドメインコントローラーの時刻設定と LAN DISK の時刻設定が 5 分以上離れているとログオンは失敗します。両者の時刻を合わせてから、再度設定してください。
対処	サーバーに本製品の名前と同じコンピューターがすでに登録されていた場合は、登録されているコンピューターをいったん削除してから再度設定してください。
対処	設定画面の [詳細設定] → [サービス設定] → [Microsoft ネットワーク設定] で、一度ワークグループモードに設定を戻してから、再度 Active Directory モードに設定してください。
対処	本製品を再起動してから、再度 Active Directory モードに設定してください。
対処	ご利用のネットワークに BDC (バックアップドメインコントローラー) がある場合、以下について確認してください。 ①いったん、Active Directory モードからワークグループモードに変更します。 設定画面の [詳細設定] → [サービス設定] → [Microsoft ネットワーク] の参加方法の設定で [ワークグループ] を選択して、設定します。 ② PDC(プライマリドメインコントローラー) を再起動します。 ③本製品を再度 Active Directory モードに設定します。

メール送信でのトラブル

メール送信テストでエラーとなる

原因	[ネットワーク設定] で正しく設定されていない。
対処	<p>[ネットワーク設定] で「デフォルトゲートウェイ」と「DNS サーバー」を DHCP サーバーから自動で取得していない場合は、以下を確認してください。</p> <p>設定画面の [ネットワーク設定] で、「デフォルトゲートウェイ」と「DNS サーバー」を正しく設定してください。</p> <p>入力するデフォルトゲートウェイと DNS サーバーの IP アドレスは、パソコンで設定されているものと同じ値に設定してください。</p> <p>以下の手順で確認した IP アドレスを、本製品の「ネットワーク設定」画面に入力してタイムサーバーとの同期とメール通知テストで送信ができるかどうかご確認ください。</p> <p>【デフォルトゲートウェイと DNS サーバーの確認方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Windows 8 の場合 <ol style="list-style-type: none"> ①画面の左下にマウスポインターを移動し、右クリックします。 ②メニューが表示されたら、[コマンドプロンプト] をクリックします。 ③ ipconfig /all と入力して Enter キーを押します。 ④ [デフォルトゲートウェイ] と「DNS サーバー」の IP アドレスを確認します。 ● Windows 7、Vista の場合 <ol style="list-style-type: none"> ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [コマンドプロンプト] をクリックします。 ② ipconfig /all と入力して Enter キーを押します。 ③ [デフォルトゲートウェイ] と「DNS サーバー」の IP アドレスを確認します。 ● Mac OS X の場合 <ol style="list-style-type: none"> ① [アップルメニュー] → [システム環境設定] で [ネットワーク] を開きます。 ② [Ethernet] を選択し、表示された [ルーター] [DNS サーバ] の IP アドレスを確認します。



原因	メール送信先のサーバー（プロバイダー）が「POP before SMTP」や「SMTP AUTH」を使用している。 ※メール送信時の認証を使用しているかどうかはプロバイダーやメール送信サーバーの管理者にご確認ください。
対処	[メール基本設定] の [メール送信時認証設定] で、適切な認証方式を選択し設定します。

原因	インターネットプロバイダーが OP25B を実施している。 OP25B (Outbound Port 25 Blocking) とは、迷惑メール送信防止のための措置で、プロバイダー外部への通常の SMTP 接続 (25 番ポートでの接続) がブロックされます。
対処	以下のいずれかの方法を試してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・プロバイダーから指定された SMTP サーバーを [SMTP サーバー名] に指定する。 ・プロバイダー外部の SMTP サーバーを指定する場合は SMTP AUTH を使用し、25 番ポートでのメール送信しないようにする。(SMTP サーバーが SMTP AUTH に対応している場合に限られます。)


原因	ドメインコントローラーの DNS サーバーに転送設定がない。
対処	Active Directory に参加している場合は、ドメインコントローラーの DNS サーバーに転送設定がないとメール送信先のサーバーが外部の場合などに名前解決がおこなえずエラーとなります。 Windows のヘルプをご覧ください、DNS サーバーの転送設定をおこなってください。

パソコンのネットワーク設定について


パソコンの IP アドレスがわからない

対処 [【パソコンの IP アドレス確認方法】 \(27-207 ページ\)](#) をご覧ください。

Windows パソコンの [ワークグループ名] がわからない

対処	<ul style="list-style-type: none">● Windows 8 の場合①画面の左下にマウスポインターを移動し、右クリックします。②メニューが表示されたら、[システム] をクリックします。③「コンピューター名、ドメインおよびワークグループの設定」のワークグループの欄で確認できます。● Windows 7 の場合① [スタート] をクリック後、[コンピューター] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。②「コンピューター名、ドメインおよびワークグループの設定」のワークグループの欄で確認できます。● Windows Vista の場合① [スタート] をクリック後、[コンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。②「コンピュータ名、ドメインおよびワークグループの設定」のワークグループの欄で確認できます。	
----	---	--

(Windows) ネットワークドライブの割り当て方法がわからない

対処	<ul style="list-style-type: none">①本製品の共有フォルダーの一覧を開きます。② [disk] フォルダーを右クリックし、表示されたメニューの [ネットワークドライブの割り当て] をクリックします。③ネットワークドライブを割り当てます。<ul style="list-style-type: none">1. [ドライブ] で本製品に割り当てる文字を選びます。(画面例では、L を選択しています。)2. [サインイン時に再接続する] (または [ログオン時に再接続する]) にチェックを付けます。3. [完了] (または [OK]) ボタンをクリックします。※ドライブの割り当てが完了すると、割り当てられたドライブのウィンドウが表示されます。④ [コンピューター] を開いて、割り当てられたドライブが認識されていることをご確認ください。ネットワークドライブは、パソコンのハードディスクと同様にアクセスできます。	
----	---	---

(Windows) [ローカルエリア接続] アイコンに×マークが付いている

原因	LAN ケーブルが正しく接続されていない。
対処	パソコンに LAN ケーブルが接続されているか、また、パソコン接続先のネットワーク機器 (ルーターやハブなど) に LAN ケーブルが接続されているかご確認ください。

原因	LAN ケーブルに問題がある。
対処	LAN ケーブルを交換してお試しください。

パソコンに固定の IP アドレスを設定するには

対処 | 以下をご覧ください。

パソコンに固定の IP アドレスを設定する方法

以下は、パソコンに固定の IP アドレス（例は「192.168.0.3」）を設定する場合の例です。

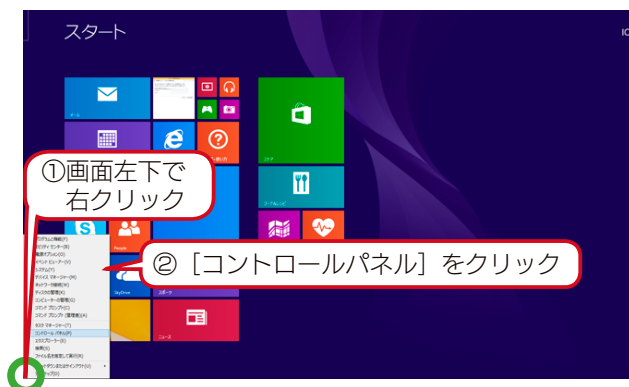
一時的に変更する場合などは、必ず以前の [IP アドレス] [サブネットマスク] [デフォルトゲートウェイ] などのアドレスはメモしてください。

ネットワーク内に DHCP サーバーが無い場合（本製品が「192.168.0.200」の IP アドレスで起動した場合）などに、パソコンから設定画面を開く際には、パソコン側は同じネットワークアドレスで別の IP アドレスを設定してください。

次ページ以降のお使いの OS の方法をご確認ください。

Windows 8 の場合

1 画面の左下にマウスポインターを移動し、右クリックします。メニューが表示されたら、[コントロールパネル] をクリックします。



2 [ネットワークとインターネット] をクリックします。

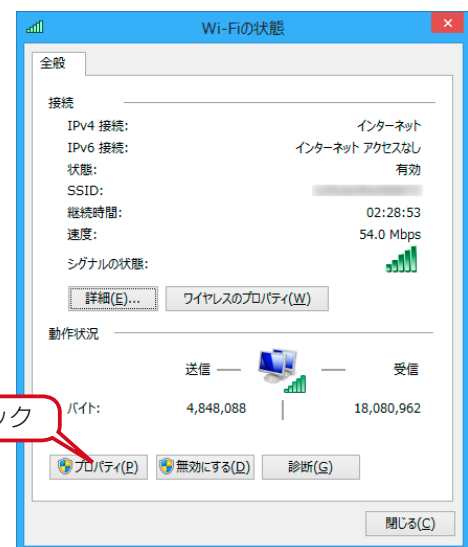
3 [ネットワークと共有センター] をクリックします。



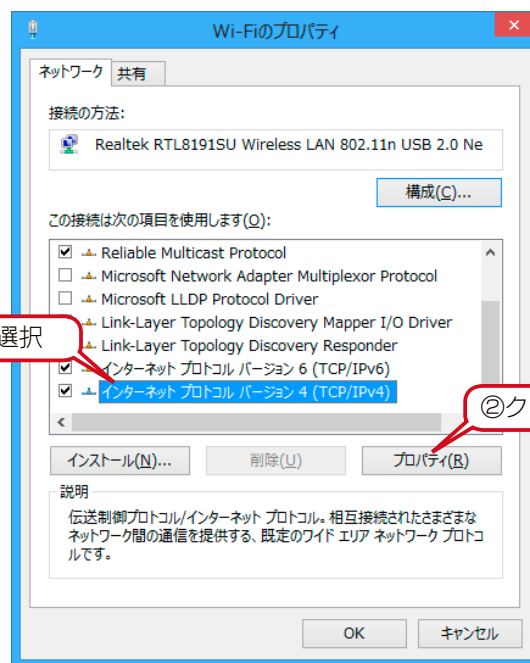
4 [接続] をクリックします。



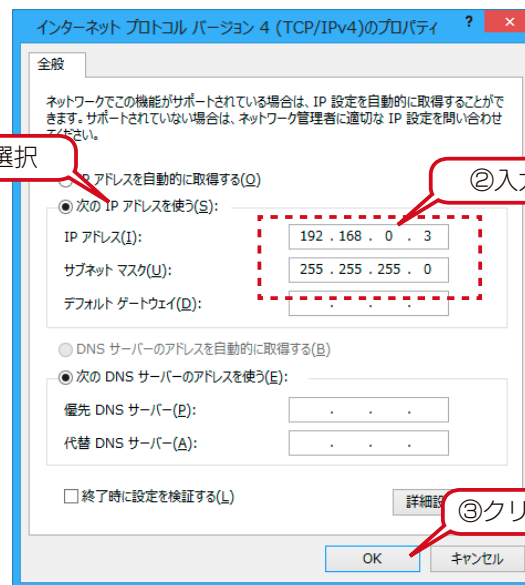
5 [プロパティ] をクリックします。



6 [インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4)] を選択し、[プロパティ] をクリックします。



7 [次のIP アドレスを使う] をチェック後、[IP アドレス] [サブネットマスク] を設定後、[OK] ボタンをクリックします。

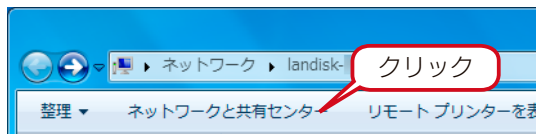


以上で設定終了です。開いた画面を閉じてください。

Windows 7 の場合

1 [スタート]→[コンピューター]→[ネットワーク]をクリックします。

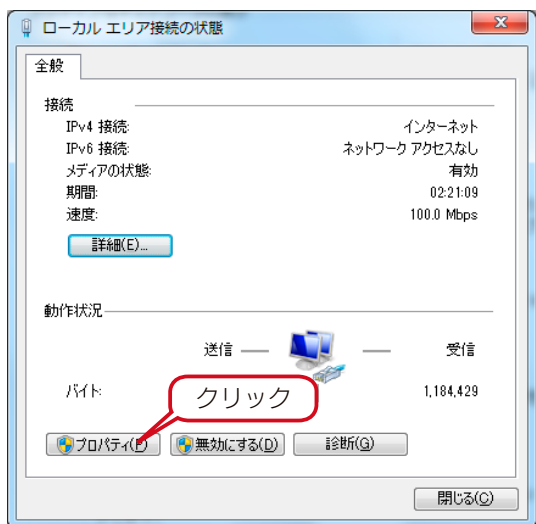
2 [ネットワークと共有センター] をクリックします。



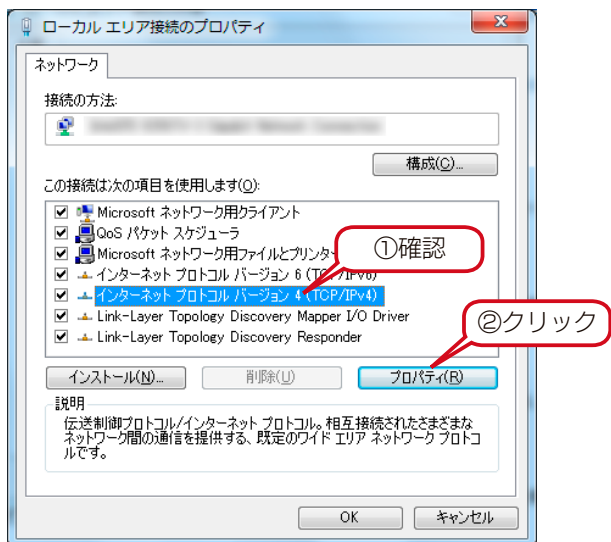
3 [ローカルエリア接続] をクリックします。



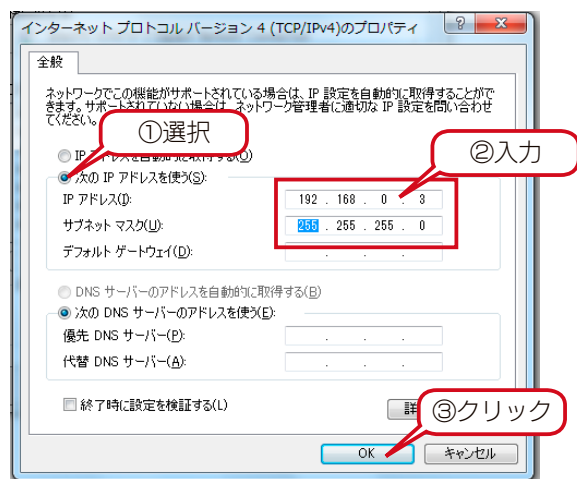
4 [プロパティ] をクリックします。



5 [インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)] を選択し、[プロパティ] をクリックします。



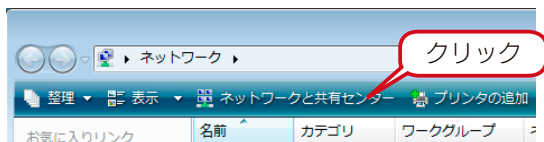
6 [次の IP アドレスを使う] をチェック後、[IP アドレス] [サブネットマスク] を設定後、[OK] ボタンをクリックします。



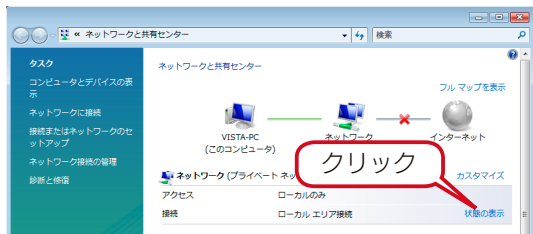
以上で設定終了です。開いた画面を閉じてください。

Windows Vista の場合

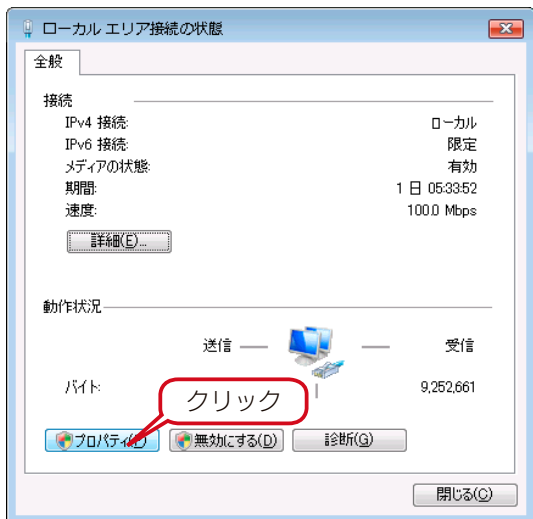
- 1** [スタート] → [ネットワーク] をクリックし、[ネットワークと共有センター] をクリックします。



- 2** [状態の表示] をクリックします。



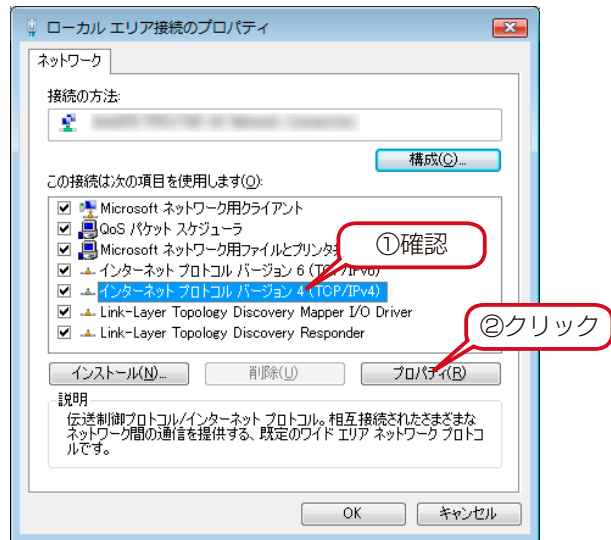
- 3** [プロパティ] をクリックします。



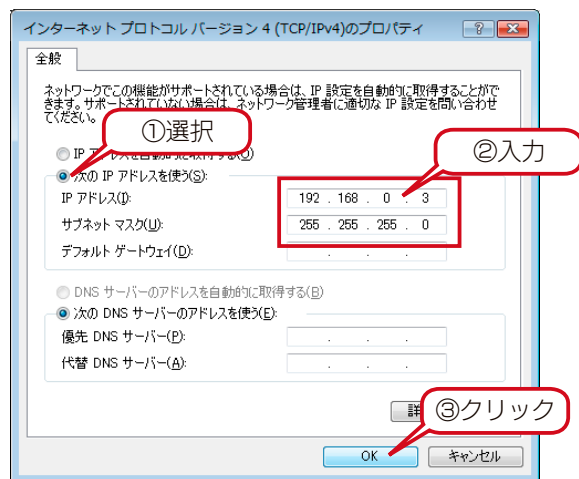
- 4** 以下の確認画面が表示された場合は、[続行] をクリックします。



- 5** [インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4)] を選択し、[プロパティ] をクリックします。



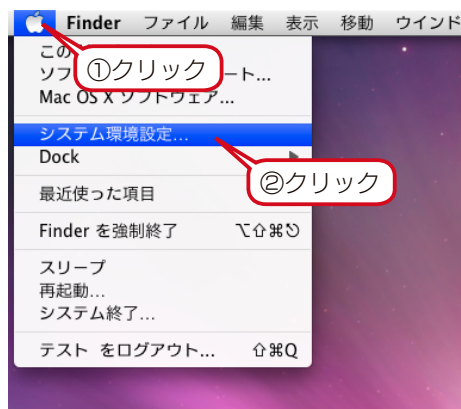
- 6** [次の IP アドレスを使う] を選択後、[IP アドレス] [サブネットマスク] を設定後、[OK] ボタンをクリックします。



以上で設定終了です。開いた画面を閉じてください。

Mac OS X の場合

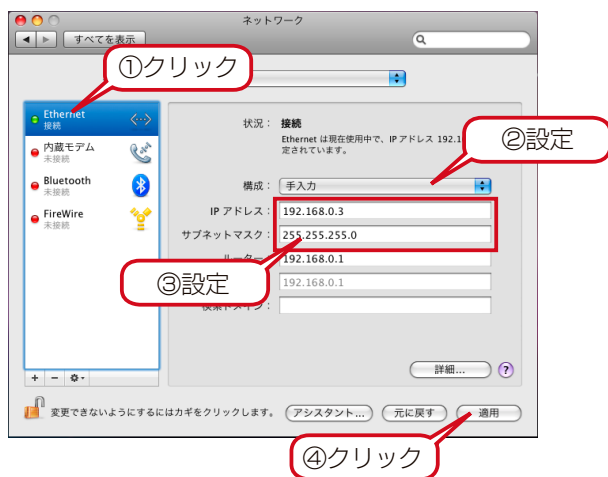
- 1 [アップルメニュー]→[システム環境設定]をクリックし、[ネットワーク]を選択します。



- 2 [ネットワーク]を開きます。



- 3 ①左の欄で[Ethernet]を選択します。
② [構成]を [手入力]に変更します
③以下を設定します。
IP アドレス：192.168.0.3
サブネットマスク：255.255.255.0
④ [適用] ボタンをクリックします。



- 4 画面を閉じて、パソコンを再起動します。

以上で設定終了です。開いた画面を閉じてください。

オプション品

各製品の詳細な情報は弊社ホームページ <http://www.iodata.jp/> をご確認ください。

カートリッジ

以下の弊社ホームページを参照し、本製品の容量にあったカートリッジをお買い求めください。

http://www.iodata.jp/pio/io/nas/landisk/nas_hdd.htm

ご注意

- 対応交換用カートリッジよりも容量の大きいカートリッジを RAID に組み込んだ場合、実際に使用できる容量は対応交換用カートリッジと同じ容量に調整されます。
- オプション品のカートリッジには、RAID システムは入っていません。
- 本製品の容量を後から増やすことはできません。(HDL-XR2.0W において、1TB の交換用 HDD を4つ使用して HDL-XR4.0W と同容量とする、など)

ファン

本製品の背面ファンを交換する必要がある場合は、以下の製品をお買い求めください。

本製品	ファン
HDL-XR/2D	RHD-FAN
HDL-XR	
HDL-XR2U	2U-FAN

アフターサービス

本製品の修理対応、電話やメール等によるサポート対応、ソフトウェアのアップデート対応、本製品がサーバー等のサービスを利用する場合、そのサービスについては、弊社が本製品の生産を完了してから5年間を目途に終了とさせていただきます。ただし状況により、5年以前に各対応を終了する場合があります。

お問い合わせについて

お問い合わせいただく前に、**以下をご確認ください**

- サポートページのQ&Aを参照
- 最新のソフトウェアをダウンロード

<http://www.iodata.jp/support/>



それでも解決できない場合は、**サポートセンターへ**

電話：050-3116-3025

※受付時間 9：00～17：00 月～金曜日（祝祭日をのぞく）

FAX：076-260-3360

インターネット：http://www.iodata.jp/support/

<ご用意いただく情報>

製品情報（製品名、シリアル番号など）、パソコンや接続機器の情報（型番、OSなど）

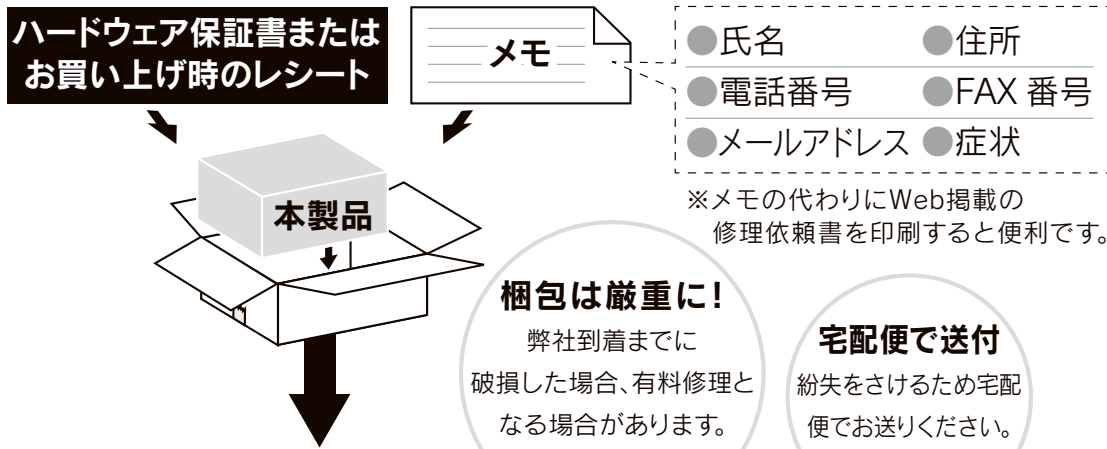
個人情報の取り扱いについて

個人情報は、株式会社アイ・オー・データ機器のプライバシーポリシー（<http://www.iodata.jp/privacy.htm>）に基づき、適切な管理と運用をおこないます。



修理について

修理を依頼される場合は、以下の要領でお送りください。



〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
株式会社 アイ・オー・データ機器 修理センター 宛

- 送料は、発送時はおお客様ご負担、返送時は弊社負担です。
- 有料修理となった場合は先に見積をご案内します。(見積無料) 金額のご了承をいただいてから、修理をおこないます。
- 内部にデータがある場合、厳密な検査のため、内部データは消去されます。何卒、ご了承ください。
バックアップ可能な場合は、お送りいただく前にバックアップしてください。弊社修理センターではデータの修復はおこなっておりません。
- お客様が貼られたシール等は、修理時に失われる場合があります。
- 保証内容については、ハードウェア保証規定に記載されています。
- 修理品を送る前に製品名とシリアル番号 (S/N) を控えてください。

修理について詳しくは以下をご確認ください

<http://www.iodata.jp/support/after/>



【技術動向、導入事例などについて】

次のサイトに、弊社製ネットワークハードディスク（NAS）「LAN DISK シリーズ」に関するホワイトペーパーを掲載しています。必要に応じてご確認ください。

<http://www.iodata.jp/solutions/whitepaper/>

【ご注意】

1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。

したがって、別段の定めのない限り、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。

2) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、兵器システムなどの人命に関する設備や機器、及び海底中継器、宇宙衛星などの高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。

3) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。

また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)

4) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。

※本製品には、GNU General Public License Version3 (GPL v 3) に基づいた、ソフトウェアが含まれています。

変更済み GPL 対象モジュール、GNU General Public License、及びその配布に関する条項については、弊社のホームページにてご確認ください。これらのソースコードで配布されるソフトウェアについては、弊社ならびにソフトウェアの著作者は一切のサポートの責を負いませんのでご了承ください。

※本製品には、OpenSSL Project が、OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org>) での使用のために開発したソフトウェアが含まれています。

本製品には Eric Young (eay@cryptsoft.com) により作成された暗号化ソフトウェアが含まれています。

本製品には Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com) により作成されたソフトウェアが含まれています。

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).

This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

記載されている会社名、製品名等は一般に各社の商標または登録商標です。